

第4期朝霞市地域福祉計画・
第4期朝霞市地域福祉活動計画
策定にかかるアンケート調査
結果報告書

留意事項

- ・本内容は暫定版です。
グラフ、要点並びに構成については順次更新になる場合があります。

令和●年●月

朝霞市・朝霞市社会福祉協議会

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的.....	2
2 調査の方法.....	2
3 集計・分析のための地区区分.....	2
4 回収状況.....	2
5 報告書の見方.....	3
II 市民アンケート調査結果	4
1 回答者自身について.....	5
2 朝霞市に対する印象について.....	10
3 近所付き合いについて.....	60
4 朝霞市社会福祉協議会(朝霞市社協)について.....	72
5 民生委員・児童委員、保護司について.....	73
6 地域での活動や課題について.....	77
7 ボランティア活動について.....	98
8 防災活動について.....	114
9 「地域共生社会」の実現に向けた地域のつながりについて.....	121
10 朝霞市の福祉について.....	126
III 若者アンケート調査結果	135
1 回答者自身について.....	136
2 朝霞市での暮らしについて.....	140
3 地域活動への参加について.....	150
4 朝霞市のまちづくりへの興味・参加について.....	159
5 情報収集方法について.....	170
IV 専門職アンケート調査結果	177
V 調査票	236

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第4期朝霞市地域福祉計画及び第4期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたって、一般市民、市内で福祉・医療・介護または教育・保育機関で業務を行う皆様の『地域福祉』に対するご意見を各々の計画に反映させるため、アンケート調査を実施しました。

2 調査の方法

	対象	調査方法	調査期間
市民アンケート	18歳以上の市民 3,000人 を無作為抽出	郵送配布、 郵送回収	令和元年 9月5日～ 10月11日
若者アンケート	18歳以上 29歳以下の市民 1,000人 を無作為抽出		
専門職アンケート	市内で福祉・医療・介護または 教育・保育機関等の方（代表で 1名）	郵送配布、 郵送回収 （希望者のみ電子 データにて配布、 回収）	令和元年 11月27日～ 12月20日

3 集計・分析のための地区区分

A地区	大字上内間木、大字下内間木	仮
B地区	朝志ヶ丘、北原	
C地区	岡、大字台、仲	
D地区	泉水、西弁財、	
E地区	青葉台、幸町、栄町、膝折町、本町、溝沼、陸上自衛隊朝霞駐屯地	

4 回収状況

	発送数	有効回収数	有効回収率(%)
市民アンケート	3,000	1,408	46.9%
若者アンケート	1,000	262	26.2%
専門職アンケート	493	208	42.2%

5 報告書の見方

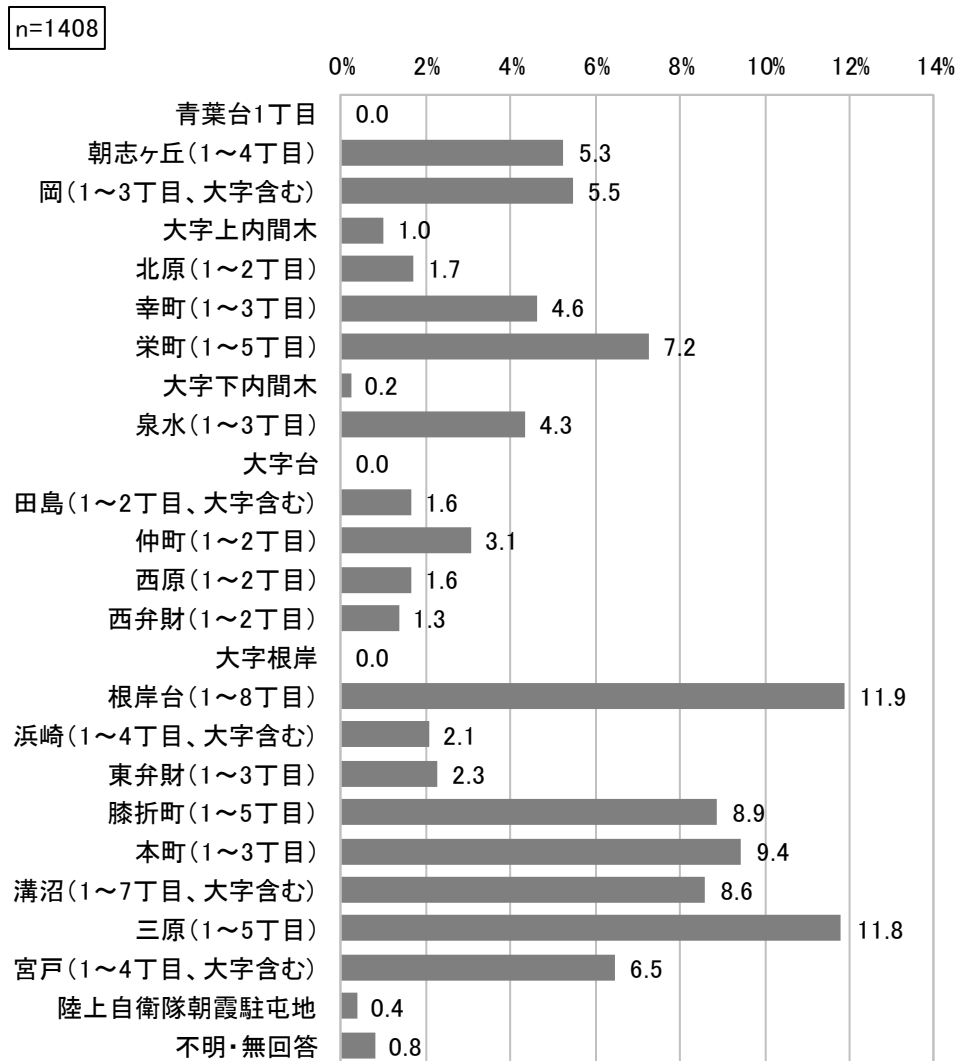
- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 図表中の「SA（Single Answer）」は単数回答、「MA（Multiple Answer）」は複数回答を表しています。
- 経年比較のため、これまでに実施した市民アンケート調査との比較を行います。平成27年6月及び平成22年7月に実施した市民アンケート調査結果をそれぞれ、「H27」、「H22」として掲載しています。

Ⅱ 市民アンケート調査結果

1 回答者自身について

問1 あなたのお住まいはどの地区ですか。(1つに○)

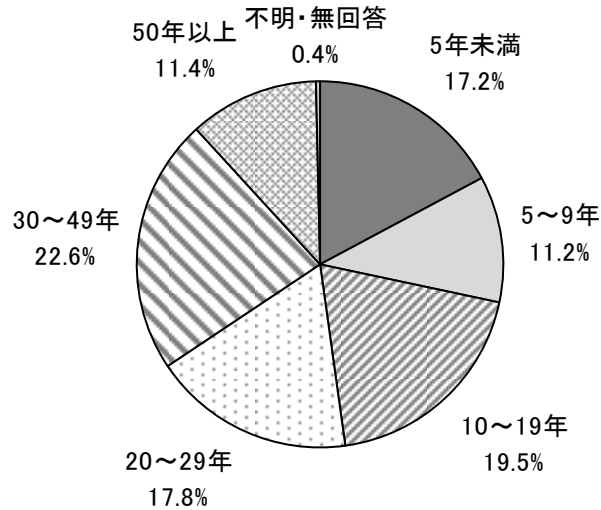
居住地区は、「根岸台(1~8丁目)」が11.9%と割合が最も高く、次いで「三原(1~5丁目)」が11.8%、「本町(1~3丁目)」が9.4%となっています。



問2 あなたは、朝霞市にお住まいになってどのくらいになりますか。(1つに○)

居住年数は、「30～49年」が22.6%と割合が最も高く、次いで「10～19年」が19.5%、「5年未満」が17.2%となっています。

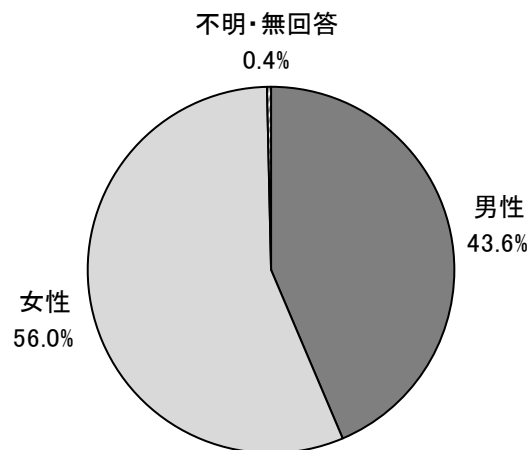
n=1408



問3 あなたの性別は。(1つに○)

性別は、「女性」は56%、「男性」は43.6%です。

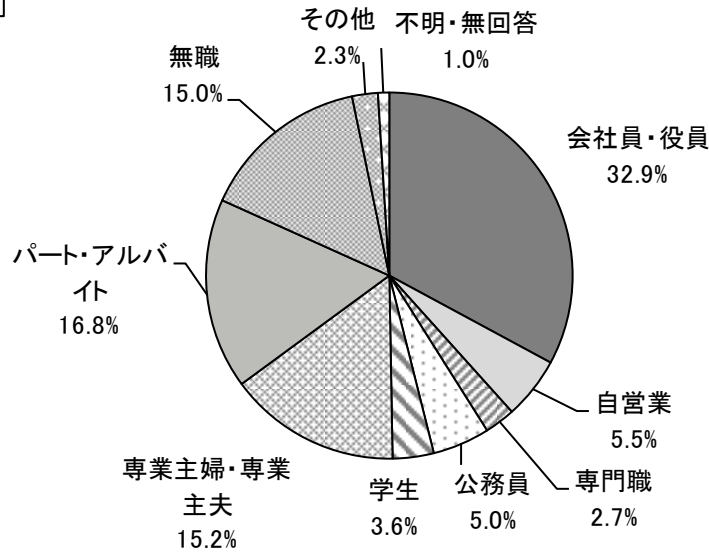
n=1408



問4 あなたの職業は。(1つに○)

職業は、「会社員・役員」が32.9%と割合が最も高く、次いで「パート・アルバイト」が16.8%、「専業主婦・専業主夫」が15.2%となっています。

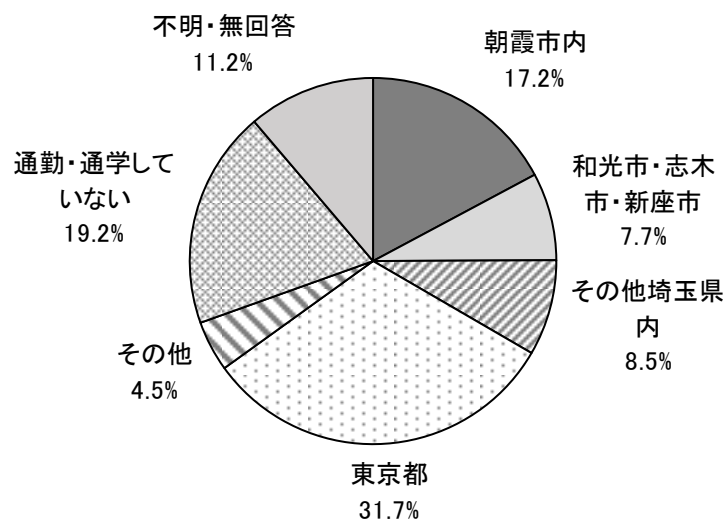
n=1408



問5 あなたの勤務先、通学先はどちらですか。(1つに○)

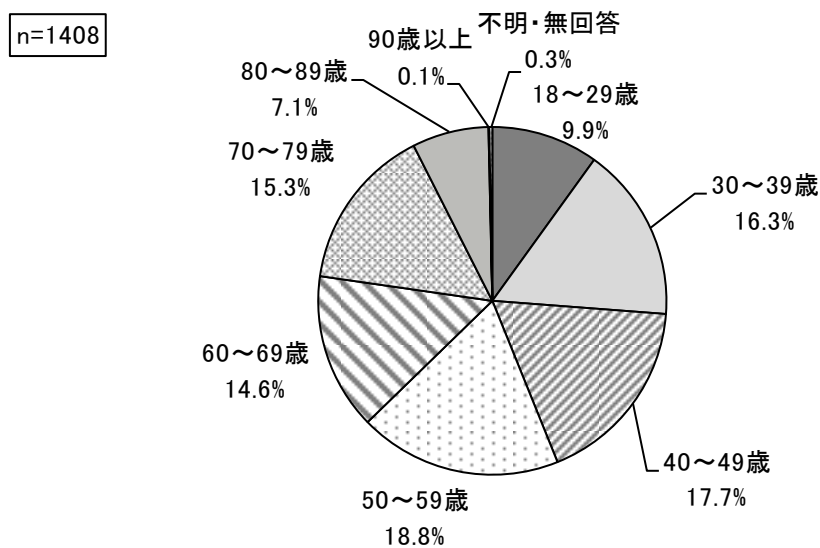
勤務先・通学先は、「東京都」が31.7%と割合が最も高く、次いで「通勤・通学していない」が19.2%、「朝霞市内」が17.2%となっています。

n=1408



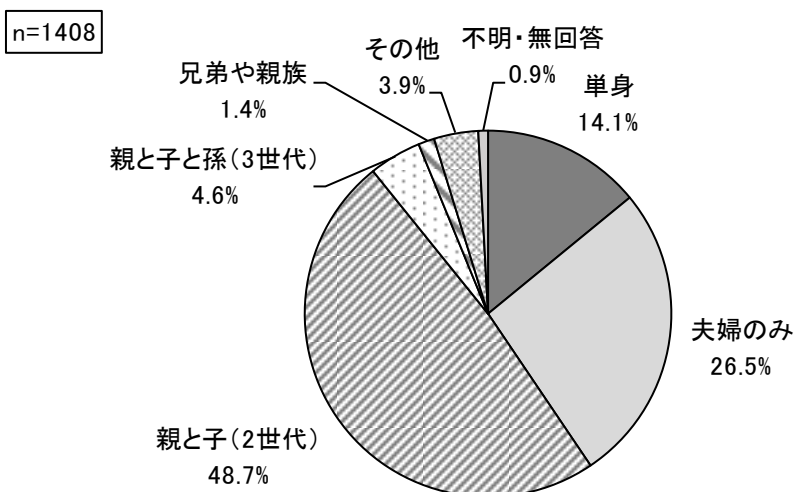
問6 あなたの年齢は。(1つに○)

年齢は、「50～59歳」が18.8%と割合が最も高く、次いで「40～49歳」が17.7%、「30～39歳」が16.3%となっています。



問7 あなたの同居している世帯・家族の構成は。(1つに○)

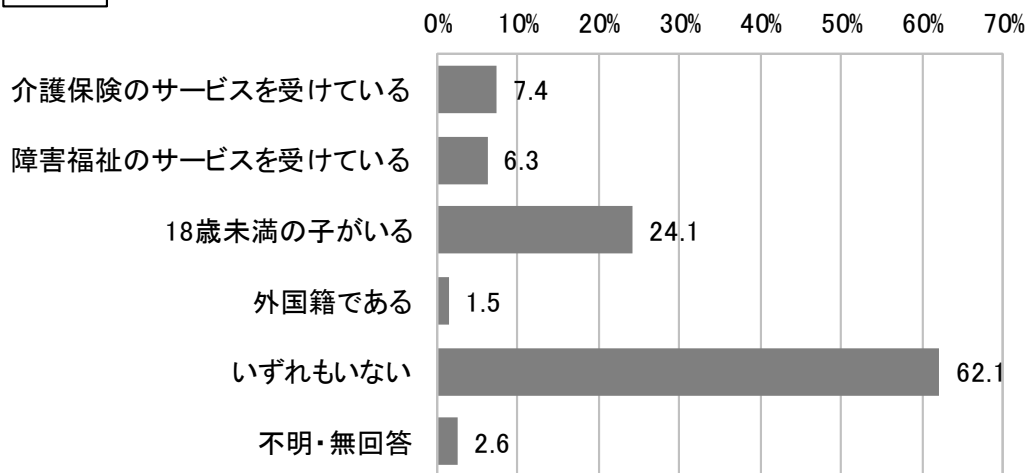
家族構成は、「親と子(2世代)」が48.7%と割合が最も高く、次いで「夫婦のみ」が26.5%、「単身」が14.1%となっています。



問8 あなた自身もしくは、ご家族の中で該当する方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

回答者自身や家族の中での、該当者の有無は、「いずれもない」が62.1%と割合が最も高く、次いで「18歳未満の子がいる」が24.1%、「介護保険のサービスを受けている」が7.4%となっています。

n=1408



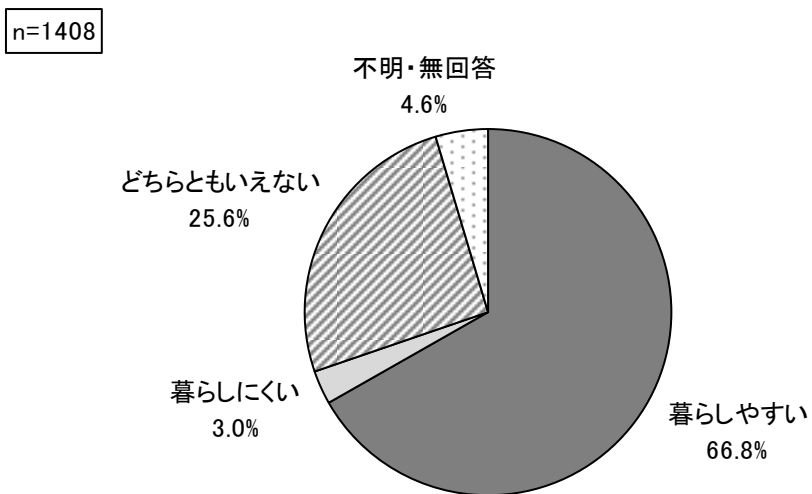
2 朝霞市に対する印象について

問9 朝霞市はあなたにとって暮らしやすいですか。(1つに○)

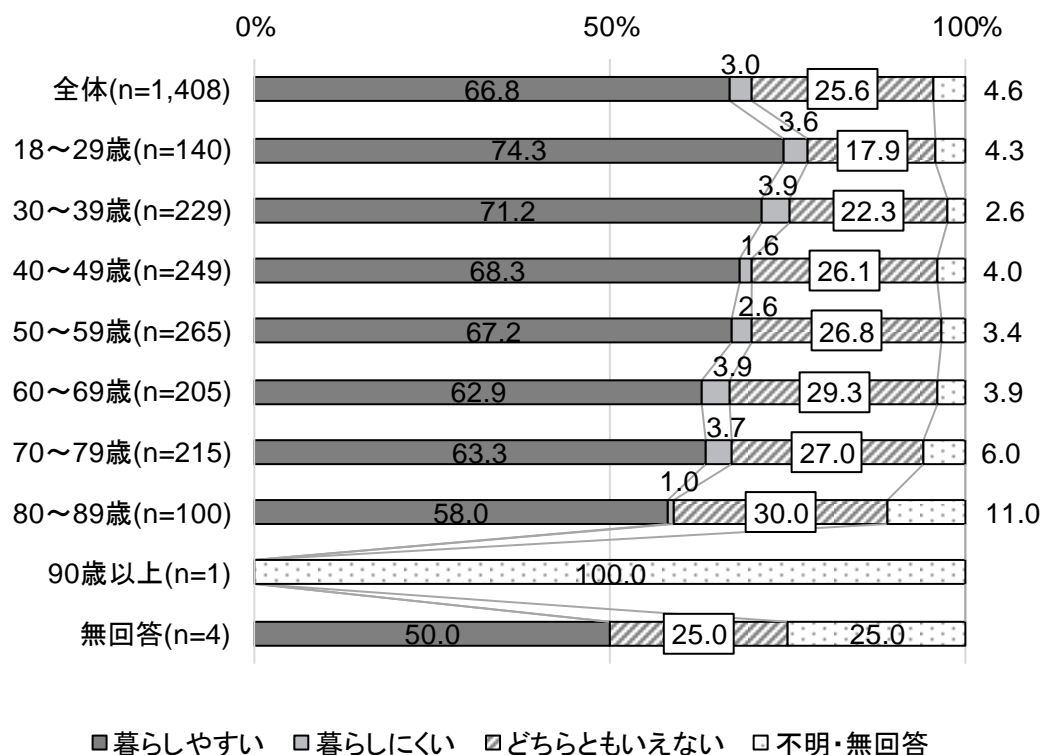
朝霞市の暮らしやすさは、「暮らしやすい」が66.8%と割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」が25.6%、「暮らしにくい」が3%となっています。

年齢別にみると、年代が低い方が「暮らしやすい」の割合が高くなる傾向にあります。

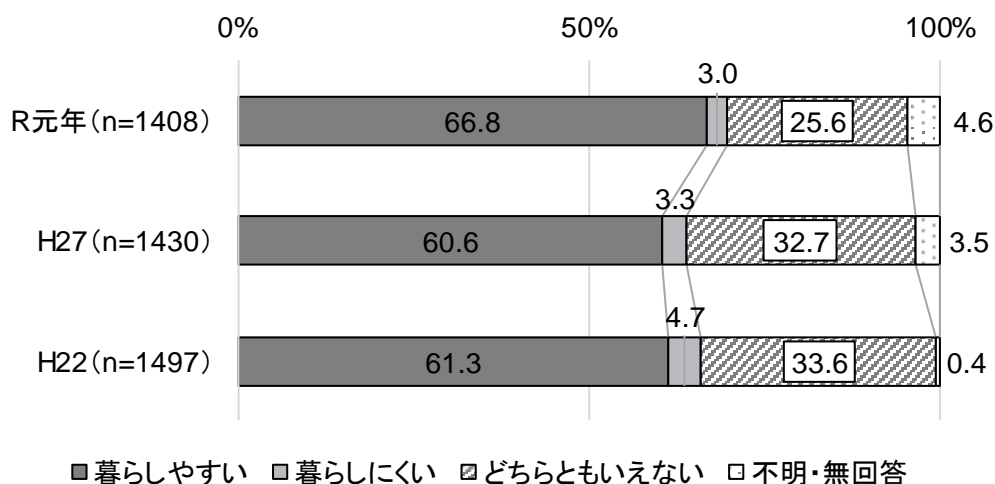
前回調査との比較では、「暮らしやすい」の割合が6.2ポイント上昇しています。



■問9朝霞市での暮らしやすさ×問6年齢

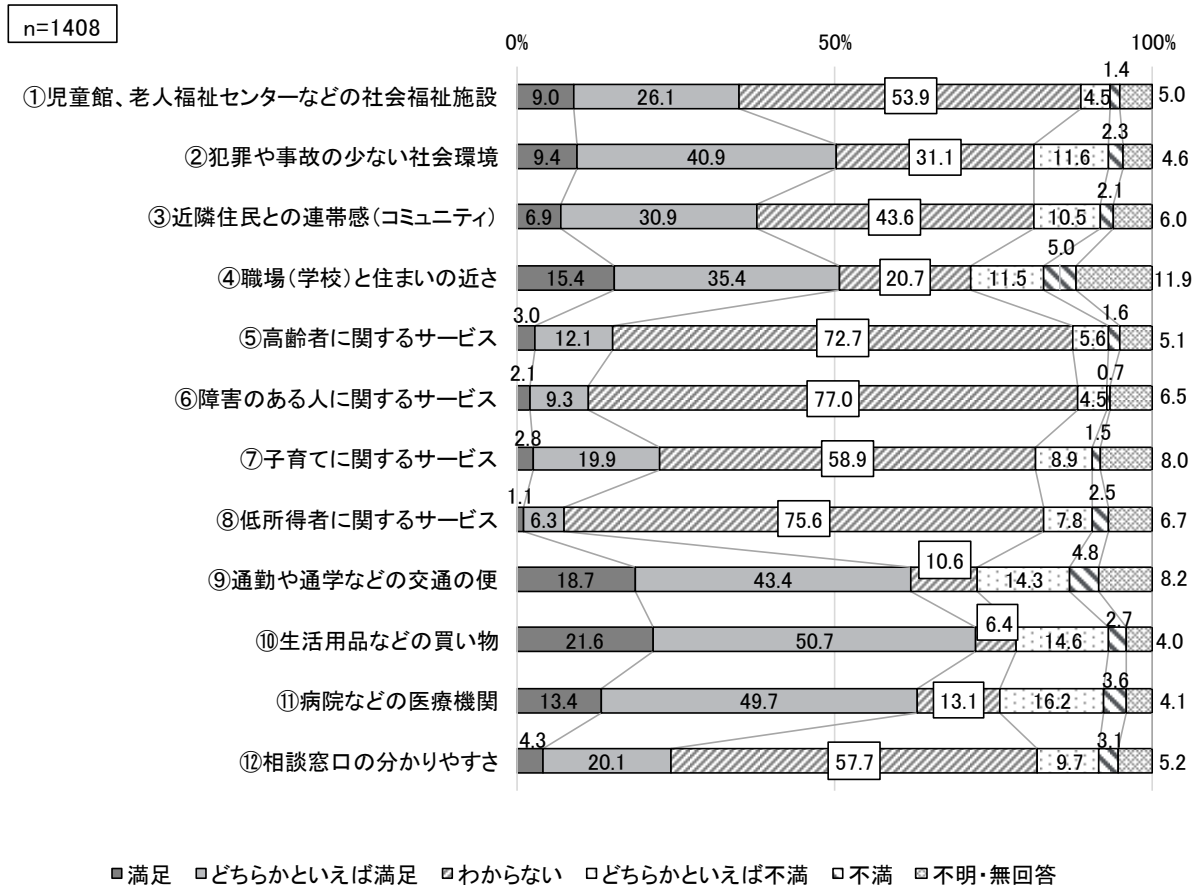


■経年比較



問 10 次のような生活に関連する項目について、①～⑫のそれぞれあてはまるものをお答えください。（それぞれ1つに○）

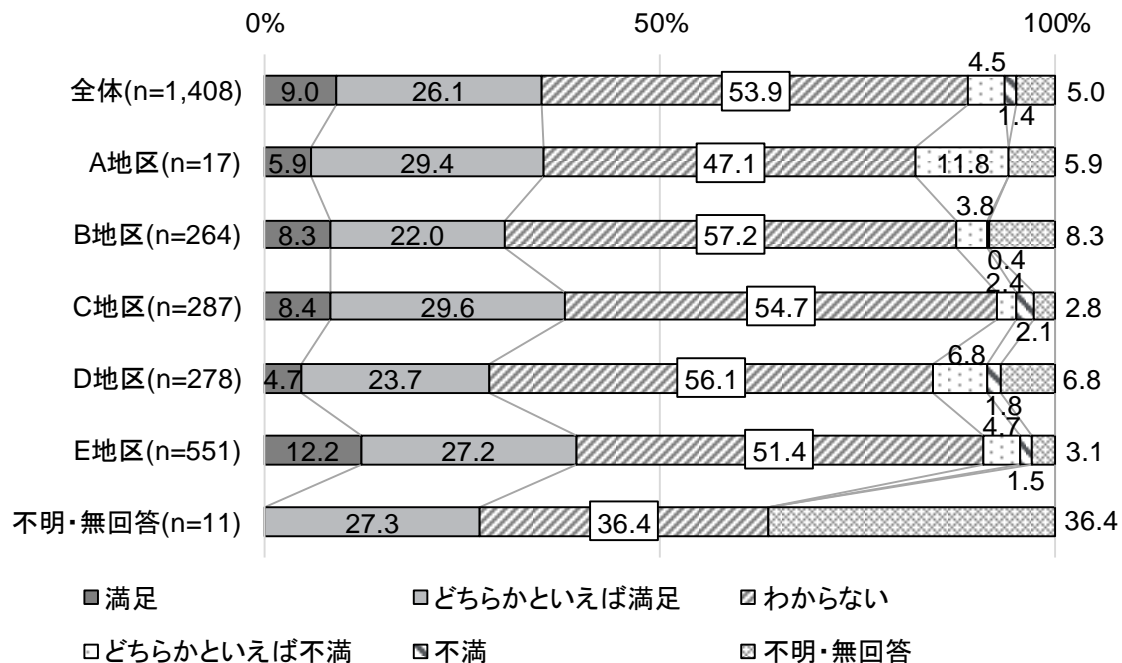
生活に関連する項目の満足度は、「通勤や通学などの交通の便」「生活用品などの買い物」「病院などの医療機関」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』がそれぞれ60%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満である』がそれぞれ1割を超えています。



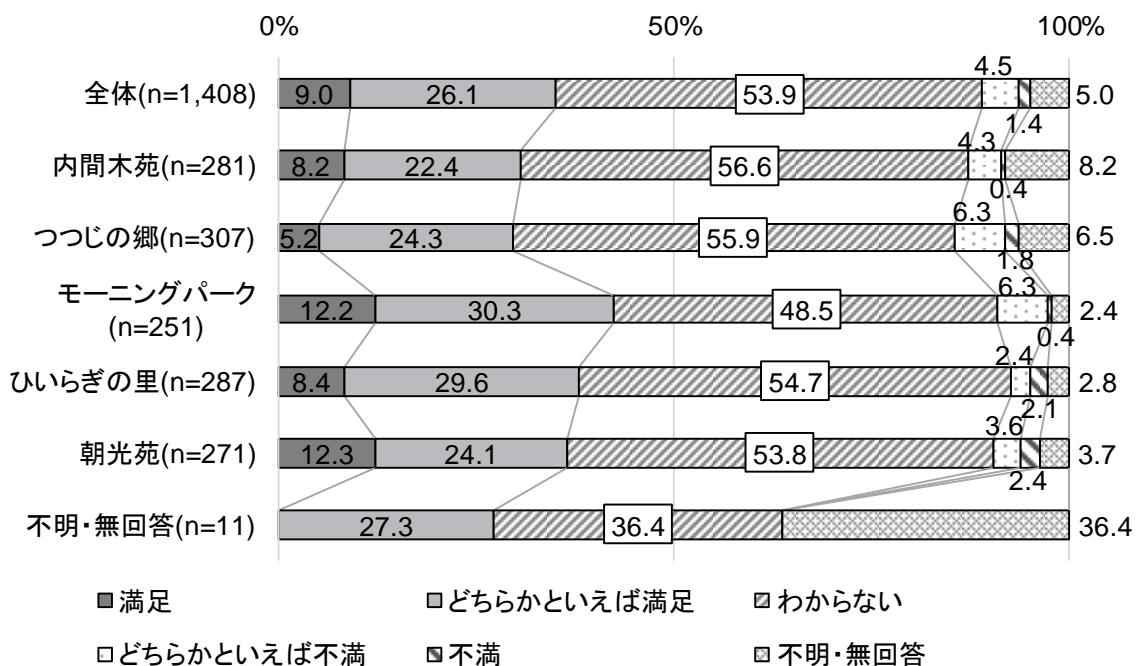
問 10 ① 児童館、老人福祉センターなどの社会福祉施設

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

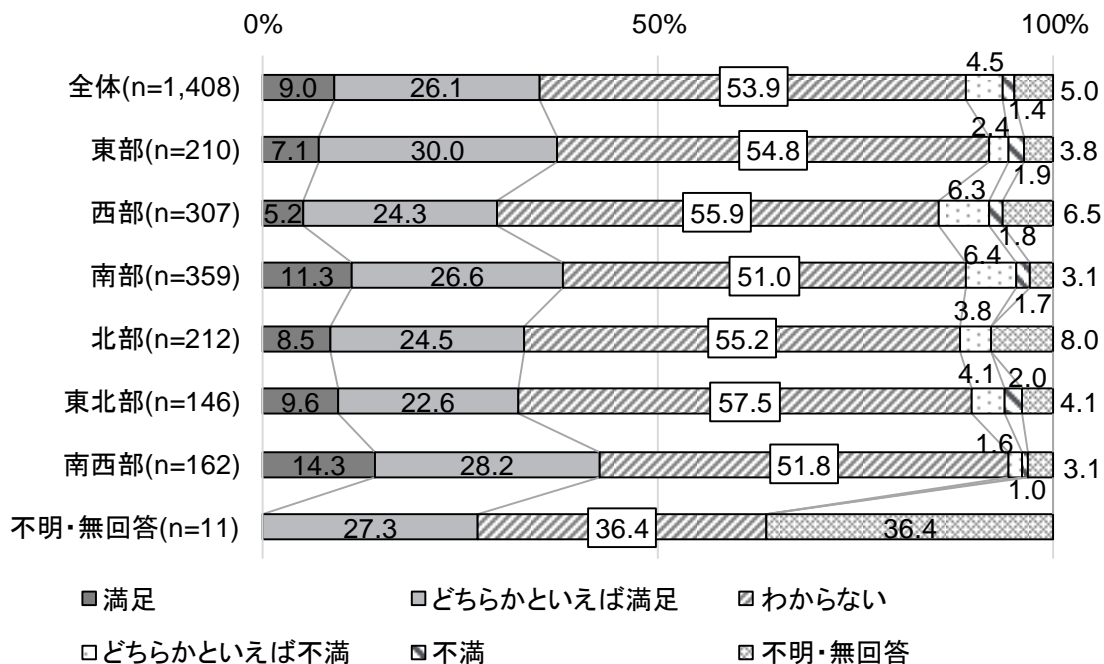
圏域パターン 1 (前期アンケート)



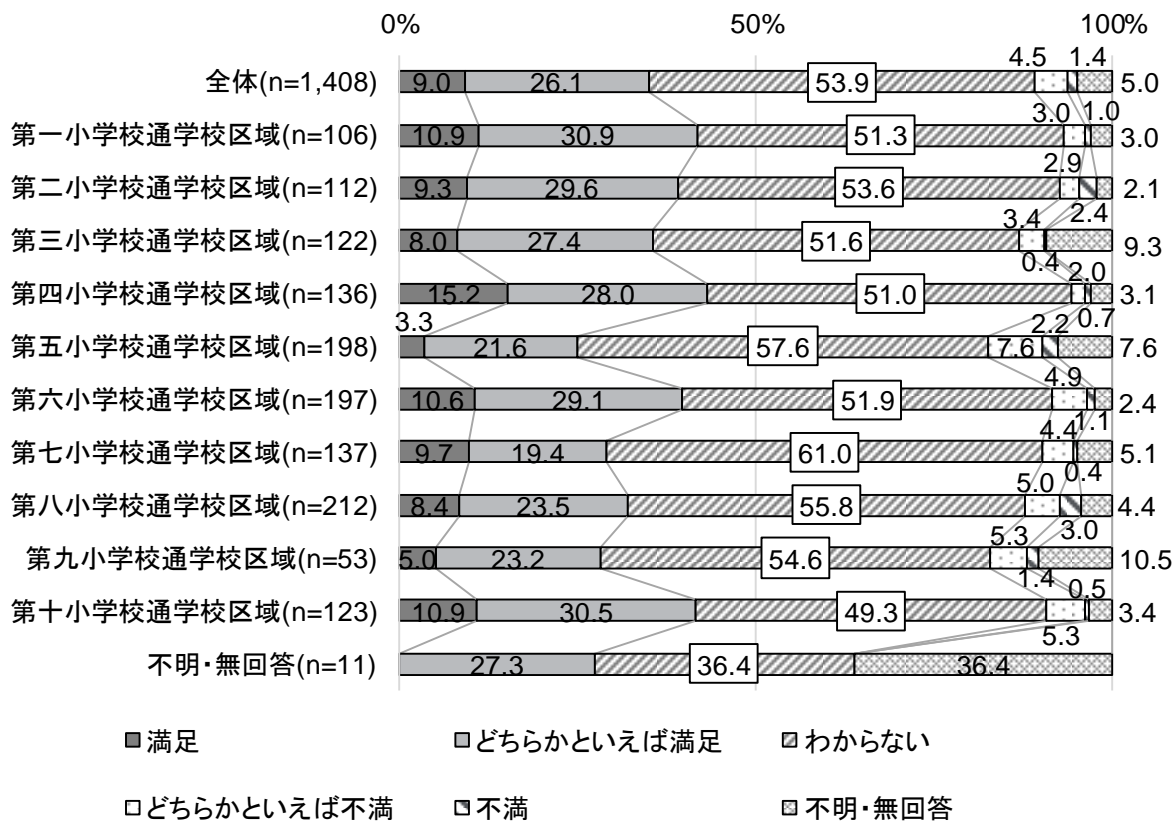
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

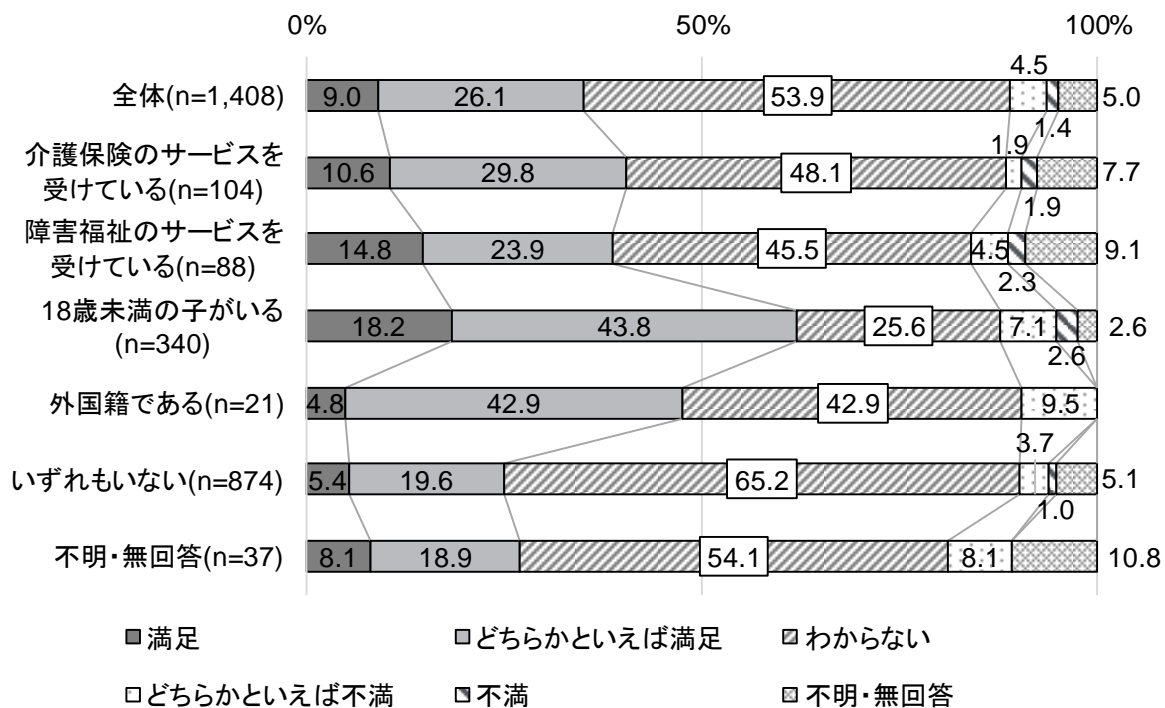


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



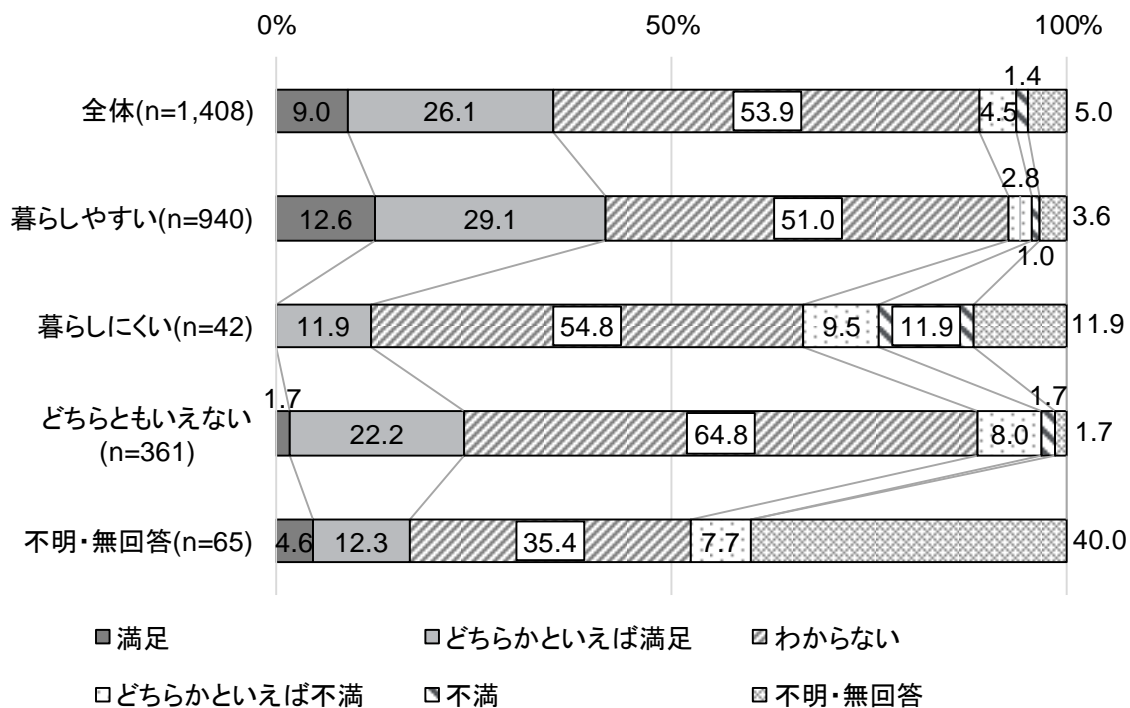
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、「18歳未満の子がいる」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が60%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満である』が10%程度となっています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

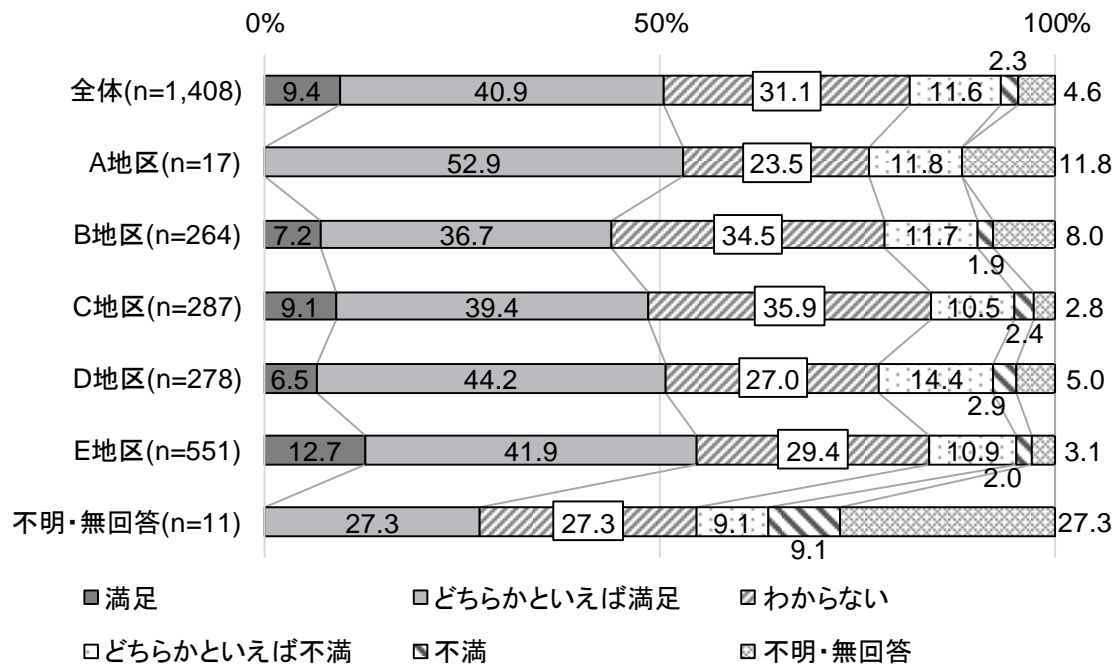
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が40%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が10%未満となっています。



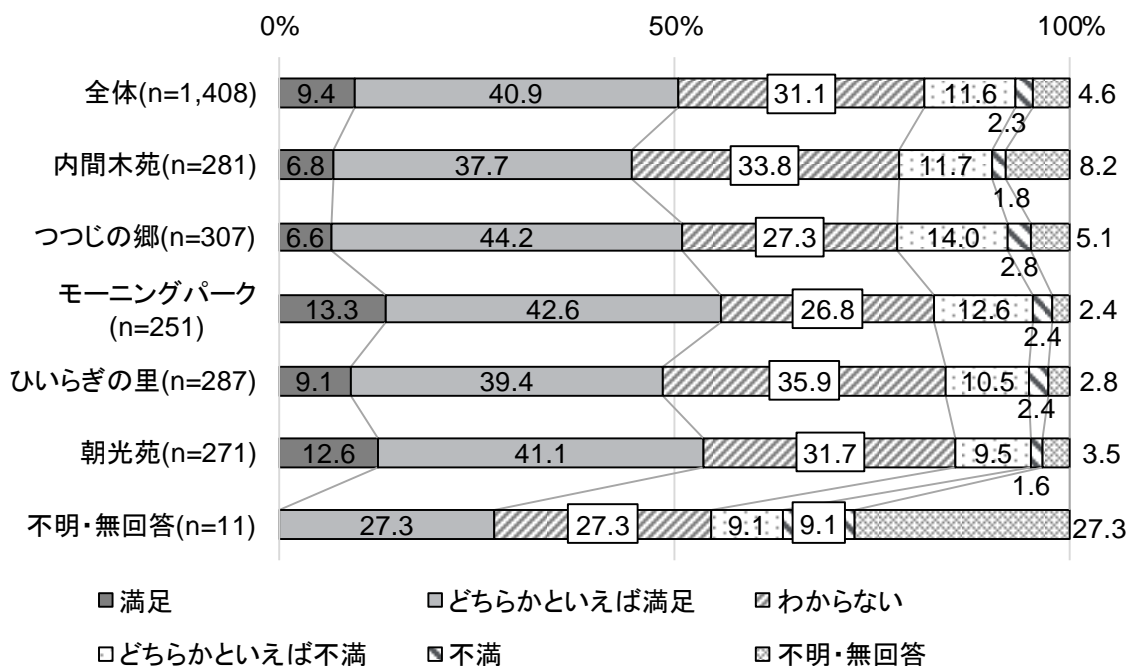
問 10 ② 犯罪や事故の少ない社会環境

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

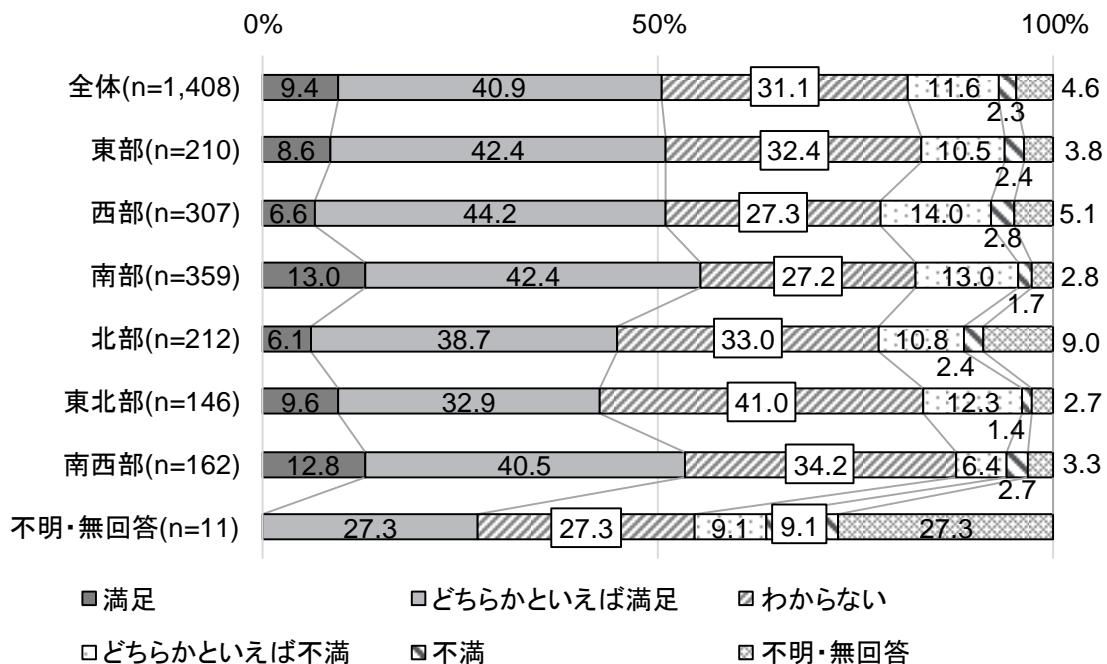
圏域パターン 1 (前期アンケート)



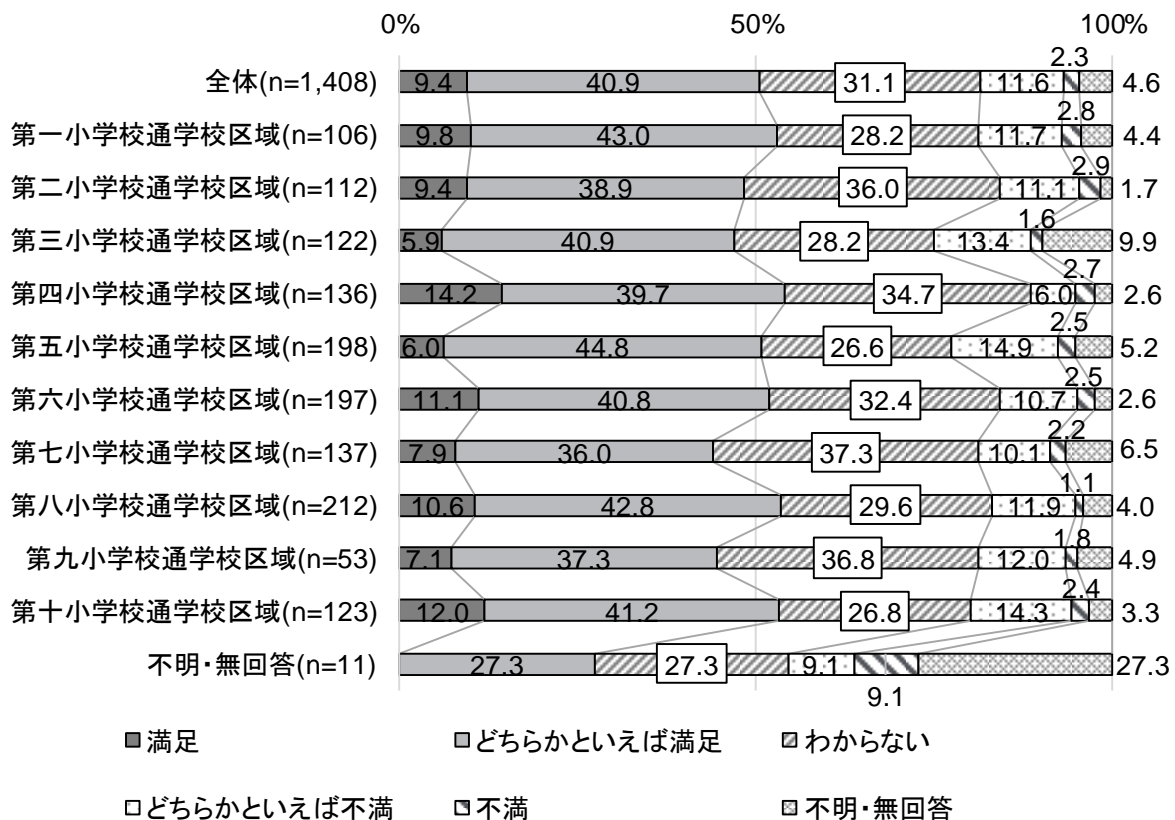
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

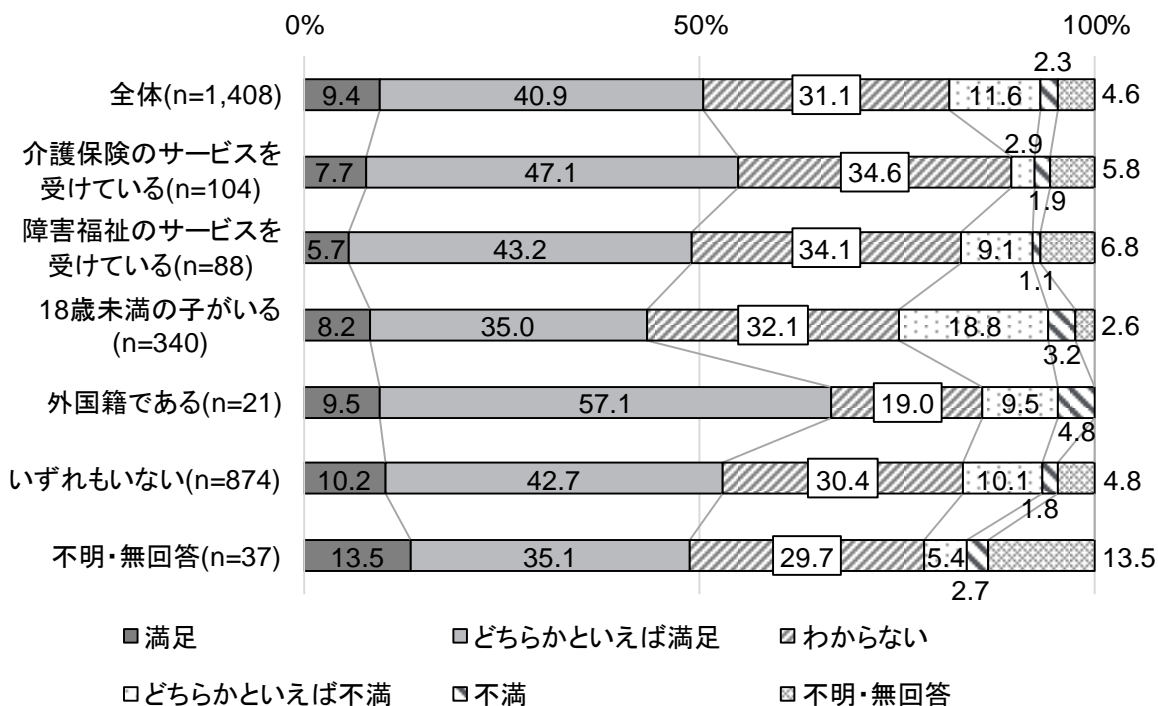


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



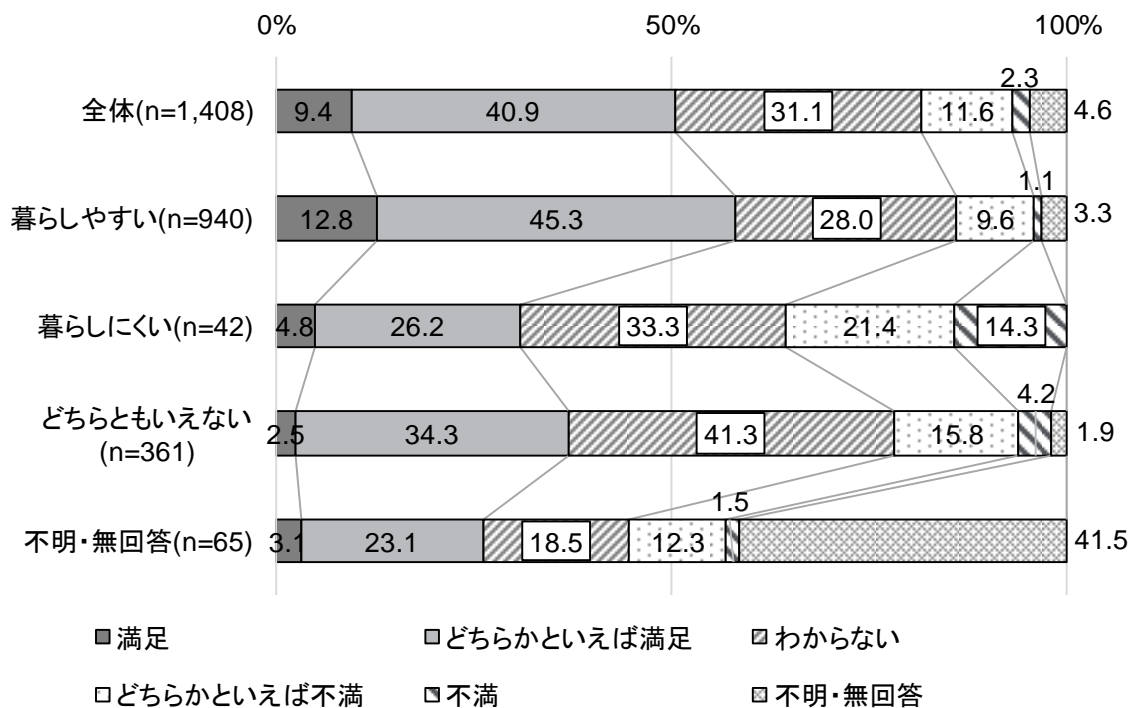
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、〔外国籍である〕で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が60%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が10%を超えています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

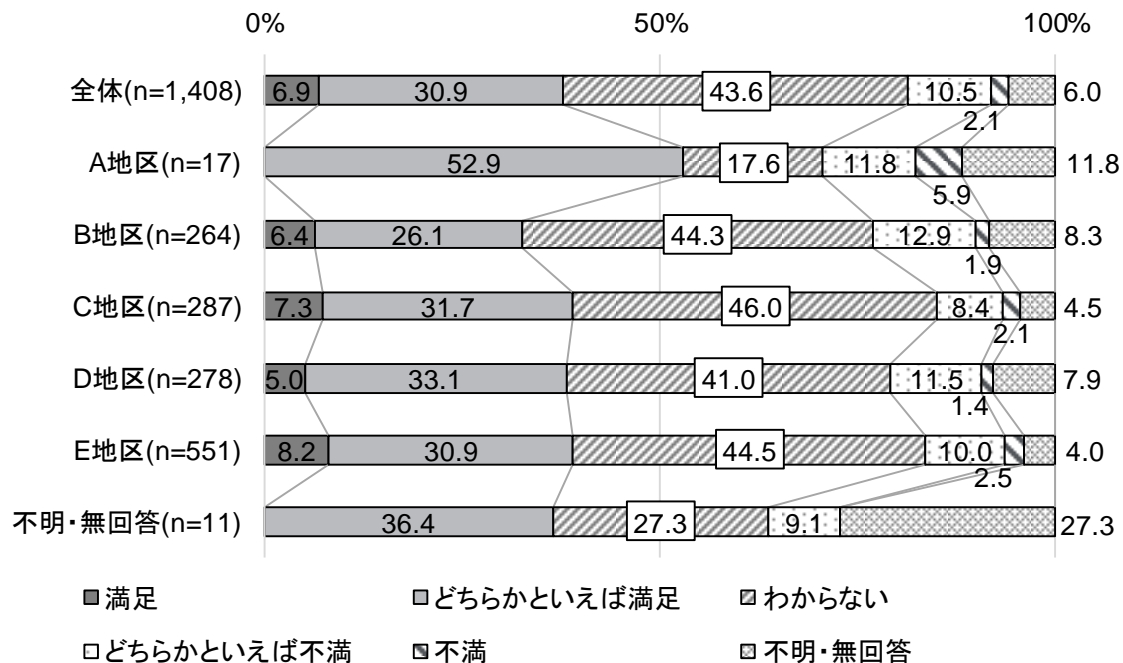
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が50%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満である』が10%を超えています。



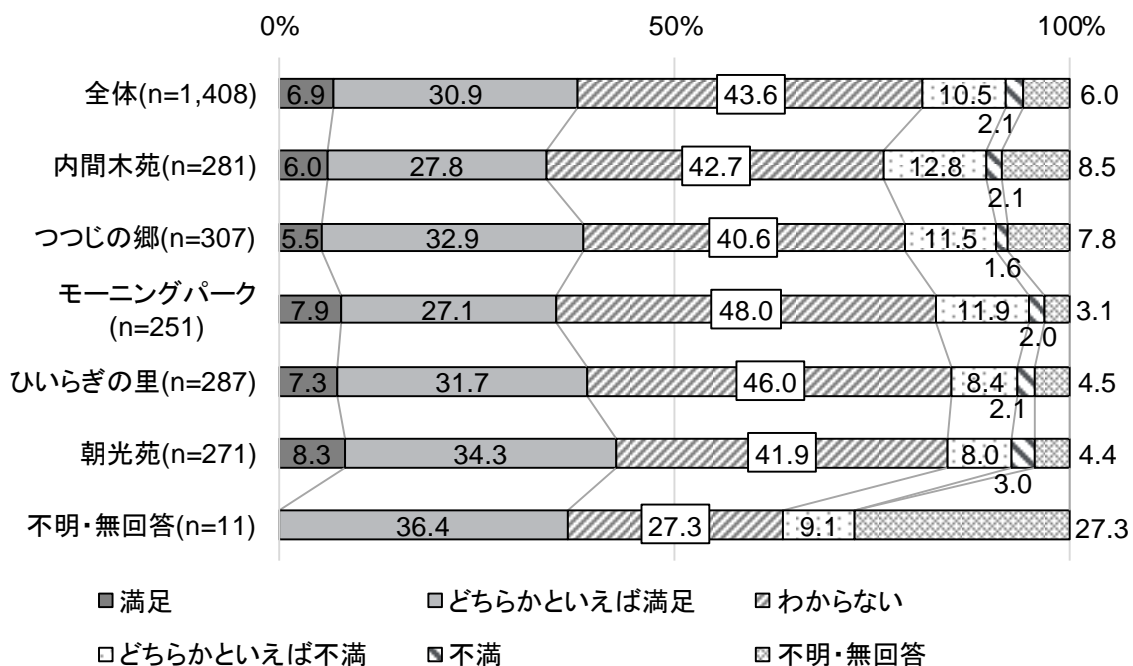
問 10 ③ 近隣住民との連帯感(コミュニティ)

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

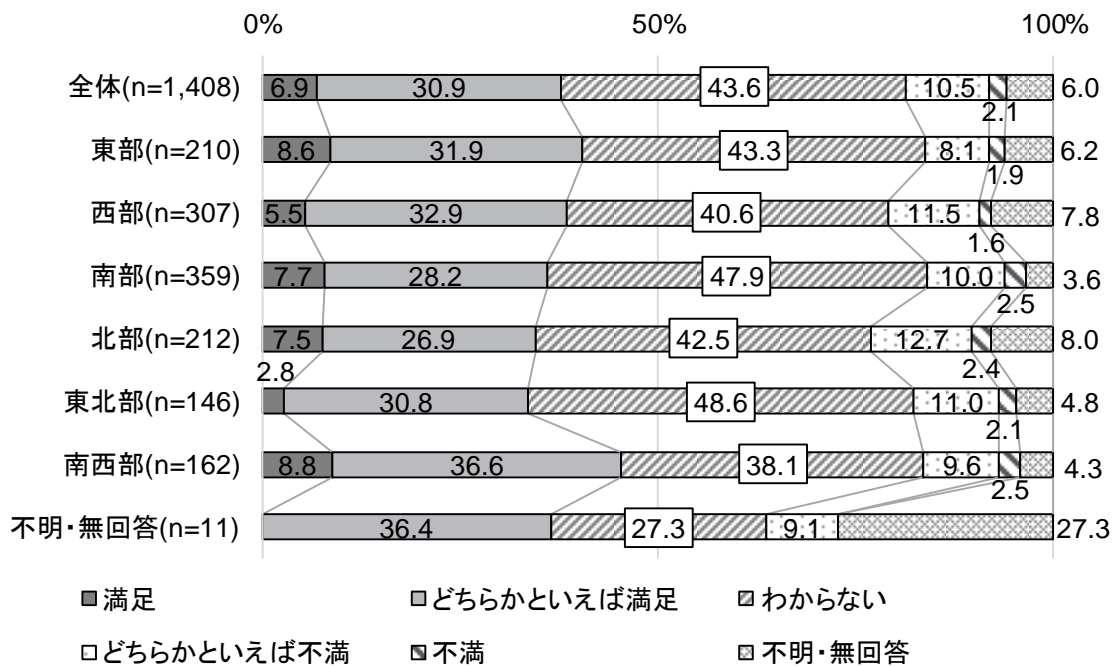
圏域パターン 1 (前期アンケート)



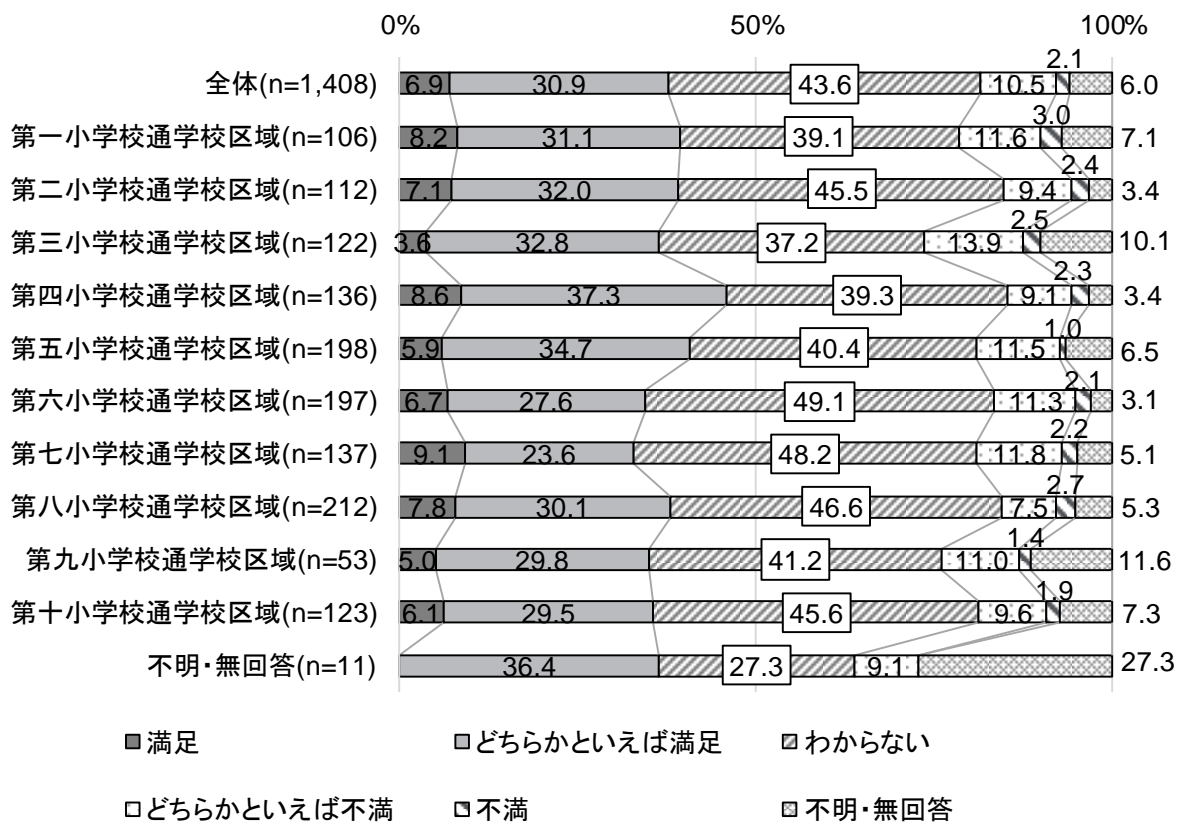
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

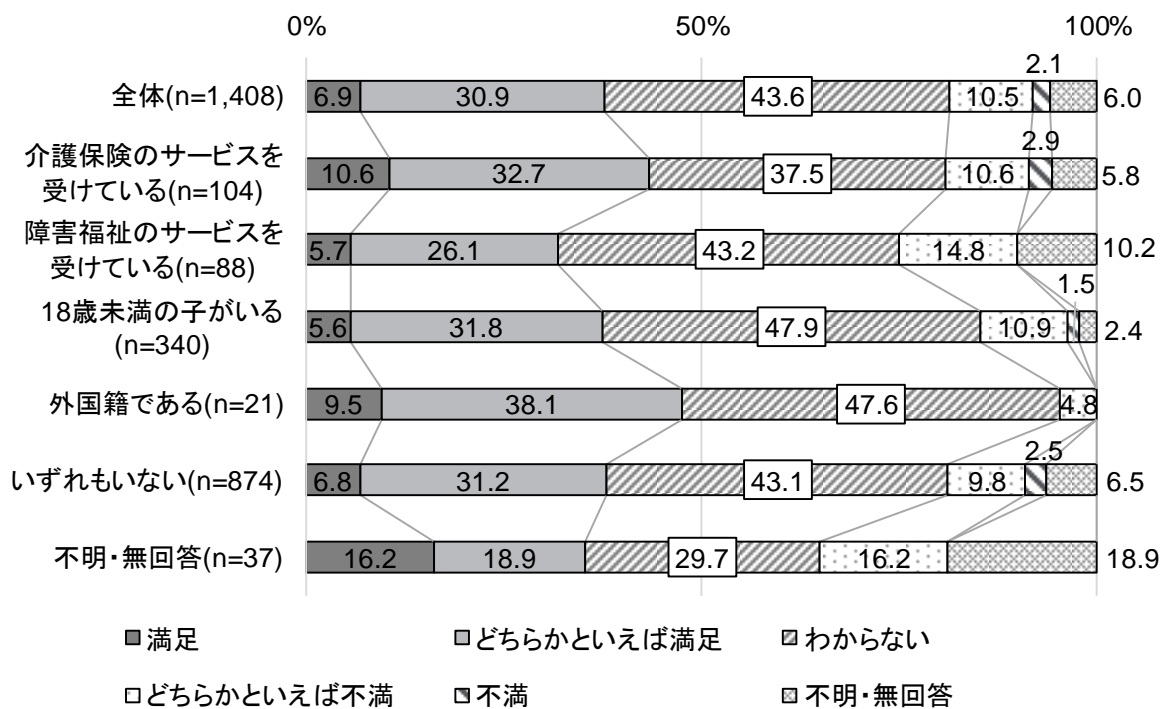


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



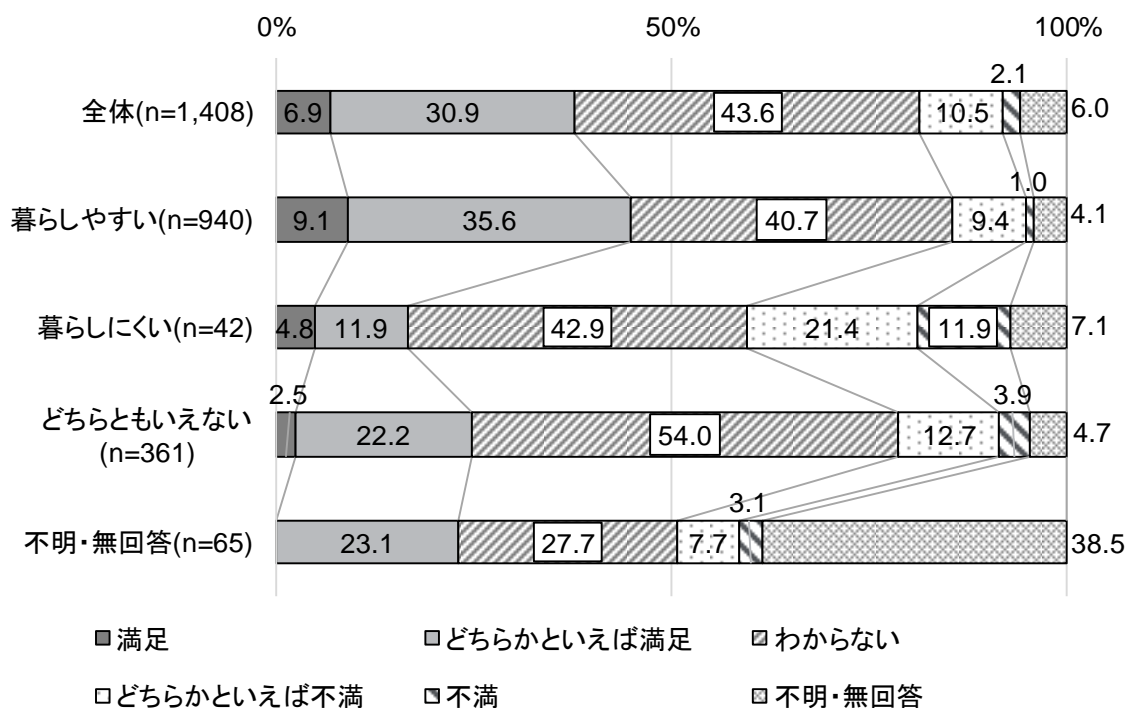
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、〔外国籍である〕〔介護保険のサービスを受けている〕で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が40%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満である』が〔外国籍である〕では10%未満、〔介護保険のサービスを受けている〕では10%を超えています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

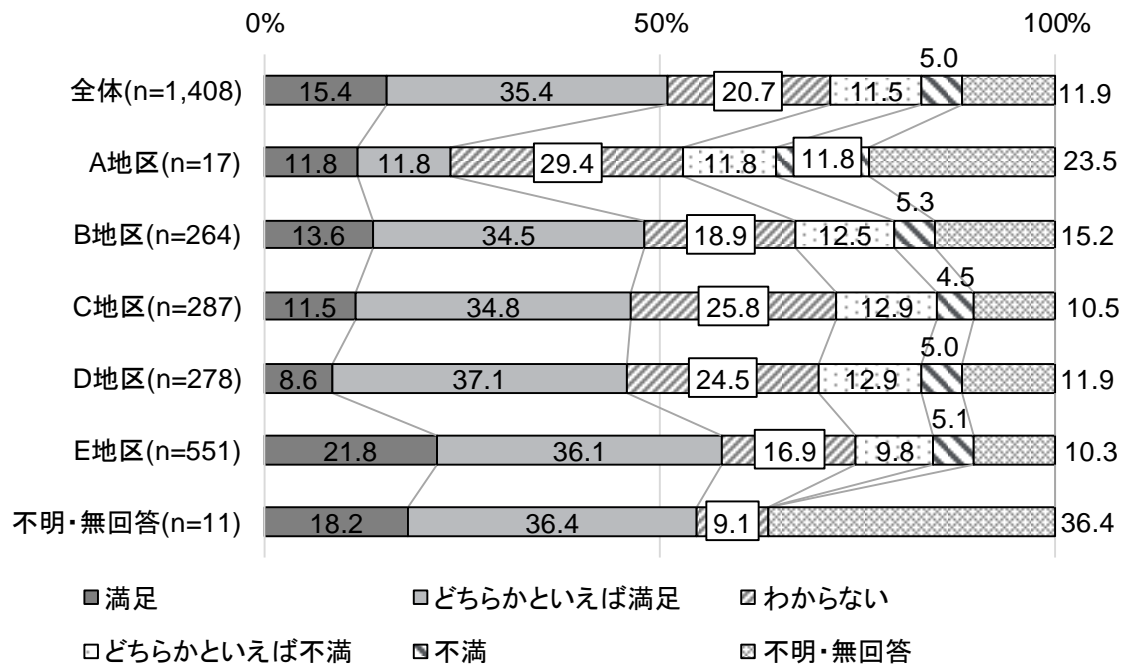
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が40%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が10%を超えています。



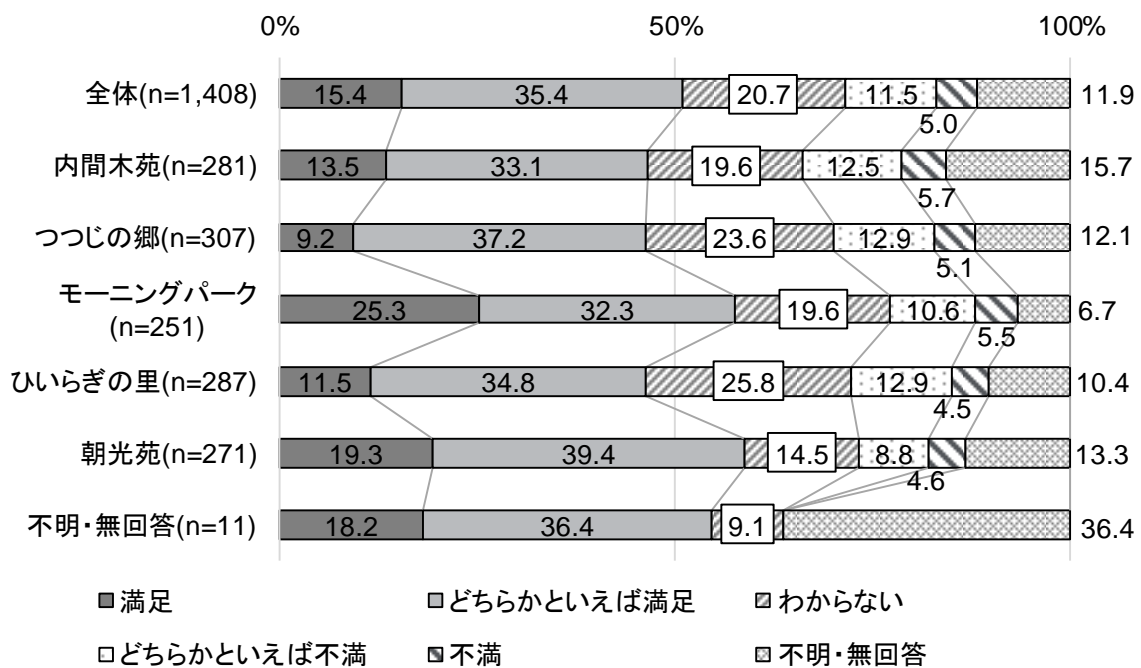
問 10 ④ 職場(学校)と住まいの近さ

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

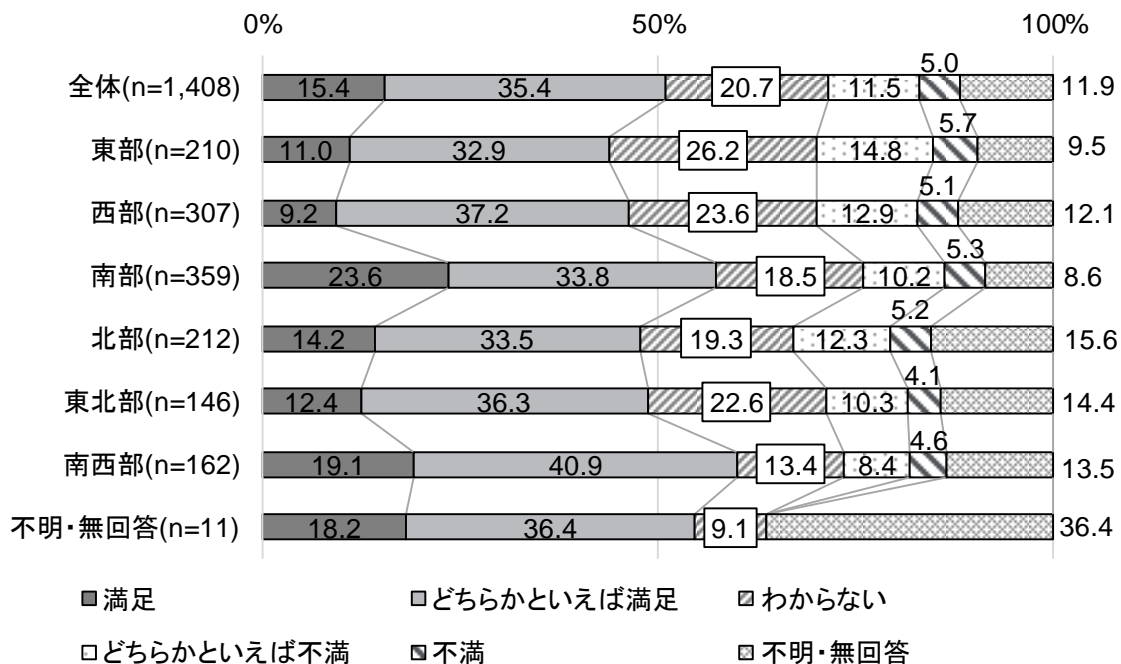
圏域パターン 1 (前期アンケート)



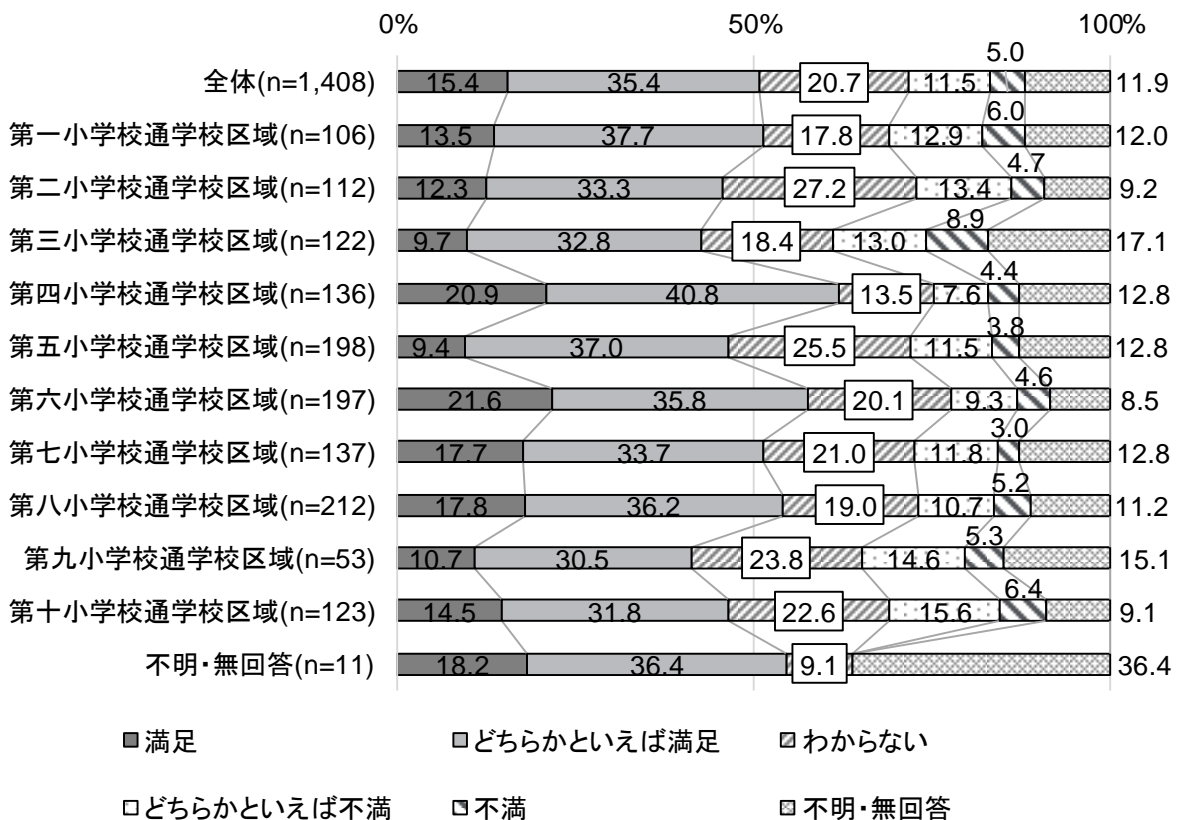
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

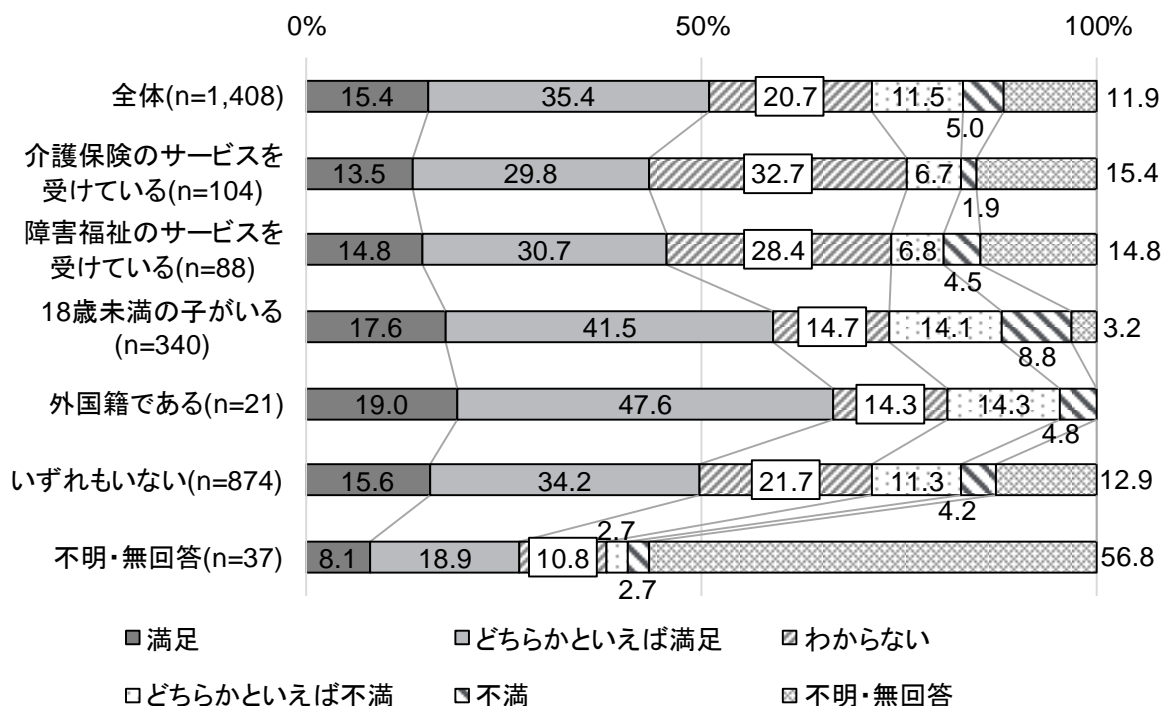


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



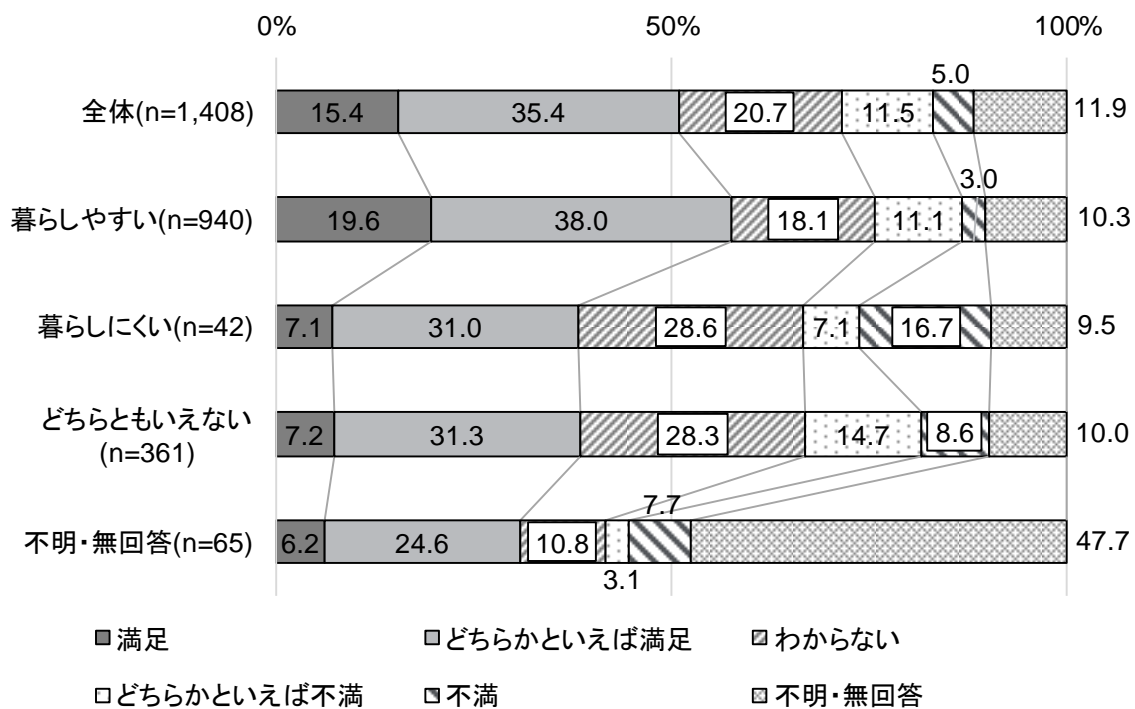
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、〔外国籍である〕〔18歳未満の子がいる〕で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』がそれぞれ50%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満である』がそれぞれ20%程度となっています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

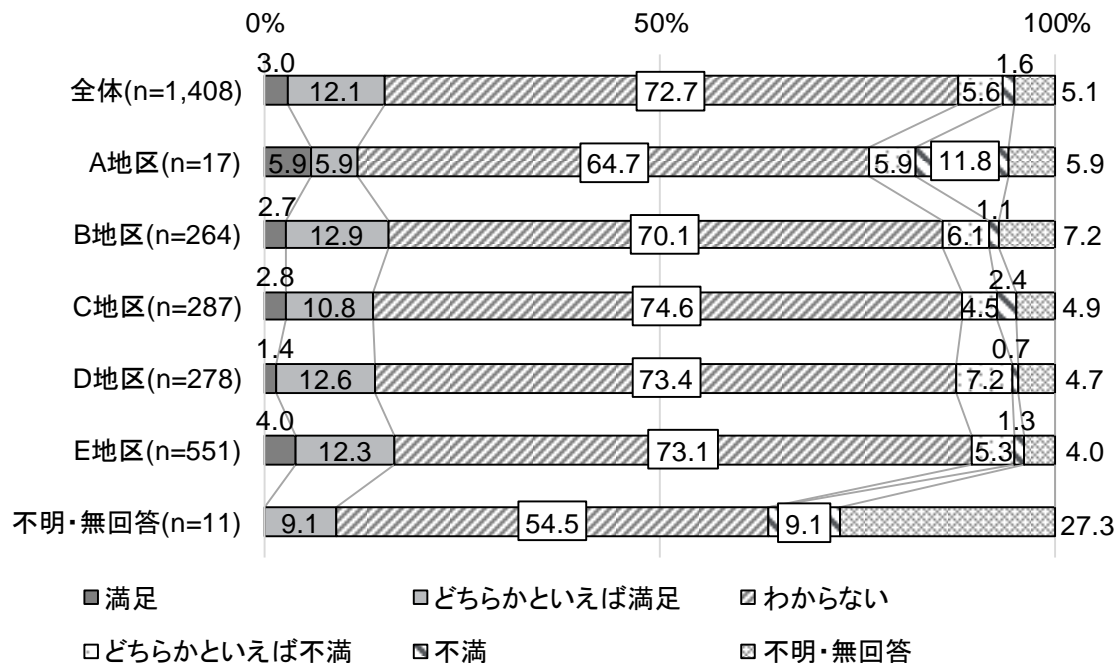
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が50%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が10%を超えています。



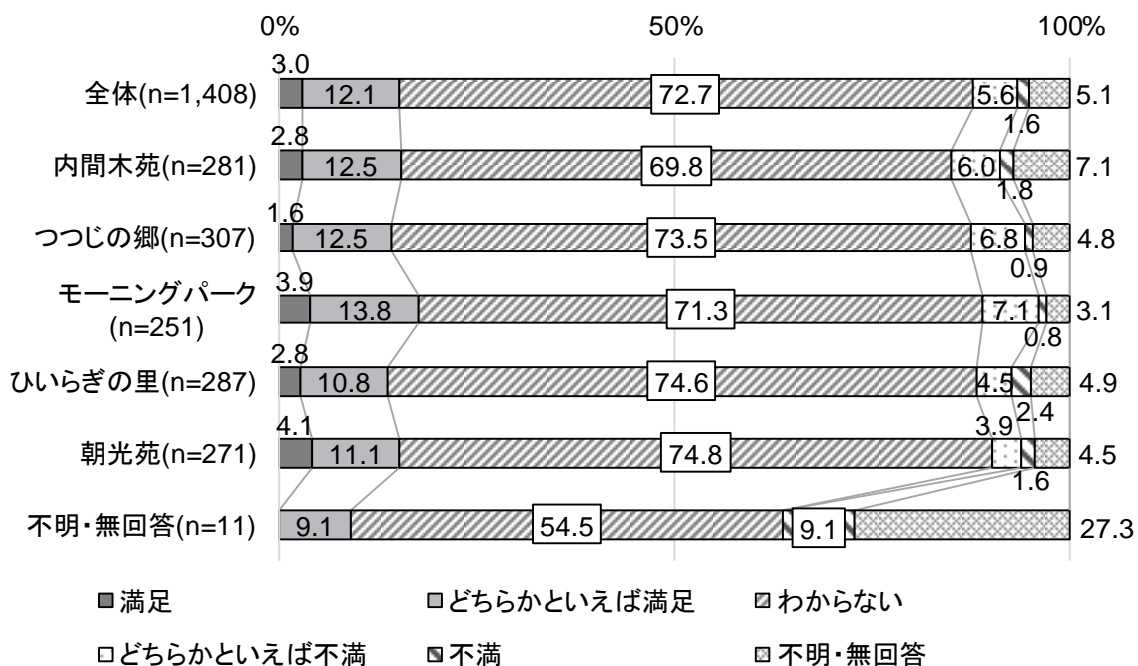
問 10 ⑤ 高齢者に関するサービス

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

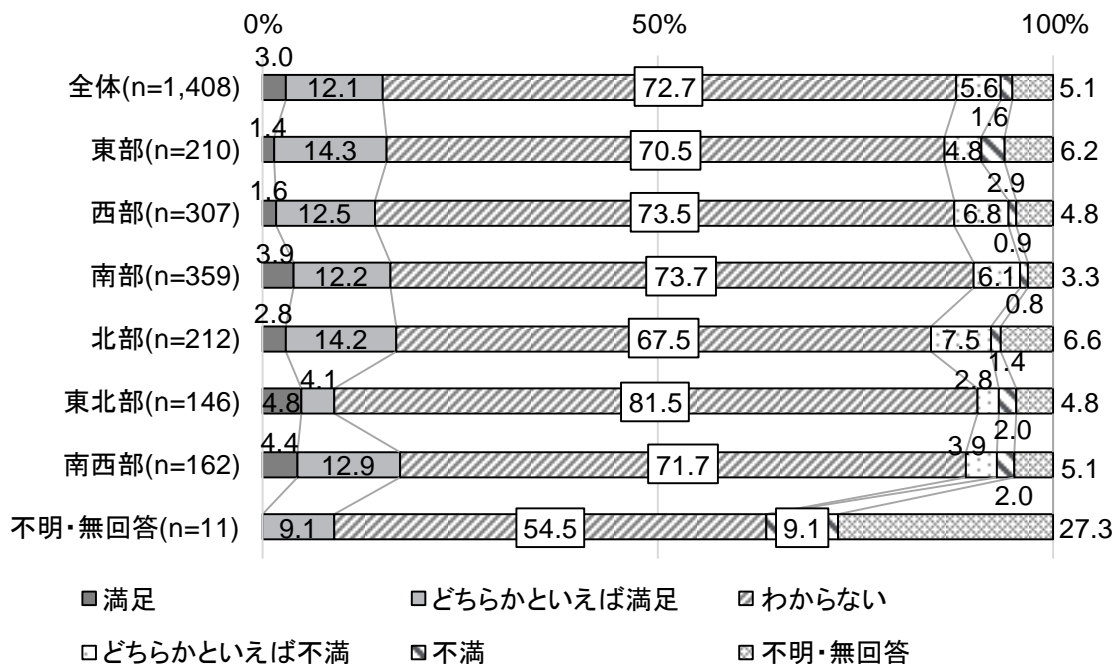
圏域パターン 1 (前期アンケート)



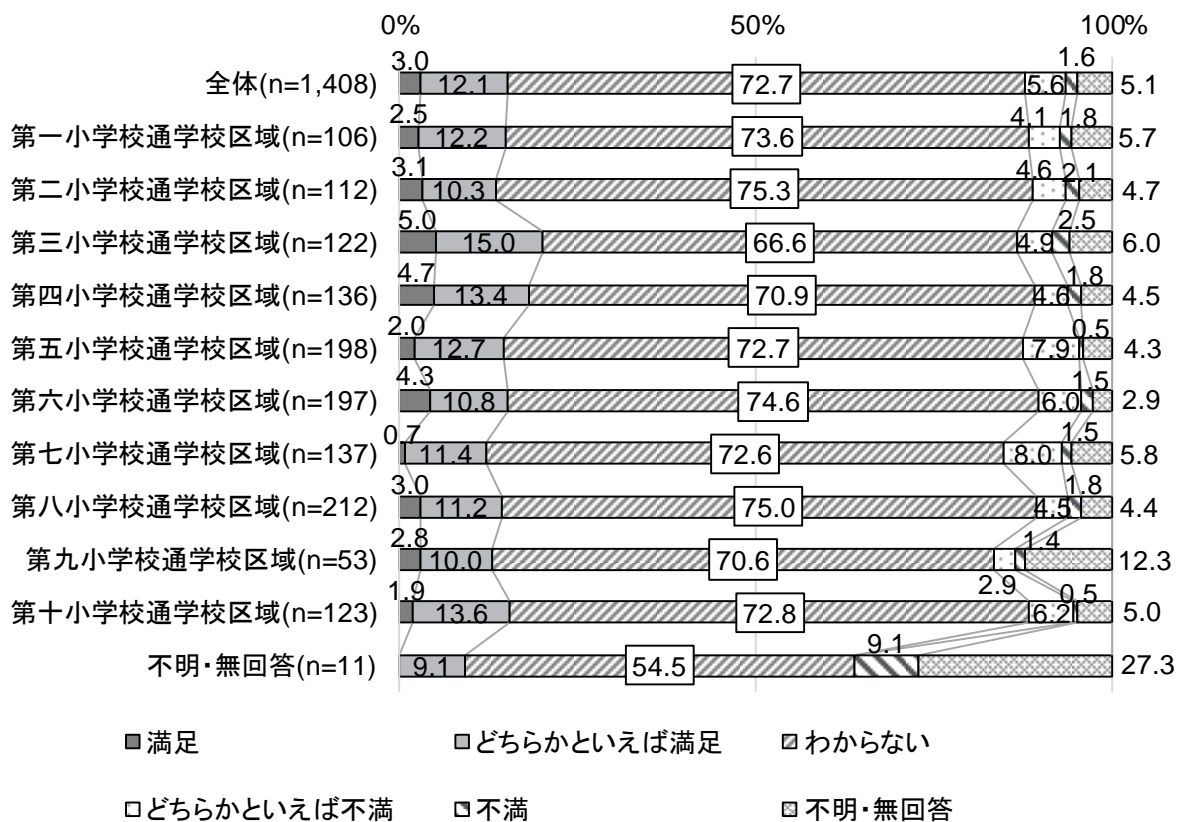
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

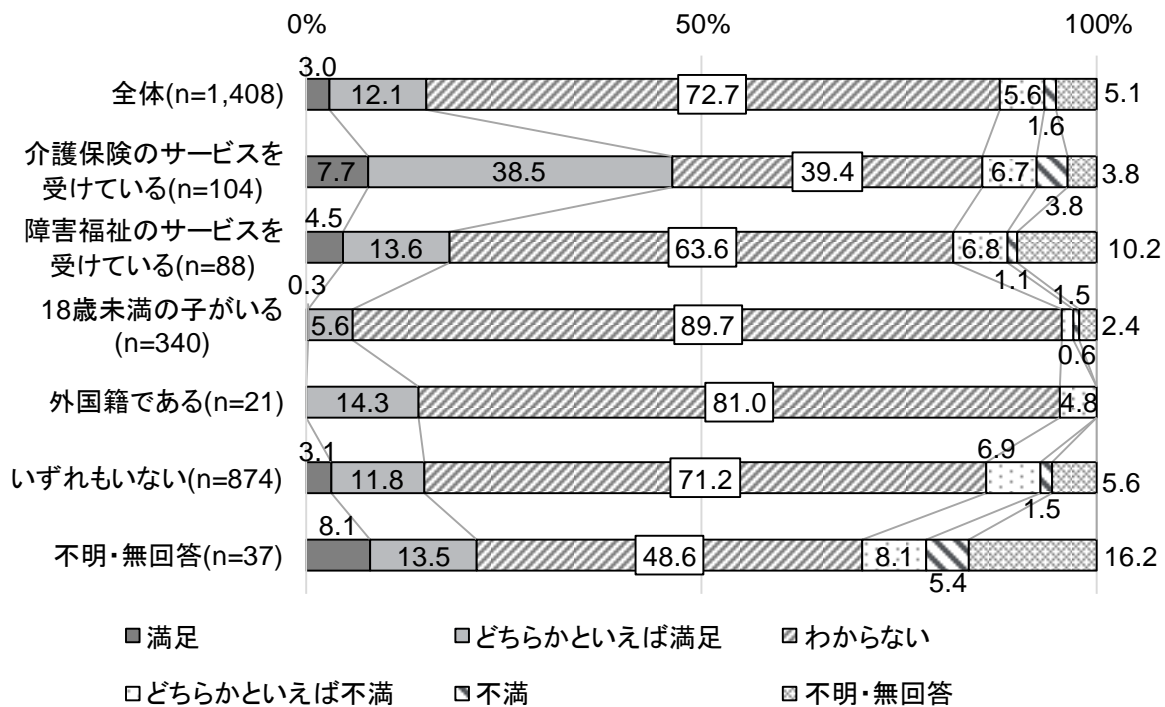


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



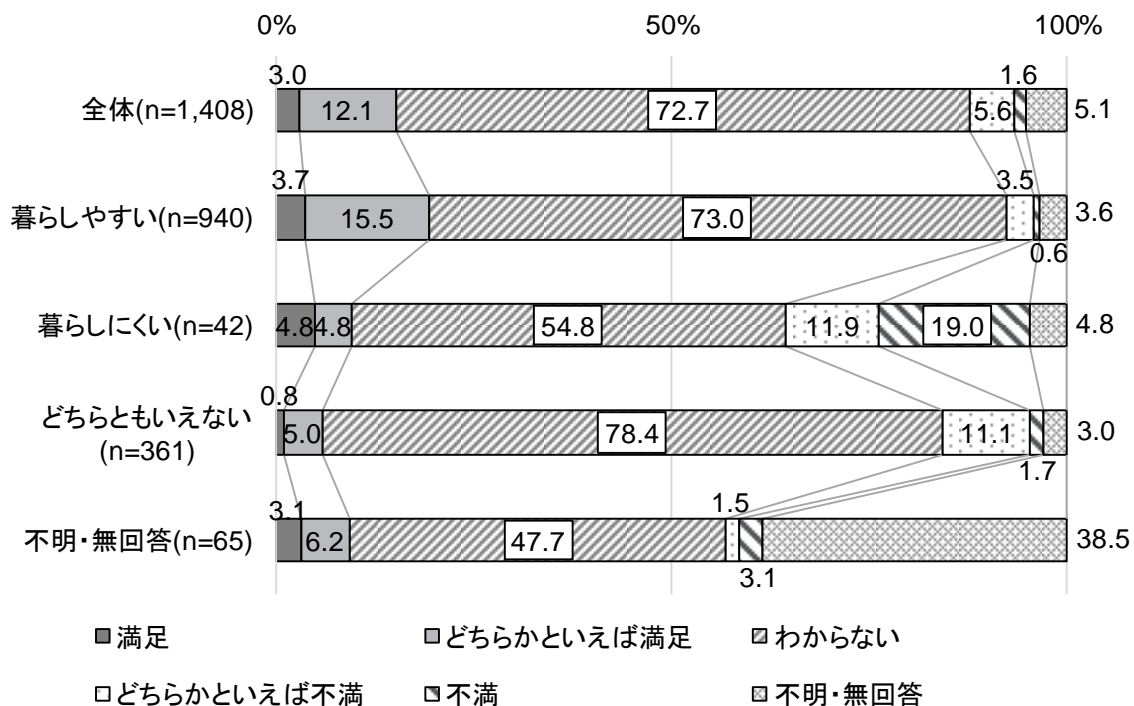
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、〔介護保険を受けている〕で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が40%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満である』が10%未満となっています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

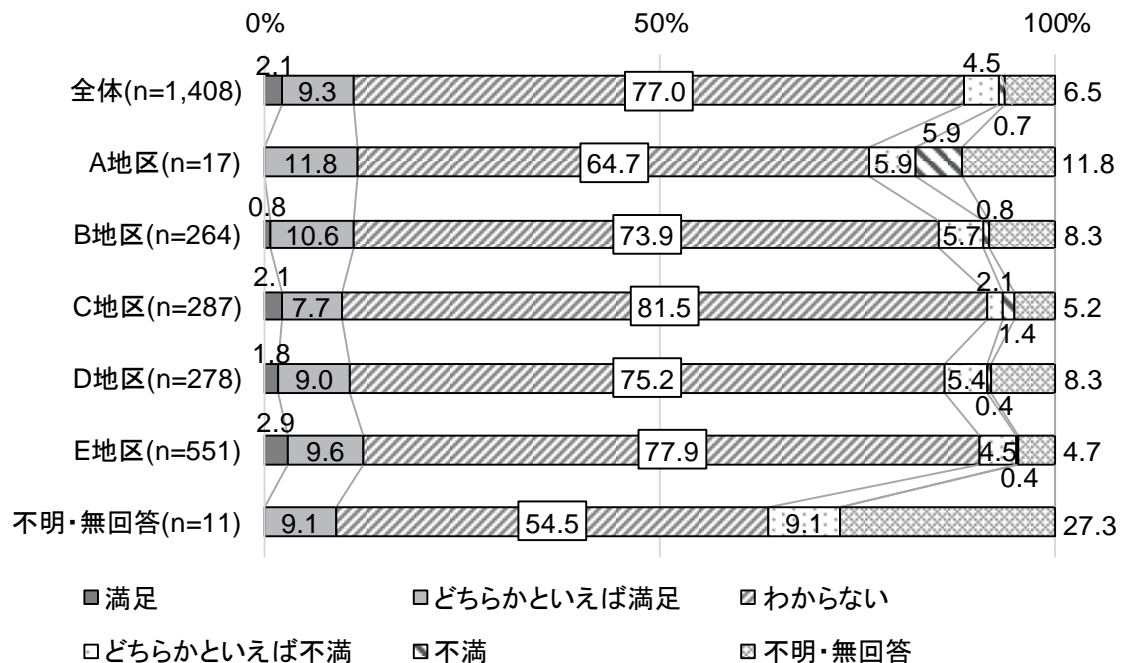
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が20%未満となっています。一方、「不満」「どちらかといえば不満足」を合わせた『不満足である』が10%未満となっています。



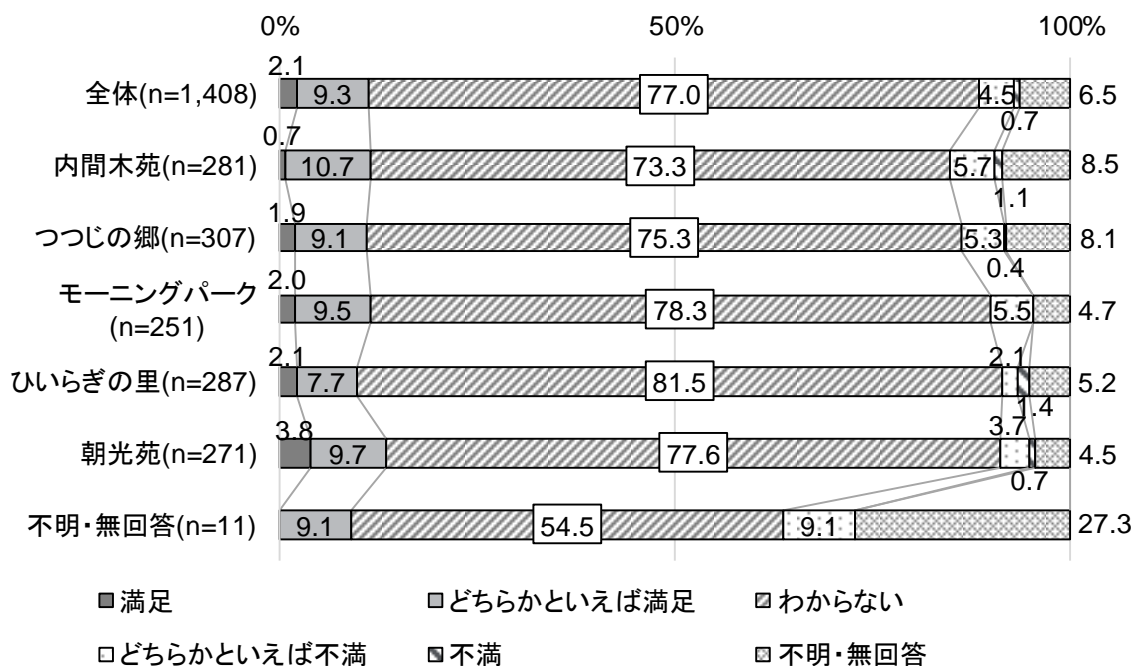
問 10 ⑥ 障害のある人に関するサービス

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

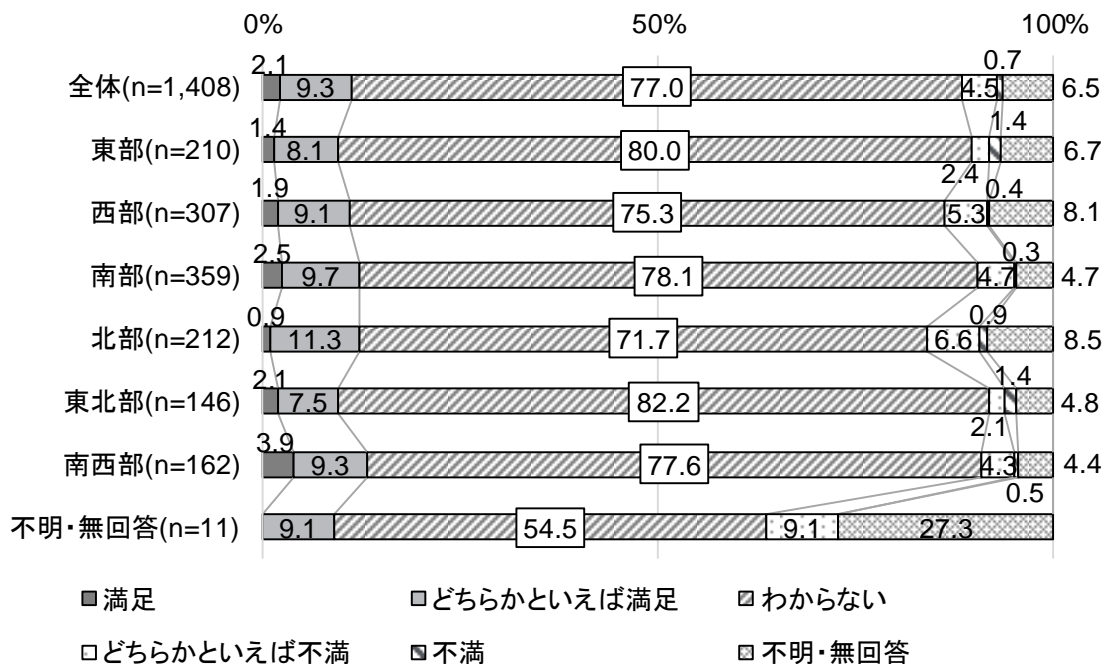
圏域パターン 1 (前期アンケート)



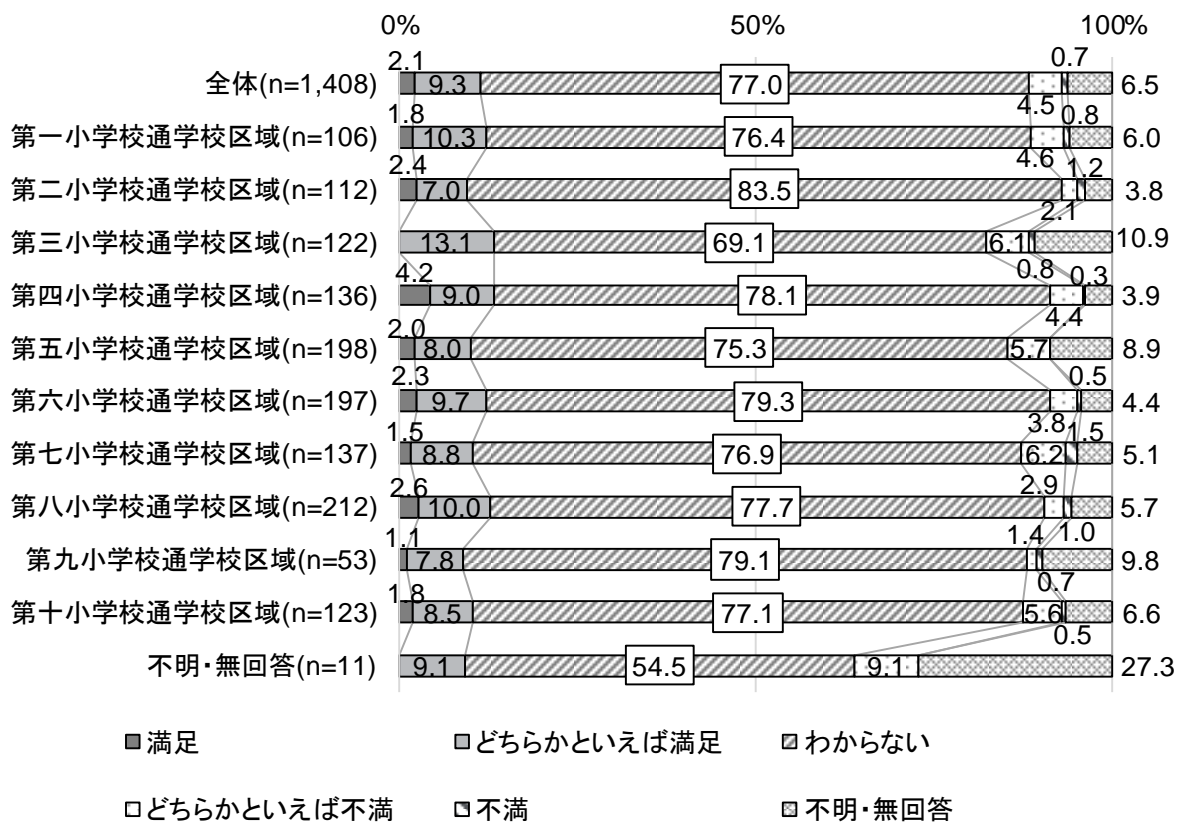
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

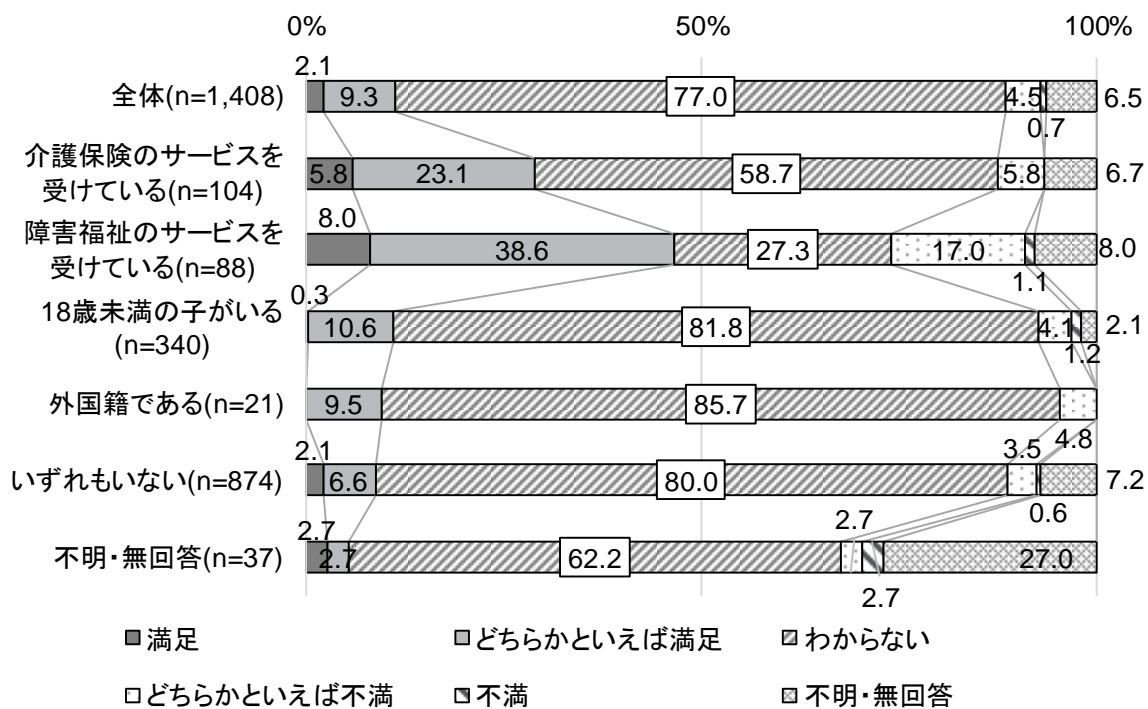


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



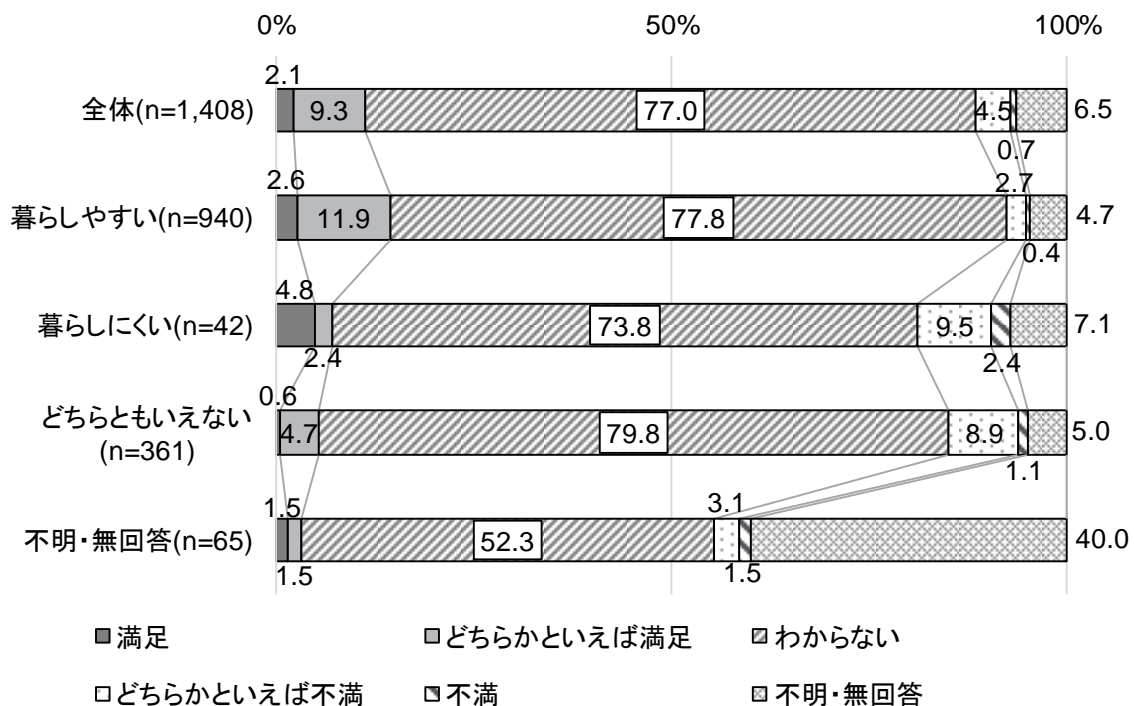
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、「障害福祉のサービスを受けている」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が40%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が20%未満となっています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

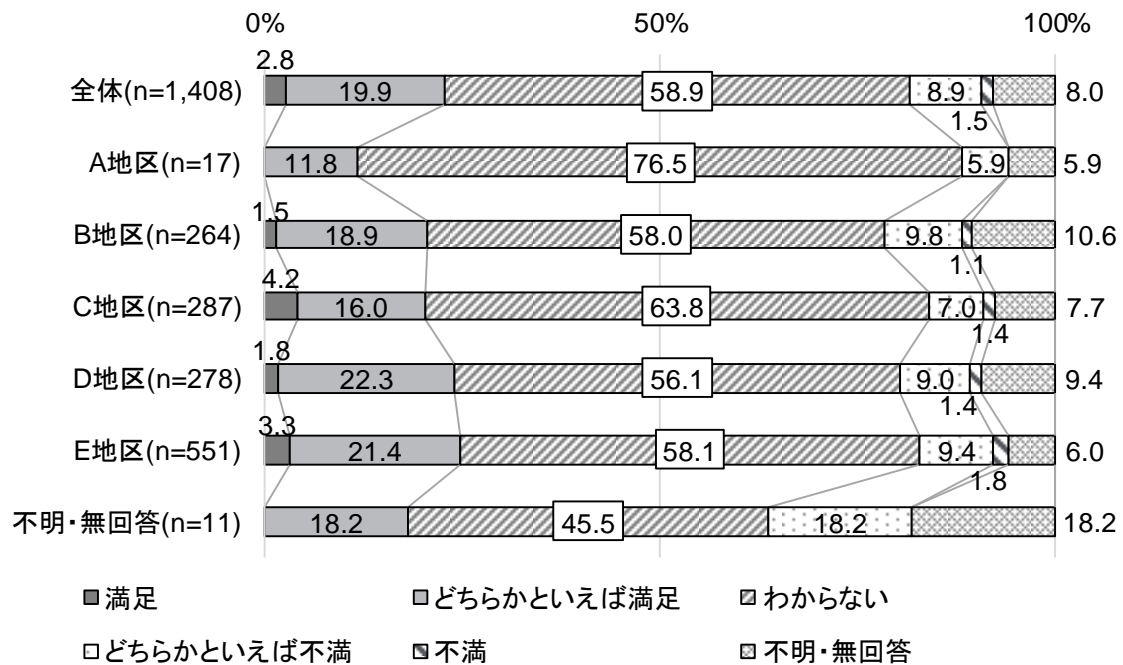
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が20%未満となっています。一方、「不満」「どちらかといえば不満足」を合わせた『不満足である』が10%未満となっています。



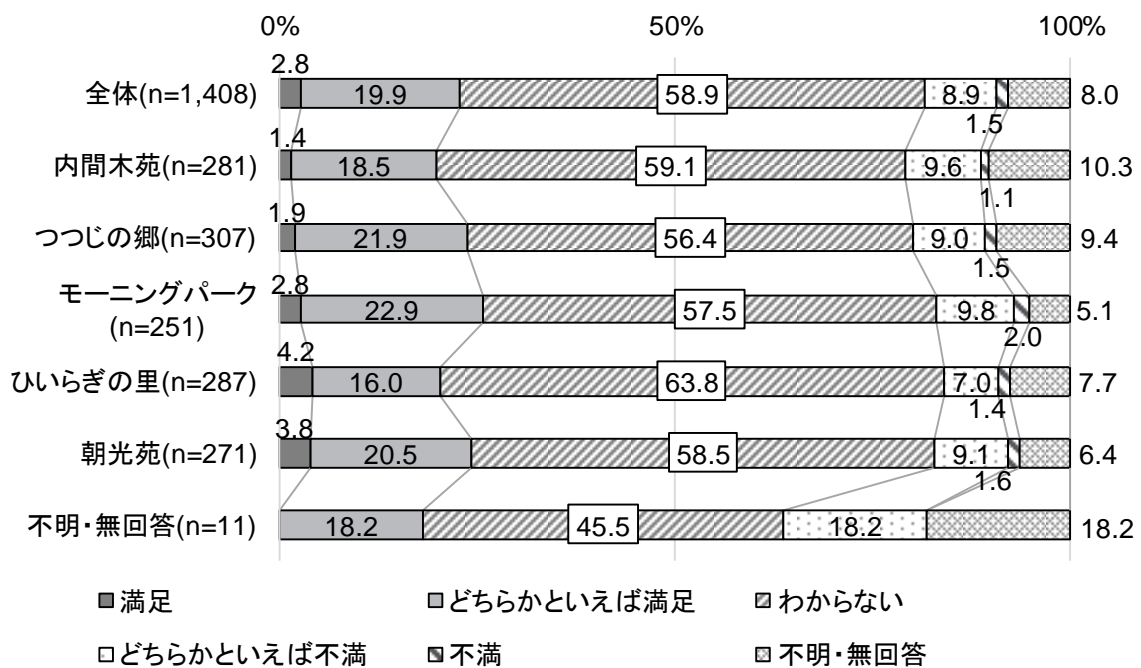
問 10 ⑦ 子育てに関するサービス

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

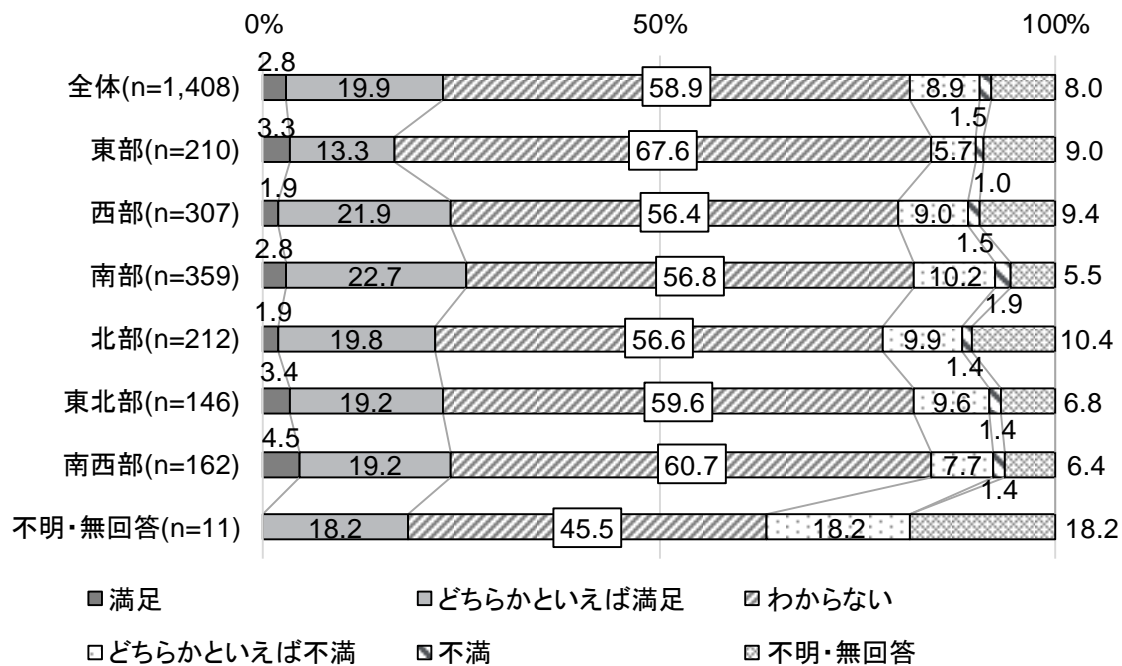
圏域パターン 1 (前期アンケート)



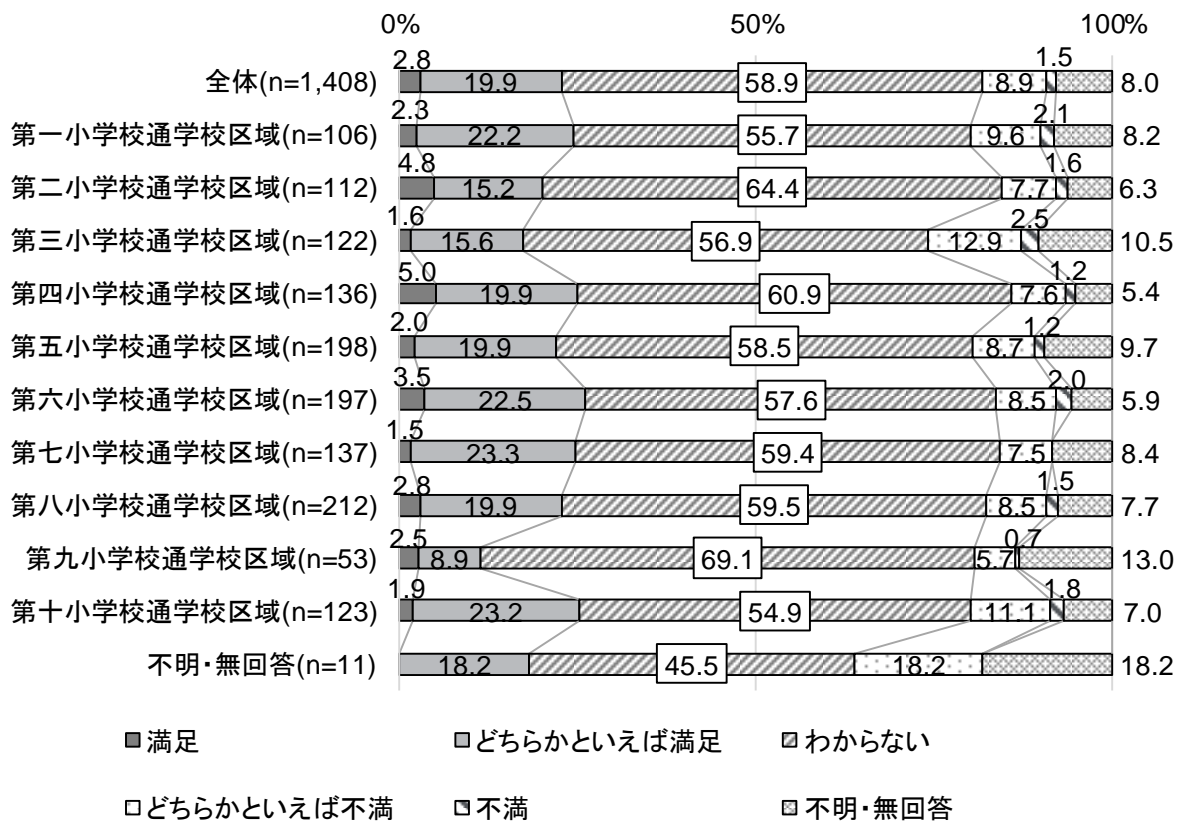
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

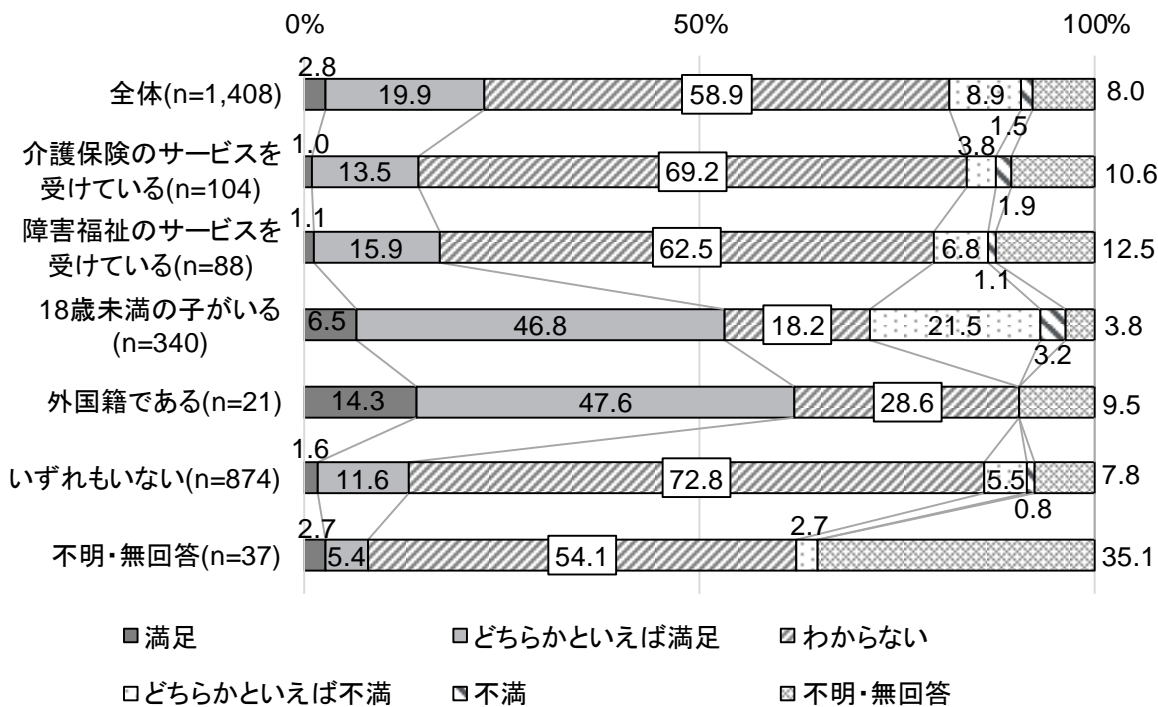


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



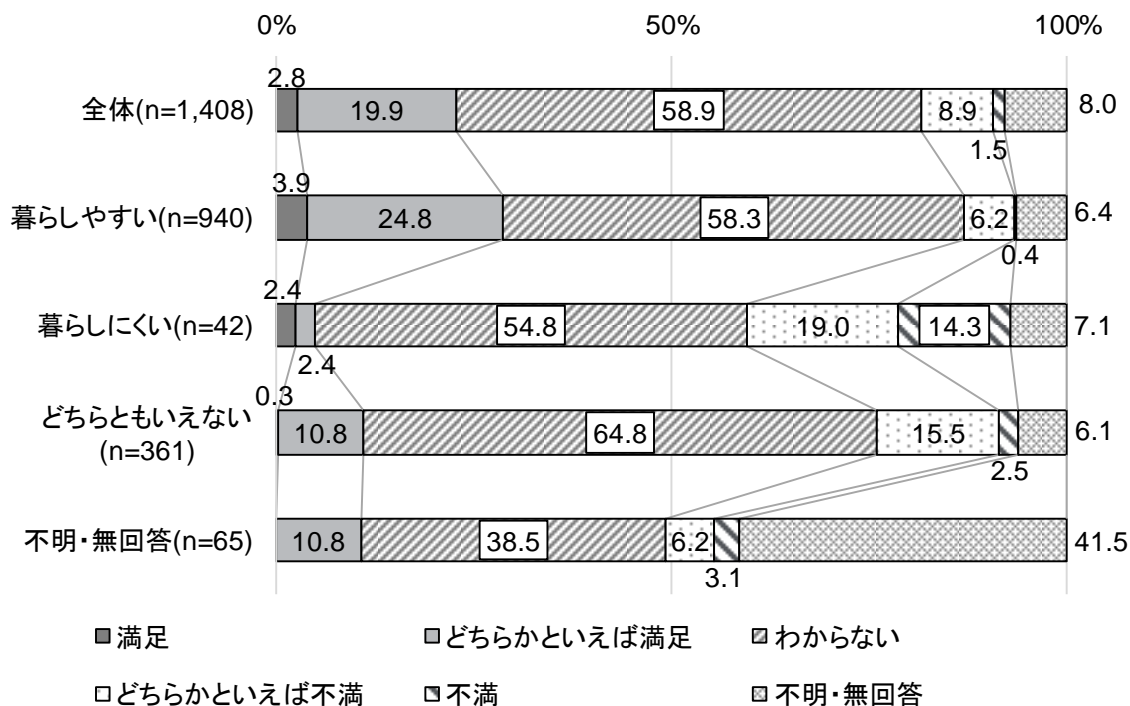
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、〔外国籍である〕〔18歳未満の子がいる〕で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』がそれぞれ50%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が〔外国籍である〕で0%、〔18歳未満の子がいる〕では20%を超えています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

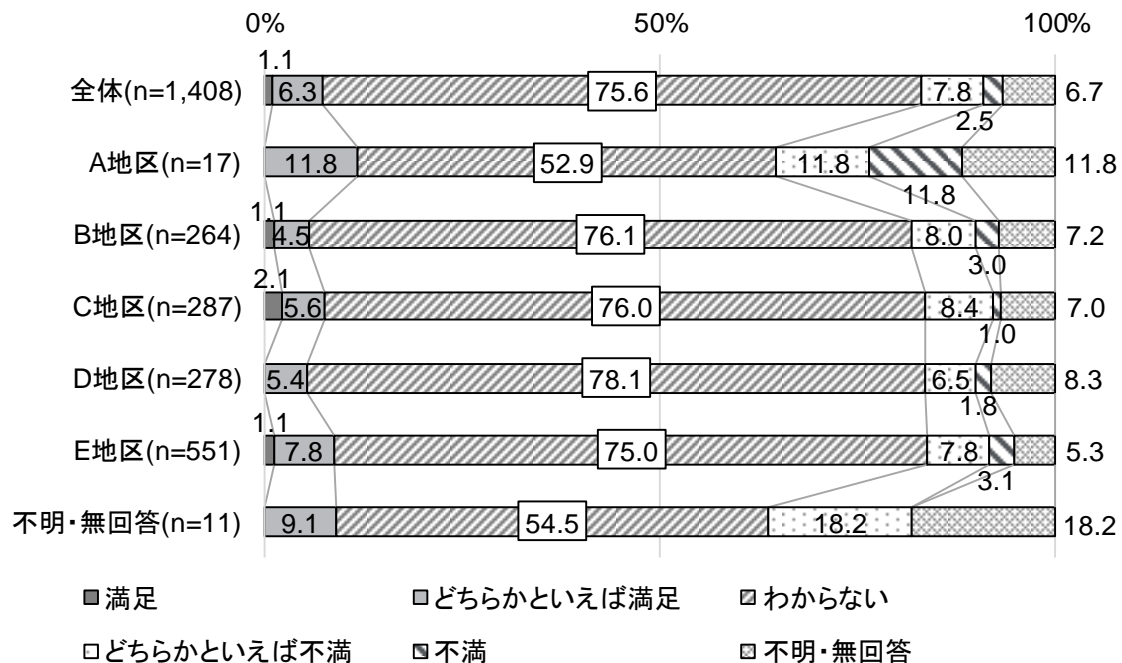
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が20%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が10%未満となっています。



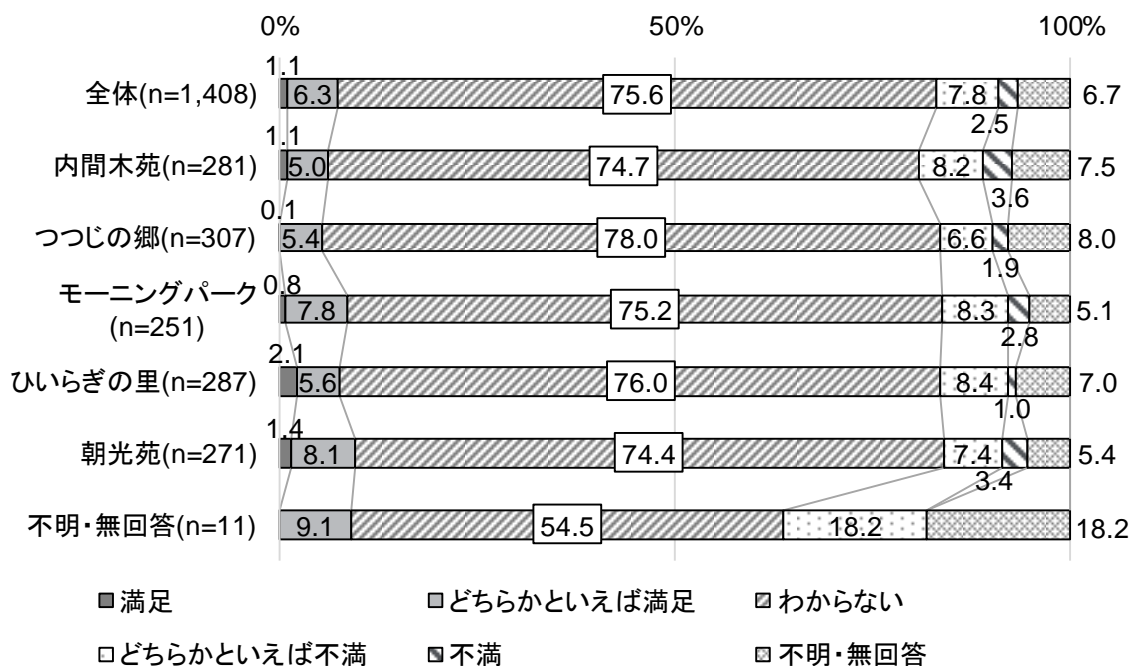
問 10 ⑧ 低所得者に関するサービス

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

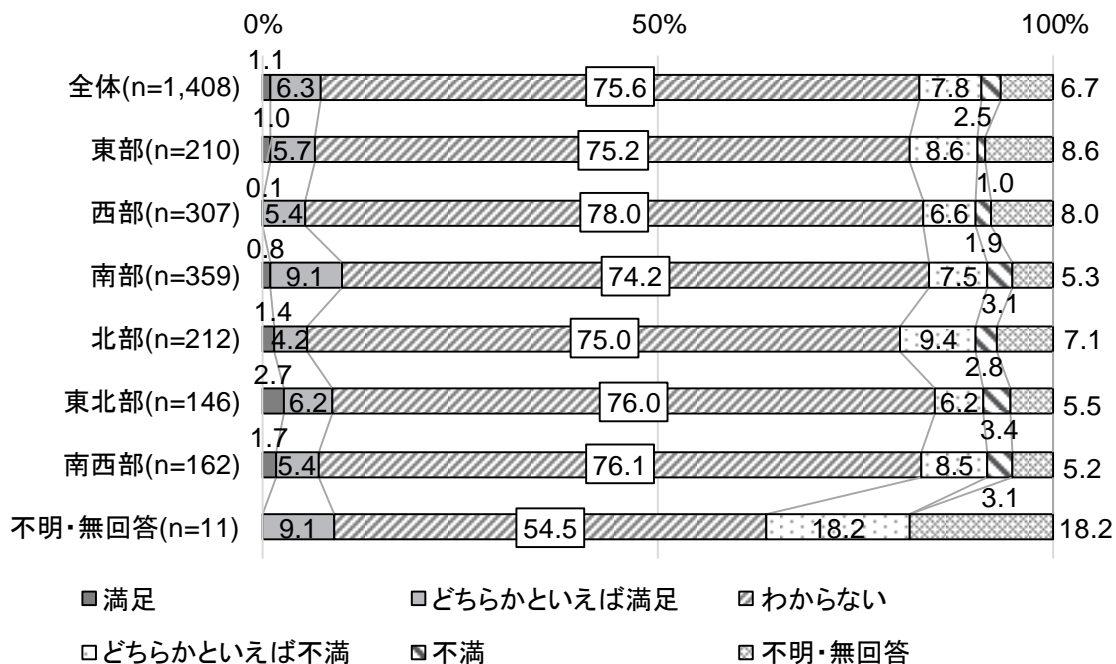
圏域パターン 1 (前期アンケート)



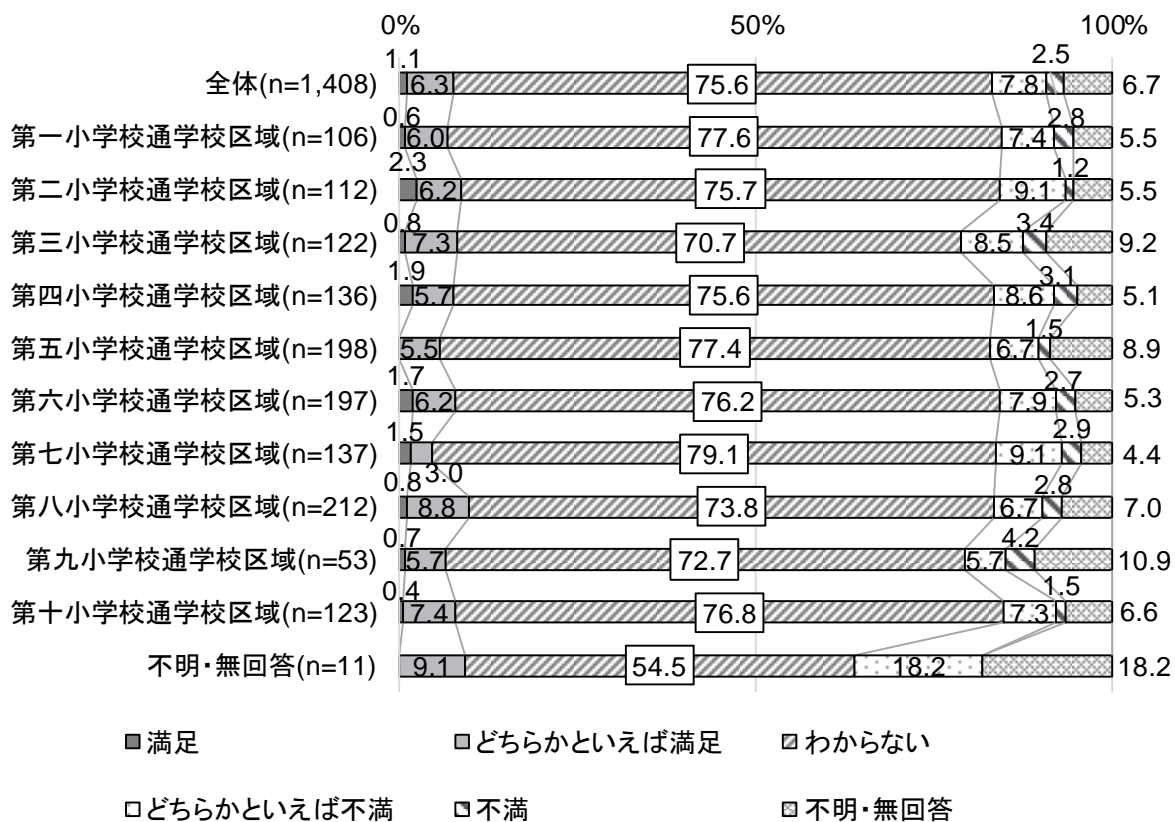
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

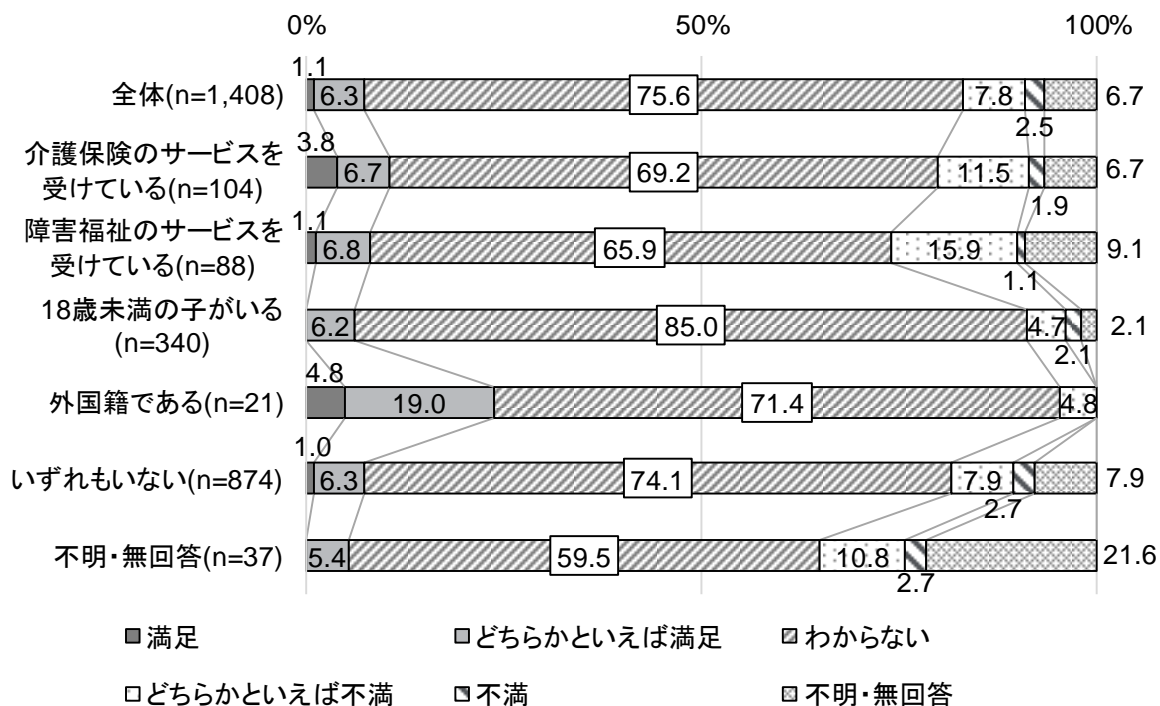


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



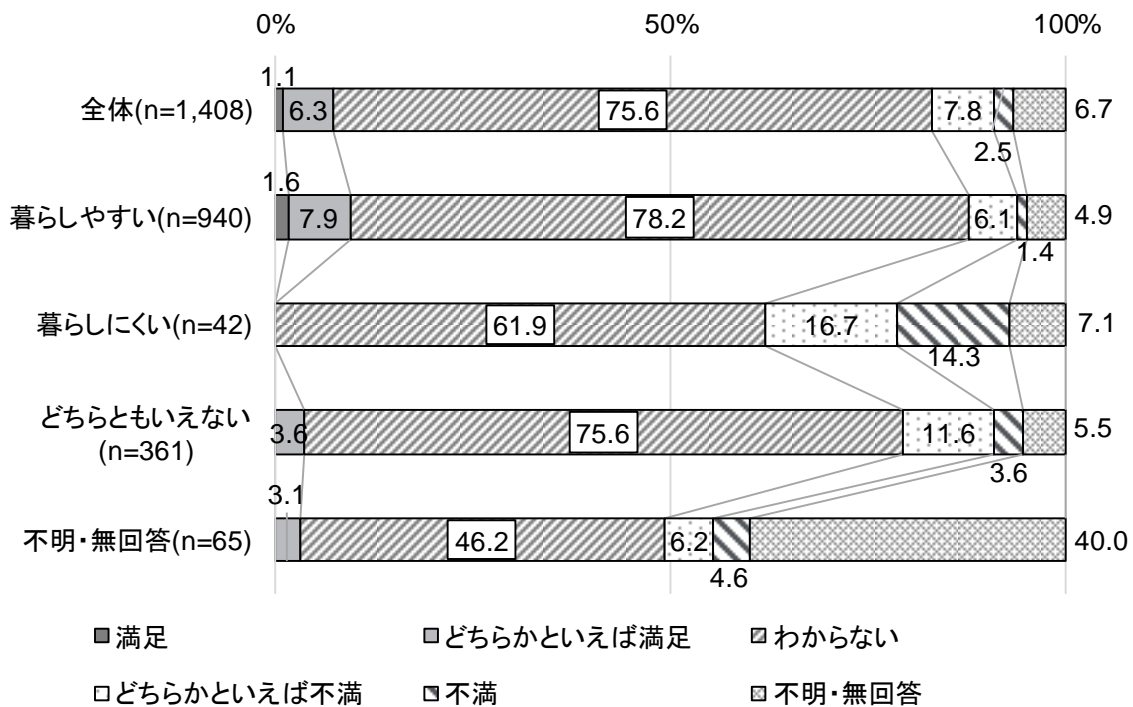
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、〔外国籍である〕で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が20%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が、10%未満となっています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

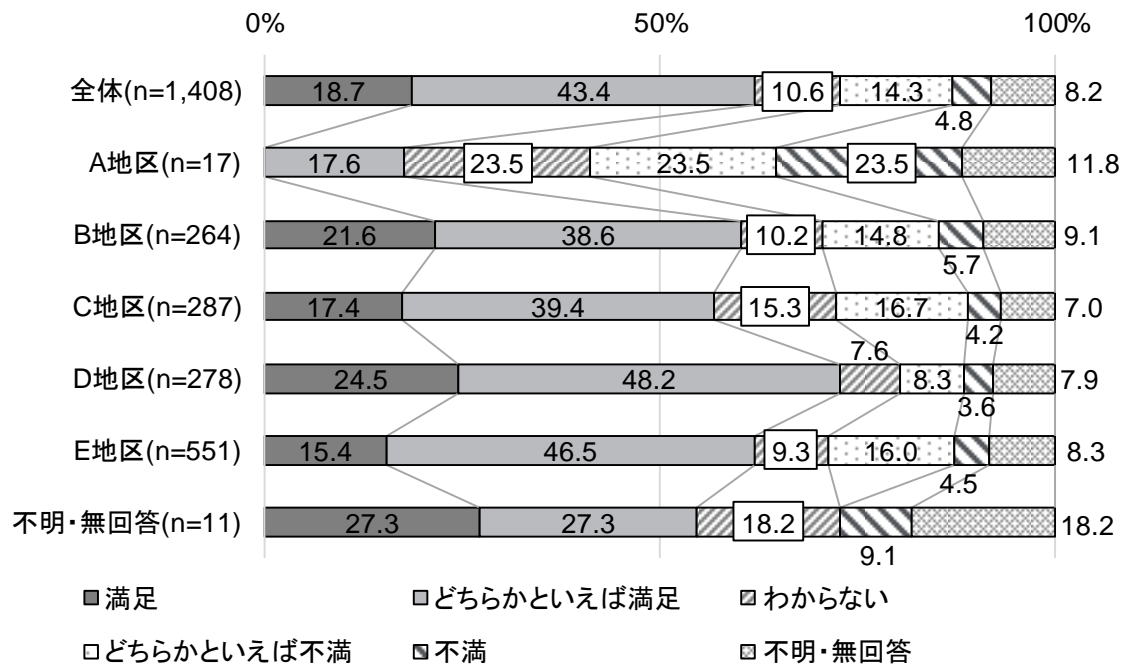
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」〔どちらともいえない〕で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』がそれぞれ10%未満となっています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が、「暮らしやすい」で10%未満、「どちらともいえない」では20%未満となっています。



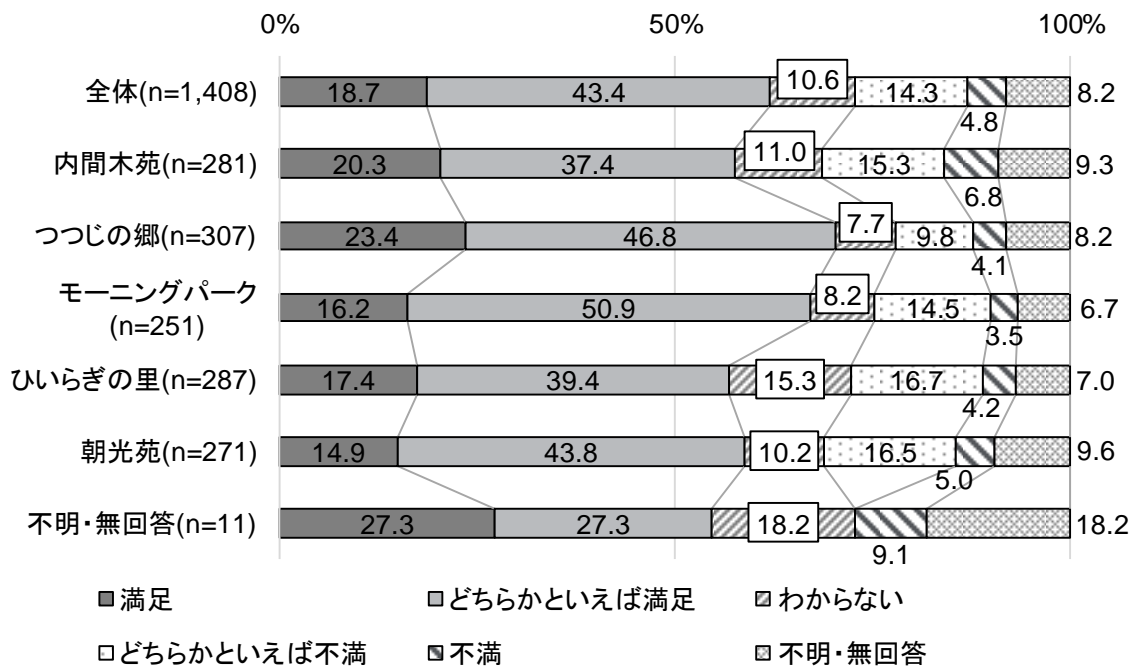
問 10 ⑨ 通勤や通学などの交通の便

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

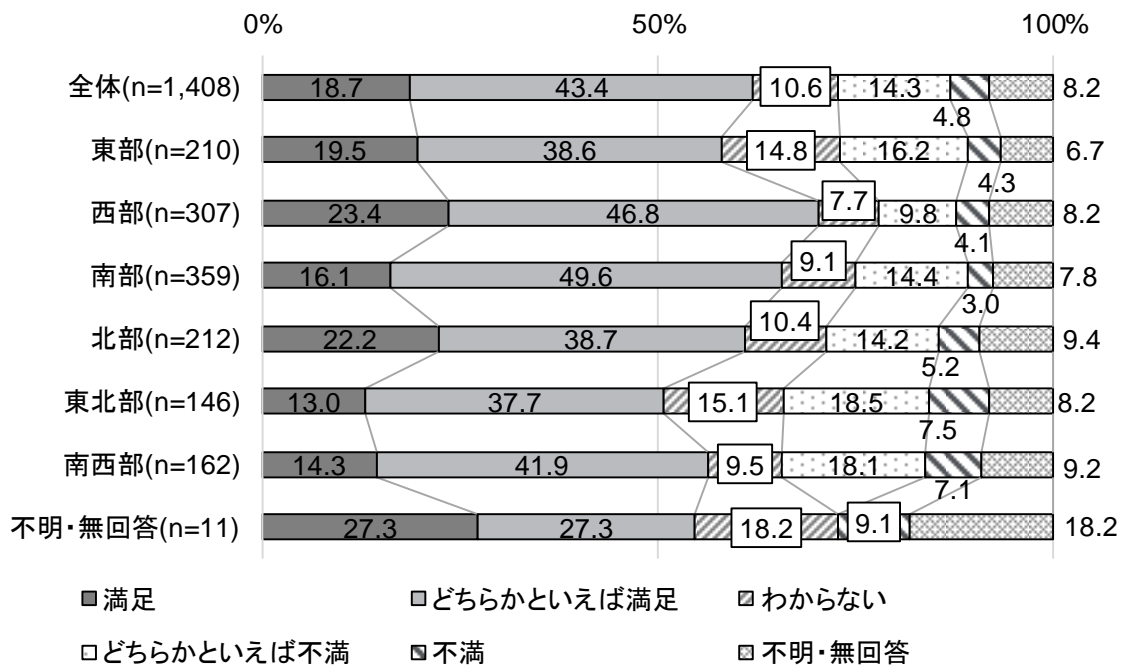
圏域パターン 1 (前期アンケート)



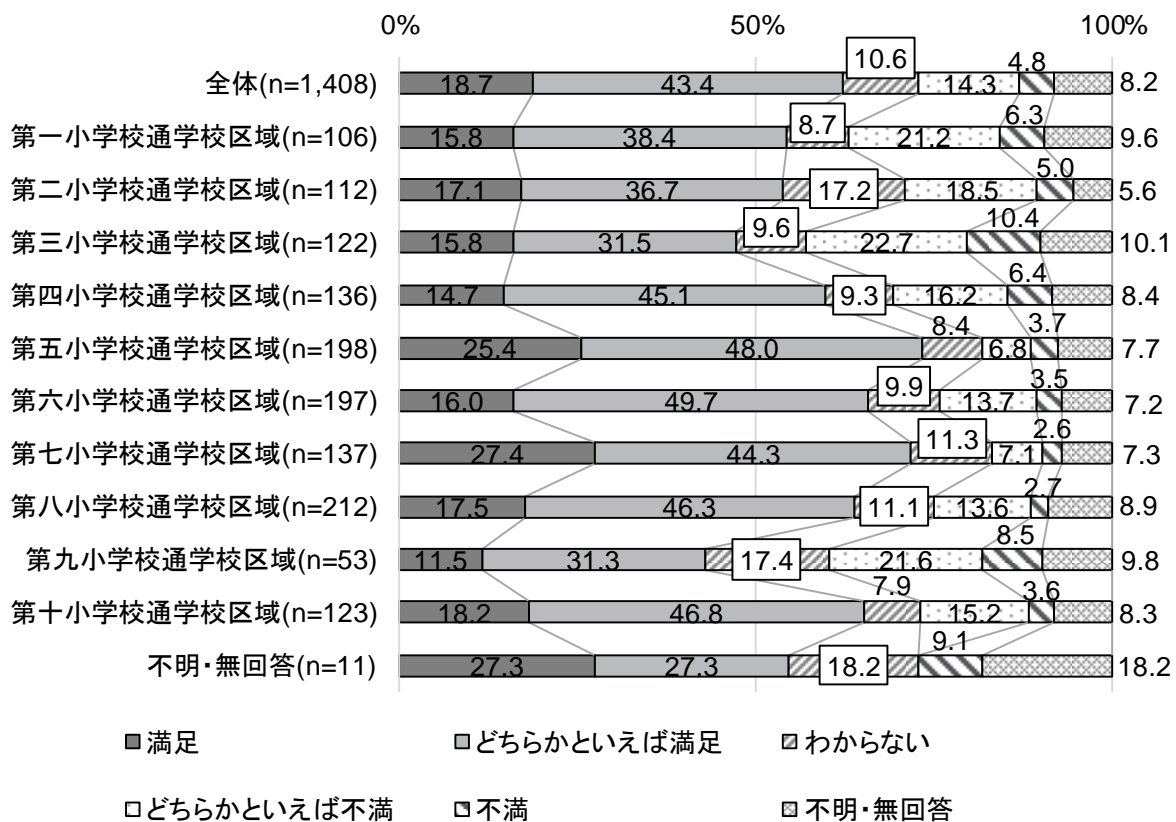
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

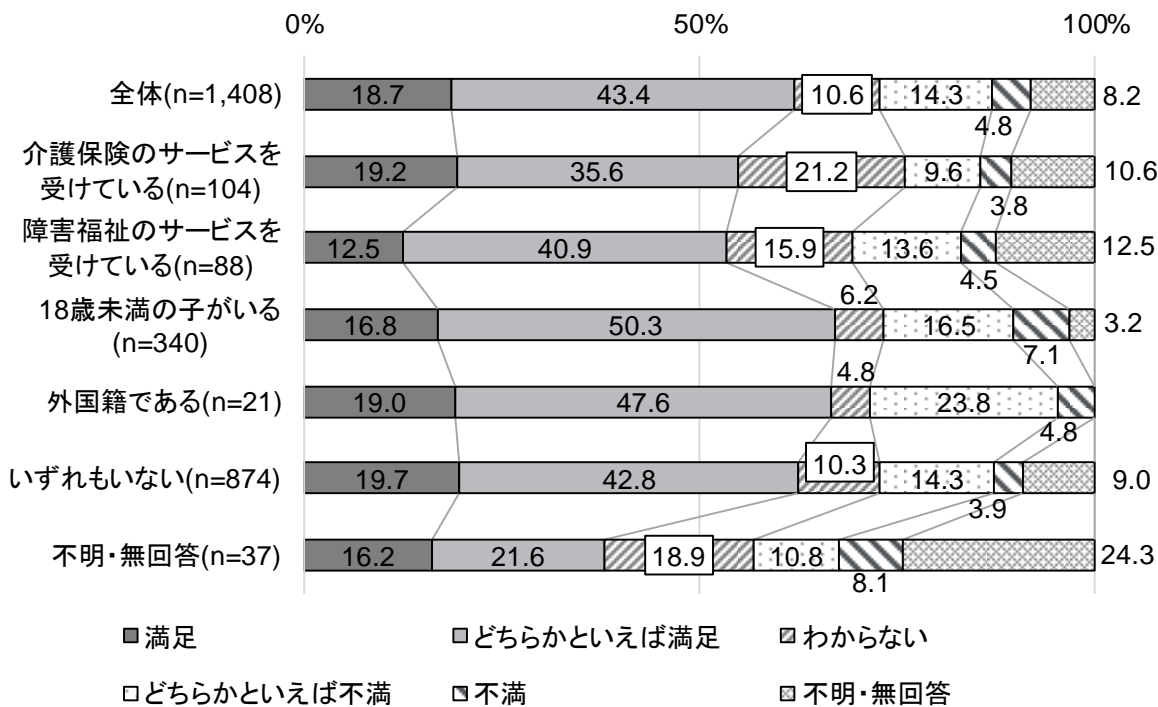


圏域パターン 4 (小学校通学区)



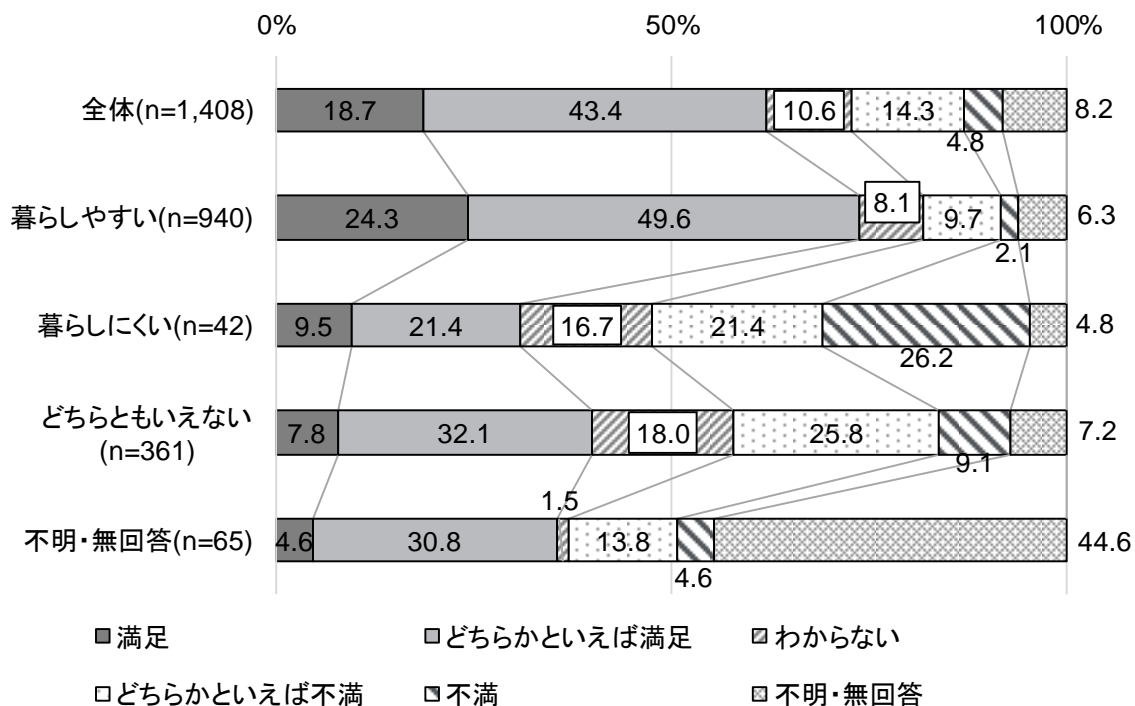
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、「18歳未満の子がいる」「外国籍である」「いずれもない」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』がそれぞれ60%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満である』が、20%程度となっています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

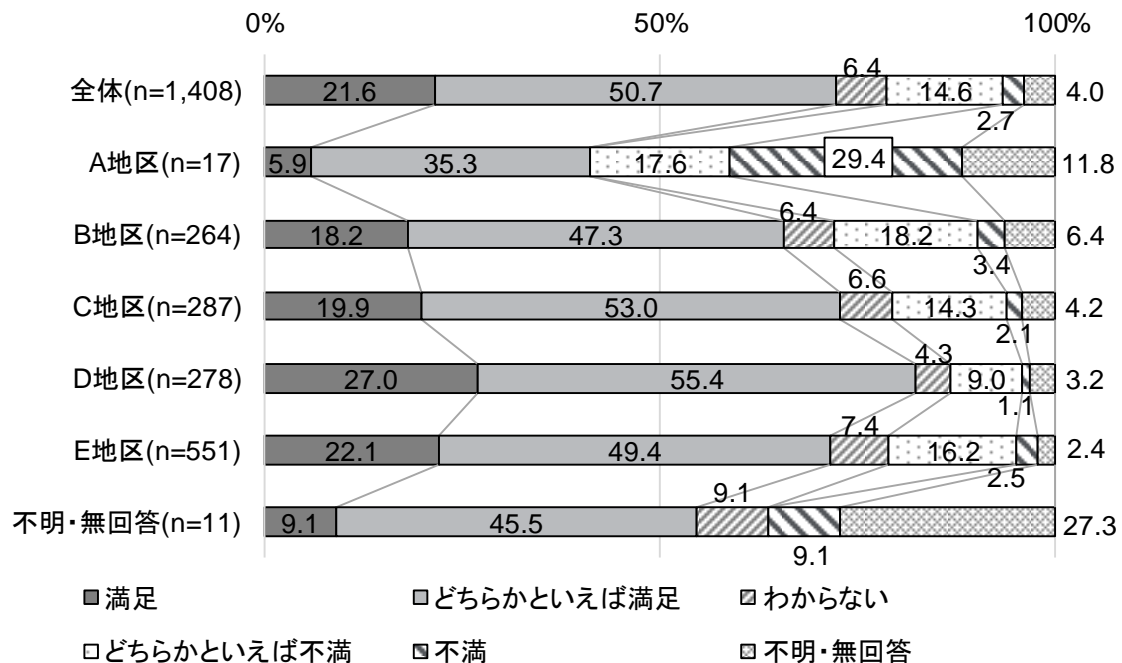
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が70%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満足」を合わせた『不満足である』が、10%を超えています。



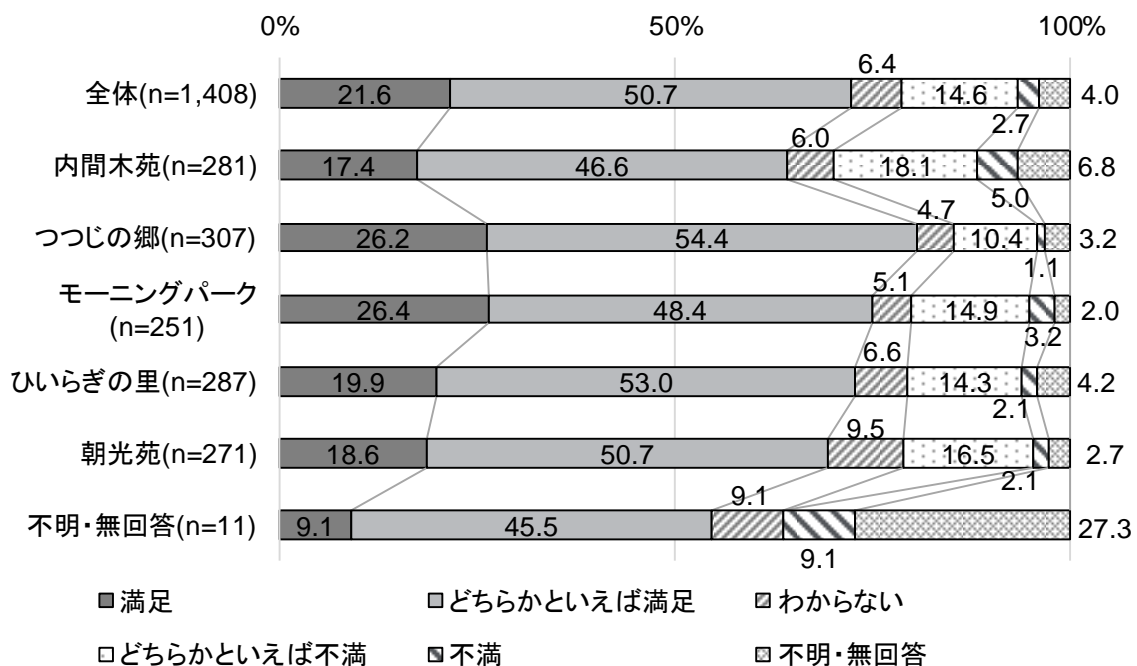
問 10 ⑩ 生活用品などの買い物

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

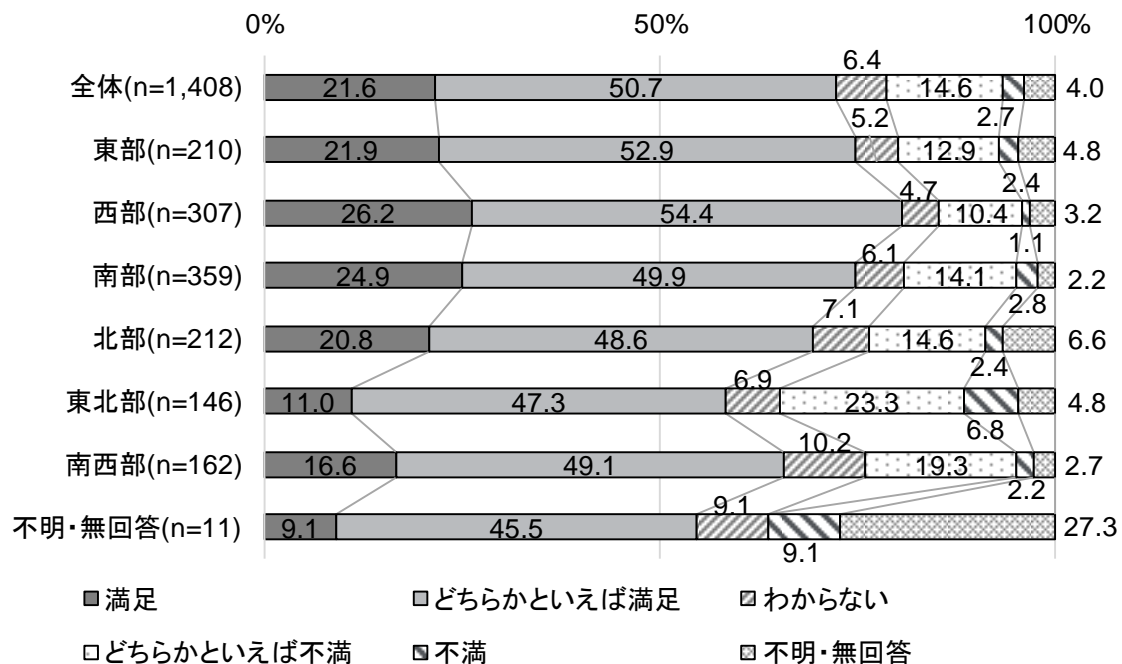
圏域パターン 1 (前期アンケート)



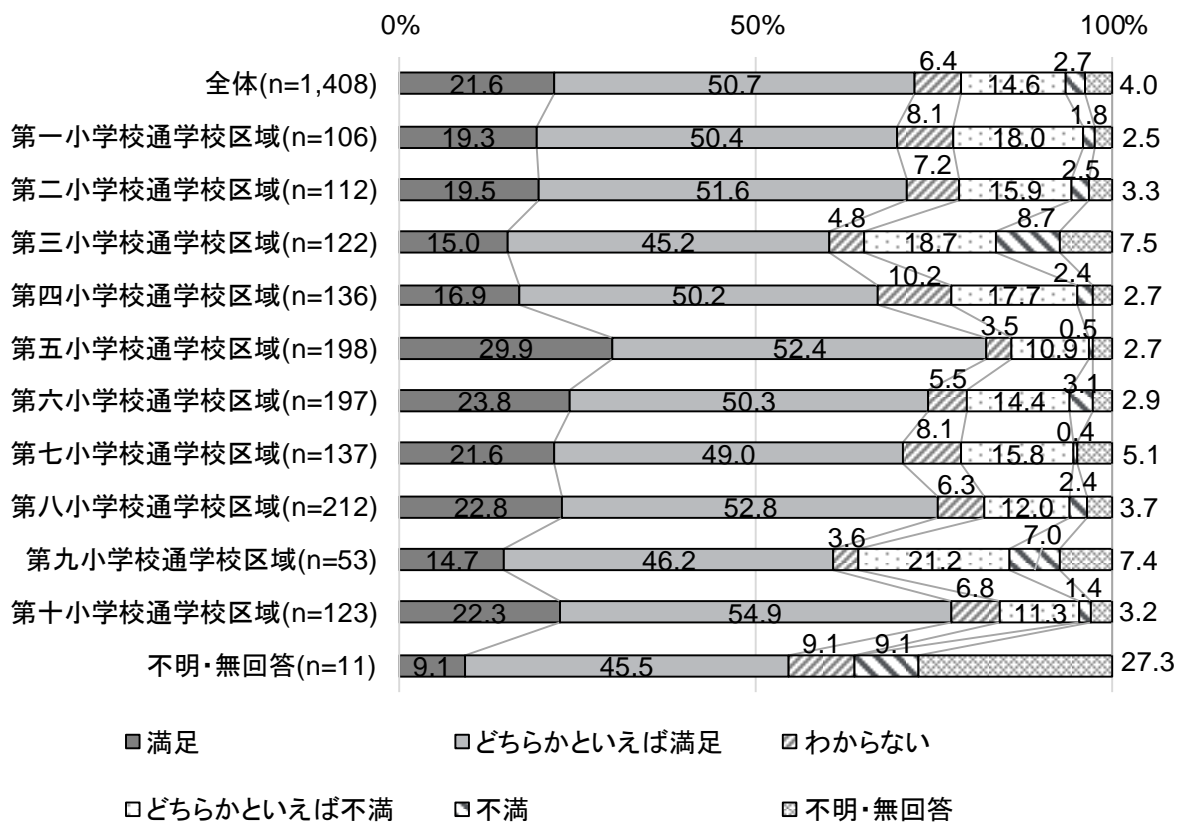
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

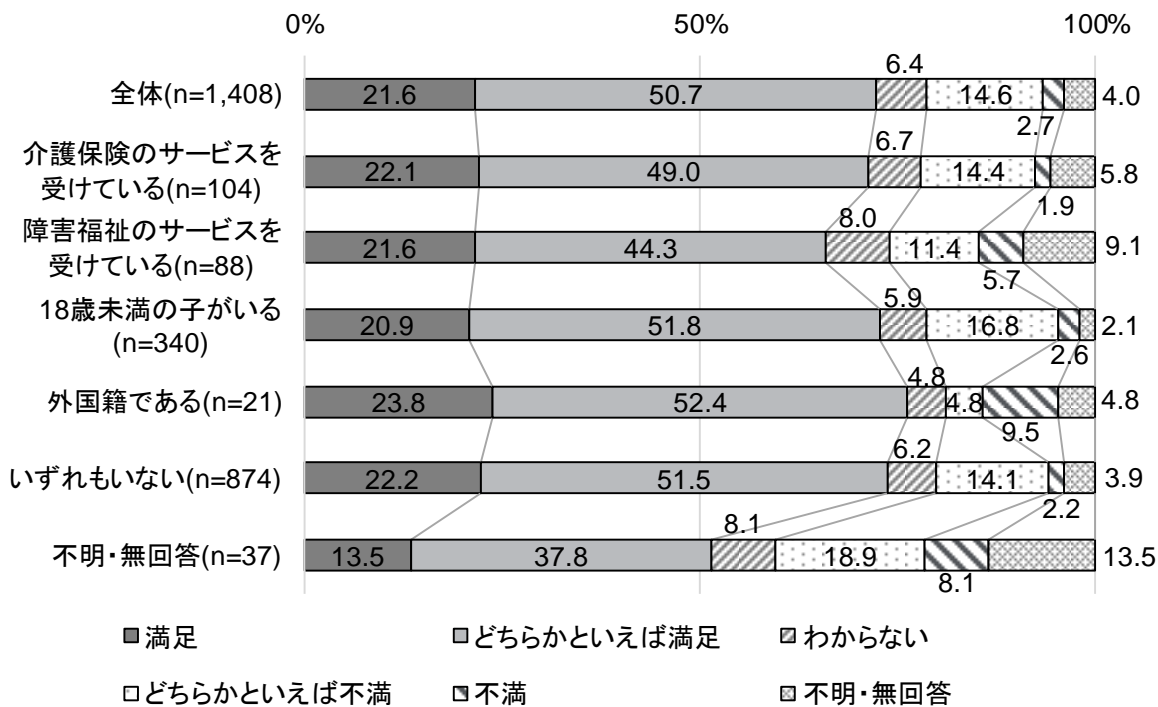


圏域パターン 4 (小学校通学区)



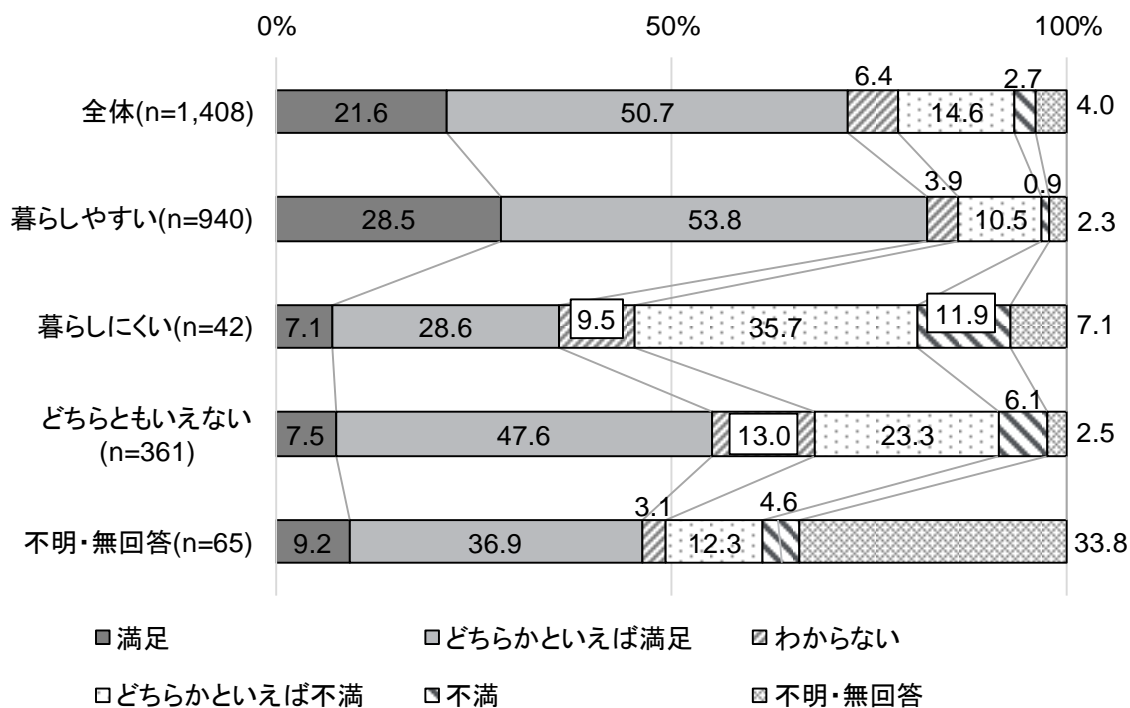
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、〔いずれもない〕〔18歳未満の子がいる〕〔外国籍である〕〔介護保険のサービスを受けている〕で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』がそれぞれ70%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が10%を超えています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

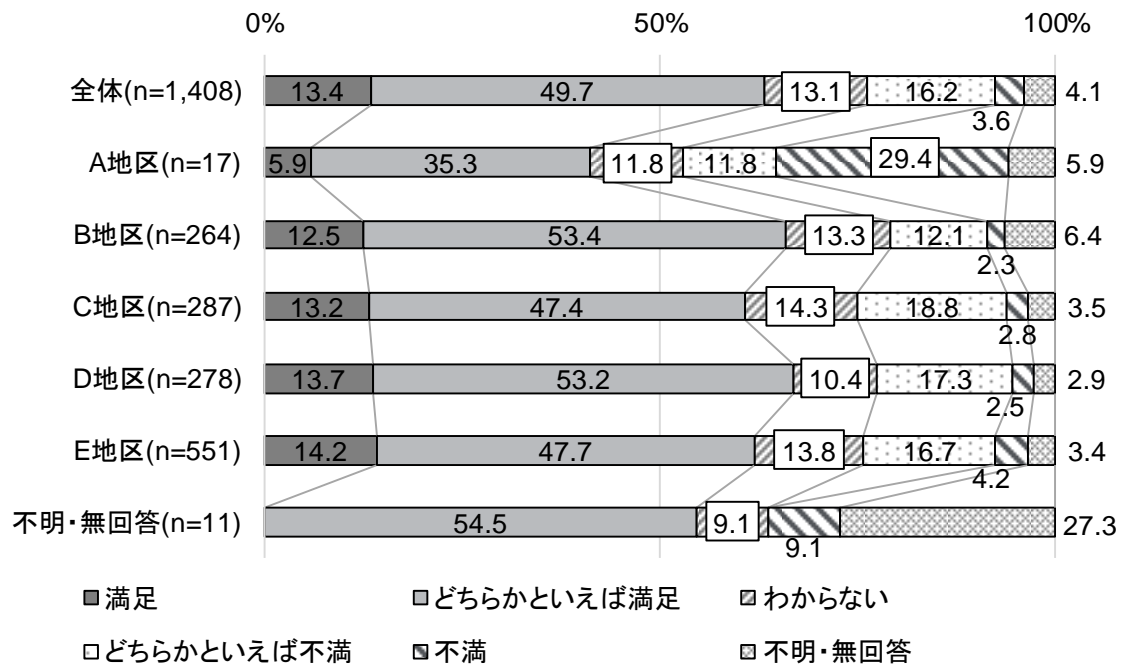
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が80%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満である』が10%を超えています。



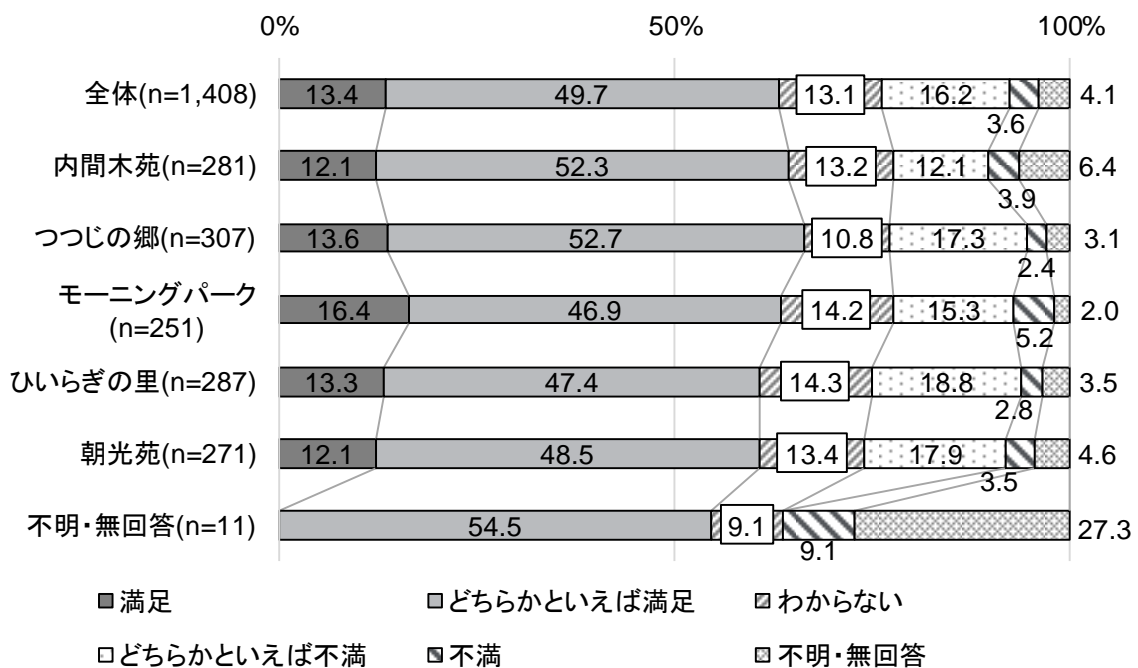
問 10 ⑪ 病院などの医療機関

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

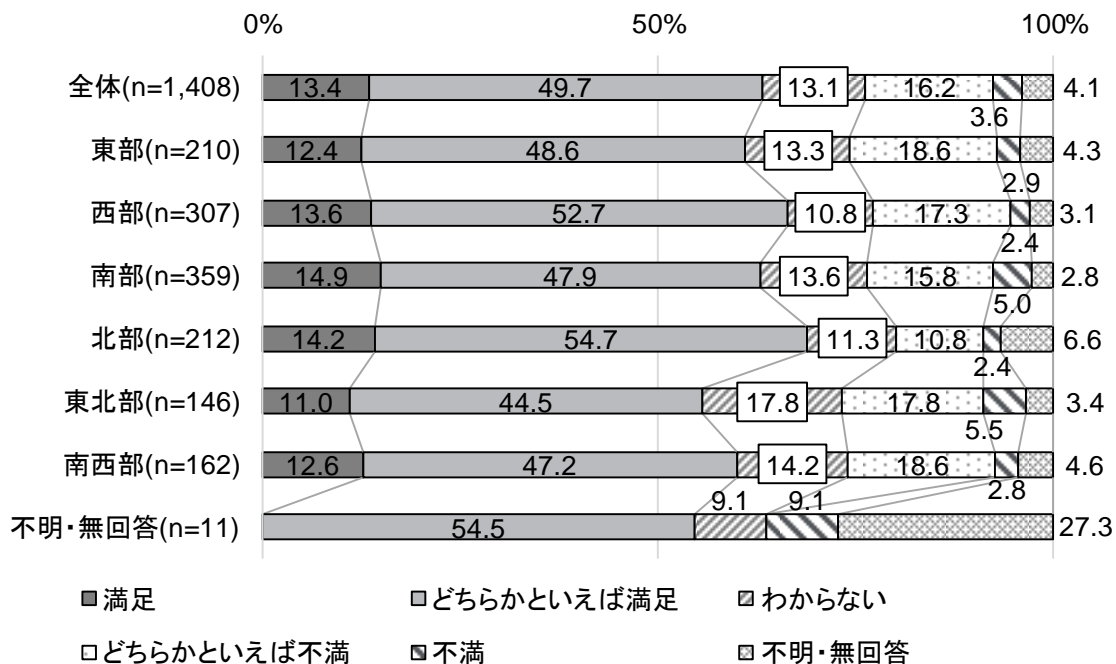
圏域パターン 1 (前期アンケート)



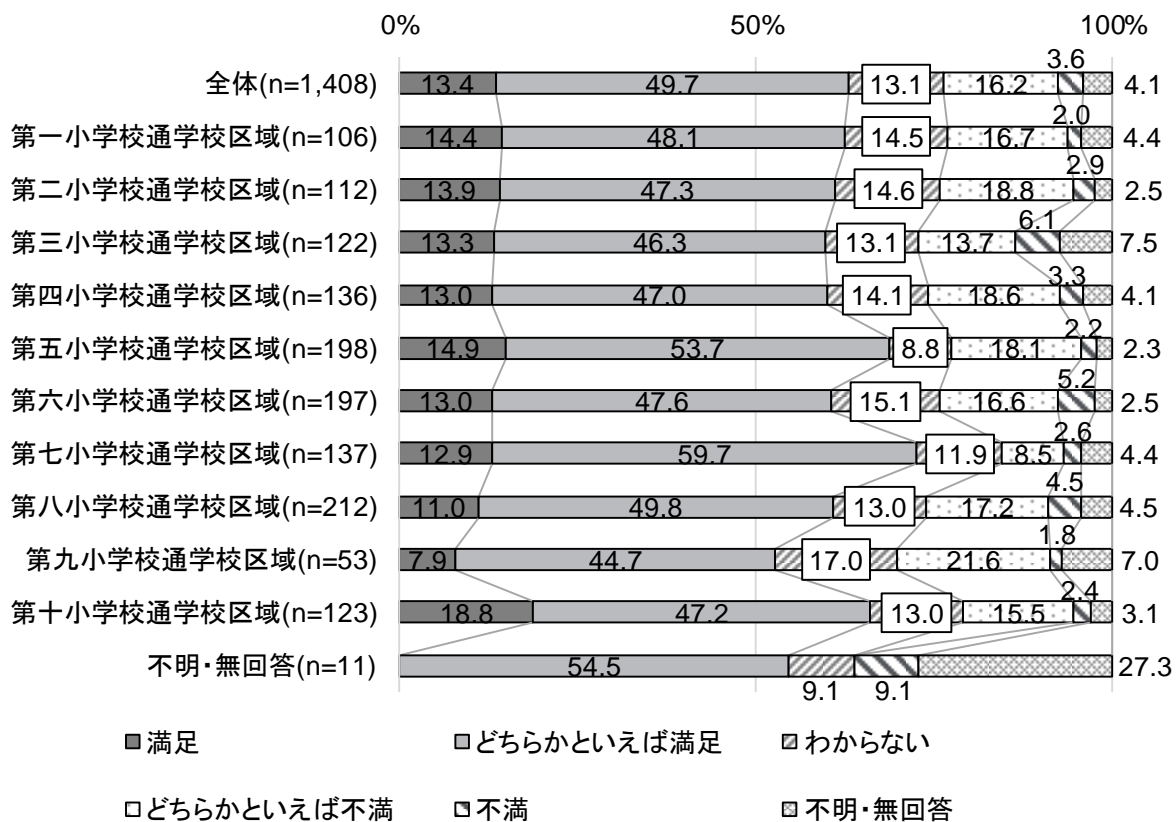
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

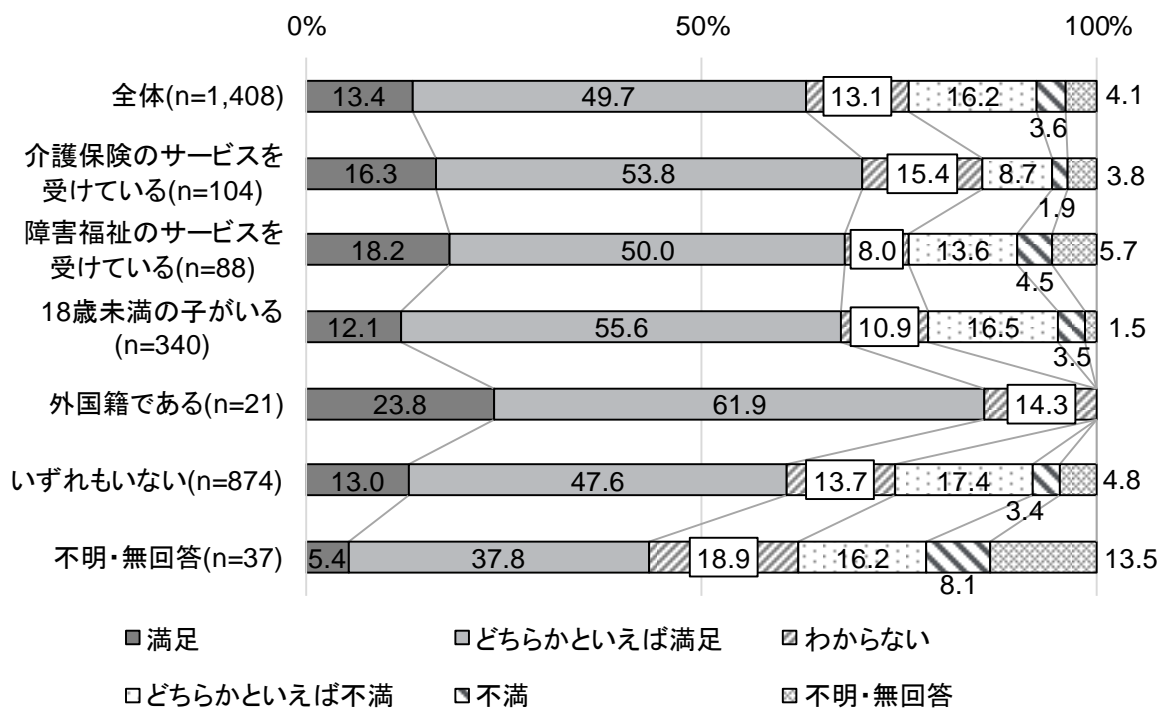


圏域パターン 4 (小学校通学区)



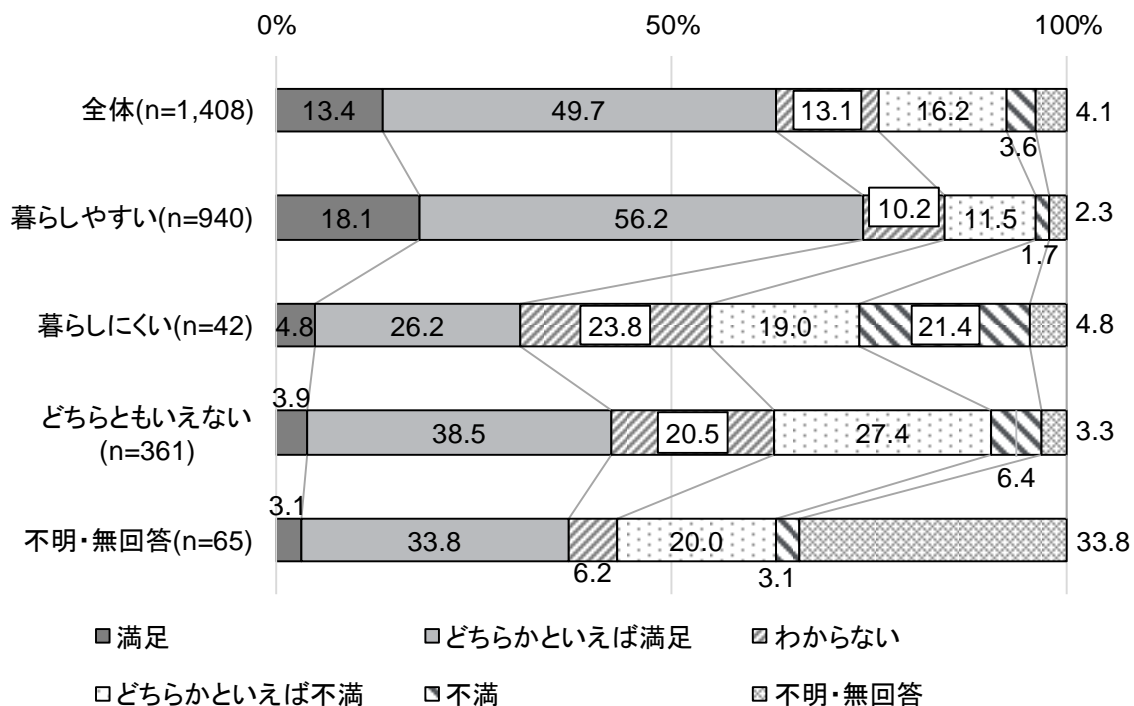
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、「介護保険サービスを受けている」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が70%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が10%を超えています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

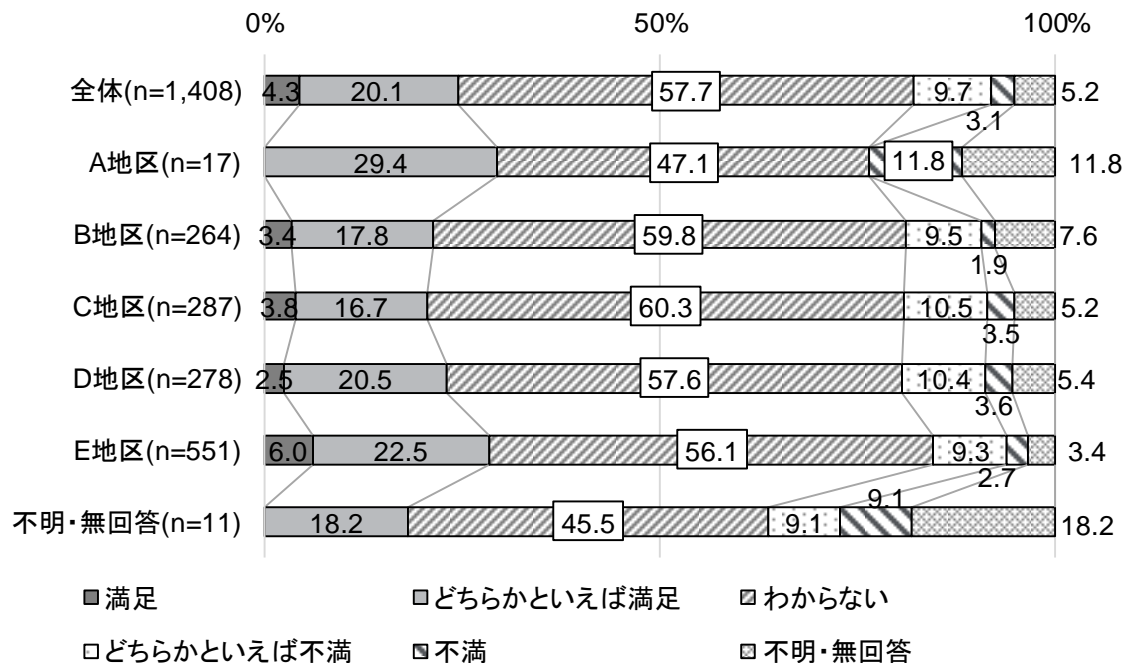
生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が70%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満足である』が10%を超えています。



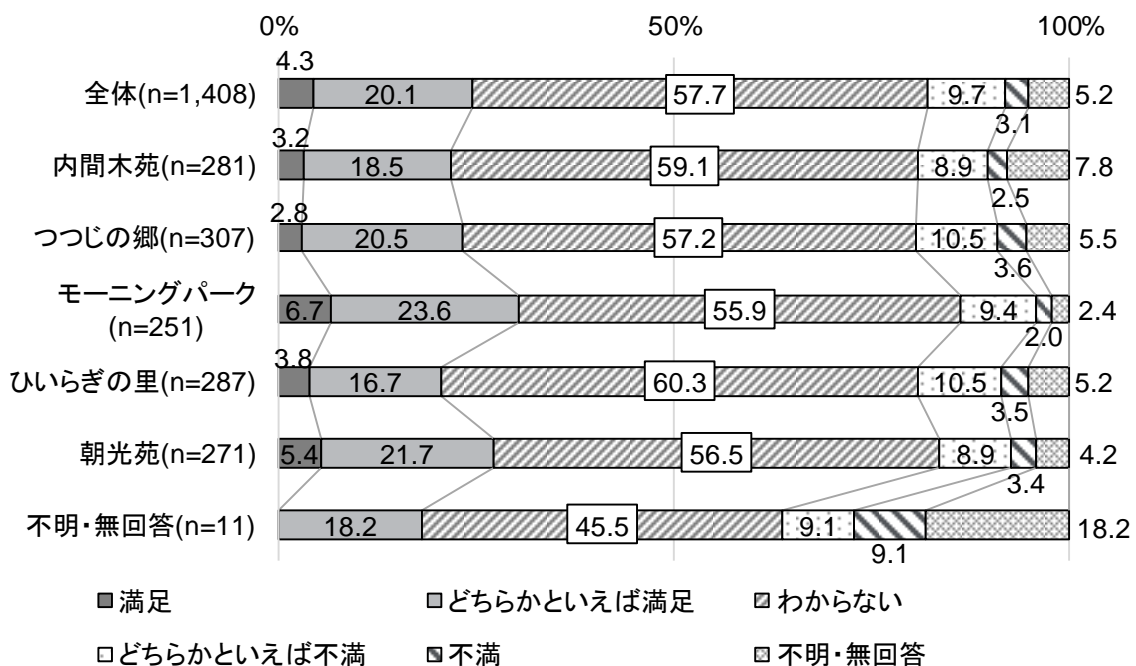
問 10 ⑫ 相談窓口の分かりやすさ

■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 1 居住地区

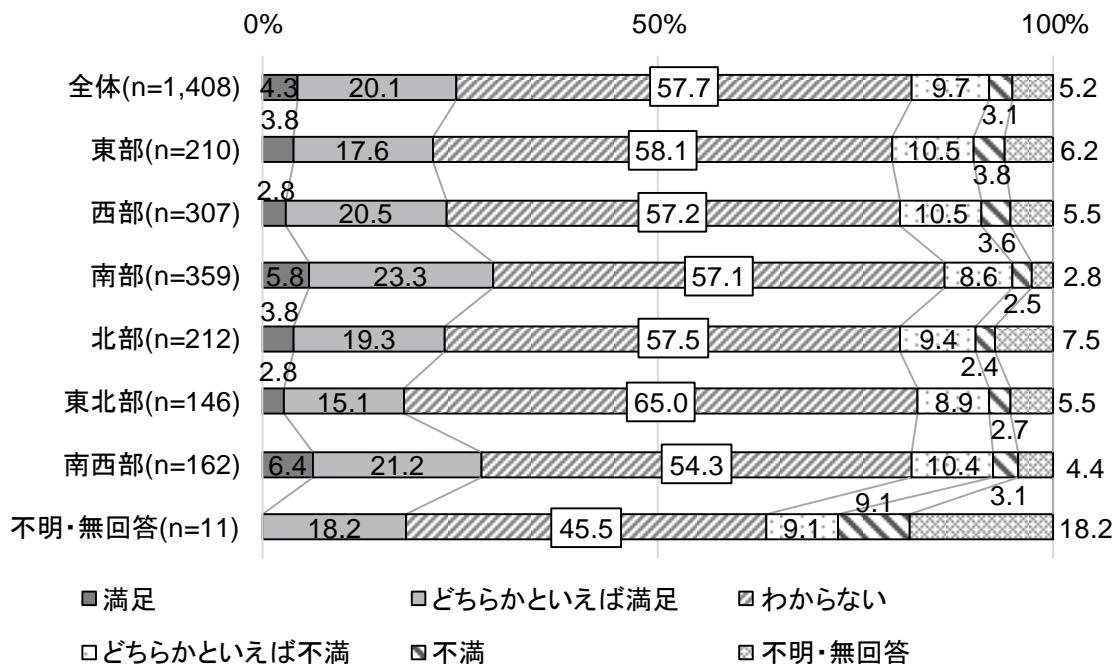
圏域パターン 1 (前期アンケート)



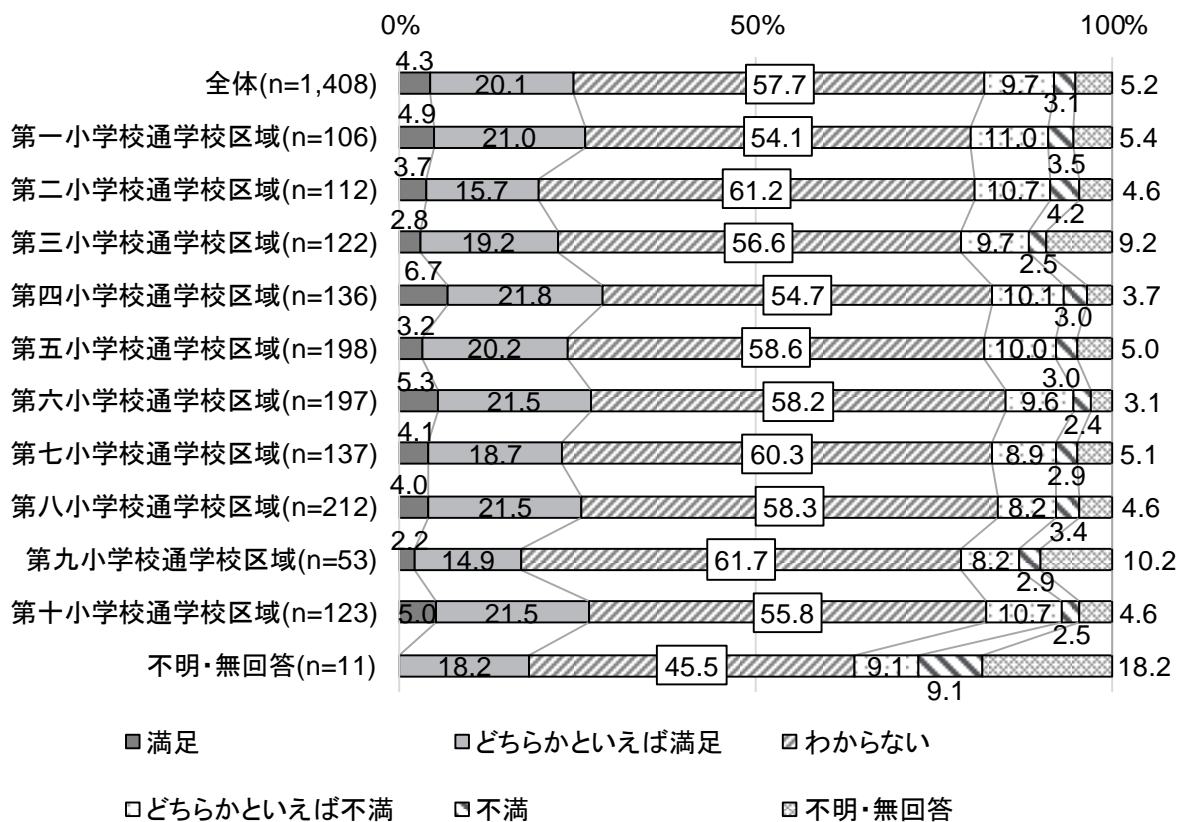
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

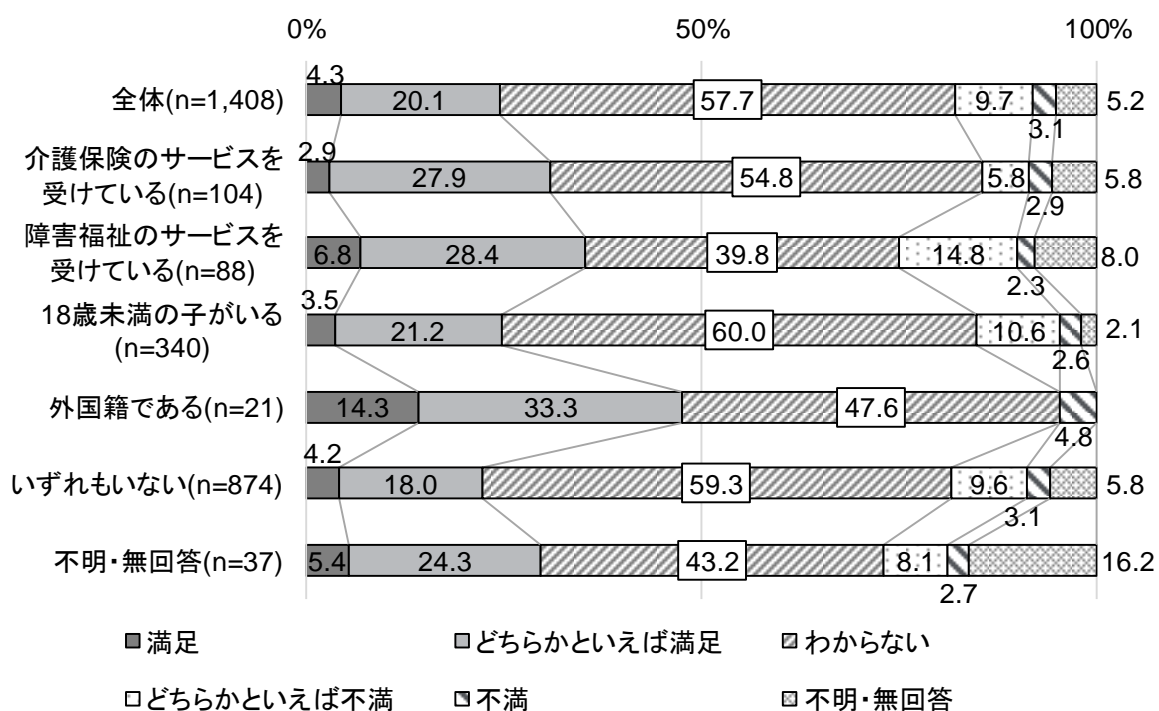


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



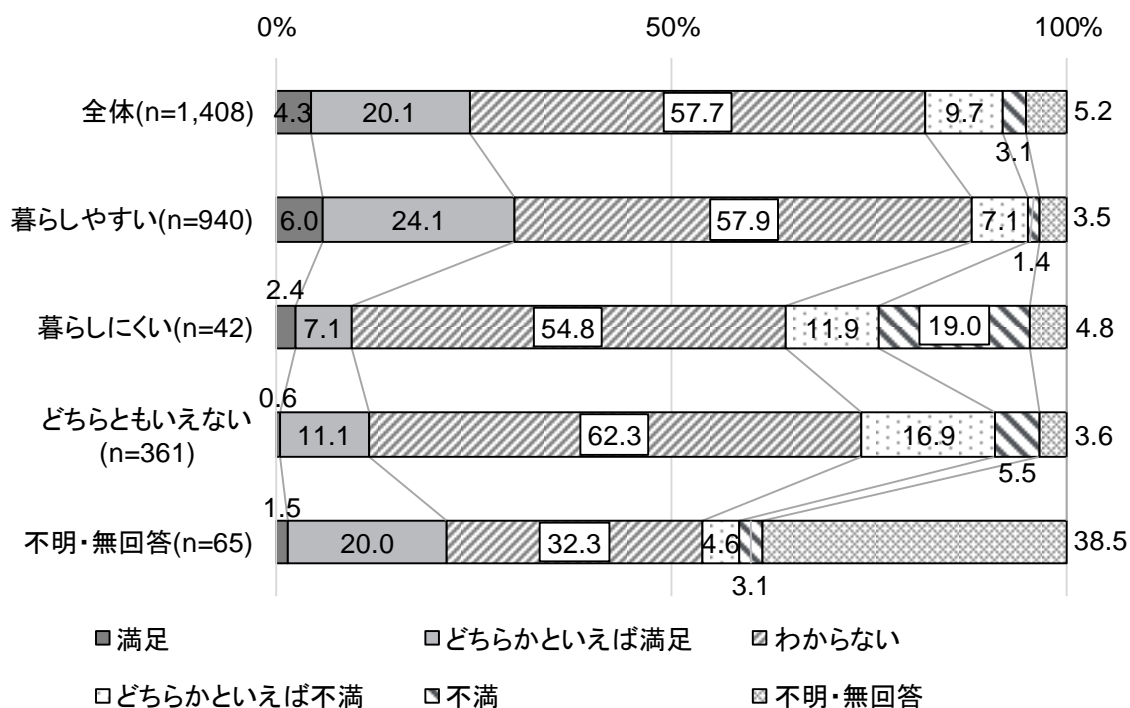
■問 10 生活に関連する項目の満足度×問 8 介護保険サービス利用、その他属性別

生活に関連する項目の満足度は、介護保険サービス利用、その他属性別にみると、「障害福祉のサービスを受けている」「介護保険のサービスを受けている」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が30%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満」を合わせた『不満である』が「障害福祉のサービスを受けている」で10%を超え、「介護保険のサービスを受けている」では10%未満となっています。



■問 10 生活に関連する項目の満足度×問9朝霞市での暮らしやすさ

生活に関連する項目の満足度は、朝霞市での暮らしやすさ別にみると、「暮らしやすい」で「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた『満足である』が30%を超えています。一方、「不満」「どちらかといえば不満足」を合わせた『不満足である』が10%未満となっています。



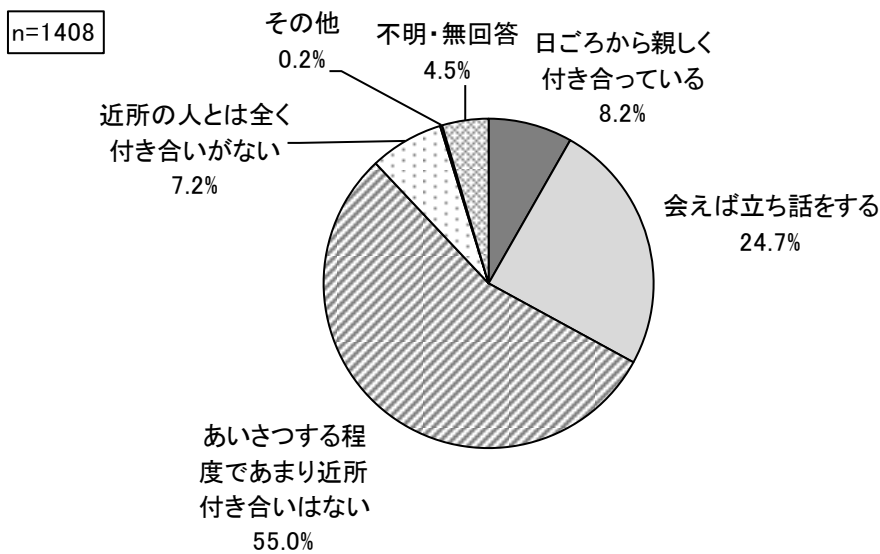
3 近所付き合いについて

問 11 近所の人とは普段どのような付き合いをしていますか。(1つに○)

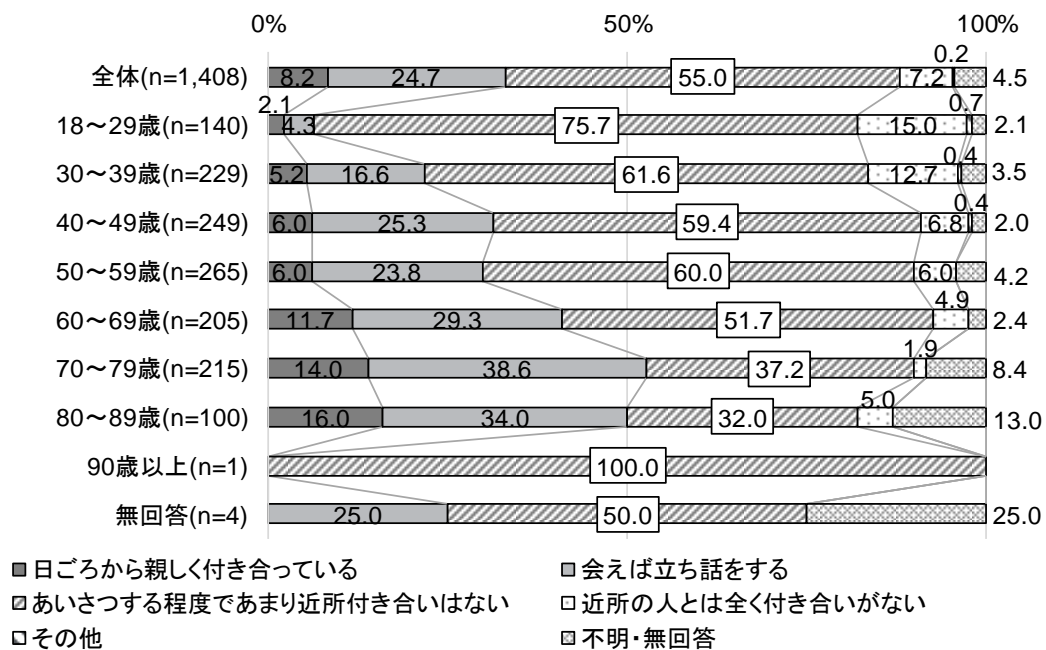
普段の近所付き合いは、「あいさつする程度であまり近所付き合いはない」が 55%と割合が最も高く、次いで「会えば立ち話をする」が 24.7%、「日ごろから親しく付き合っている」が 8.2%となっています。

年齢別にみると、年代が高い方が「あいさつする程度であまり近所付き合いはない」の割合が低くなる傾向にあります。

前回調査との比較では、「あいさつする程度であまり近所付き合いはない」の割合が 9.5ポイント上昇しています。

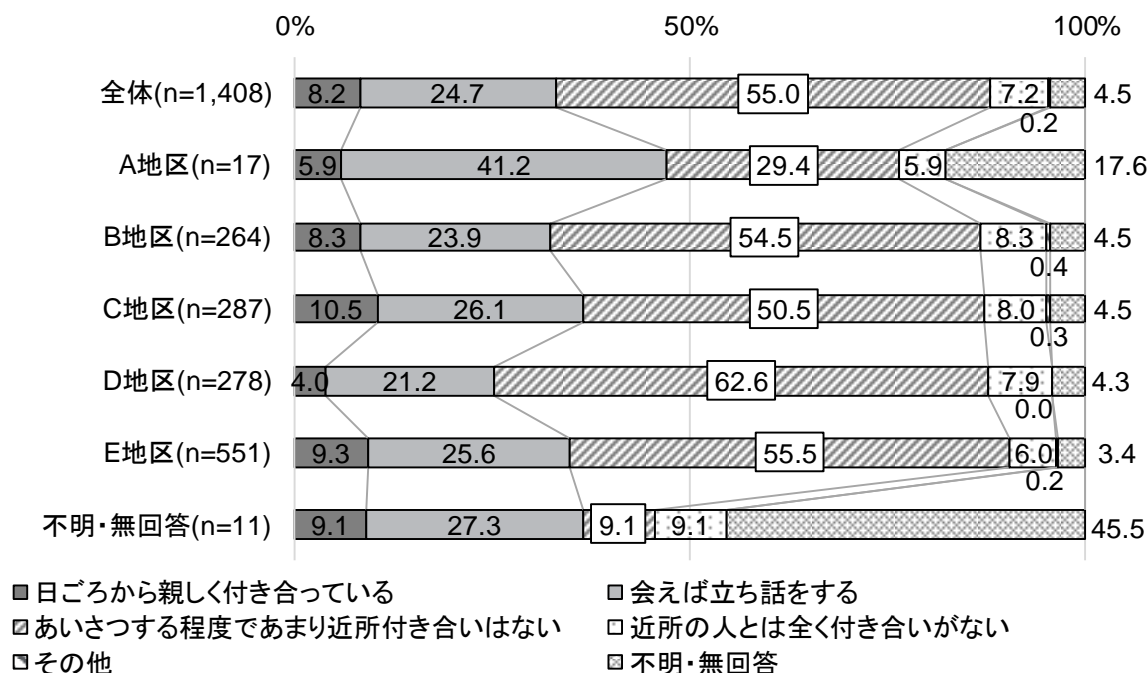


■問 11 近所の人との付き合い×問6年齢

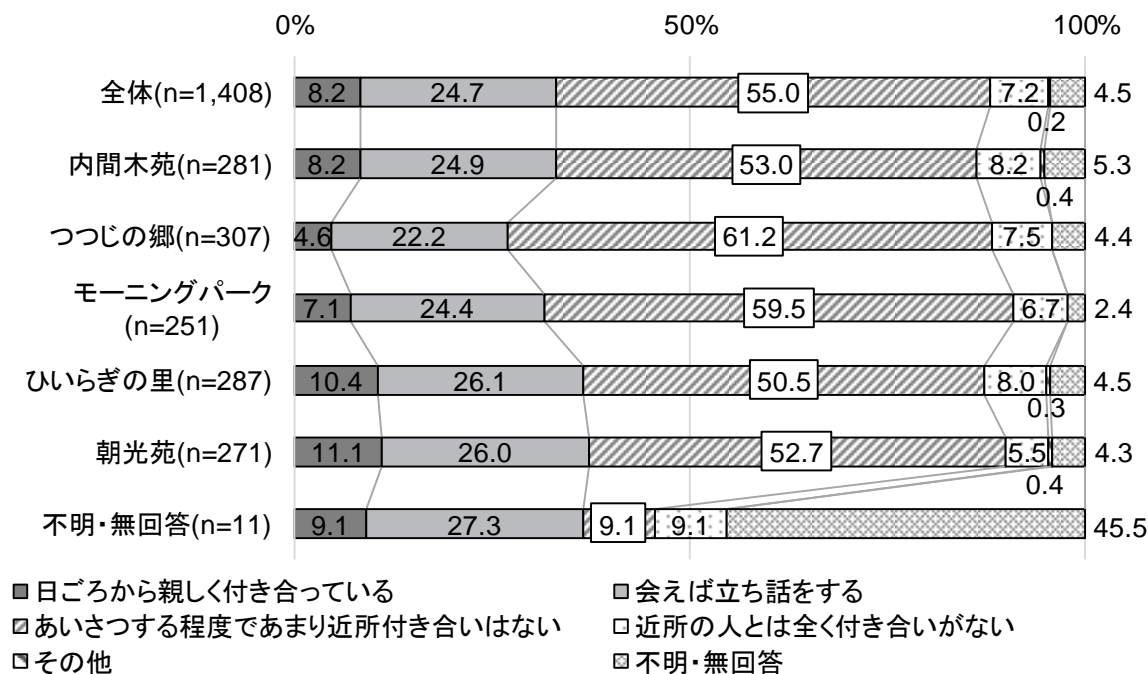


■問 11 近所の人との付き合い×問 1 居住地区

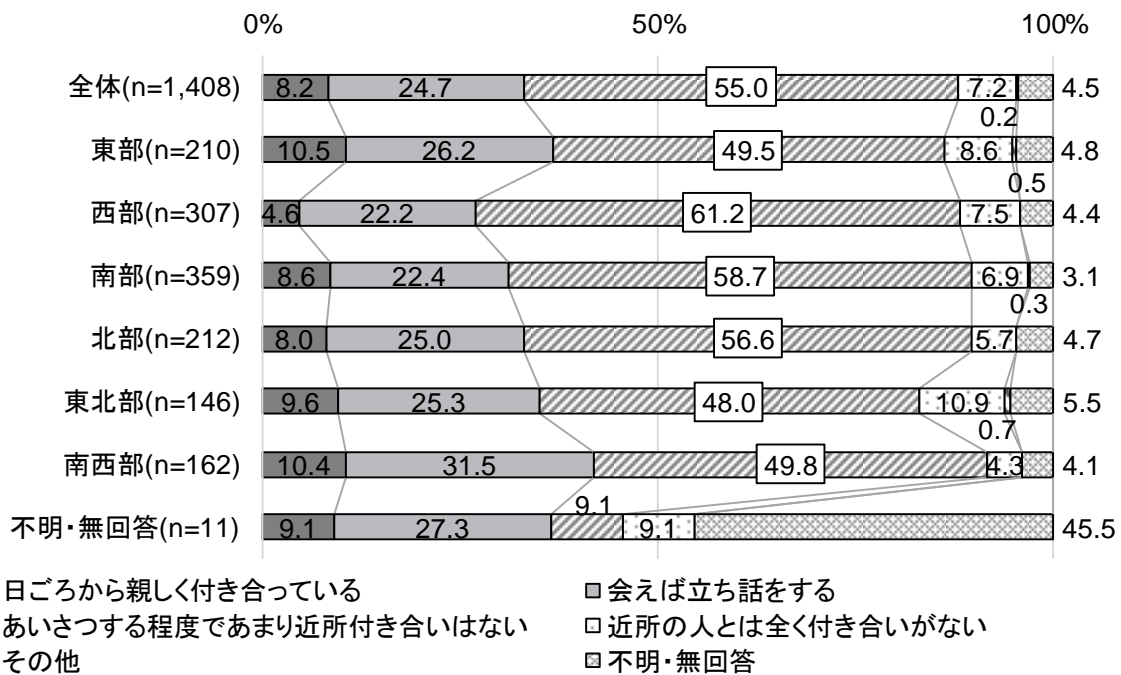
圏域パターン 1 (前期アンケート)



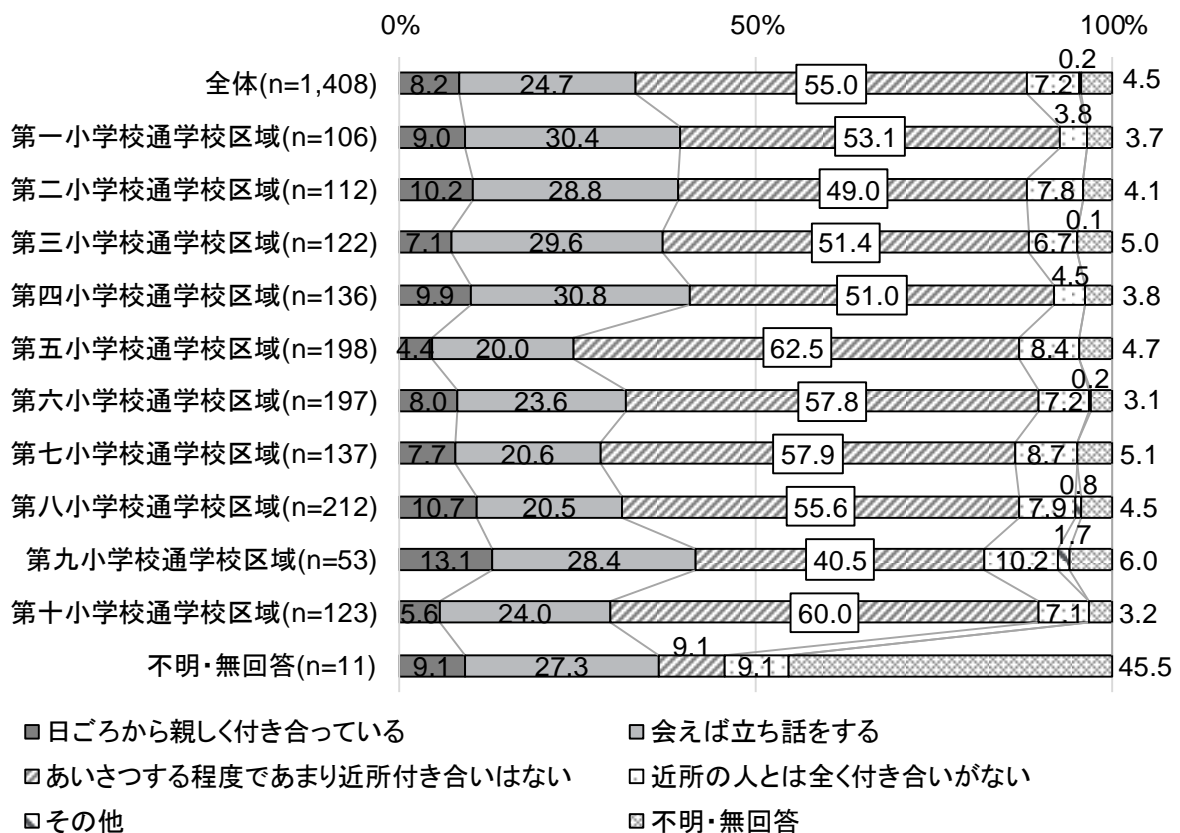
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



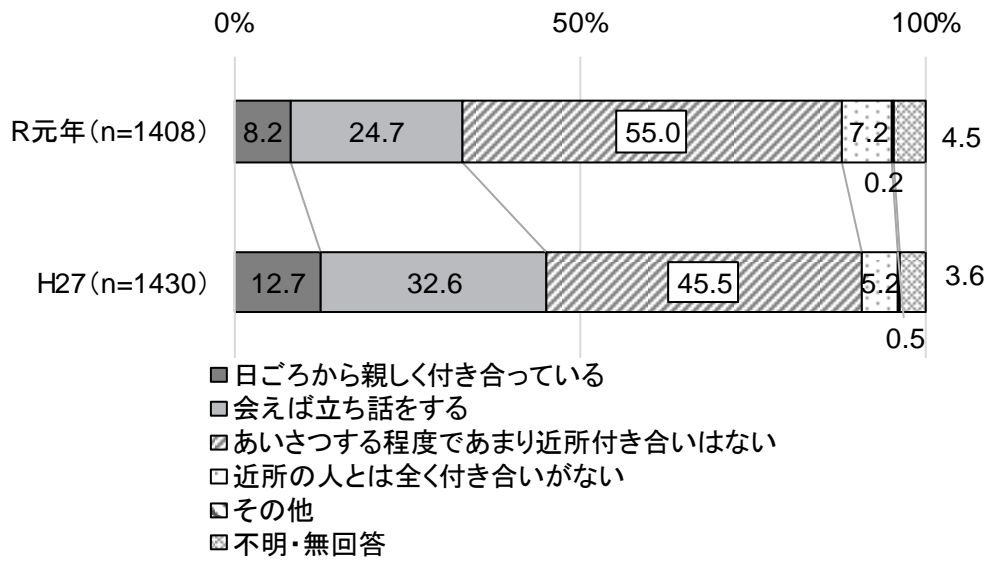
圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)



圏域パターン 4 (小学校通学区域)



■経年比較



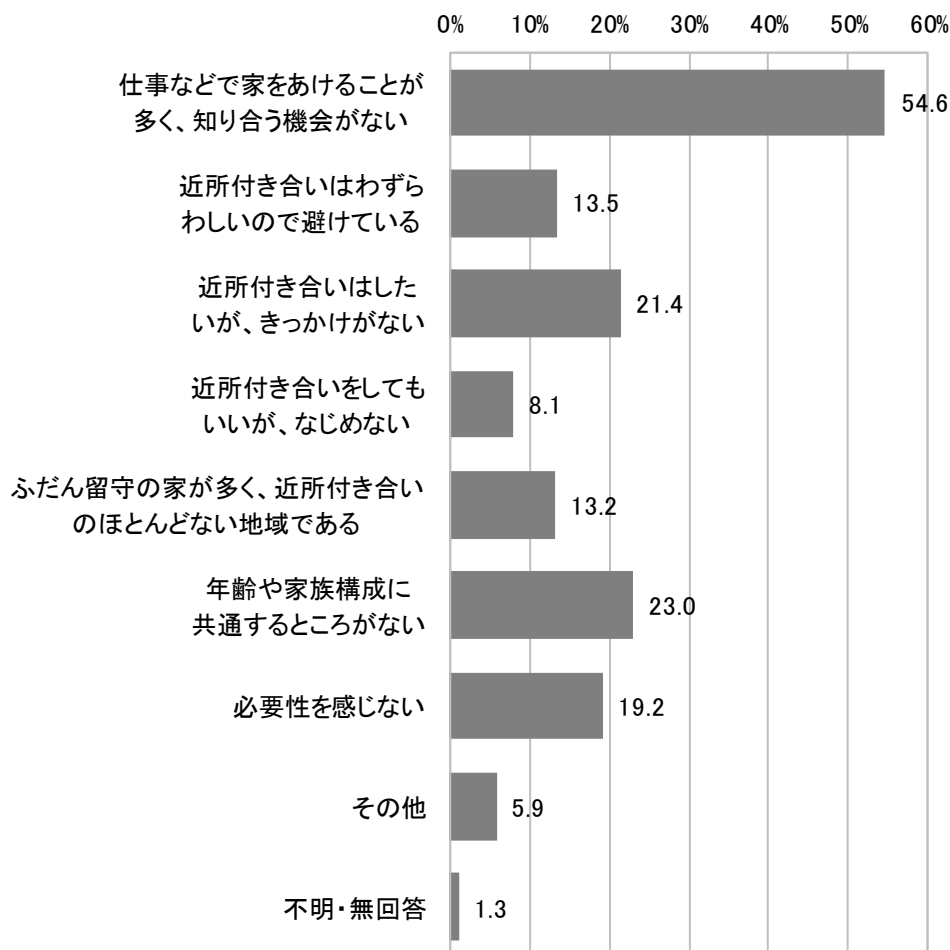
(問 11 で「3.あいさつする程度であり近所付き合いはない」、「4.近所の人とは全く付き合いがない」と回答の方)

問 11-1 近所付き合いをしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

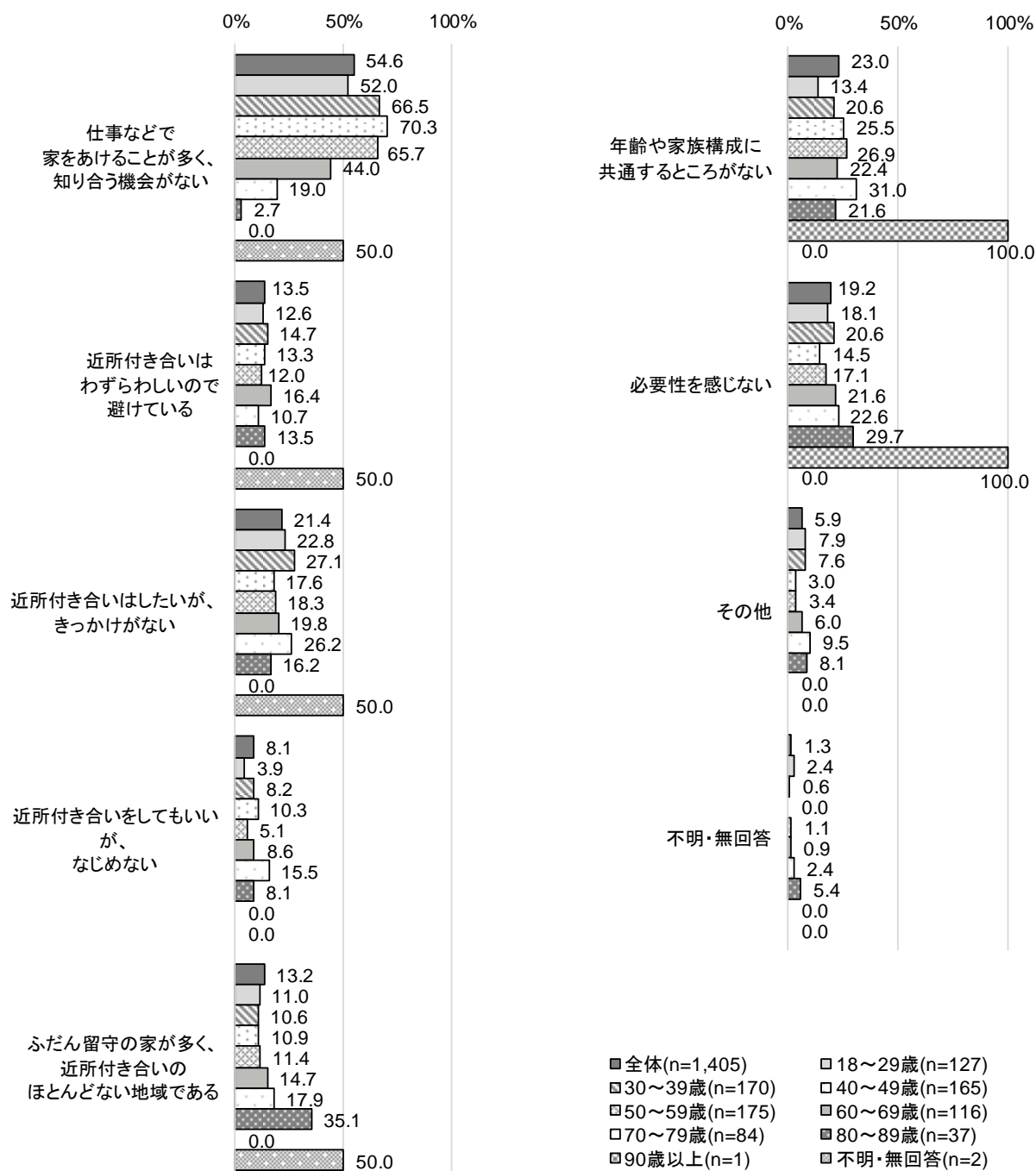
近所付き合いをしていない理由は、「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」が54.6%と割合が最も高く、次いで「年齢や家族構成に共通するところがない」が23%、「近所付き合いはしたいが、きっかけがない」が21.4%となっています。

年齢別にみると、年代が高い方が「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」の割合が低くなる傾向にあります。

n=877



■問 11-1 近所付き合いをしていない理由×問6年齢

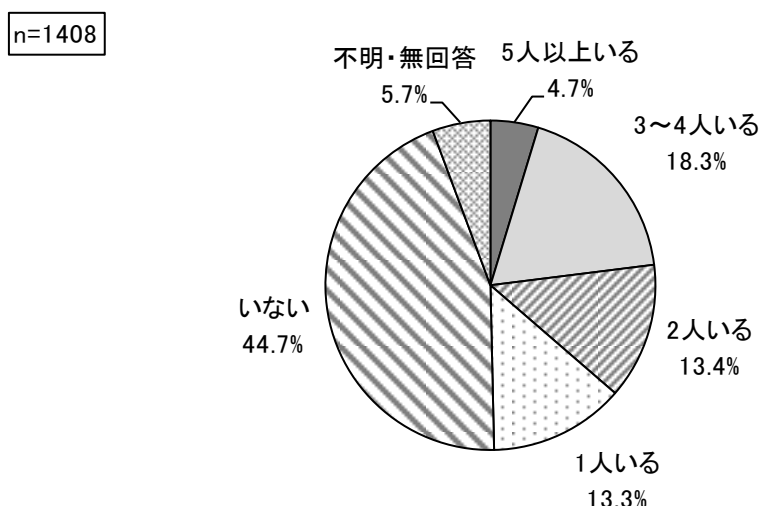


問 12 困ったことがあるとき、近所で気軽に相談できる人はいますか。(1つに○)

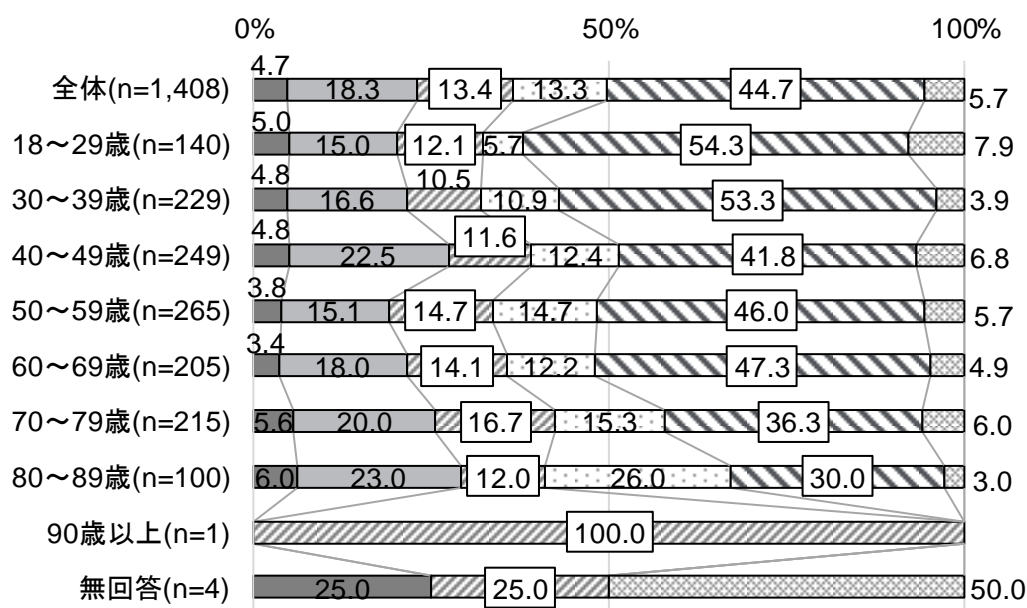
困ったことがあるとき、近所で気軽に相談できる人はいるかは、「いない」が 44.7%と割合が最も高く、次いで「3～4 人いる」が 18.3%、「2 人いる」が 13.4%となっています。

年齢別にみると、年代の高い方が「いない」の割合が低くなる傾向にあります。

前回調査との比較では、「いない」の割合が 2.6 ポイント上昇しています。

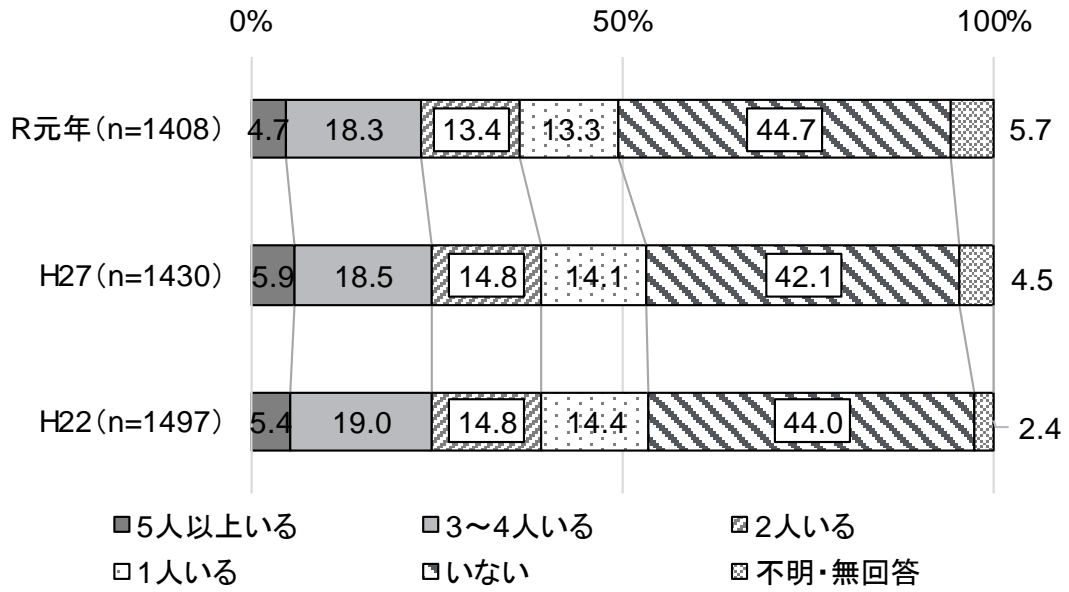


■問 12 近所で気軽に相談できる人の数×問6年齢



■5人以上いる □3～4人いる □2人いる □1人いる □いない □不明・無回答

■経年比較

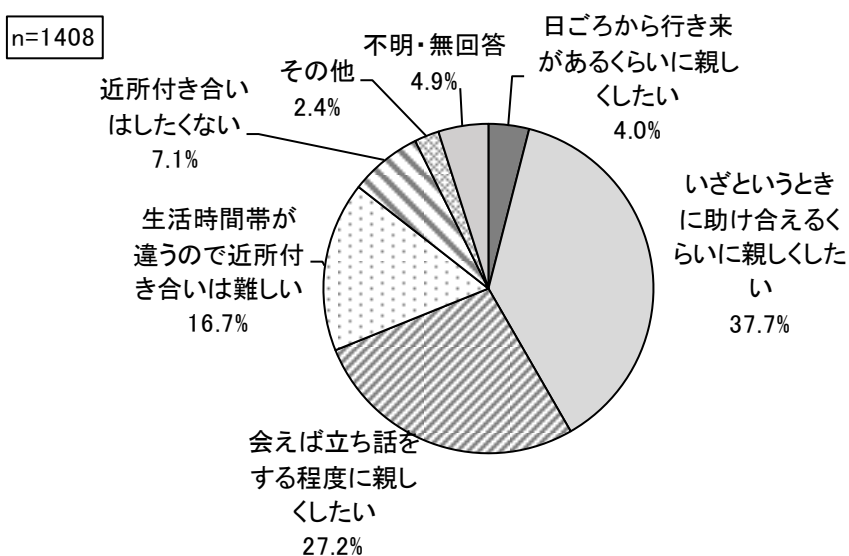


問 13 近所の人と、今後どのような付き合いをしていきたいですか。(1つに○)

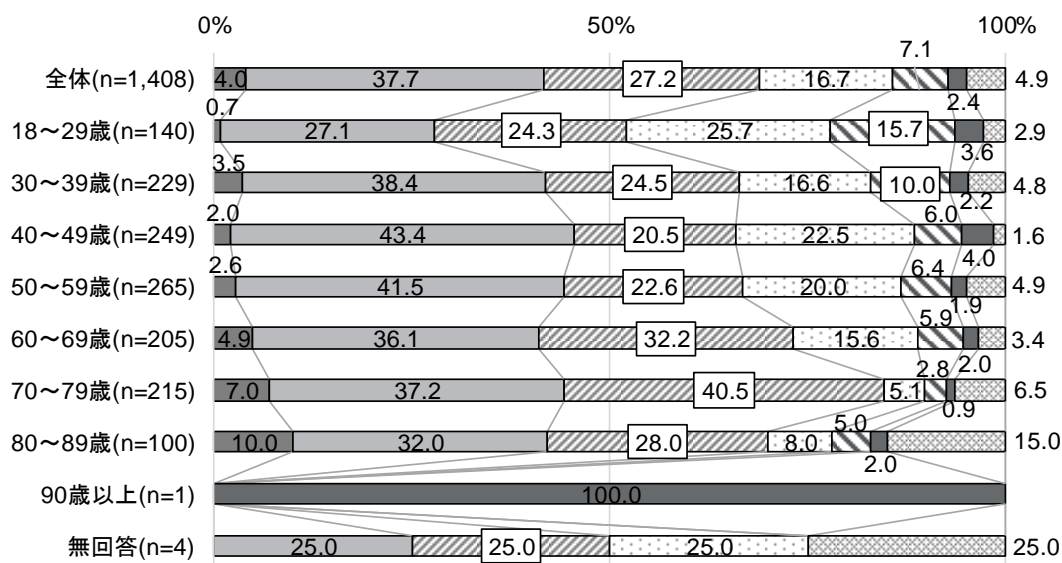
今後どのような近所付き合いをしたいかは、「いざというときに助け合えるくらいに親しくしたい」が37.7%と割合が最も高く、次いで「会えば立ち話をする程度に親しくしたい」が27.2%、「生活時間帯が違うので近所付き合いは難しい」が16.7%となっています。

年齢別にみると、40代と50代では「いざというときに助け合えるくらいに親しくしたい」が40%を超えています。

前回調査との比較では、「いざというときに助け合えるくらいに親しくしたい」の割合が0.4ポイント減少しています。

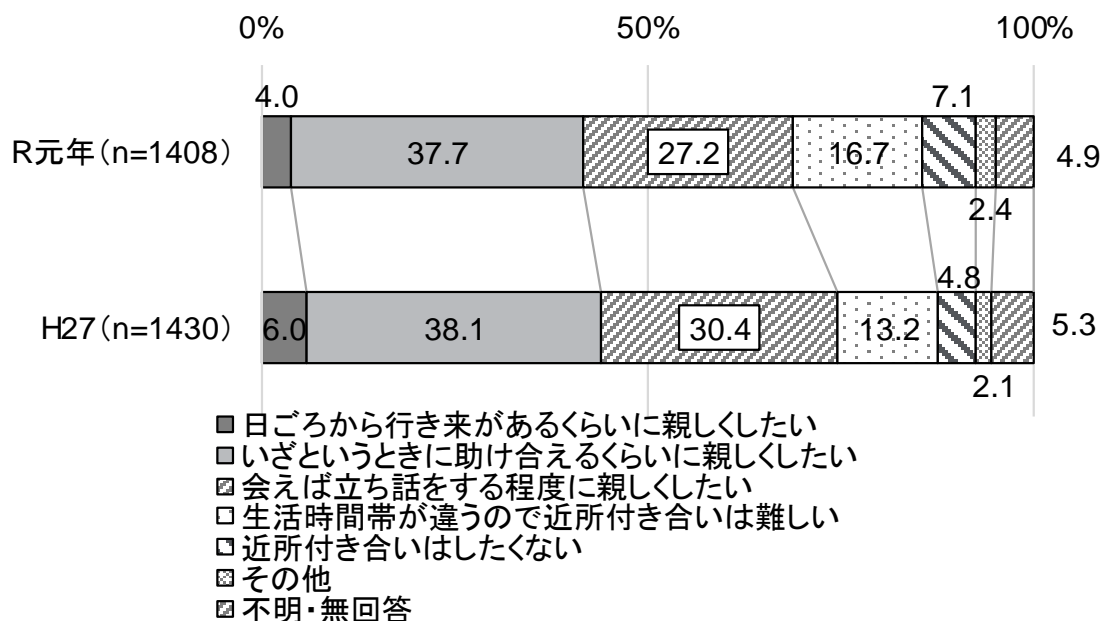


■問 13 今後どのような近所付き合いをしていきたいか×問6年齢



- 日ごろから行き来があるくらいに親しくしたい
- いざというときに助け合えるくらいに親しくしたい
- 会えば立ち話をする程度に親しくしたい
- 生活時間帯が違うので近所付き合いは難しい
- 近所付き合いはしたくない
- その他
- 不明・無回答

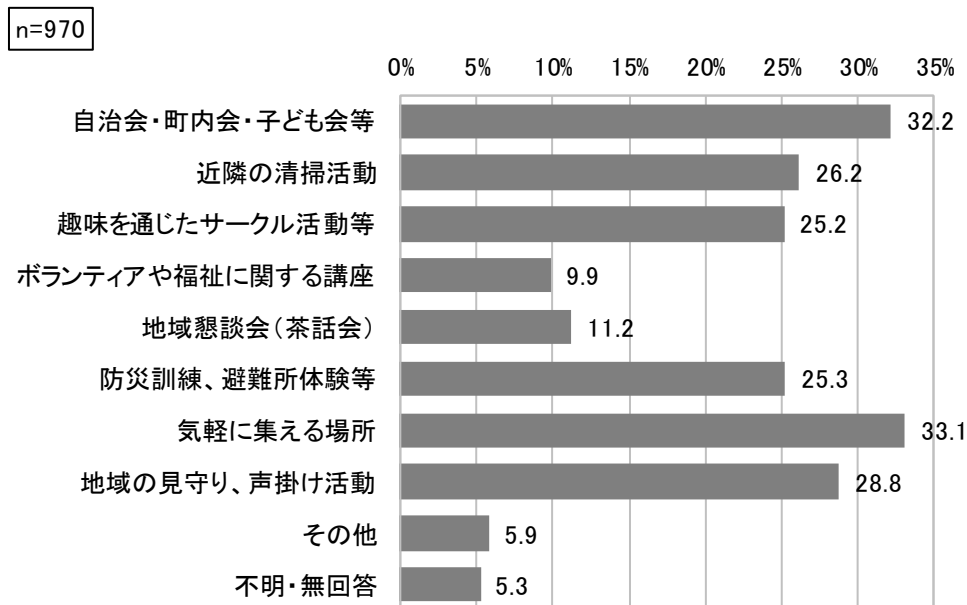
■経年比較



(問 13 で「1.日ごろから行き来があるくらいに親しくしたい」、「2.いざというときに助け合えるくらいに親しくしたい」、「3.会えば立ち話をする程度に親しくしたい」と回答の方)

問 13-1 近所との付き合いを深めるためのきっかけとして、どのようなものが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

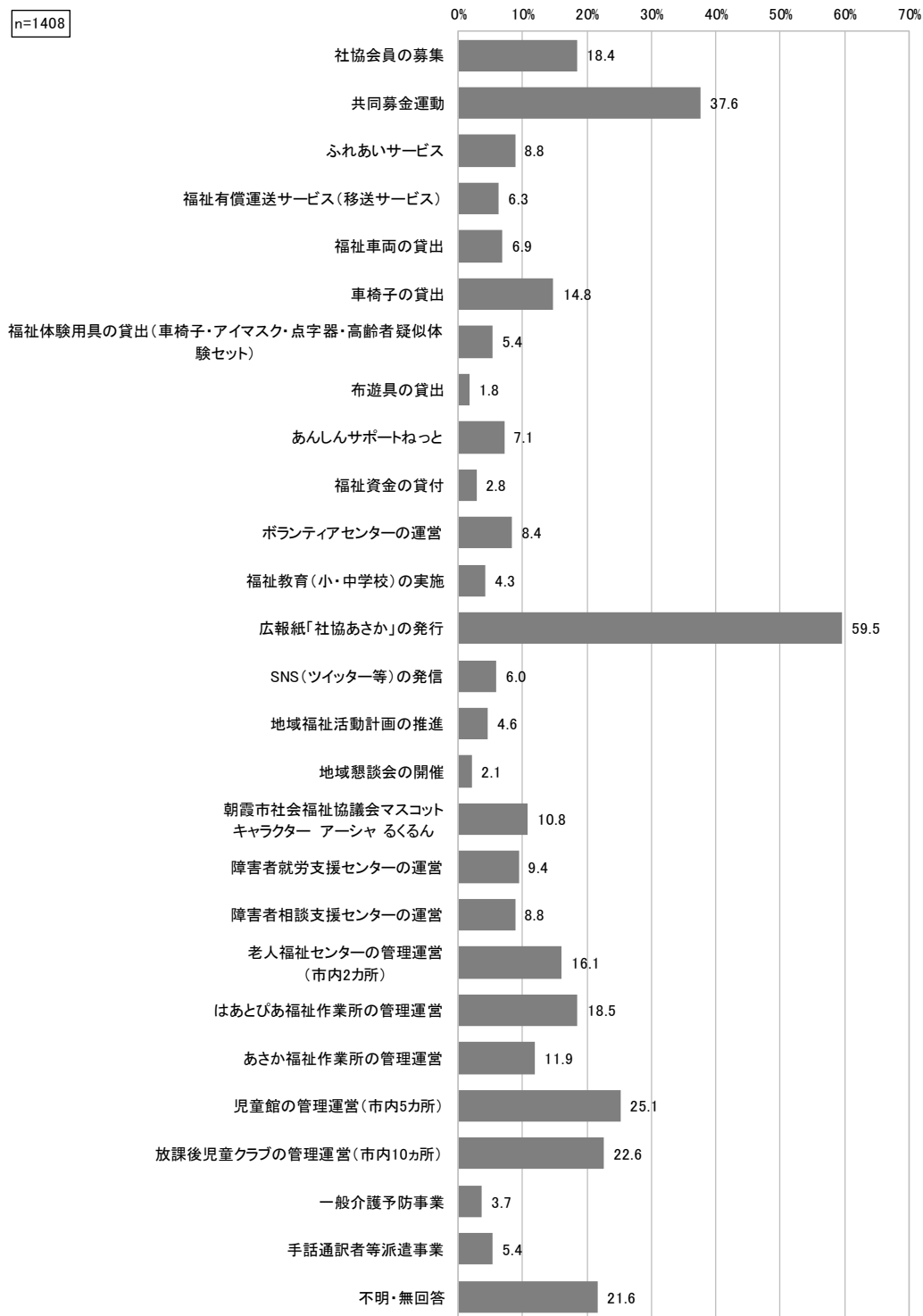
近所との付き合いを深めるためのきっかけは、「気軽に集える場所」が 33.1%と割合が最も高く、次いで「自治会・町内会・子ども会等」が 32.2%、「地域の見守り、声掛け活動」が 28.8%となっています。



4 朝霞市社会福祉協議会(朝霞市社協)について

問 14 朝霞市社協の活動のうち、知っているものは何ですか。(1つに○)

朝霞市社協の活動のうち、知っているものは、「広報紙「社協あさか」の発行」が59.5%と割合が最も高く、次いで「共同募金運動」が37.6%、「児童館の管理運営(市内5カ所)」が25.1%となっています。



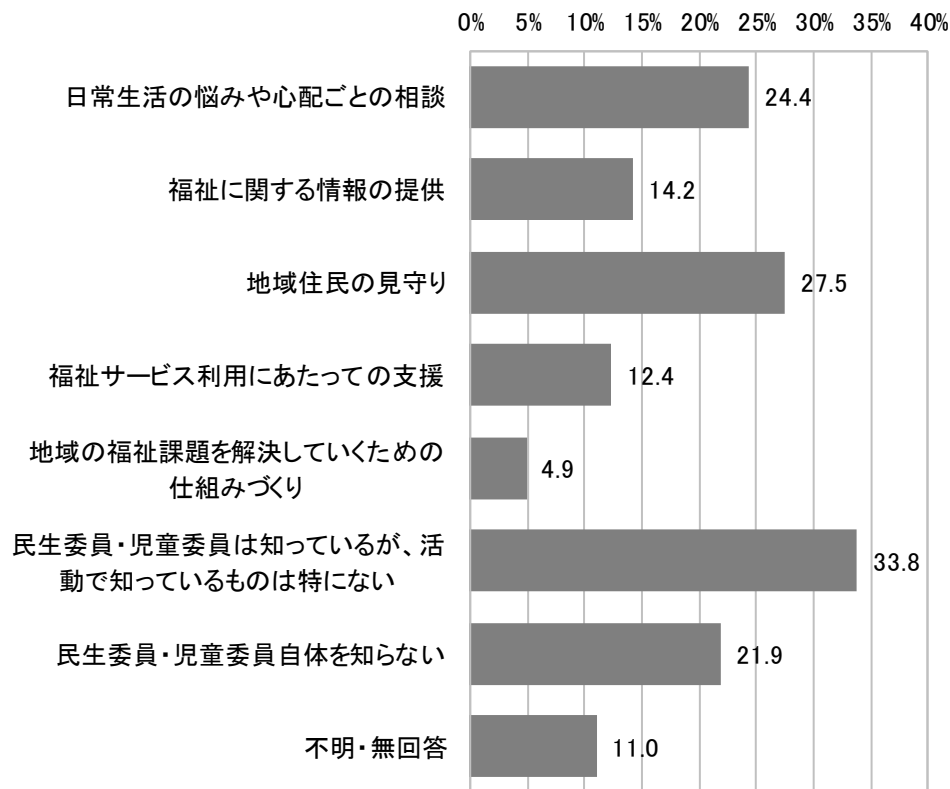
5 民生委員・児童委員、保護司について

問 15 民生委員・児童委員の活動のうち、知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

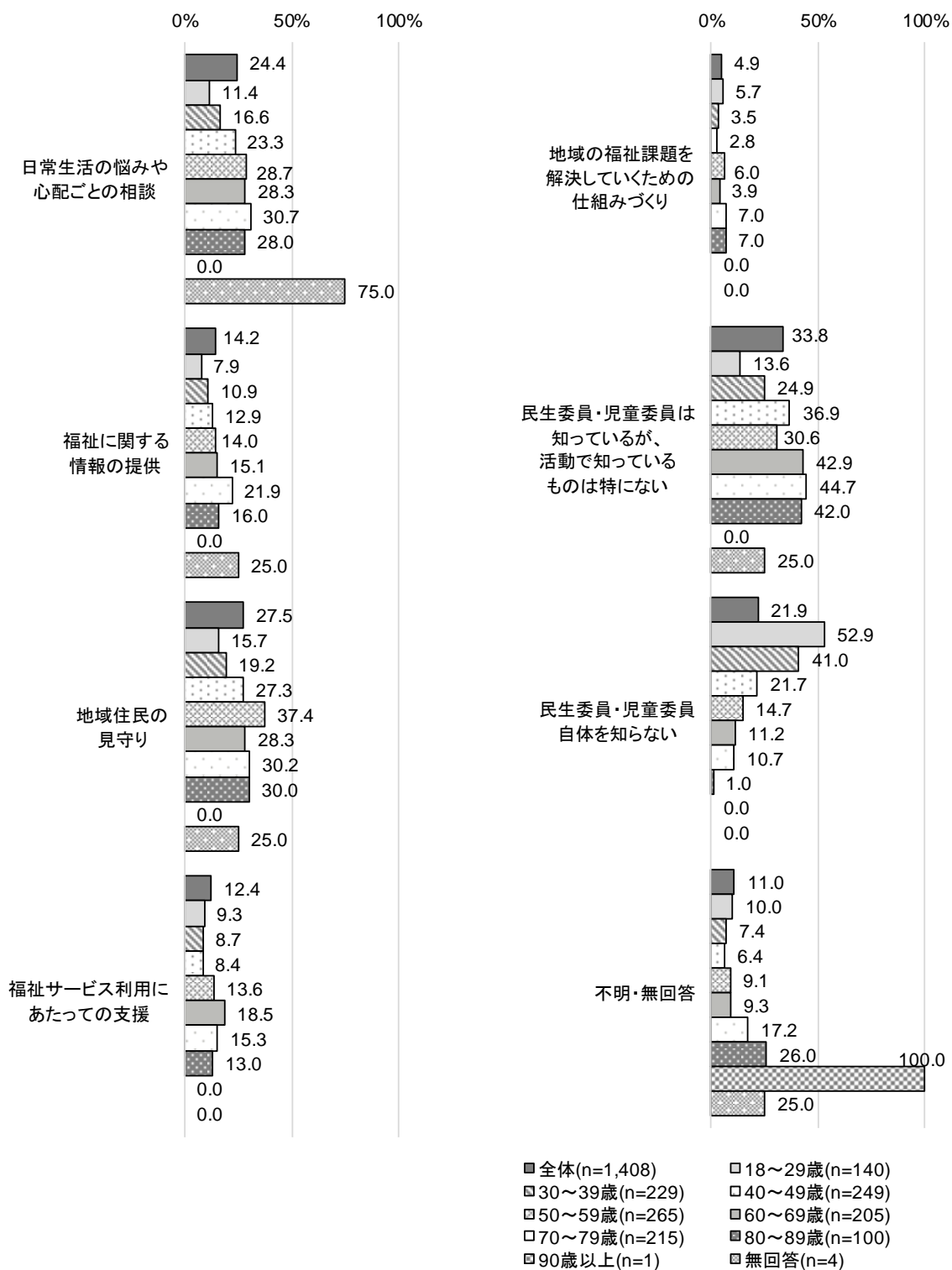
民生委員・児童委員の活動のうち、知っているものは、「民生委員・児童委員は知っているが、活動で知っているものは特にない」が33.8%と割合が最も高く、次いで「地域住民の見守り」が27.5%、「日常生活の悩みや心配ごとの相談」が24.4%となっています。

年齢別にみると、年代の高い方が「民生委員・児童委員は知っているが、活動で知っているものは特にない」の割合が高くなる傾向にあります。

n=1408



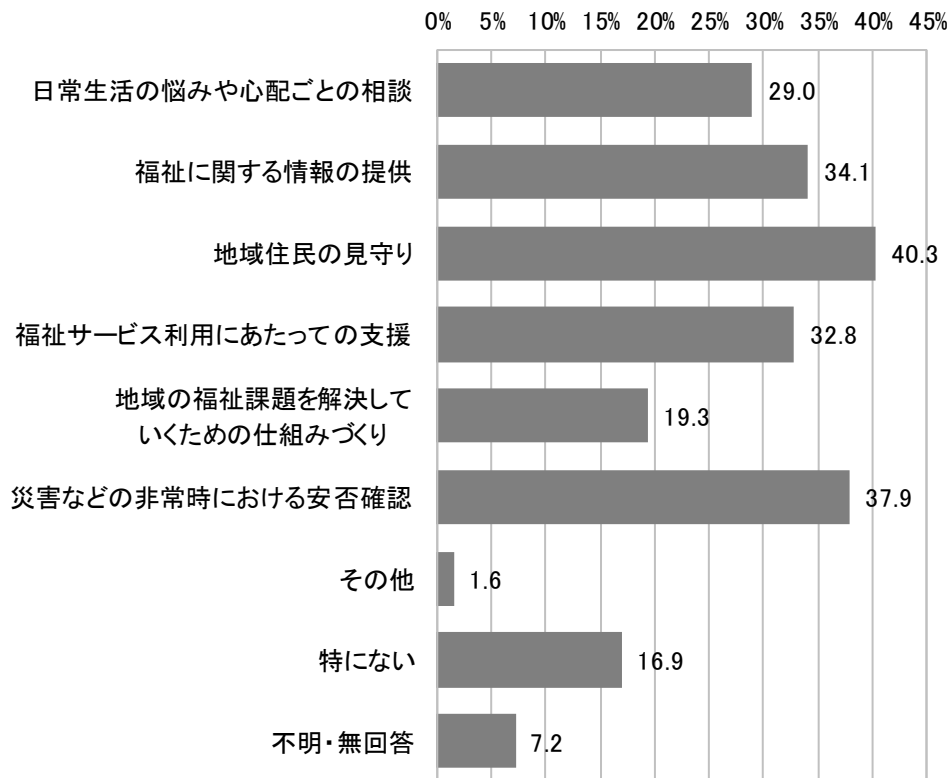
■問 15 民生委員・児童委員の活動の認知度×問6年齢



問 16 民生委員・児童委員の活動のうち、あなたはどのような活動を期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

民生委員・児童委員の活動で期待するものは、「地域住民の見守り」が40.3%と割合が最も高く、次いで「災害などの非常時における安否確認」が37.9%、「福祉に関する情報の提供」が34.1%となっています。

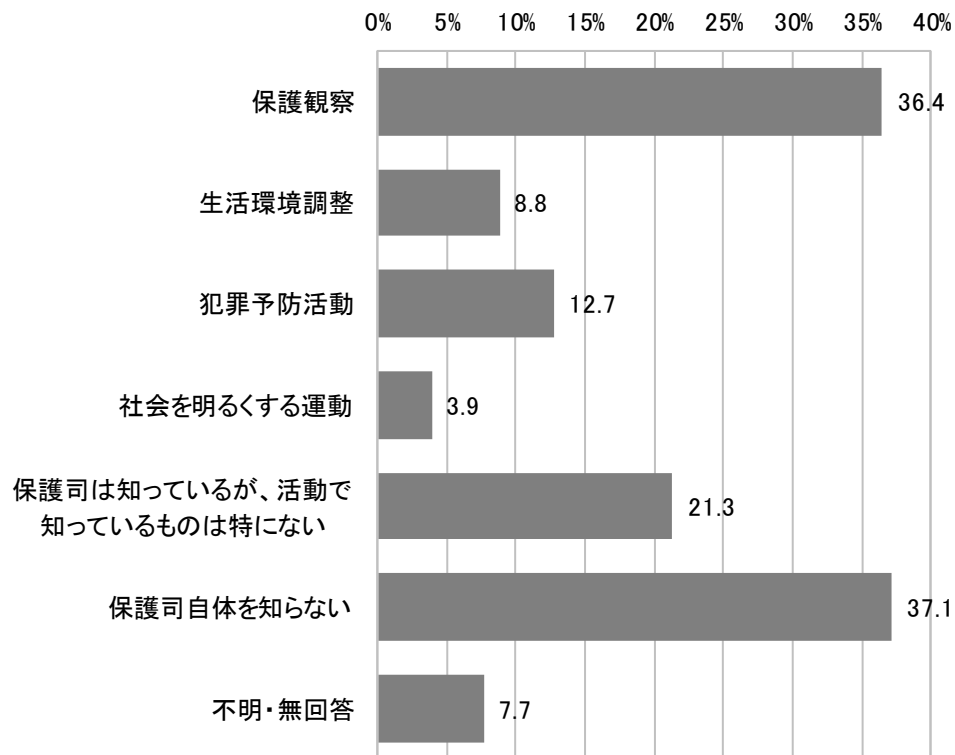
n=1408



問 17 保護司の活動のうち、知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

保護司の活動のうち、知っているものは、「保護司自体を知らない」が 37.1%と割合が最も高く、次いで「保護観察」が 36.4%、「保護司は知っているが、活動で知っているものは特にない」が 21.3%となっています。

n=1408



6 地域での活動や課題について

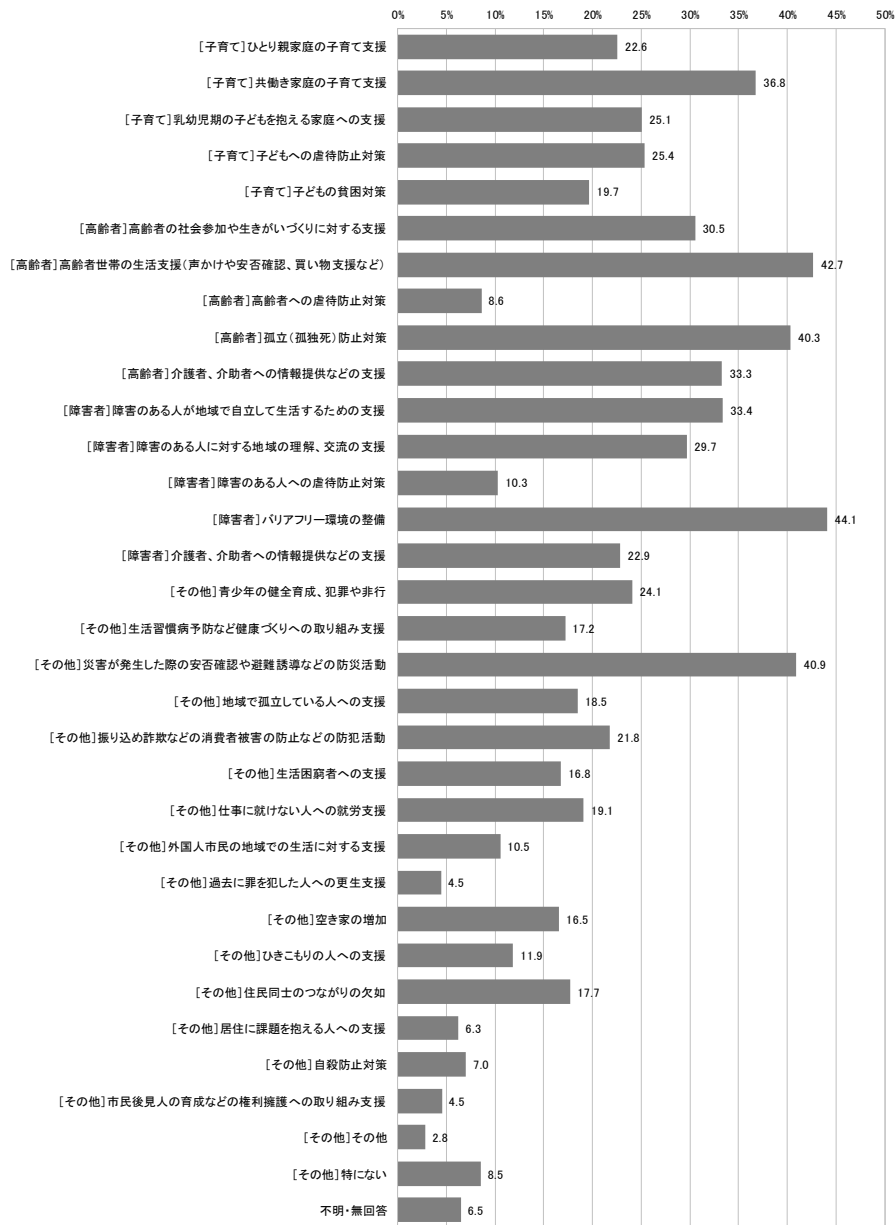
問 18 あなたの身近な地域には、どのような課題があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

身近な地域の課題は、「[障害者] バリアフリー環境の整備」が 44.1%と割合が最も高く、次いで「[高齢者] 高齢者世帯の生活支援(声かけや安否確認、買い物支援など)」が 42.7%、「[その他] 災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が 40.9%となっています。

年齢別で見ると、60代以上で「[障害者] バリアフリー環境の整備」の割合が低くなる傾向にあります。

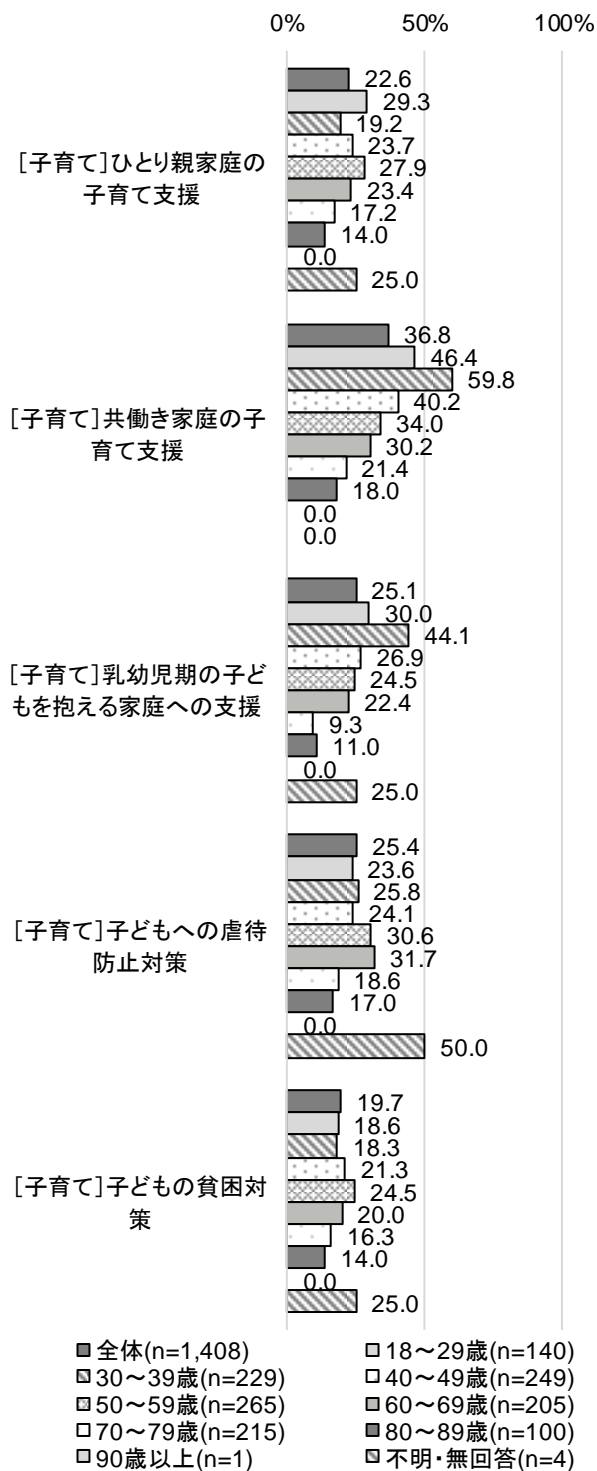
居住年数別で見ると、年数による違いは見られませんでした。

n=1408

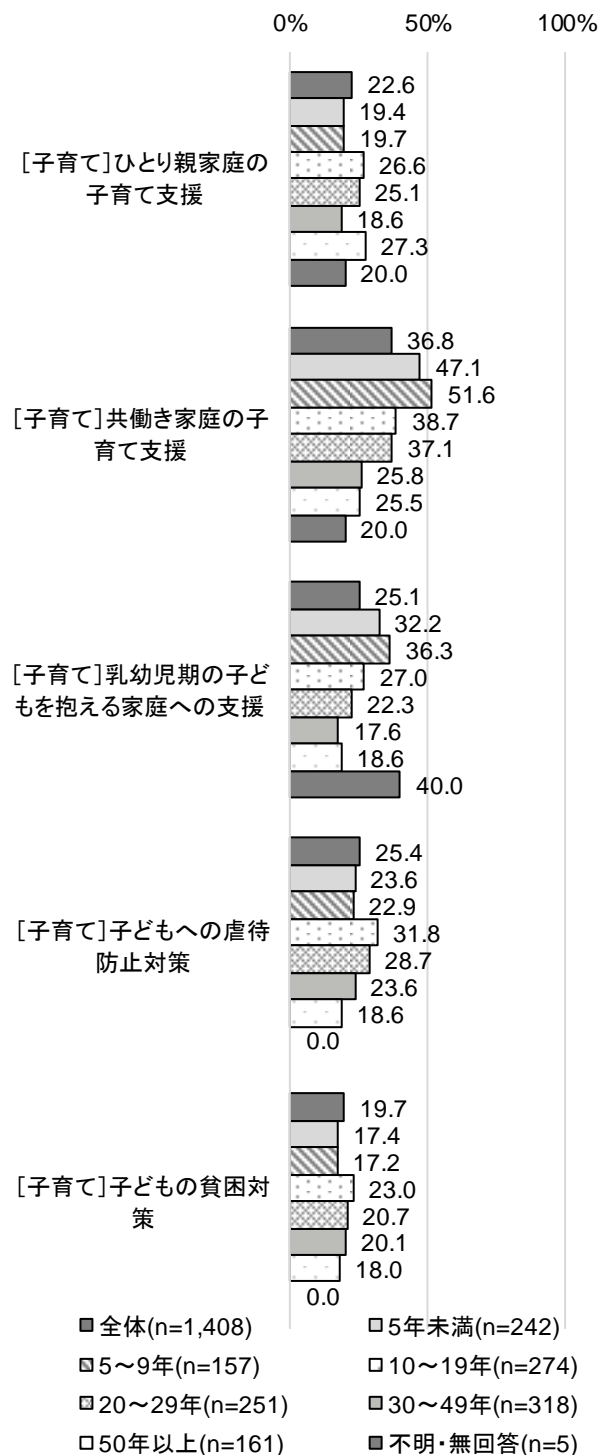


問 18 [子育て]

■問 18 地域課題×問6 年齢



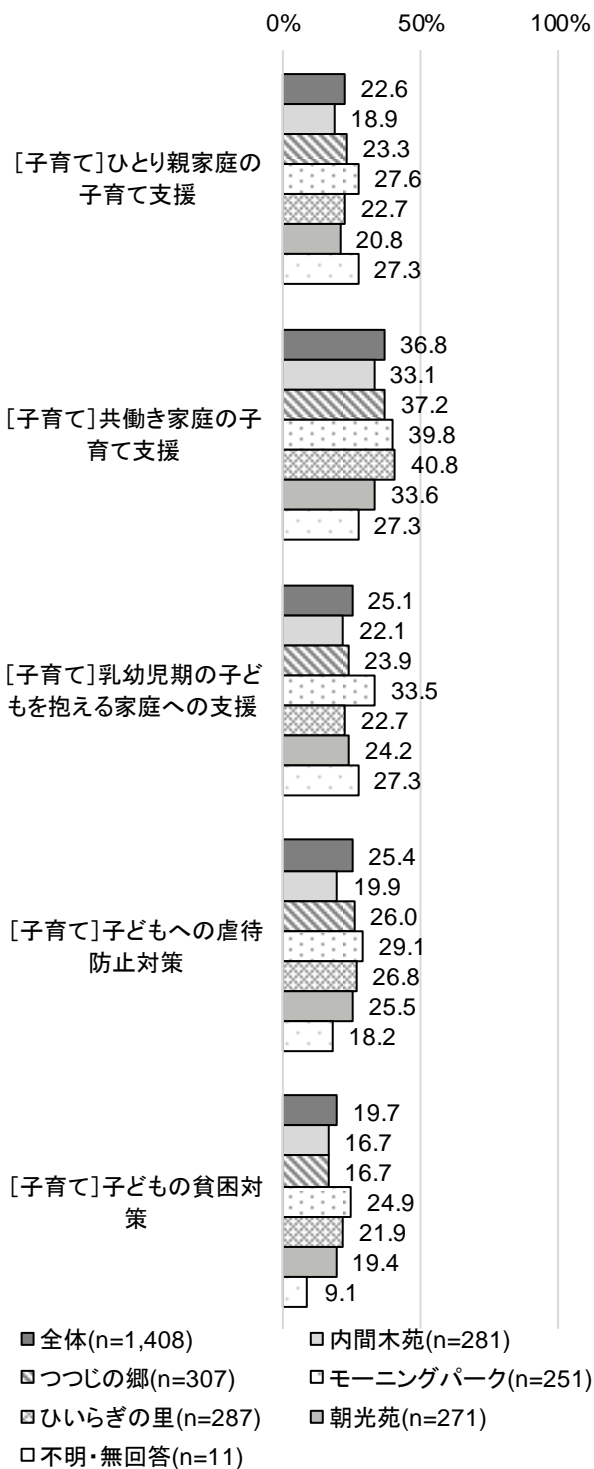
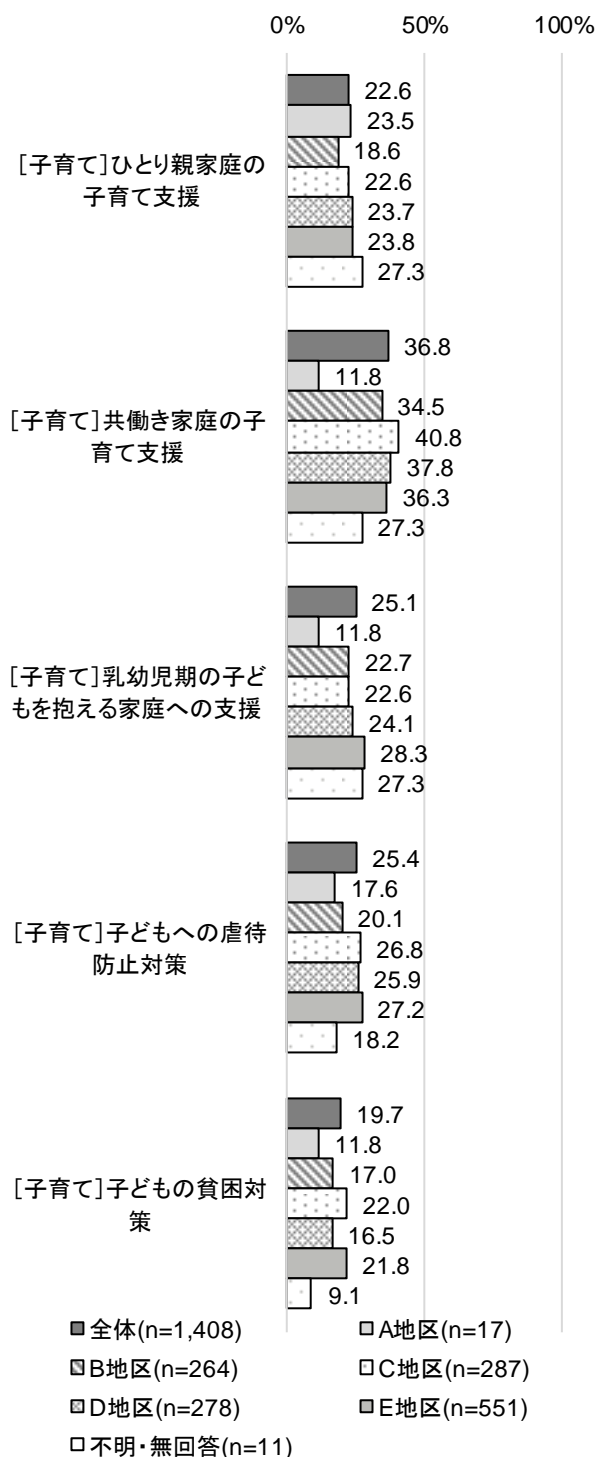
■問 18 地域課題×問2 居住年数



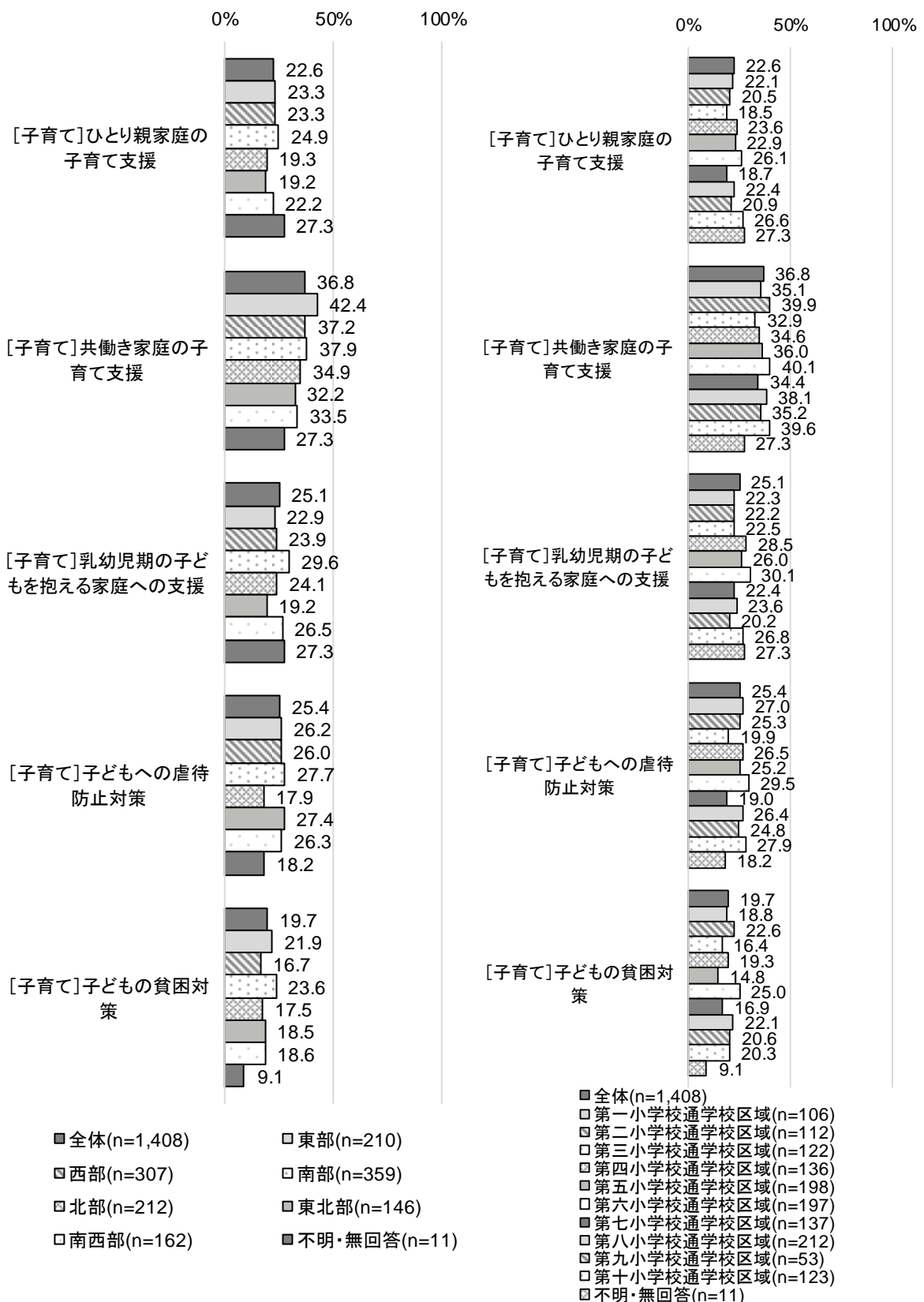
■問 18 地域課題×問 1 居住地区

圏域パターン 1 (前期アンケート)

圏域パターン 2(日常生活圏域)

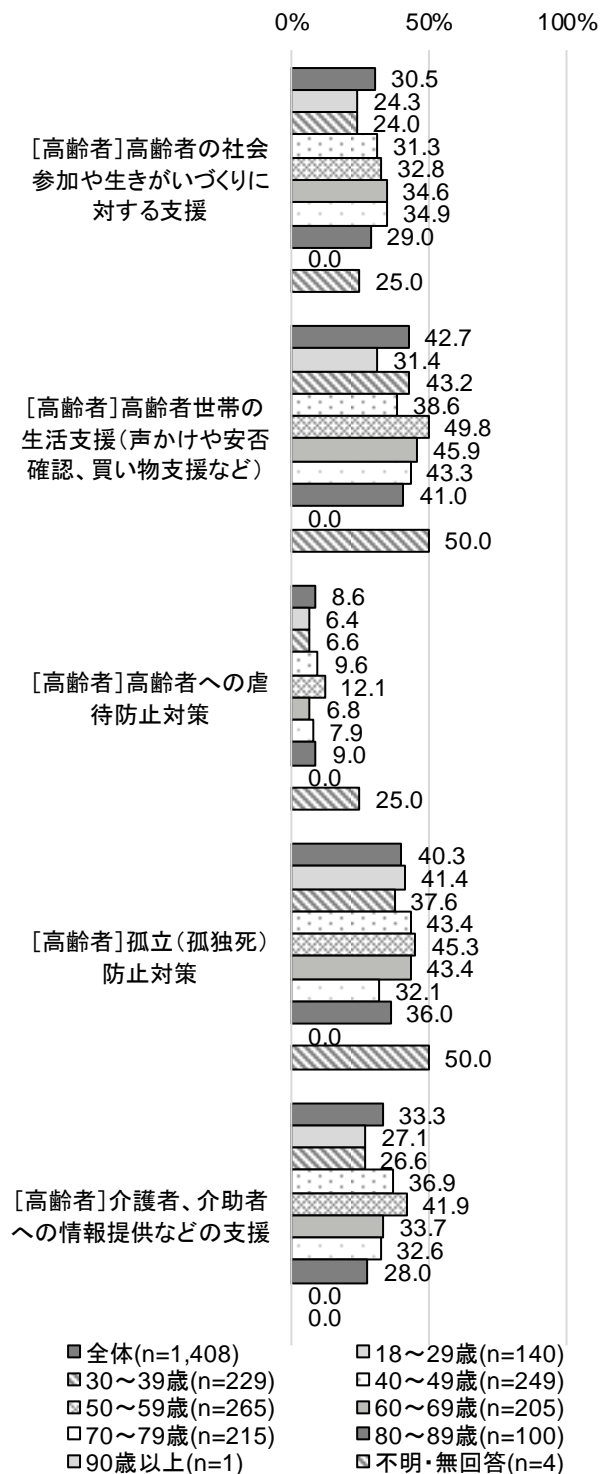


圏域パターン3 (朝霞市民生委員児童委員地区割) 圏域パターン4 (小学校通学区域)

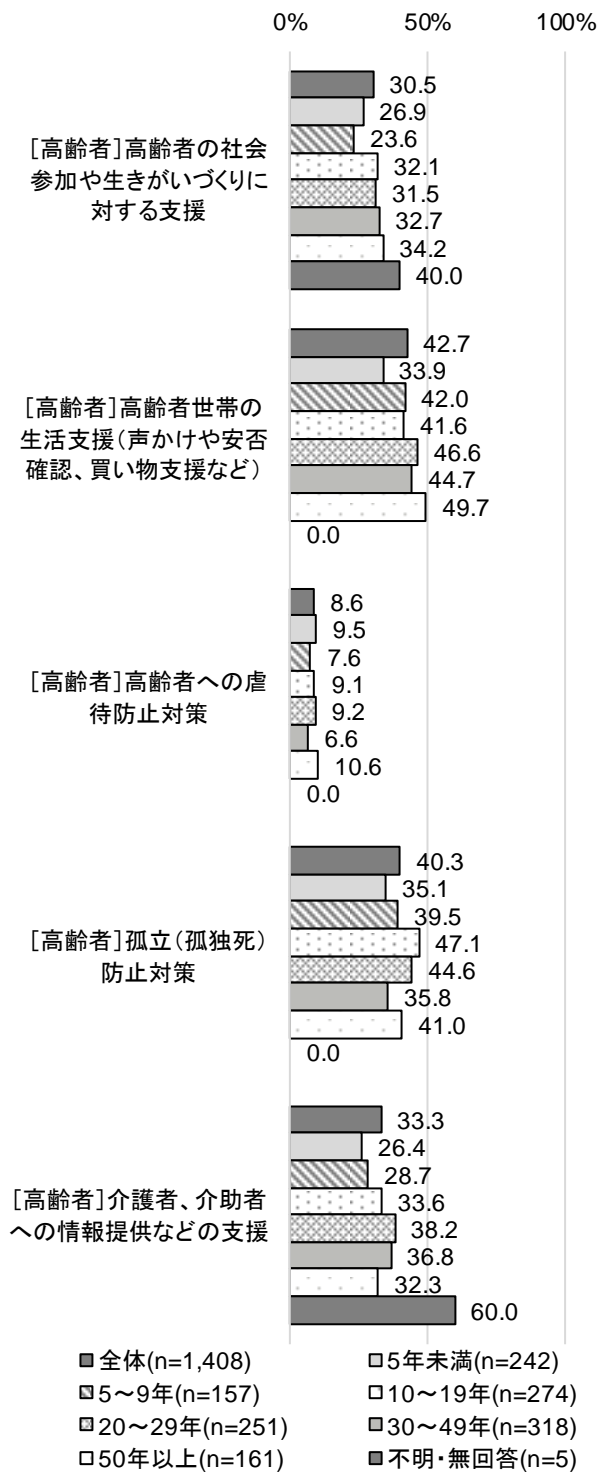


問 18 [高齢者]

■問 18 地域課題×問 6 年齢



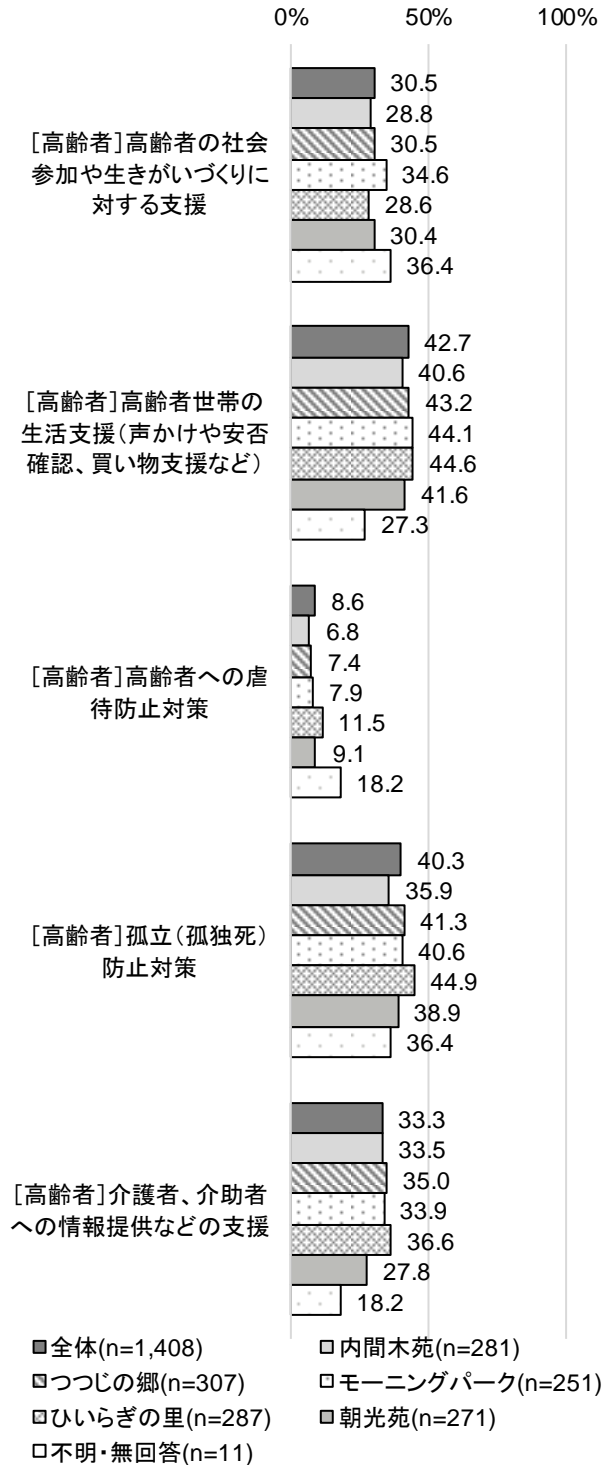
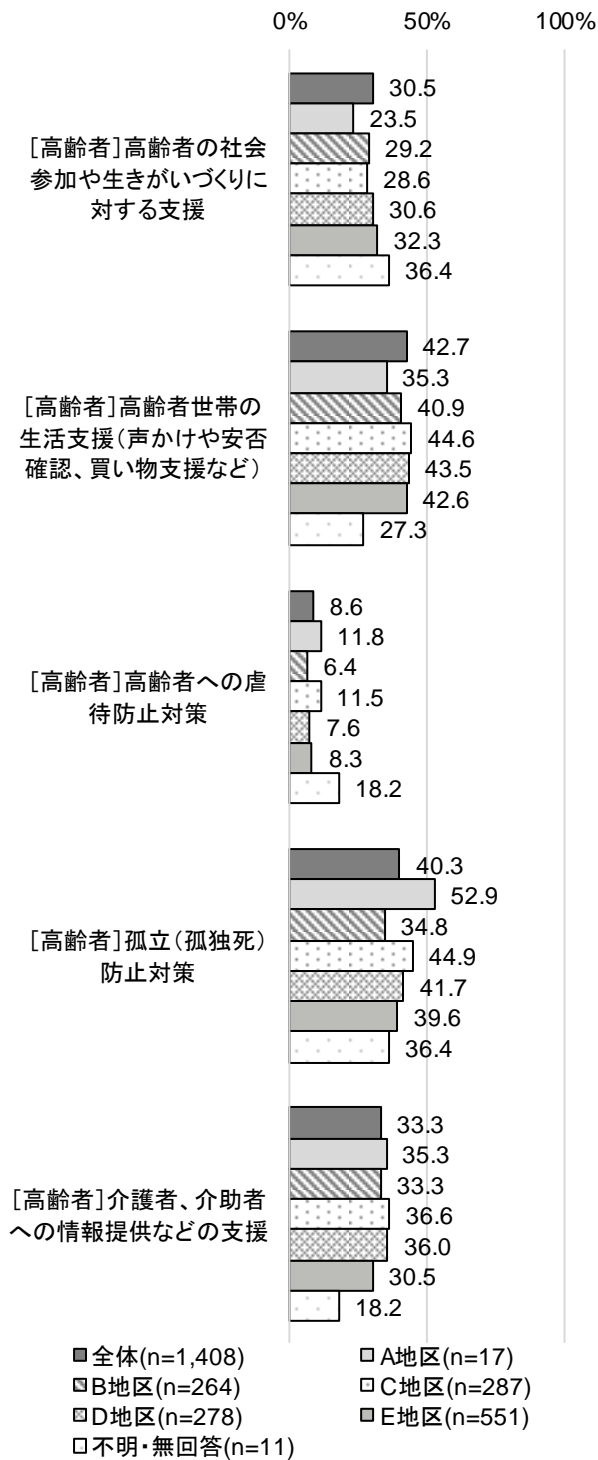
■問 18 地域課題×問 2 居住年数



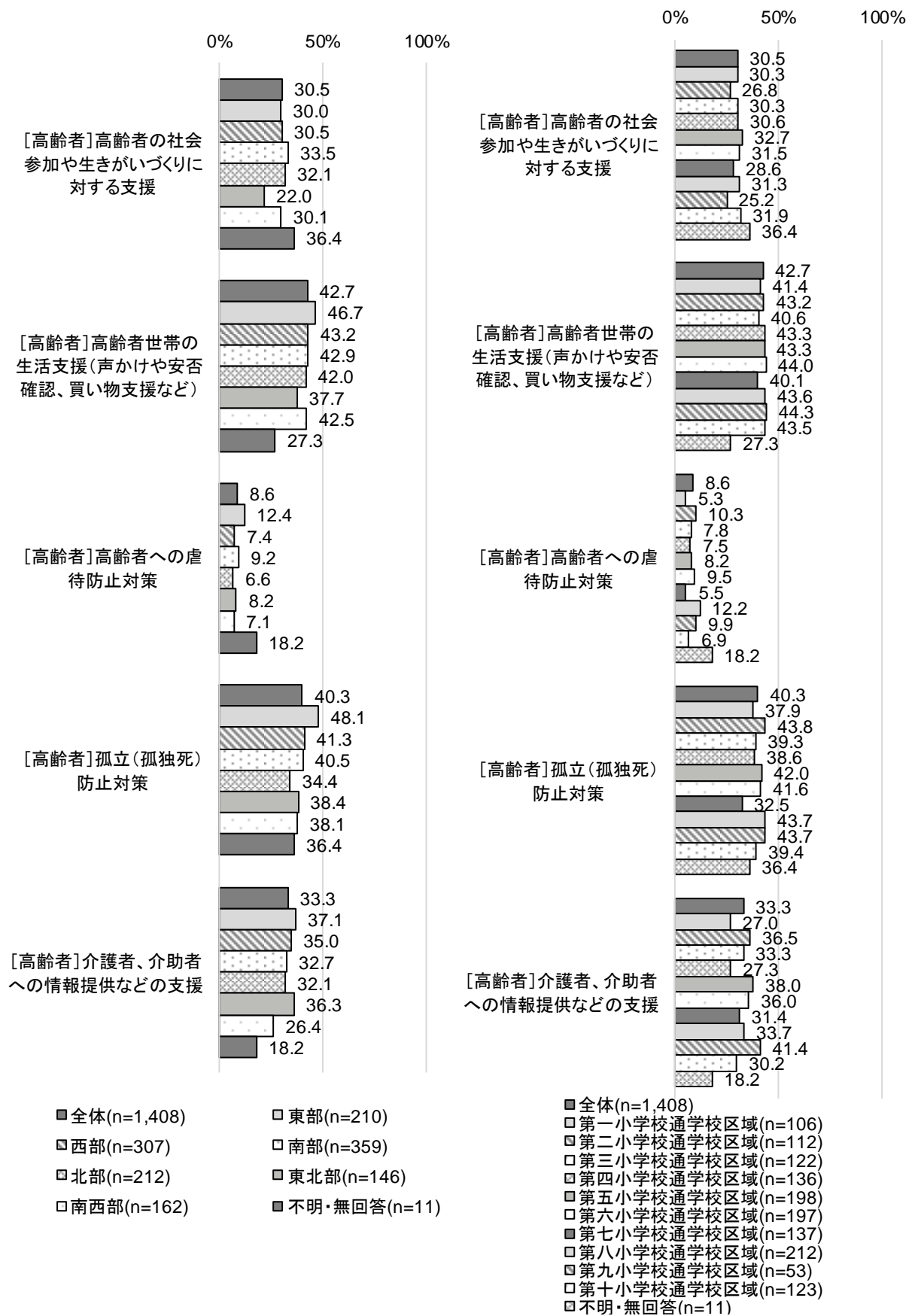
■問 18 地域課題×問 1 居住地区

圏域パターン 1 (前期アンケート)

圏域パターン 2 (日常生活圏域)

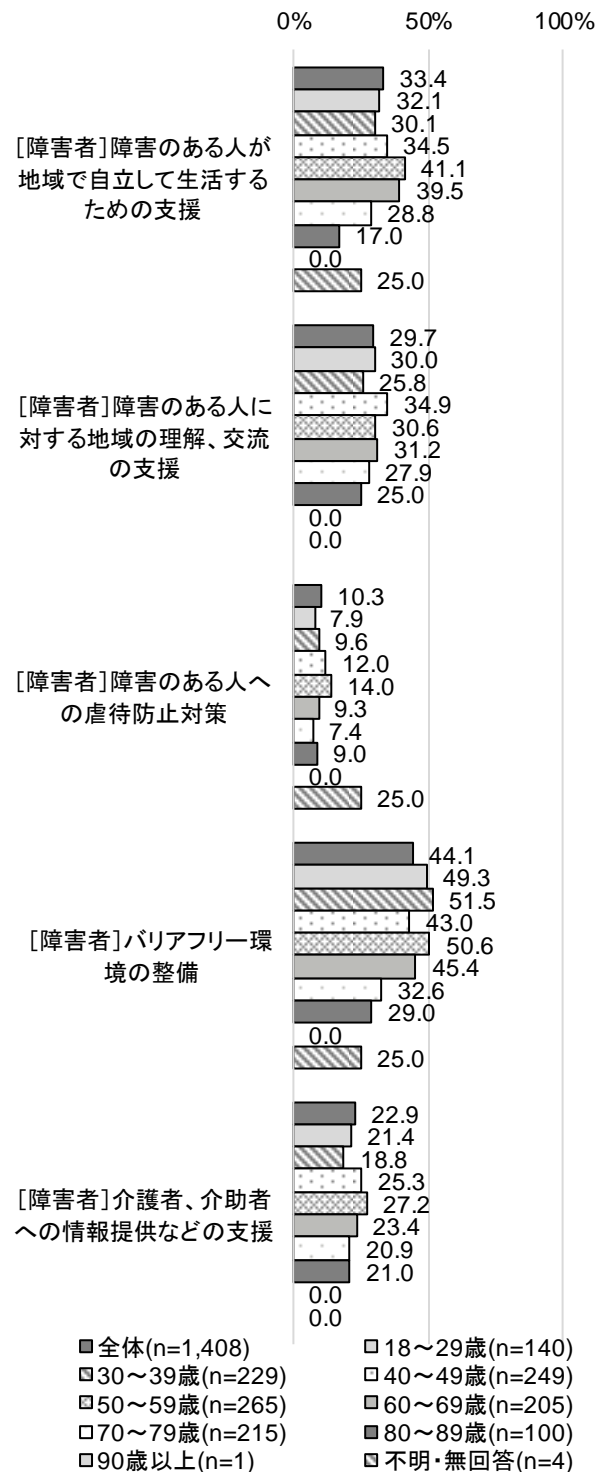


圏域パターン3 (朝霞市民生委員児童委員地区割) 圏域パターン4 (小学校通学区)

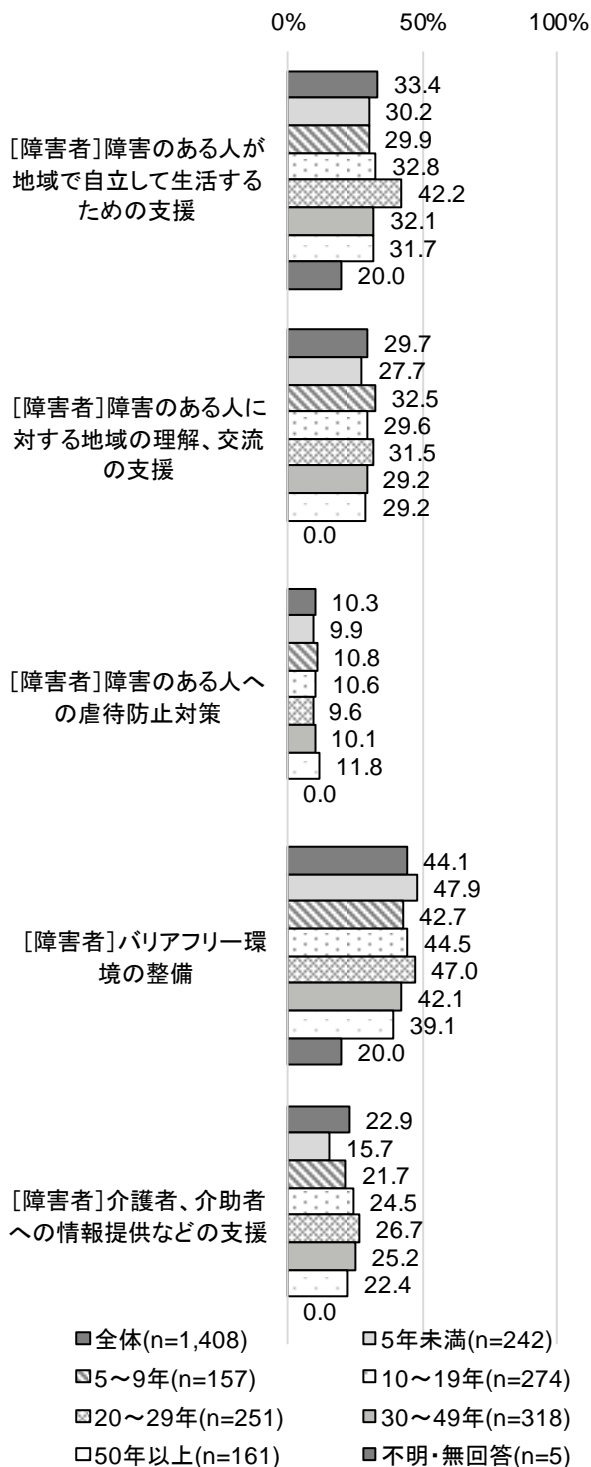


問 18 [障害者]

■問 18 地域課題×問 6 年齢

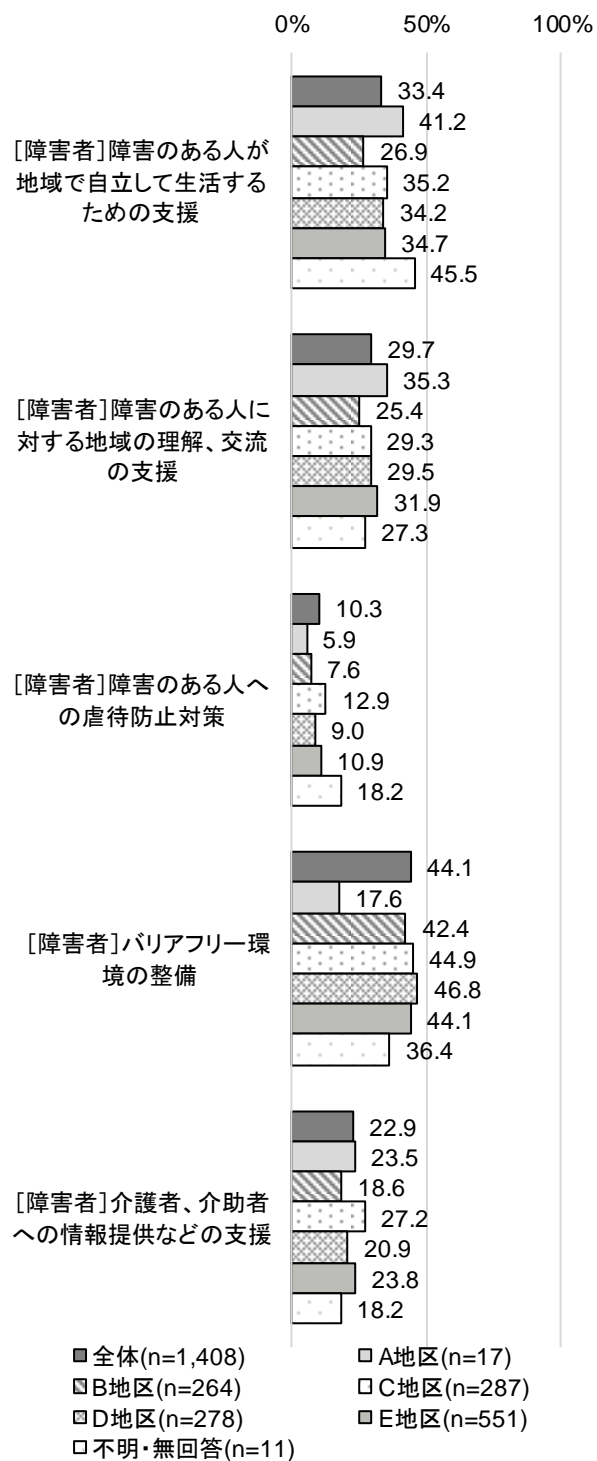


■問 18 地域課題×問 2 居住年数

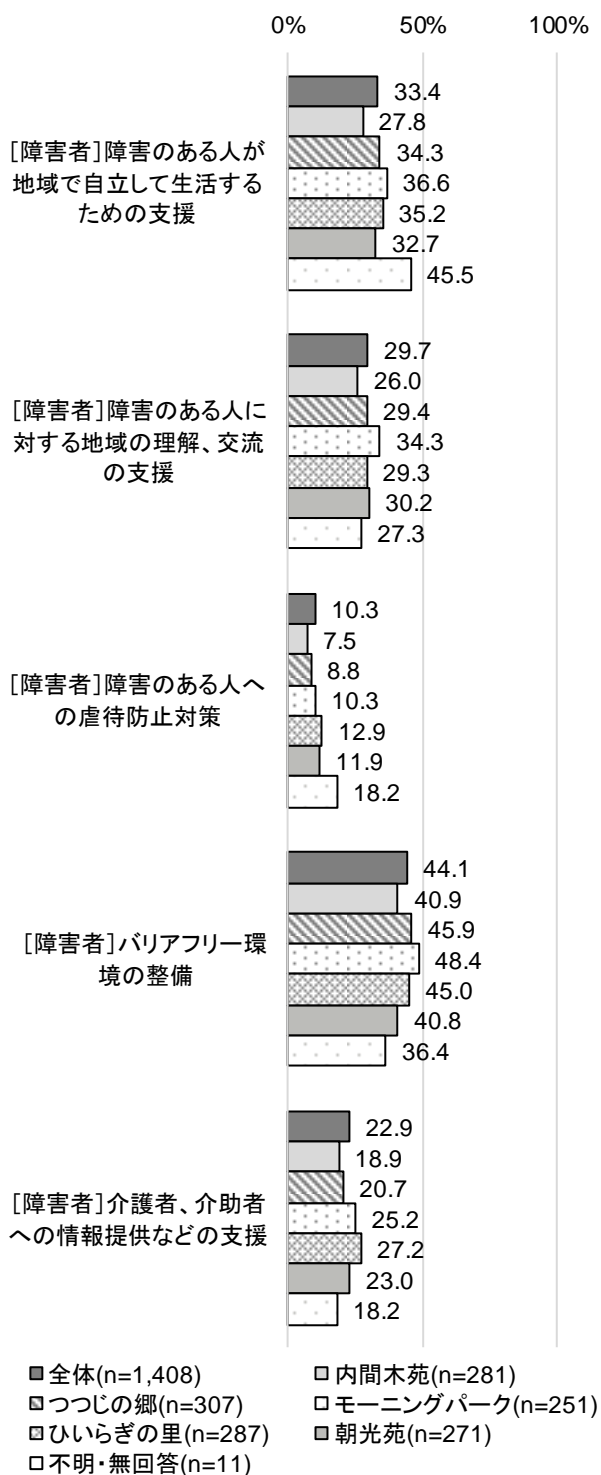


■問 18 地域課題×問 1 居住地区

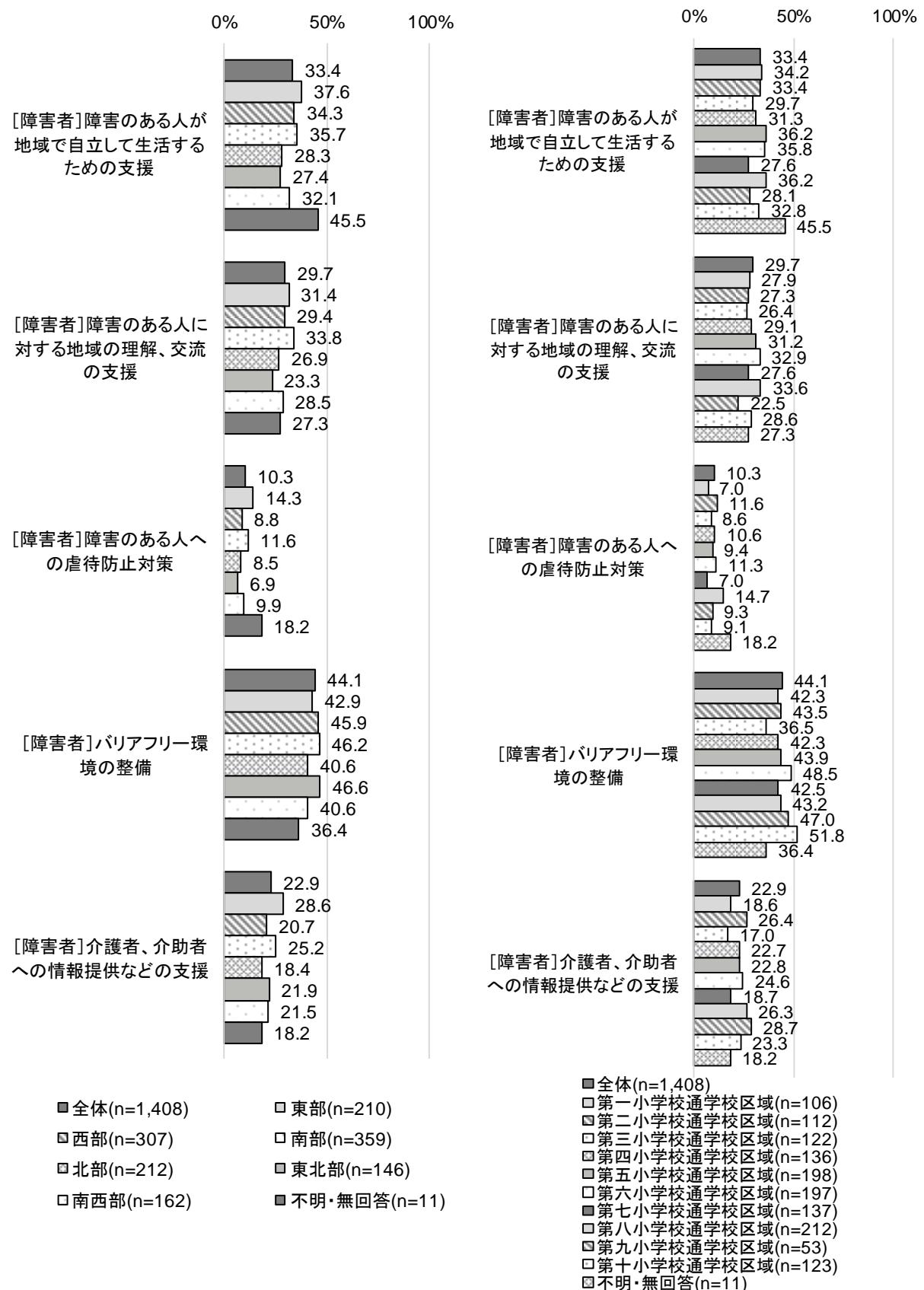
圏域パターン 1 (前期アンケート)



圏域パターン 2 (日常生活圏域)

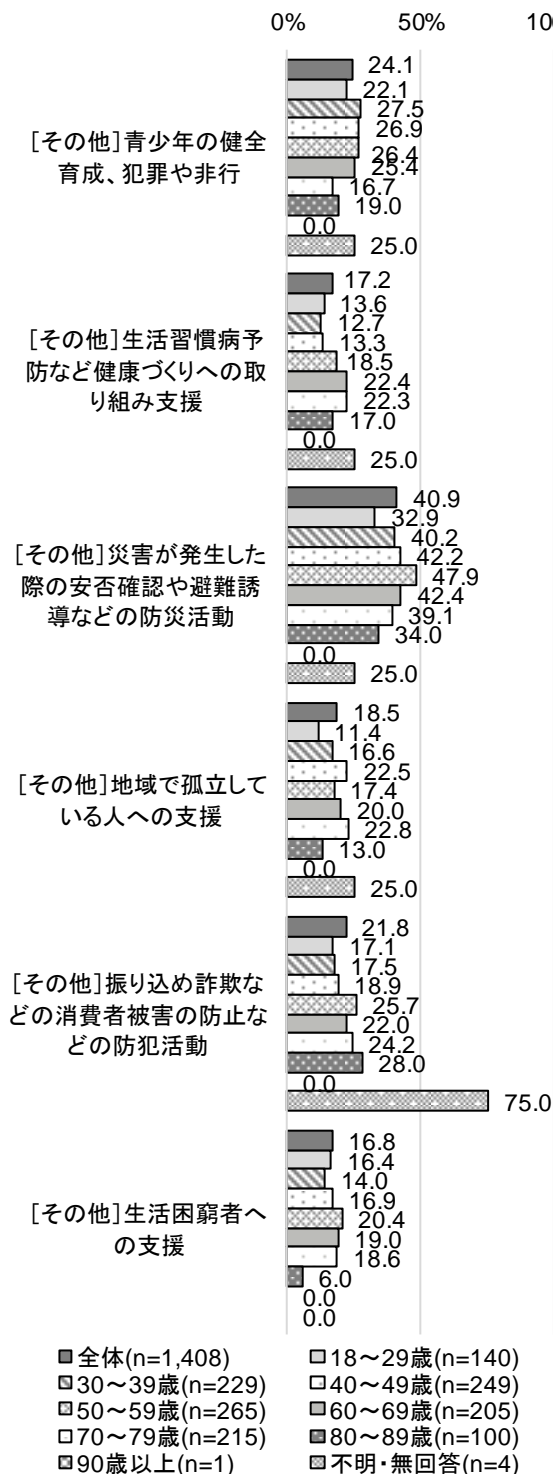


圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割) 圏域パターン 4 (小学校通学区区域)

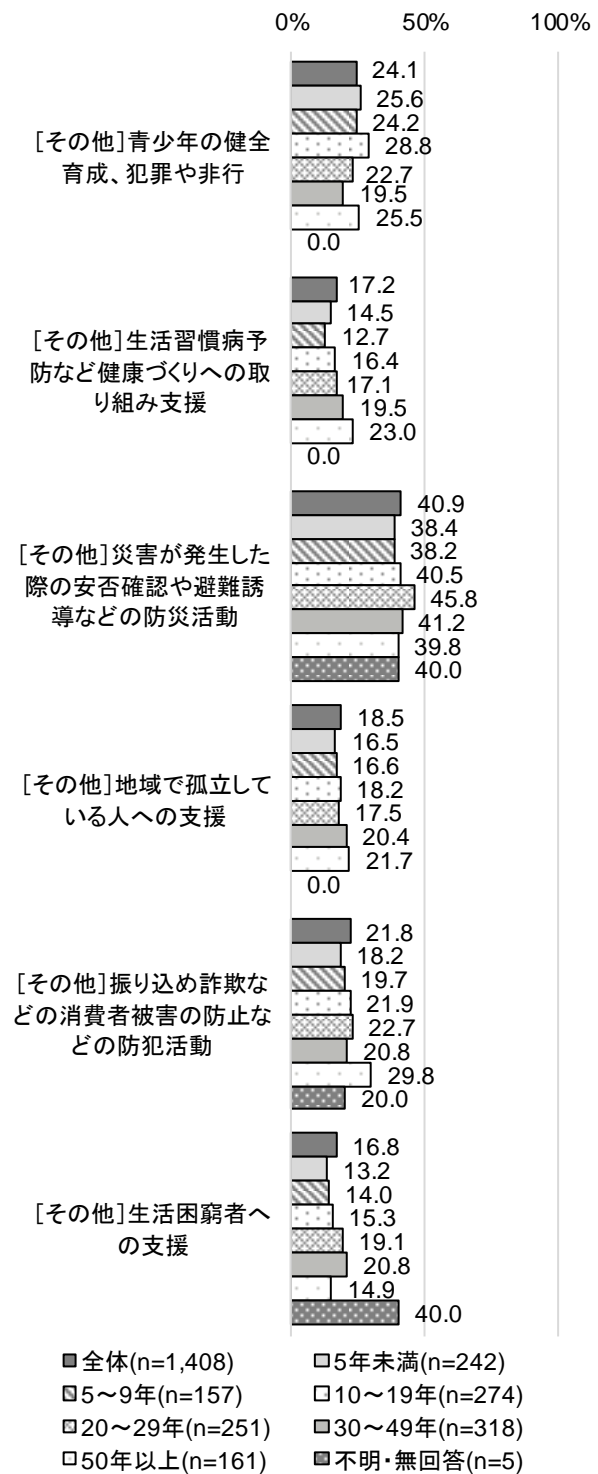


問 18 [その他 1/3]

■問 18 地域課題×問6 年齢

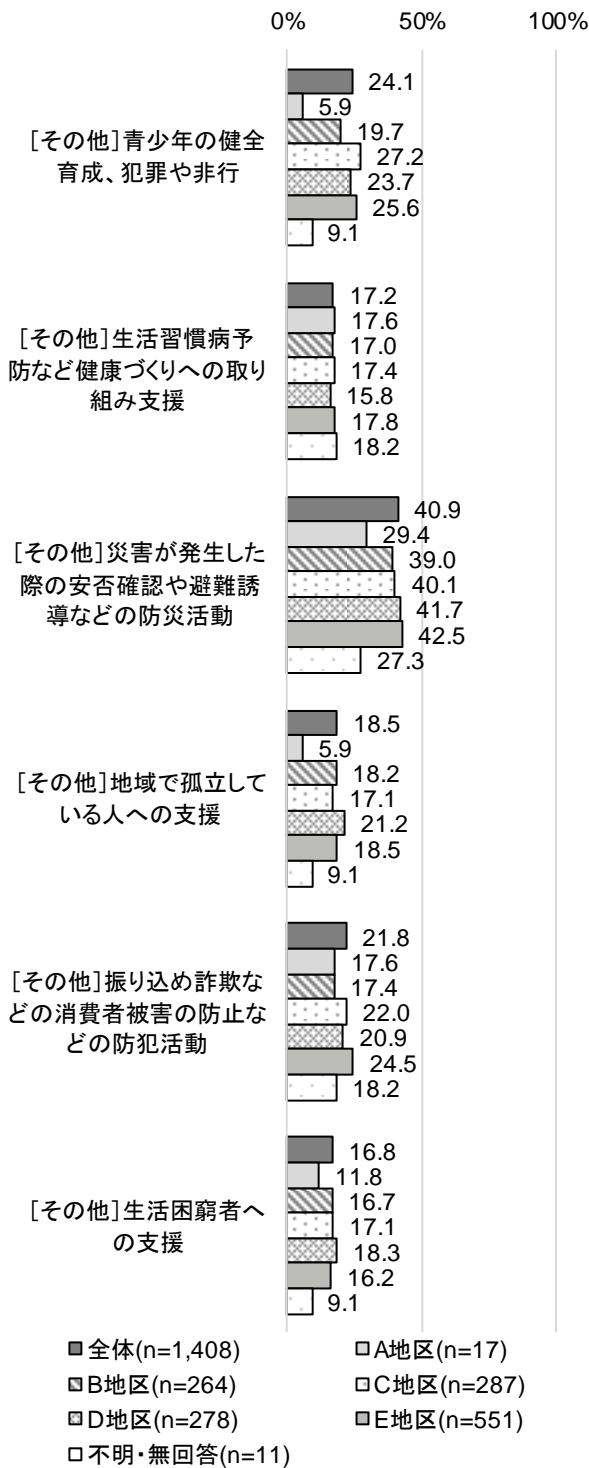


■問 18 地域課題×問2 居住年数

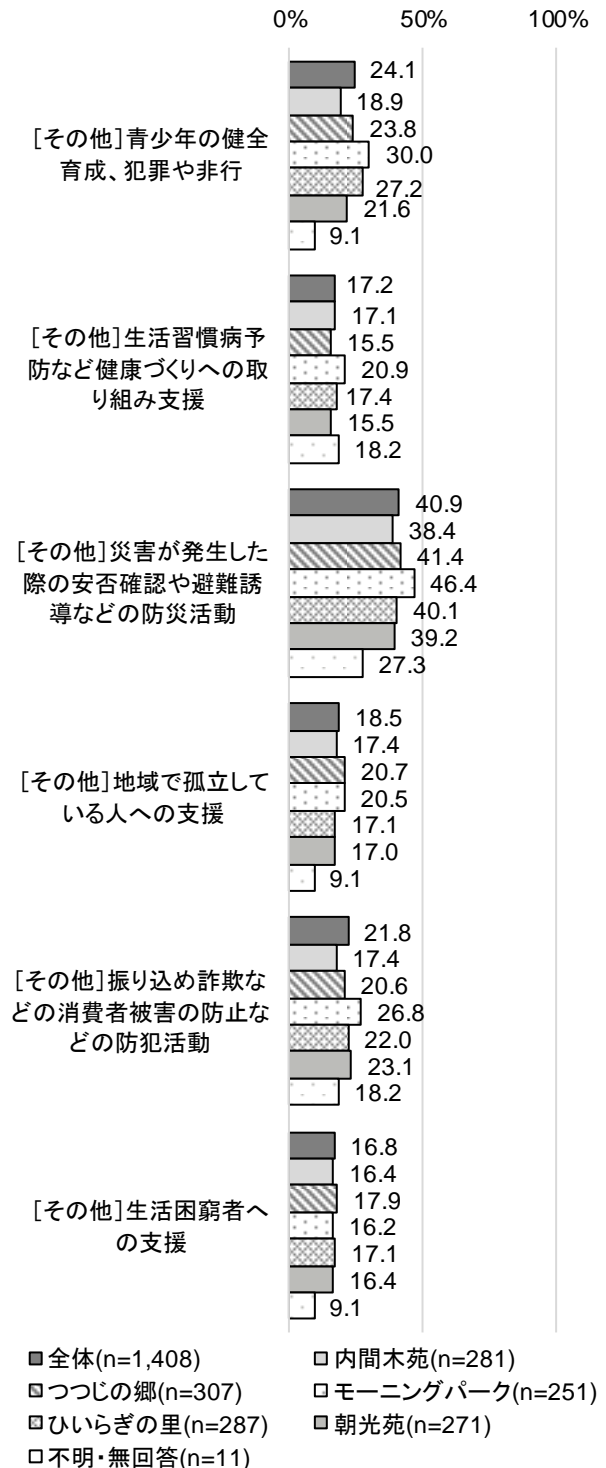


■問 18 地域課題×問 1 居住地区

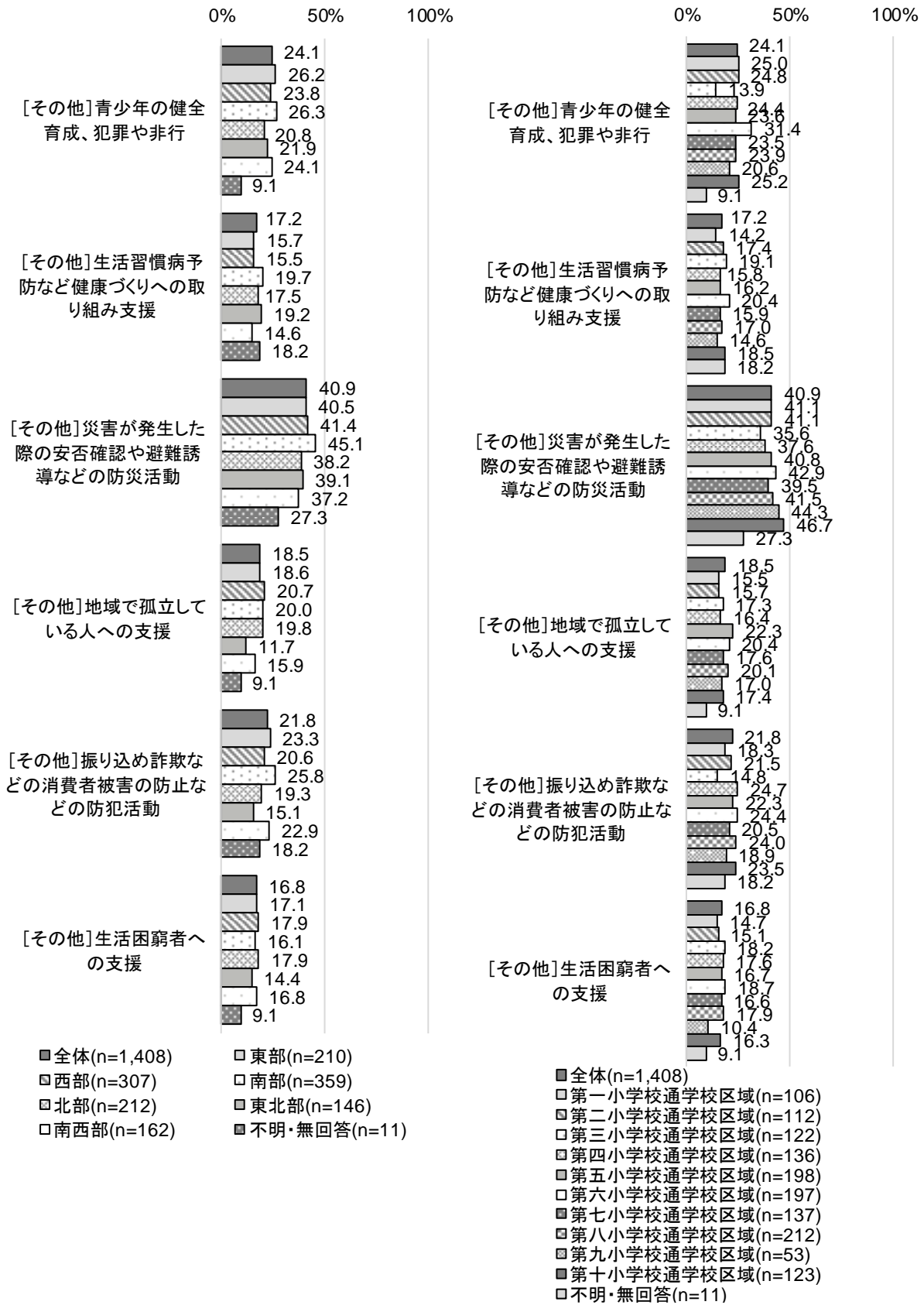
圏域パターン 1 (前期アンケート)



圏域パターン 2 (日常生活圏域)

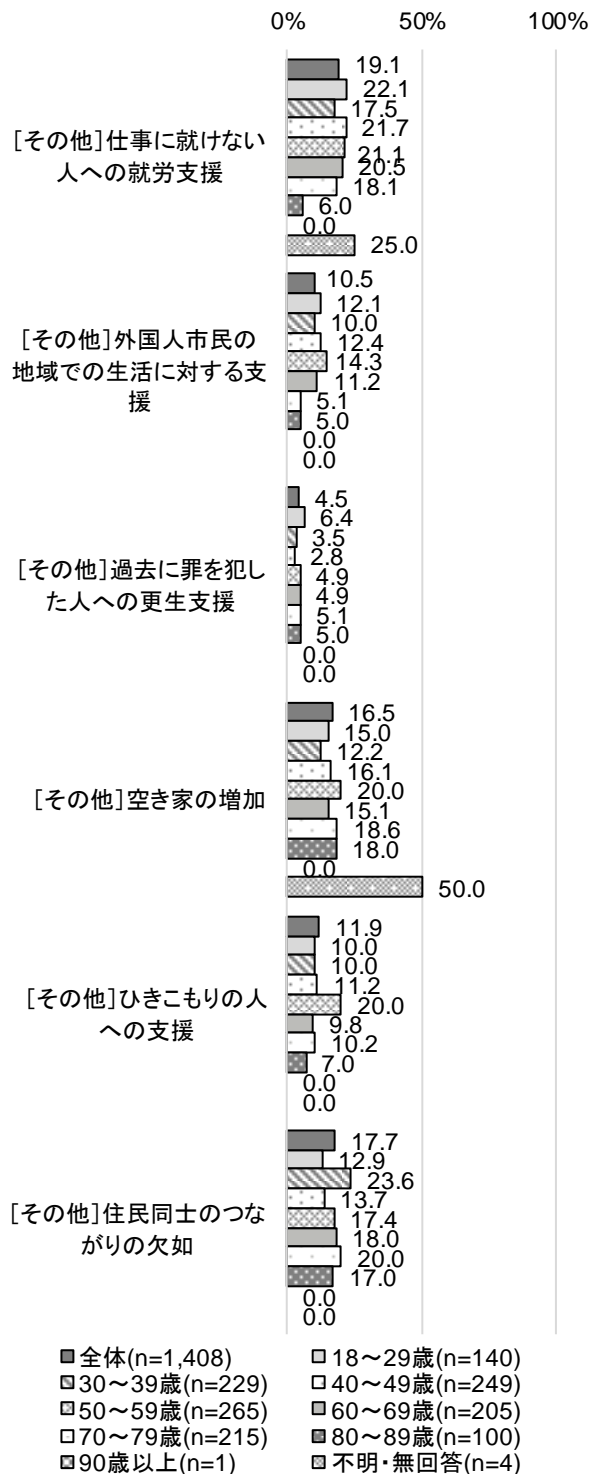


圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割) 圏域パターン 4 (小学校通学区)

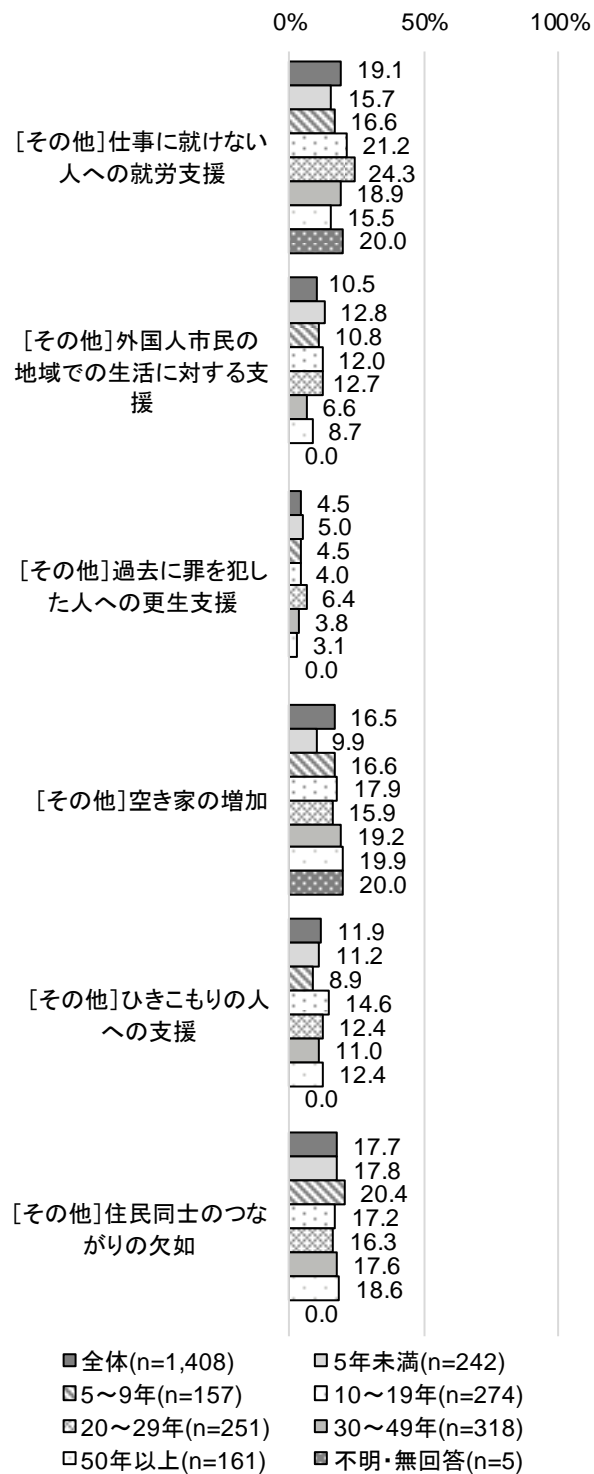


問 18 [その他 2/3]

■問 18 地域課題×問 6 年齢



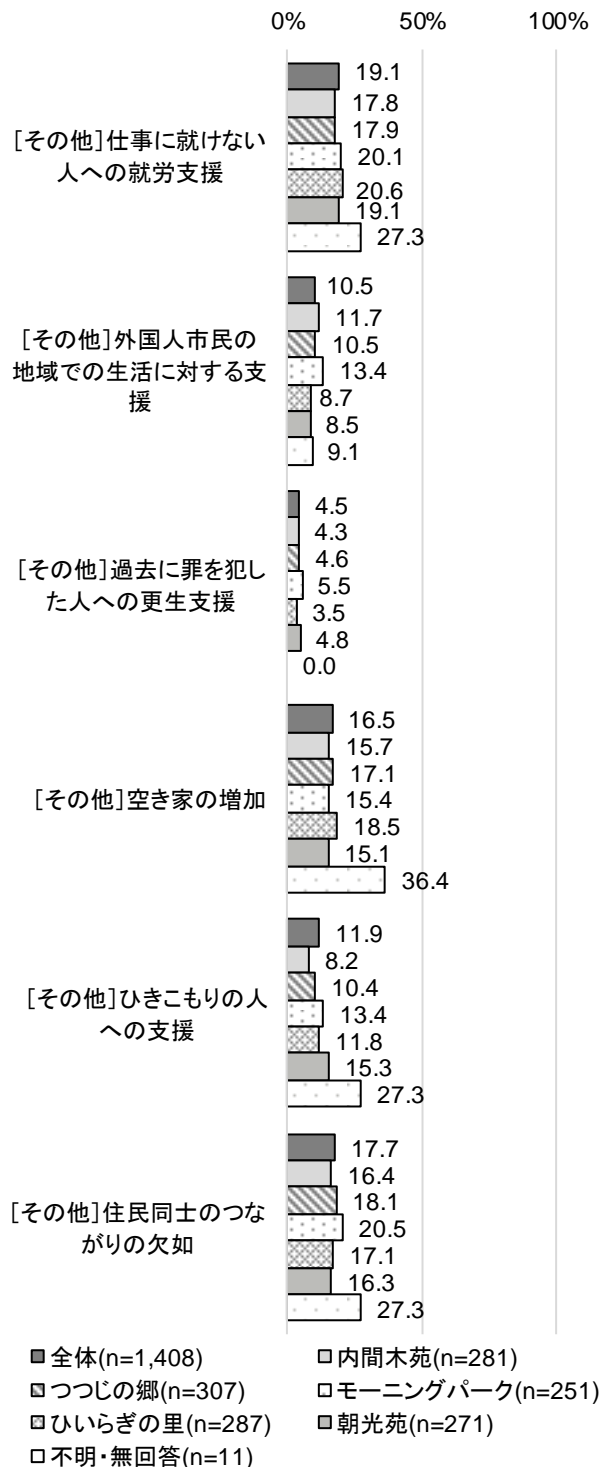
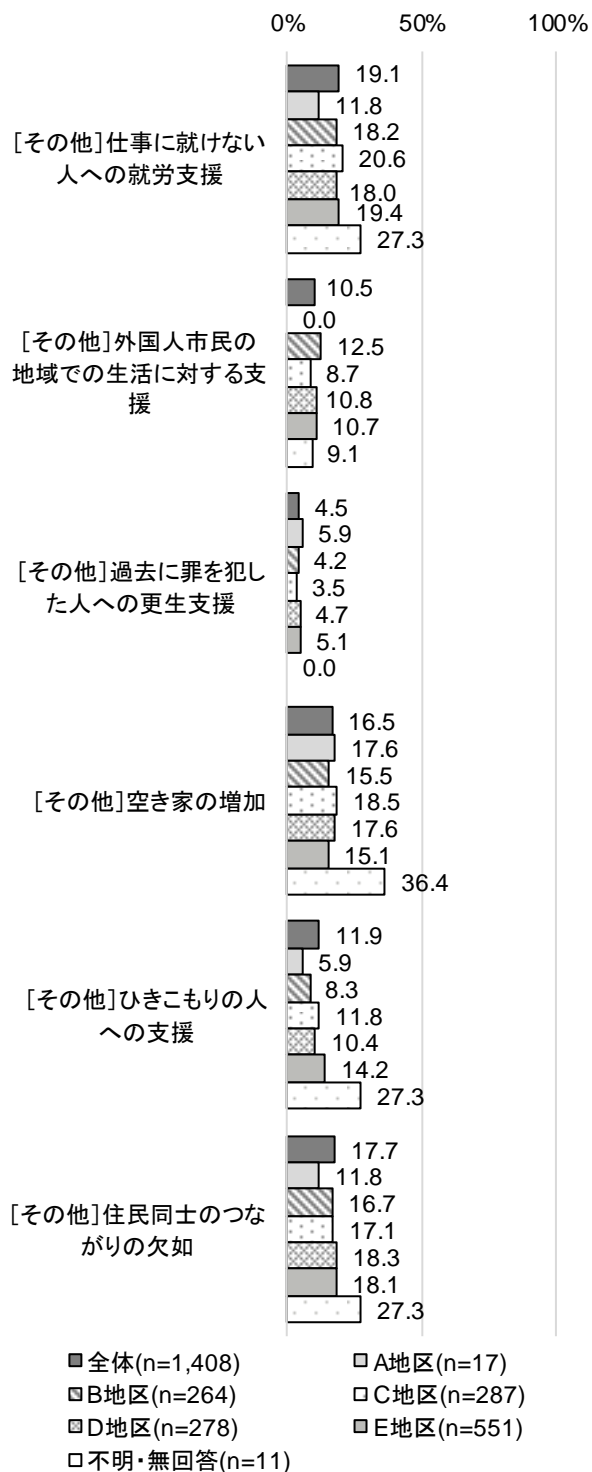
■問 18 地域課題×問 2 居住年数



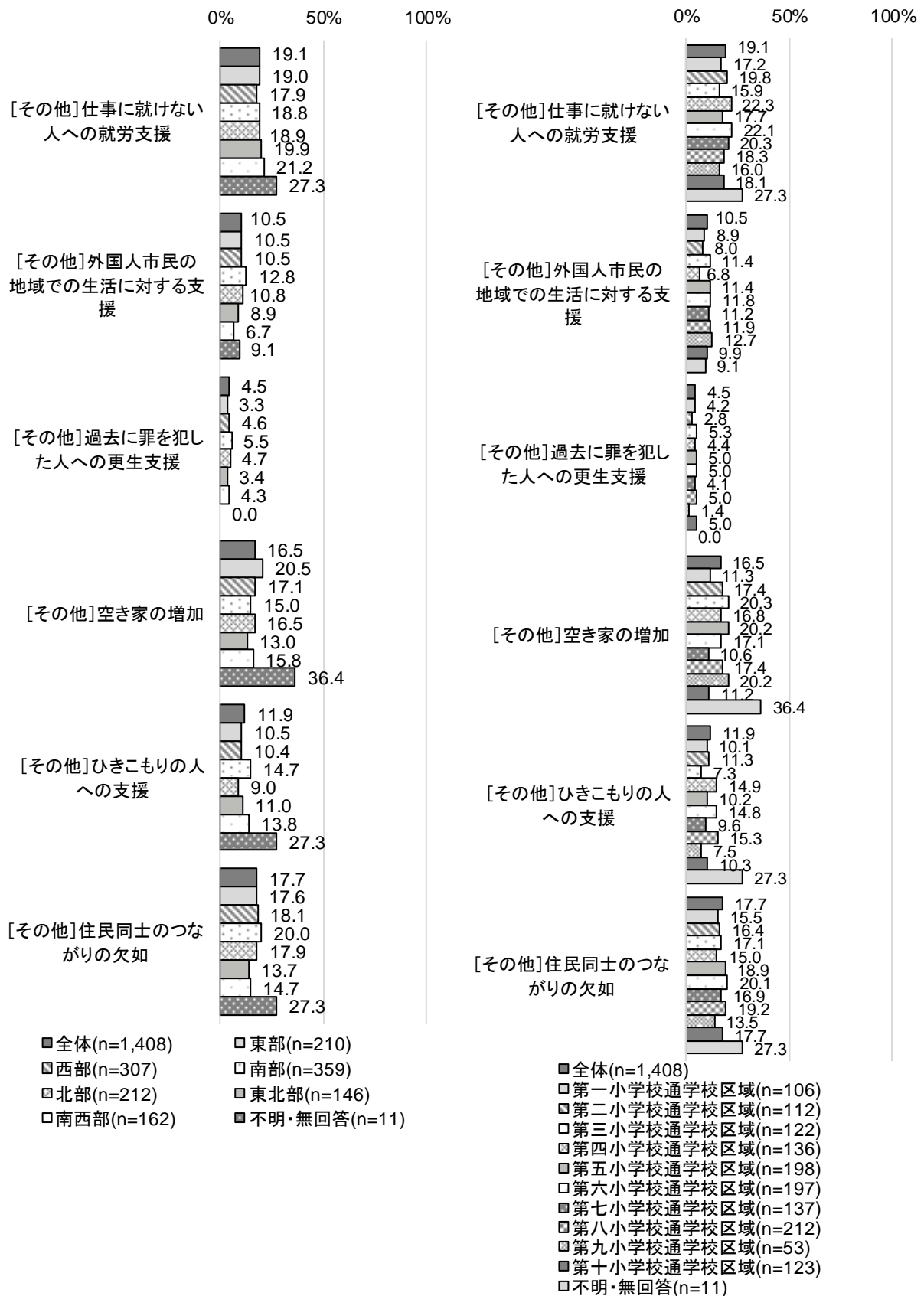
■問 18 地域課題×問 1 居住地区

圏域パターン 1 (前期アンケート)

圏域パターン 2 (日常生活圏域)

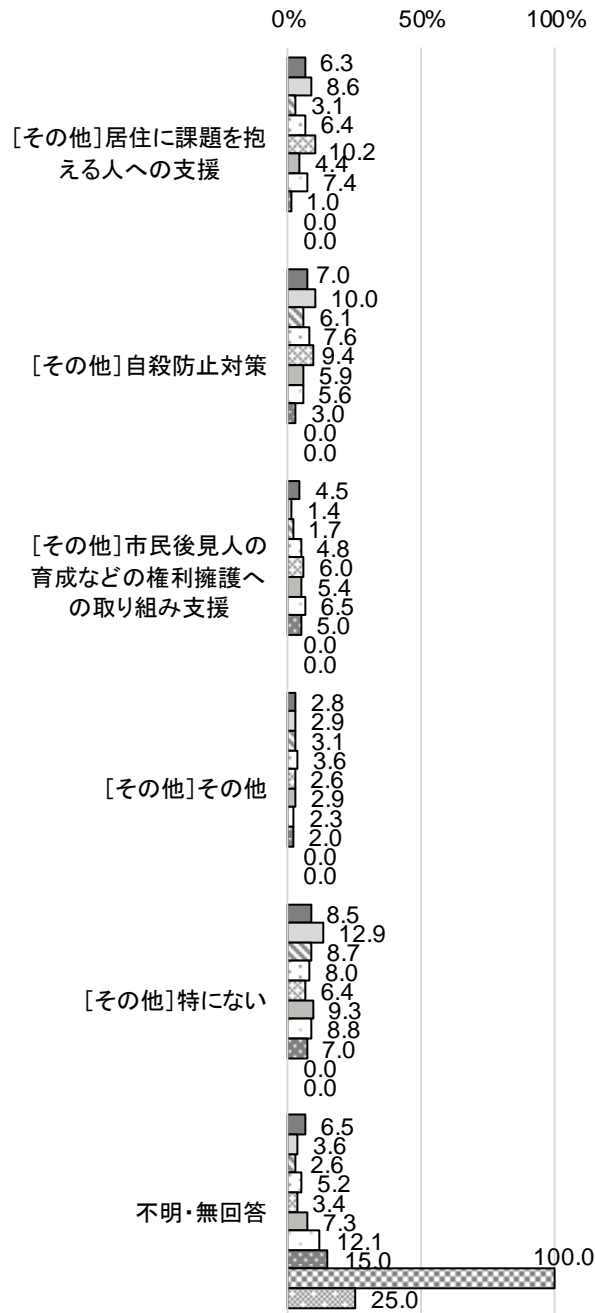


圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割) 圏域パターン 4 (小学校通学区域)



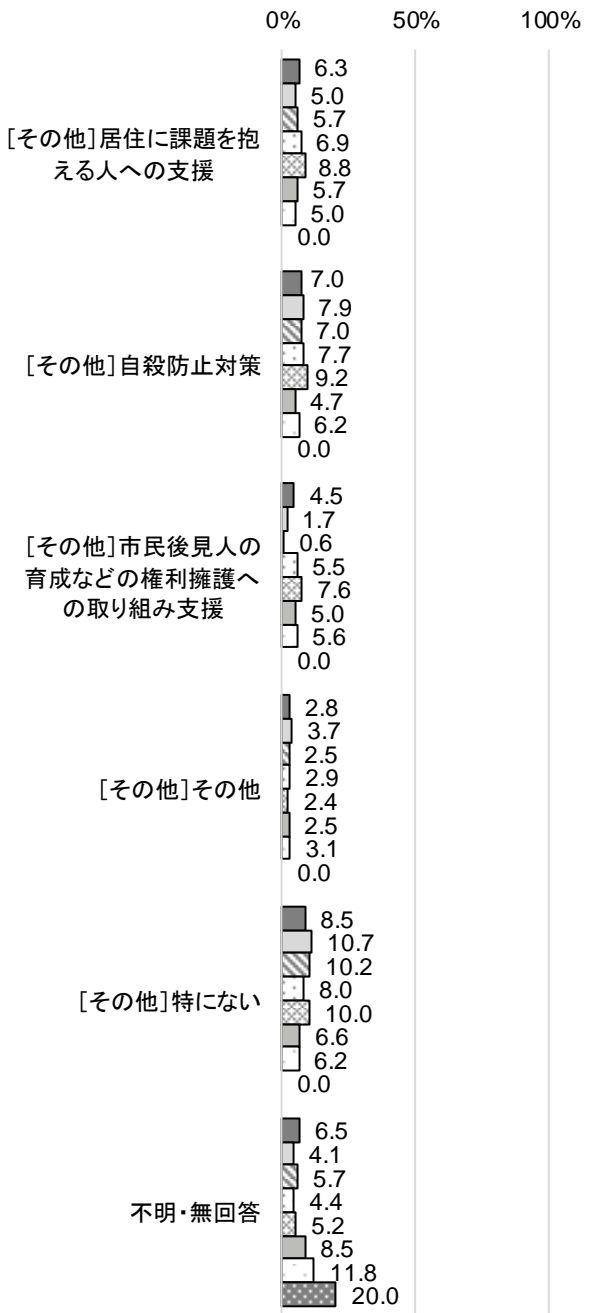
問 18 [その他 3/3]

■問 18 地域課題×問 6 年齢



- 全体(n=1,408)
- 18~29歳(n=140)
- 30~39歳(n=229)
- 40~49歳(n=249)
- 50~59歳(n=265)
- 60~69歳(n=205)
- 70~79歳(n=215)
- 80~89歳(n=100)
- 90歳以上(n=1)
- 不明・無回答(n=4)

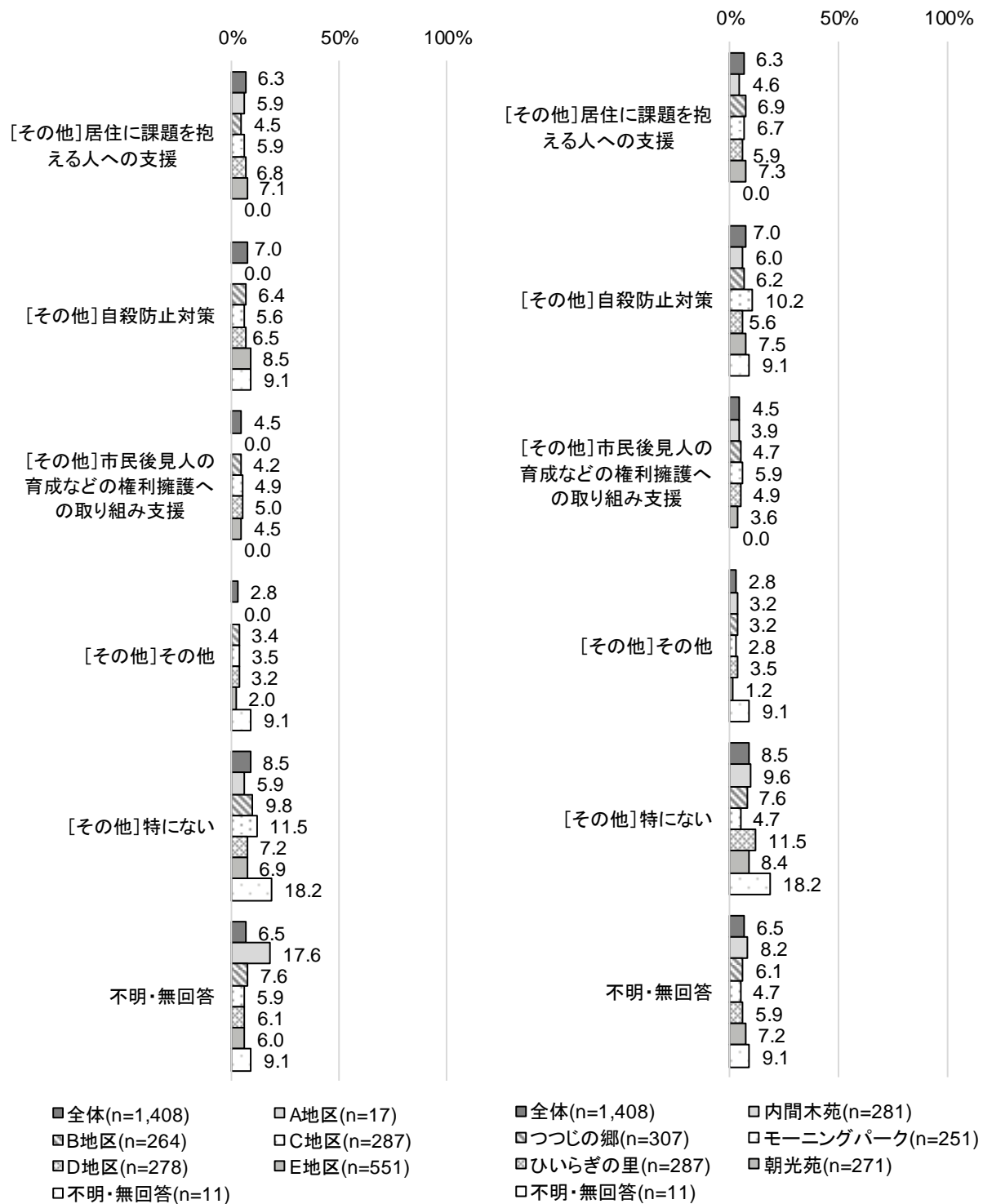
■問 18 地域課題×問 2 居住年数



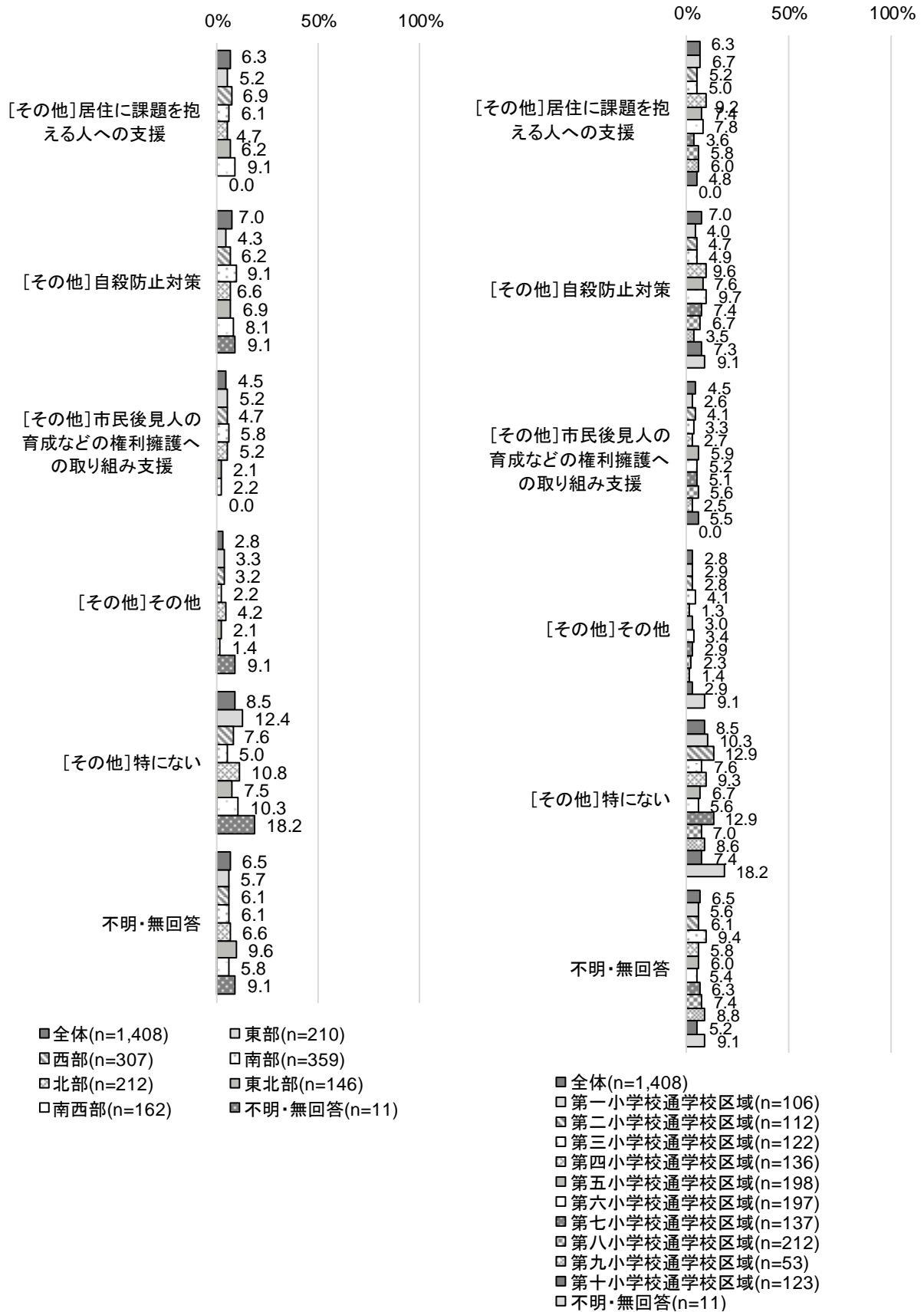
- 全体(n=1,408)
- 5年未満(n=242)
- 5~9年(n=157)
- 10~19年(n=274)
- 20~29年(n=251)
- 30~49年(n=318)
- 50年以上(n=161)
- 不明・無回答(n=5)

圏域パターン 1 (前期アンケート)

圏域パターン 2 (日常生活圏域)

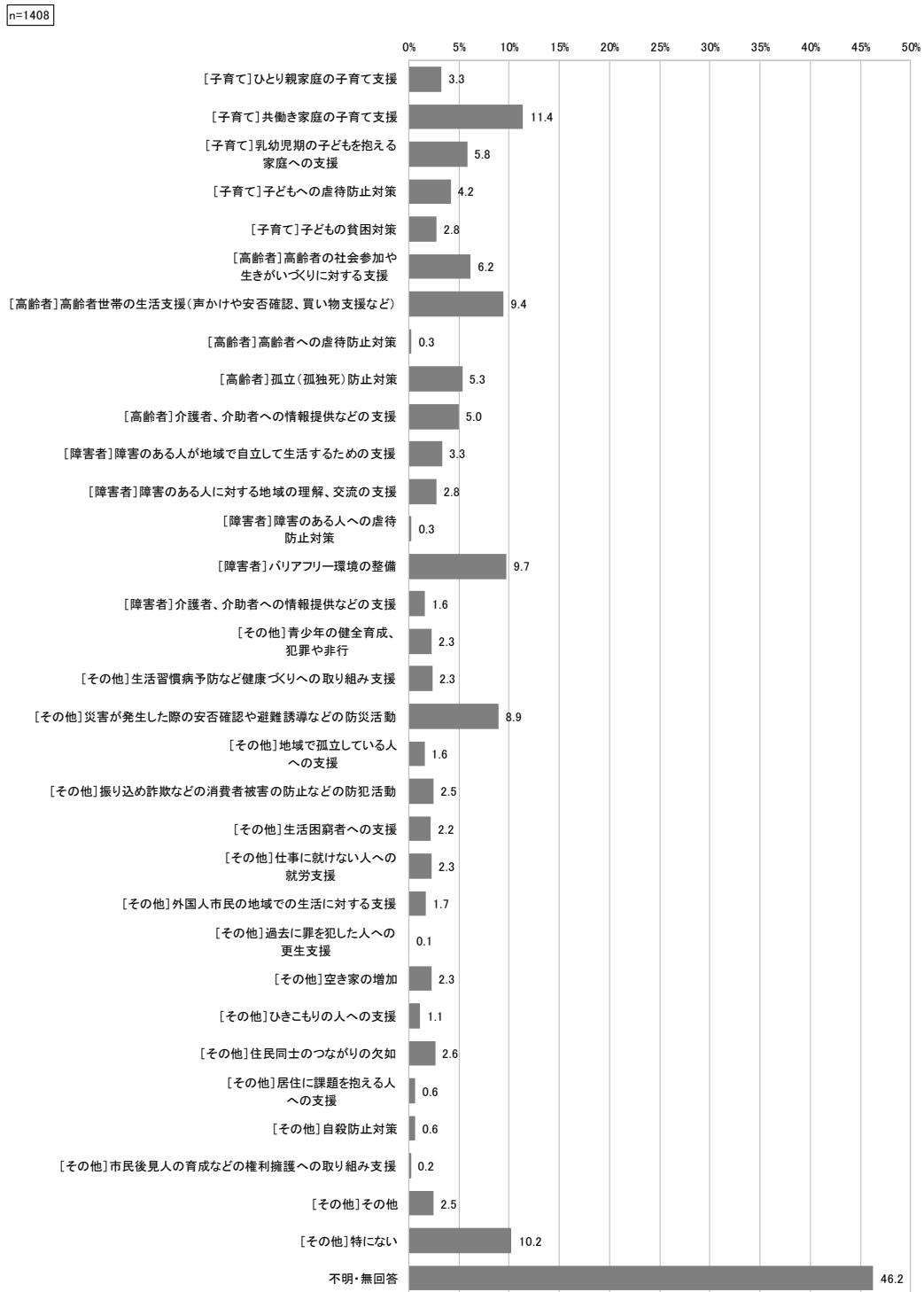


圏域パターン3（朝霞市民生委員児童委員地区割） 圏域パターン4（小学校通学区区域）



問 19 あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。(〇は3つまで)

地域で優先的に解決すべき課題は、「[子育て] 共働き家庭の子育て支援」が11.4%と割合が最も高く、次いで「[その他] 特にない」が10.2%、「[障害者] バリアフリー環境の整備」が9.7%となっています。

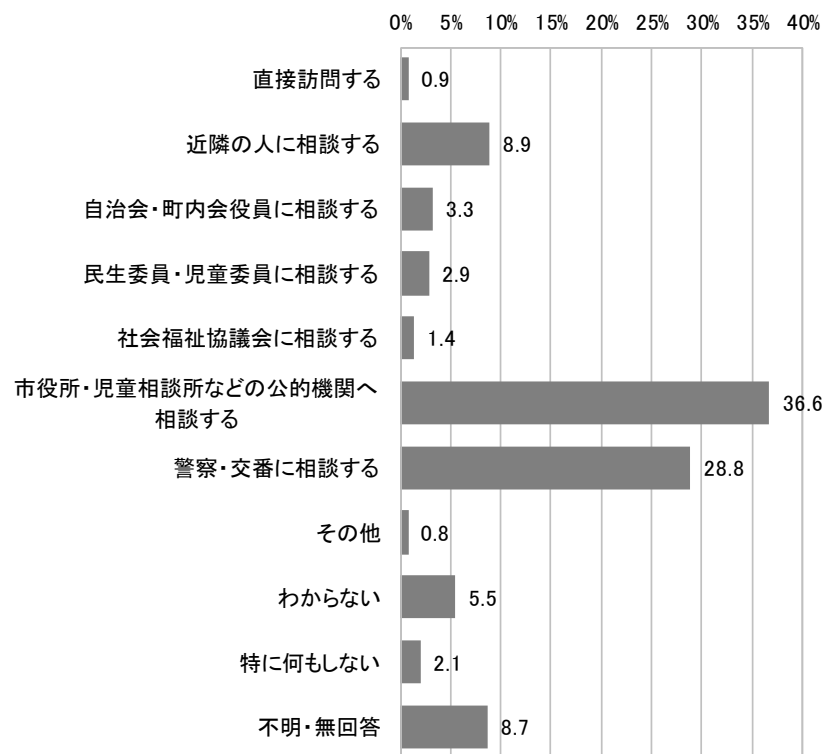


問 20 もし、あなたの周辺で孤立や虐待(児童、高齢者、障害のある人)などの状況を知ったら、最初にご
のように対応しますか。(1つに○)

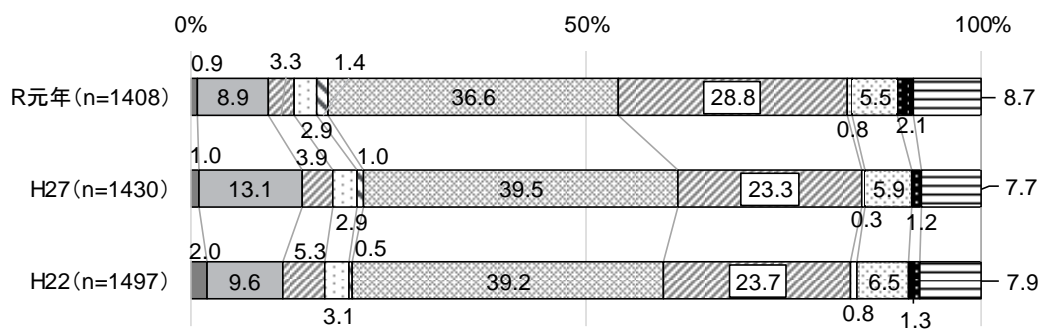
周辺で孤立や虐待などが起きるおそれがある状況を知った時の対応は、「市役所・児童相談所などの公的機関へ相談する」が36.6%と割合が最も高く、次いで「警察・交番に相談する」が28.8%、「近隣の人に相談する」が8.9%となっています。

前回調査との比較では、「市役所・児童相談所などの公的機関へ相談する」の割合が2.9ポイント減少しています。

n=1408



■経年比較



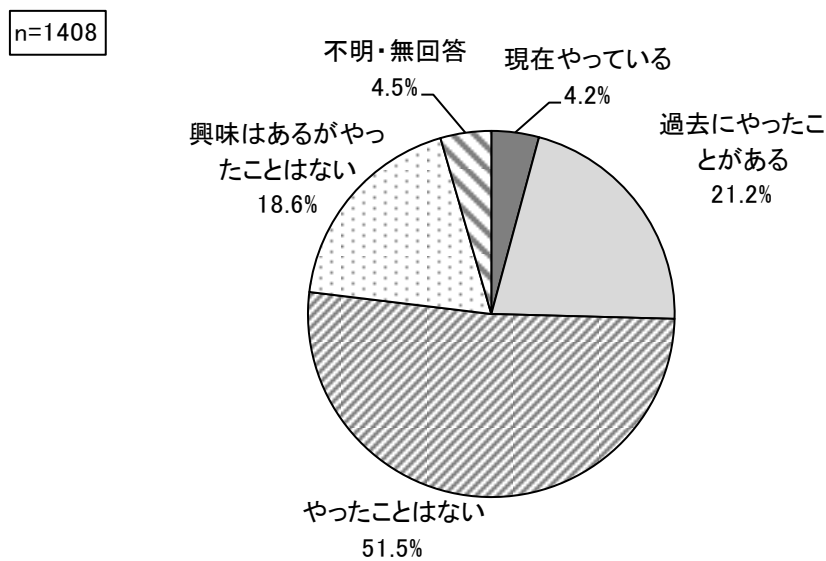
- 直接訪問する
- 自治会・町内会役員に相談する
- 社会福祉協議会に相談する
- 警察・交番に相談する
- わからない
- 不明・無回答
- 近隣の人に相談する
- 民生委員・児童委員に相談する
- 市役所・児童相談所などの公的機関へ相談する
- その他
- 特に何もしない

7 ボランティア活動について

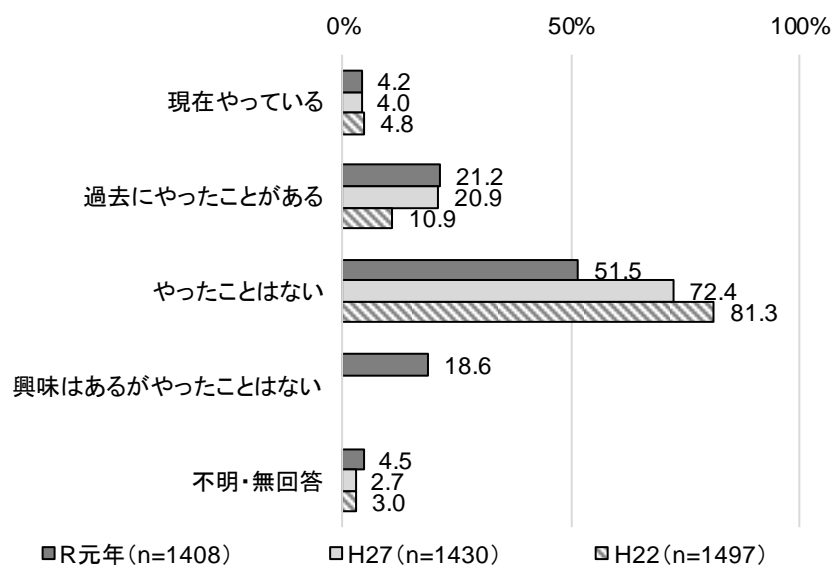
問 21 あなたはボランティア活動をしていますか。(1つに○)

ボランティア活動をしているかは、「やったことはない」が51.5%と割合が最も高く、次いで「過去にやったことがある」が21.2%、「興味はあるがやったことはない」が18.6%となっています。

「やったことはない」「興味はあるがやったことはない」を合わせた『やったことはない』が70.1%で、前回調査と比較して2.3ポイント減少しています。



■経年比較



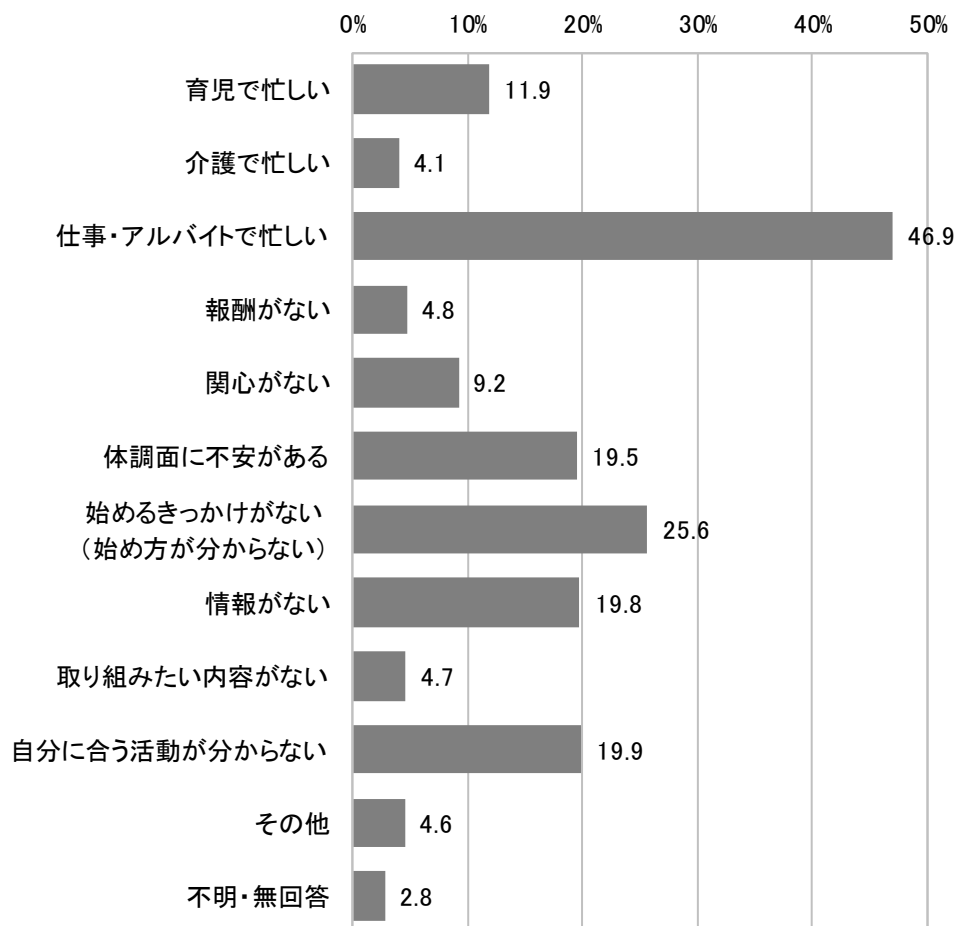
(問 21 で「3.やったことはない」、「4.興味はあるがやったことはない」と回答の方)

問 21-1 あなたがボランティア活動に参加できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

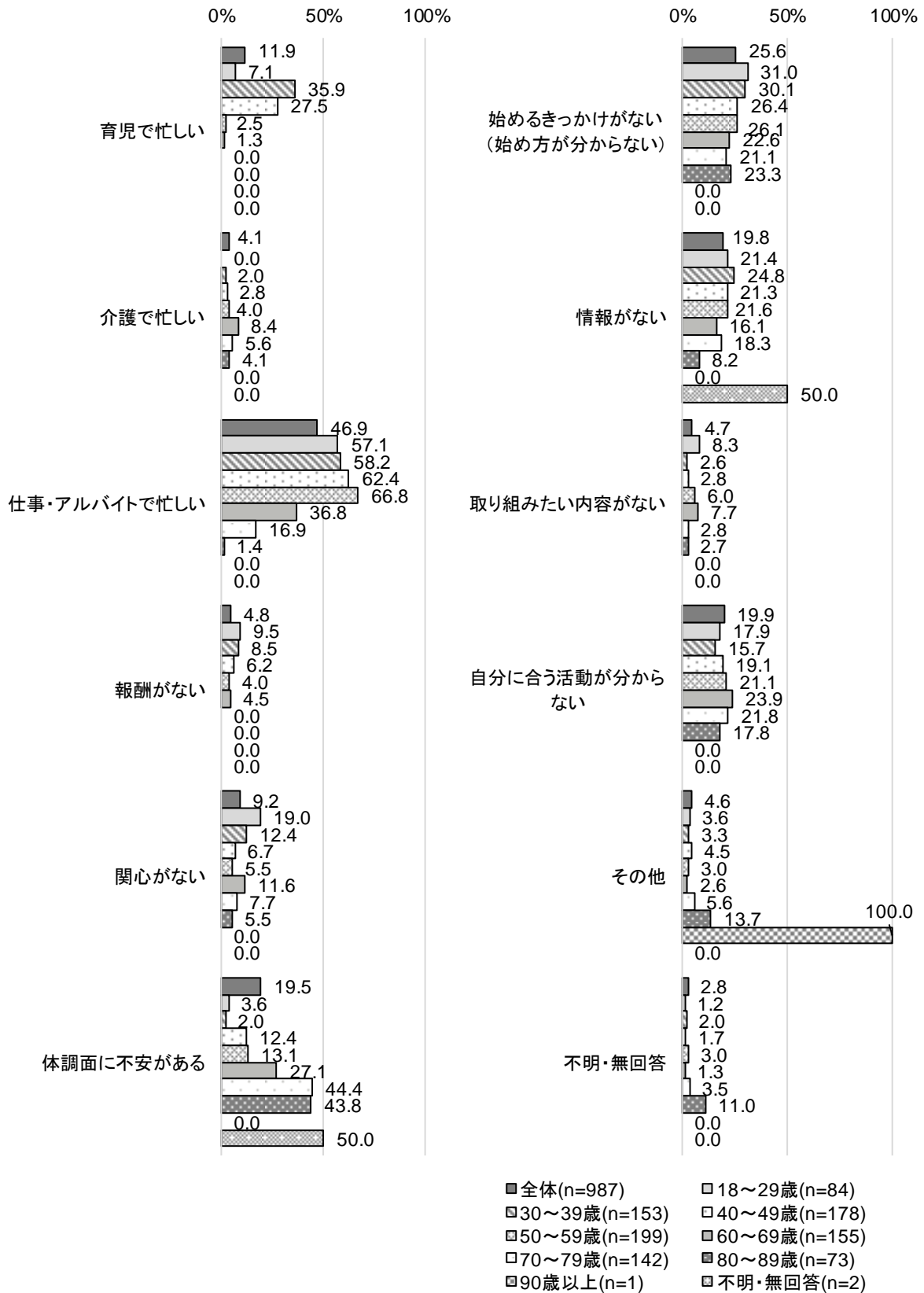
ボランティア活動に参加できない理由は、「仕事・アルバイトで忙しい」が 46.9%と割合が最も高く、次いで「始めるきっかけがない(始め方が分からない)」が 25.6%、「自分に合う活動が分からない」が 19.9%となっています。

年齢別にみると、60代以上で「仕事・アルバイトで忙しい」の割合が減少しています。

n=987



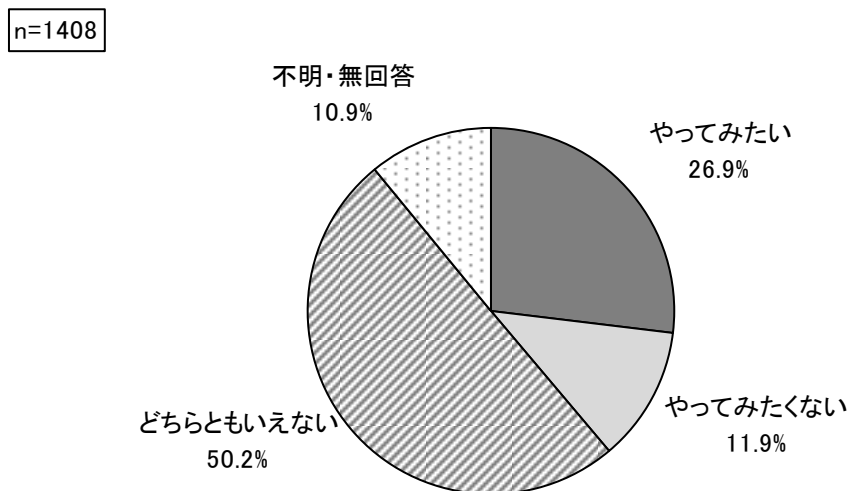
■問 21-1 ボランティア活動に参加できない理由×問6年齢



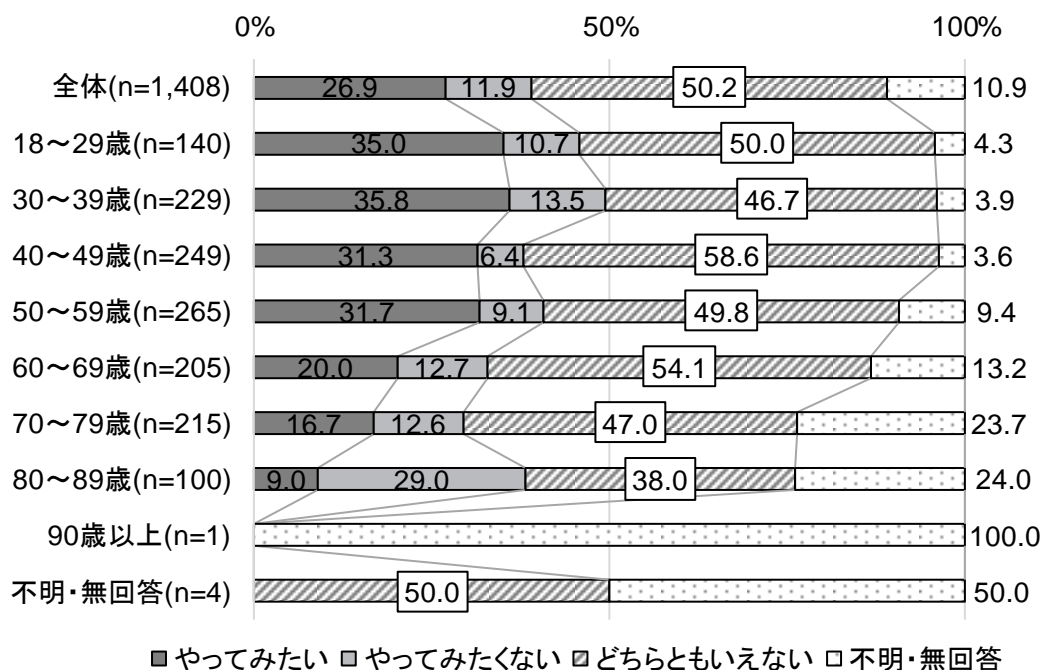
問 22 あなたは今後ボランティア活動する機会があればやってみたいですか。(1つに○)

ボランティア活動する機会があればしてみたいかは、「どちらともいえない」が 50.2%と割合が最も高く、次いで「やってみたい」が 26.9%、「やってみたくない」が 11.9%となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層も「どちらともいえない」の割合が最も高くなっています。



■問 22 ボランティア活動への参加意欲×問6年齢

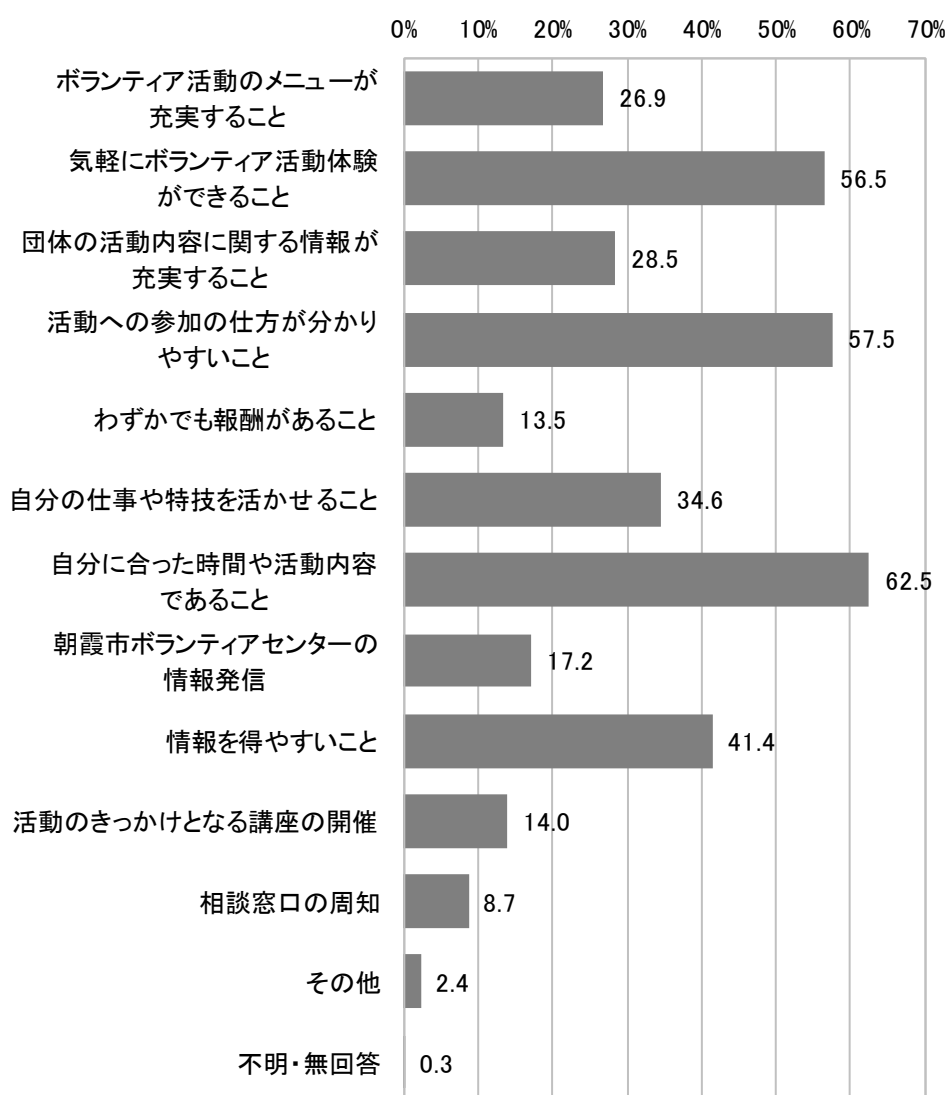


(問 22 で「1. やってみたい」と回答の方)

問 22-1 ボランティア活動をやりたいと思った時、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

ボランティア活動を始めると必要なのは、「自分に合った時間や活動内容であること」が62.5%と割合が最も高く、次いで「活動への参加の仕方が分かりやすいこと」が57.5%、「気軽にボランティア活動体験ができること」が56.5%となっています。

n=379

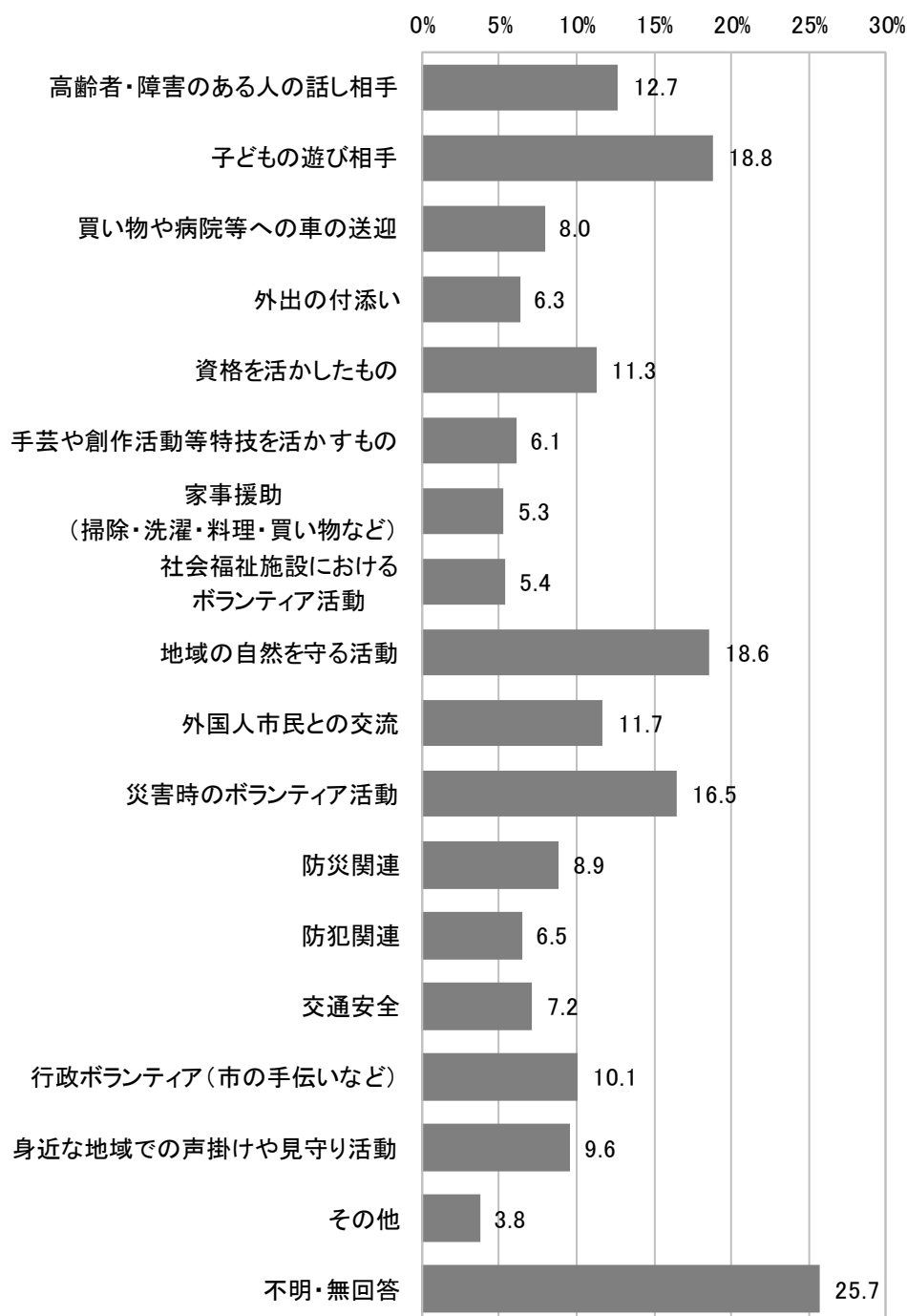


問 23 どのような内容のボランティア活動をやりたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

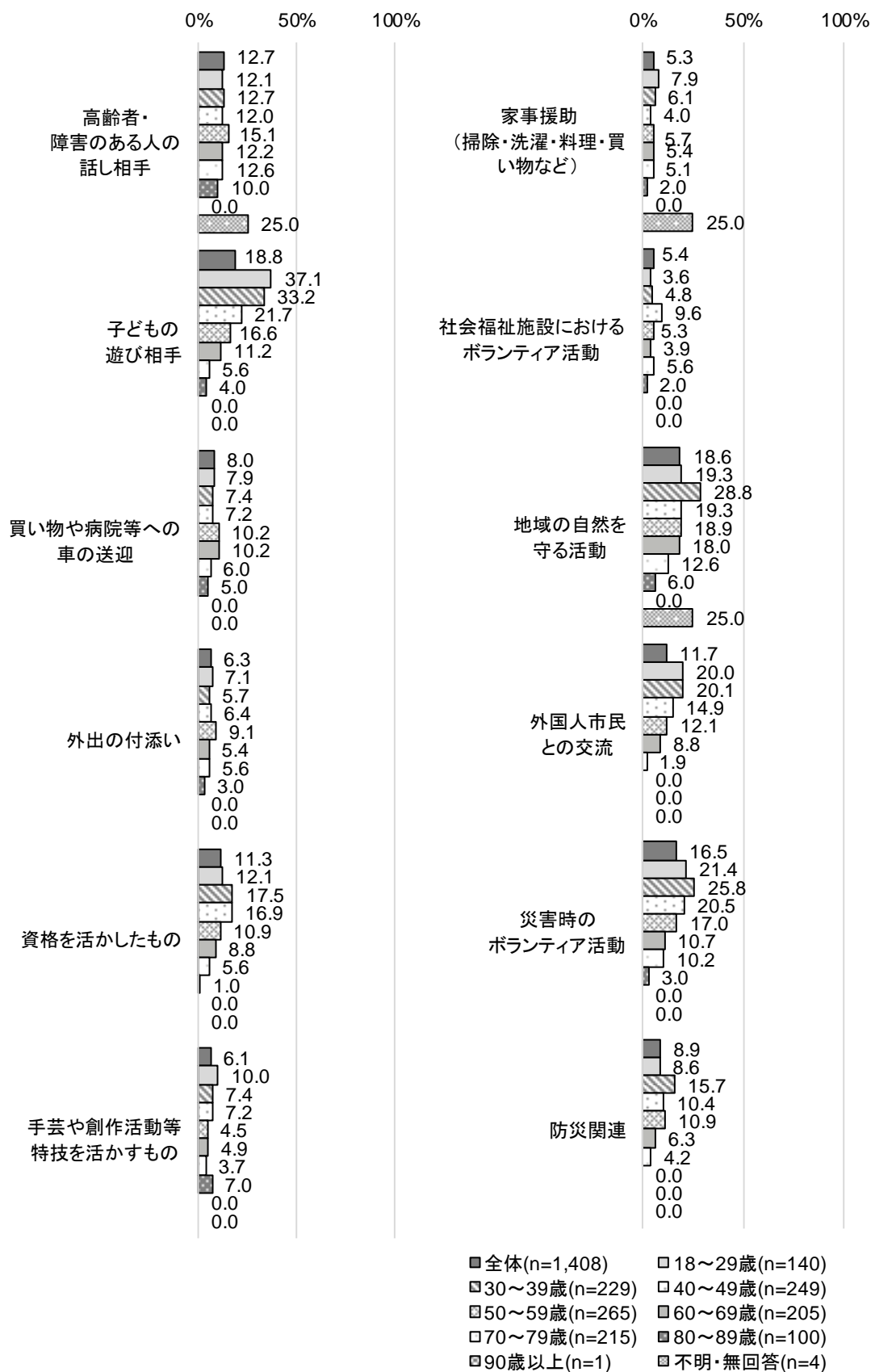
ボランティア活動をやりたい内容は、「子どもの遊び相手」が 18.8%と割合が最も高く、次いで「地域の自然を守る活動」が 18.6%、「災害時のボランティア活動」が 16.5%となっています。

年齢別にみると、年代が高い方が「子どもの遊び相手」の割合が低くなる傾向にあります。

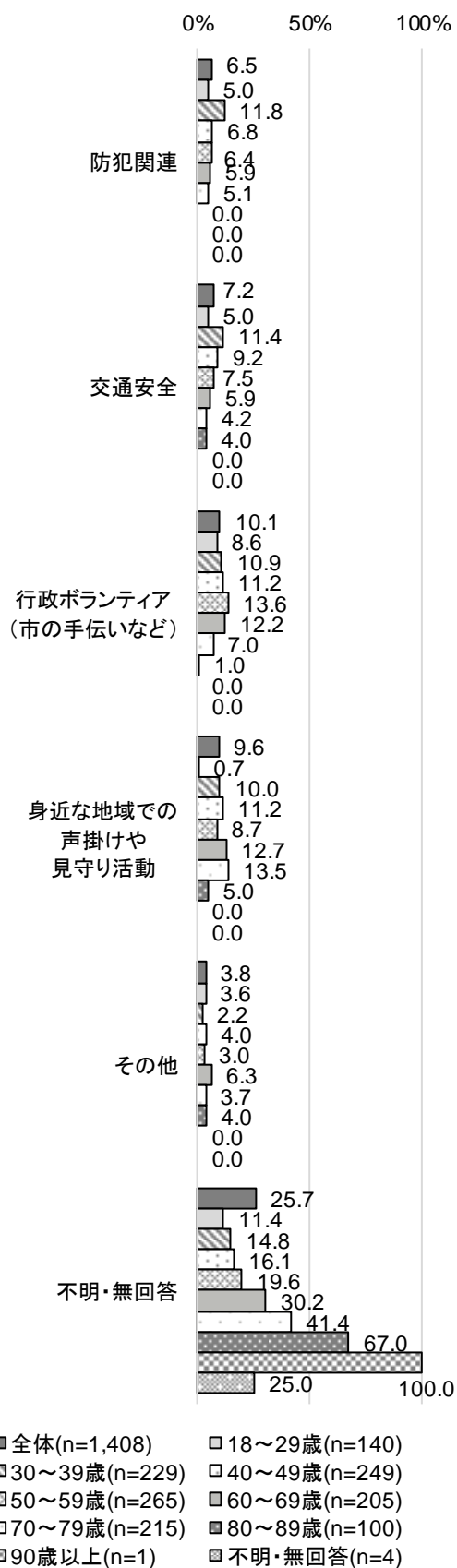
n=1408



■問 23 参加したいボランティアの内容×問6年齢（1/2）



■問 23 参加したいボランティアの内容×問6年齢 (2/2)



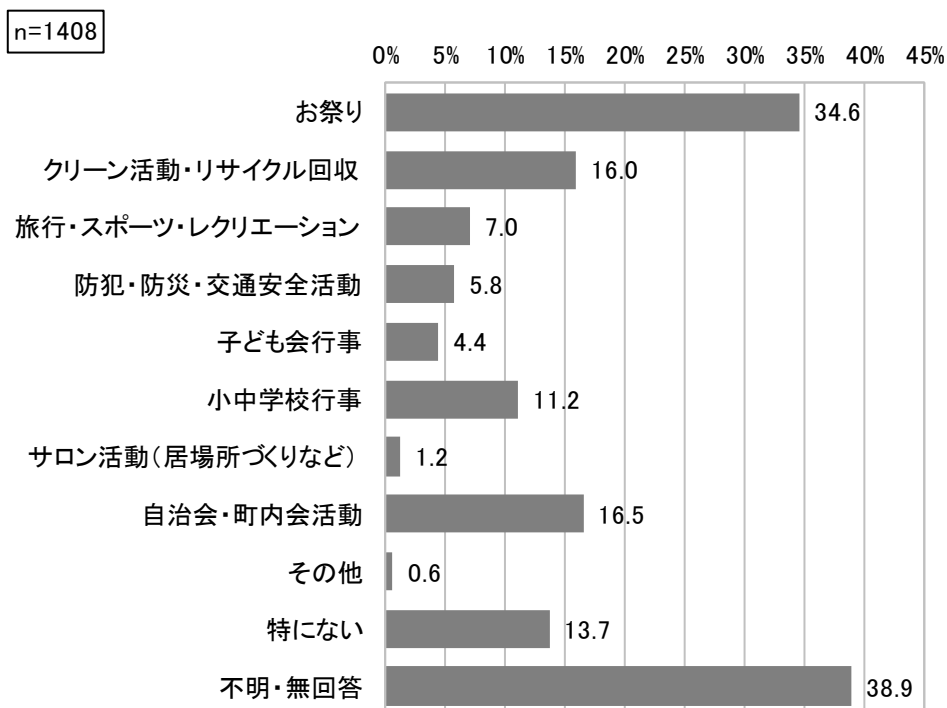
問 24 地域の活動・行事への参加状況について教えてください。

(1)直近3年間で、学校や仕事以外で、地域の活動・行事に参加したことがありますか。

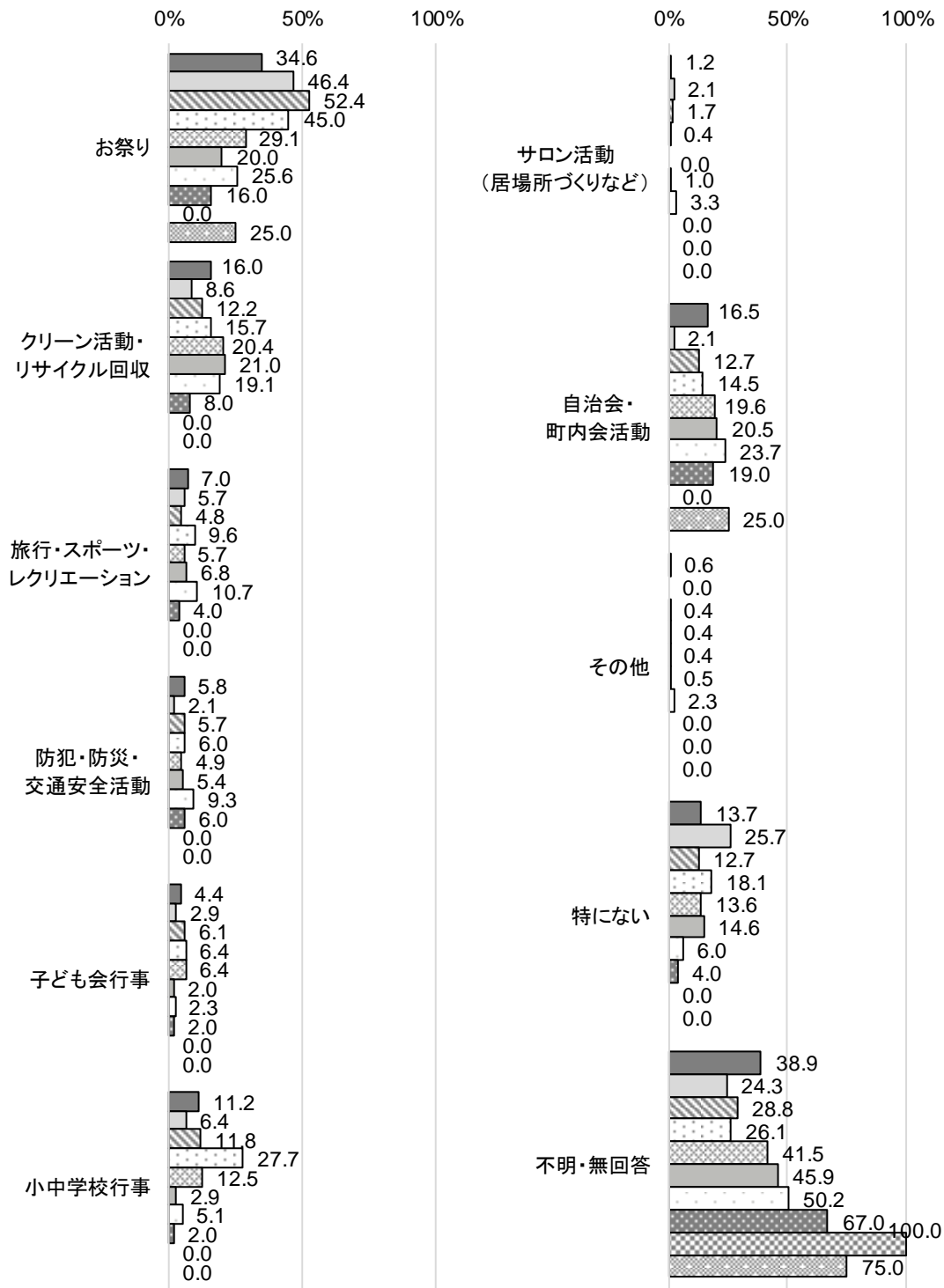
(あてはまるものすべてに○)

参加したことがある地域の活動・行事は、「お祭り」が34.6%と割合が最も高く、次いで「自治会・町内会活動」が16.5%、「クリーン活動・リサイクル回収」が16.0%となっています。

年齢別にみると、40代以下で「お祭り」の割合が最も高くなっています。



■問 24 地域活動・行事への参加状況×問6年齢



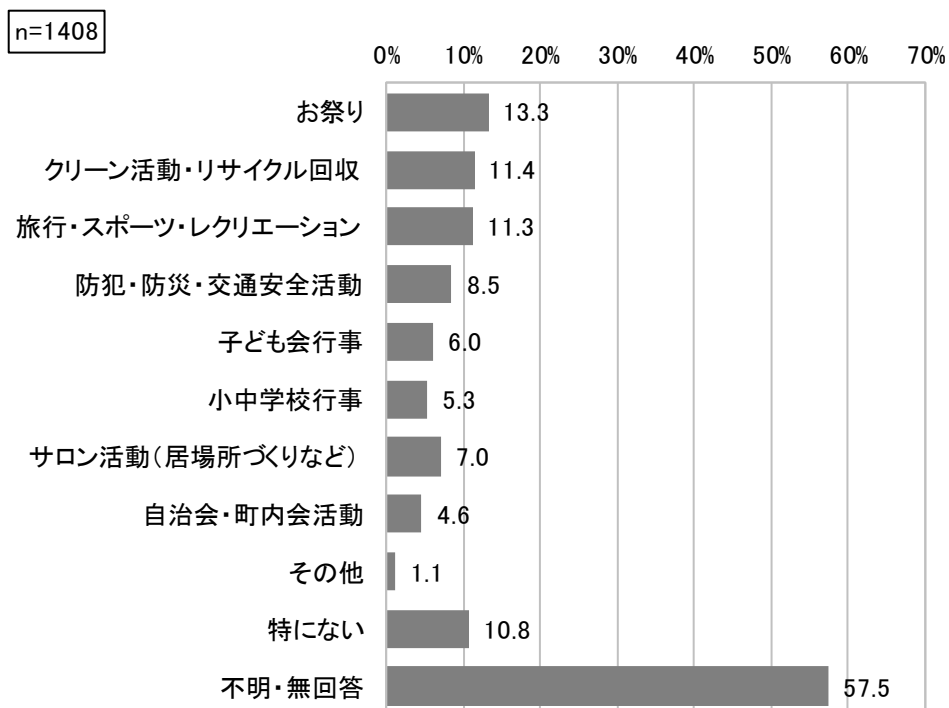
■全体(n=1,408) □18~29歳(n=140)
 □30~39歳(n=229) □40~49歳(n=249)
 □50~59歳(n=265) □60~69歳(n=205)
 □70~79歳(n=215) □80~89歳(n=100)
 □90歳以上(n=1) □不明・無回答(n=4)

問 24 地域の活動・行事への参加状況について教えてください。

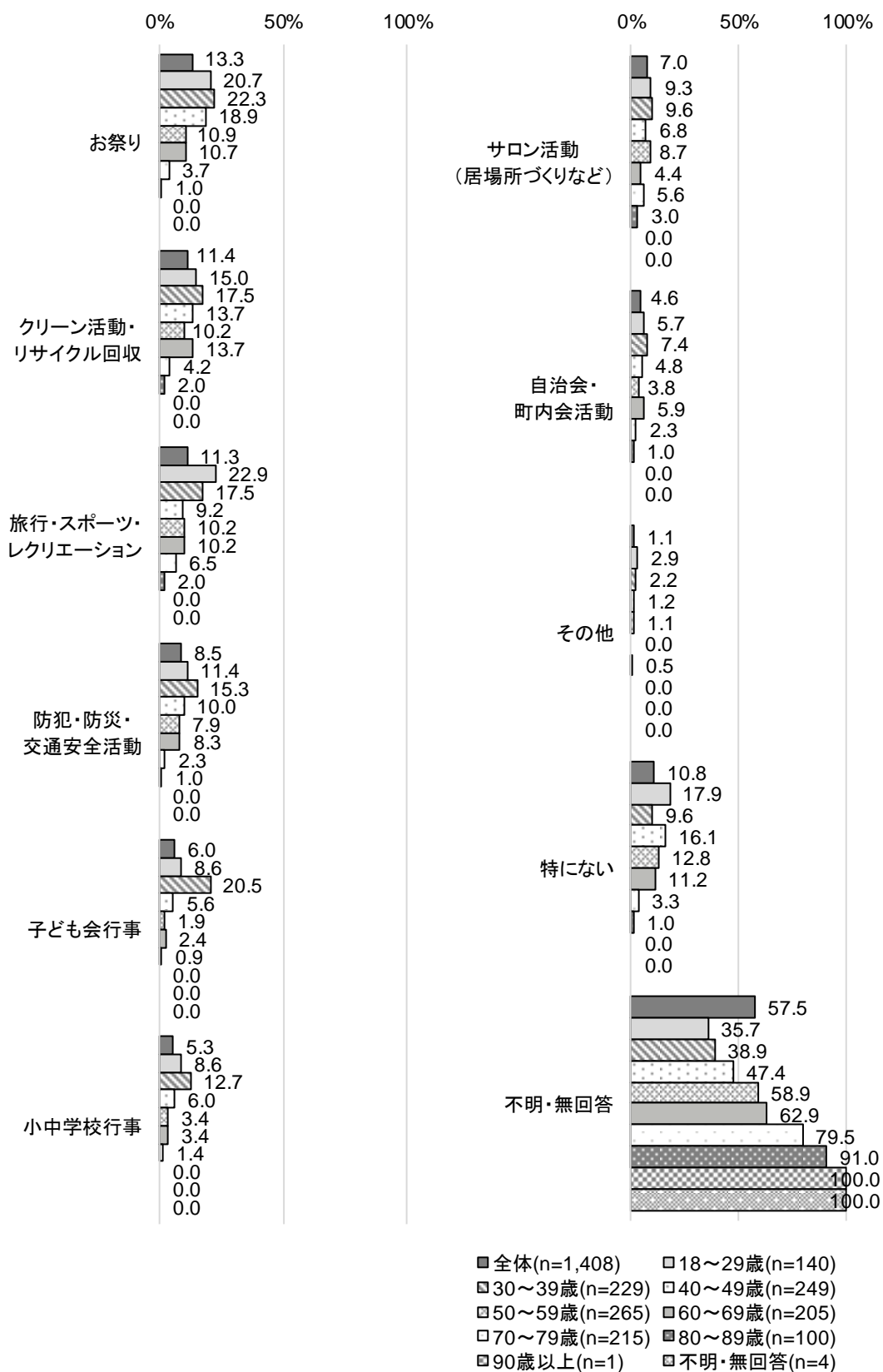
(2) 今後参加してみたい活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

今後参加してみたい地域の活動・行事は、「お祭り」が 13.3%と割合が最も高く、次いで「クリーン活動・リサイクル回収」が 11.4%、「旅行・スポーツ・レクリエーション」が 11.3%となっています。

年齢別にみると、年代が高い方が「お祭り」の割合が低くなる傾向にあります。



■問 24 今後参加したい地域活動・行事×問6年齢

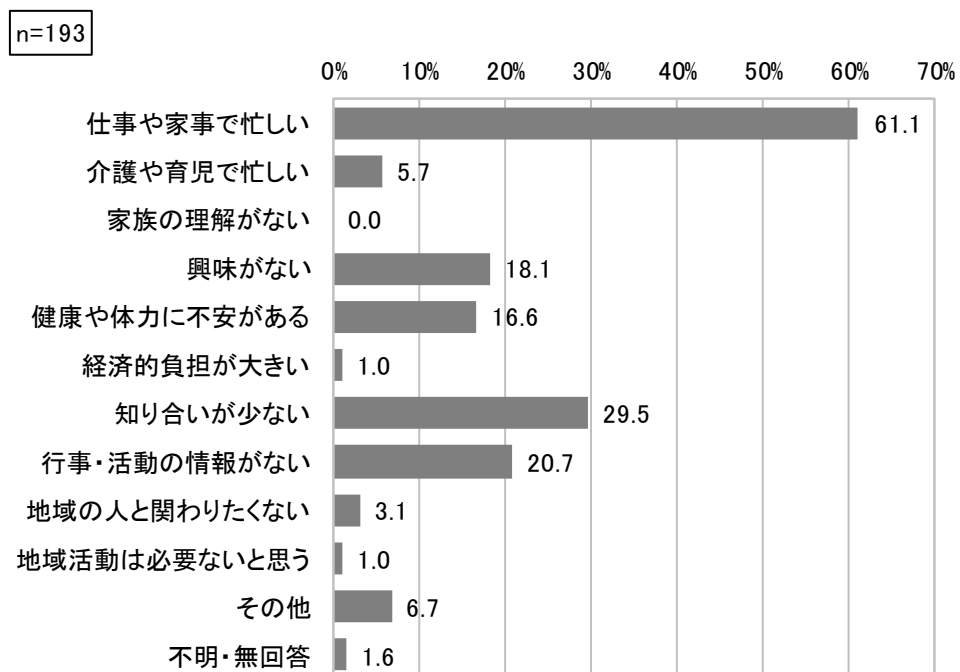


(問 24.1 で「1.参加したことがある」と回答の方)

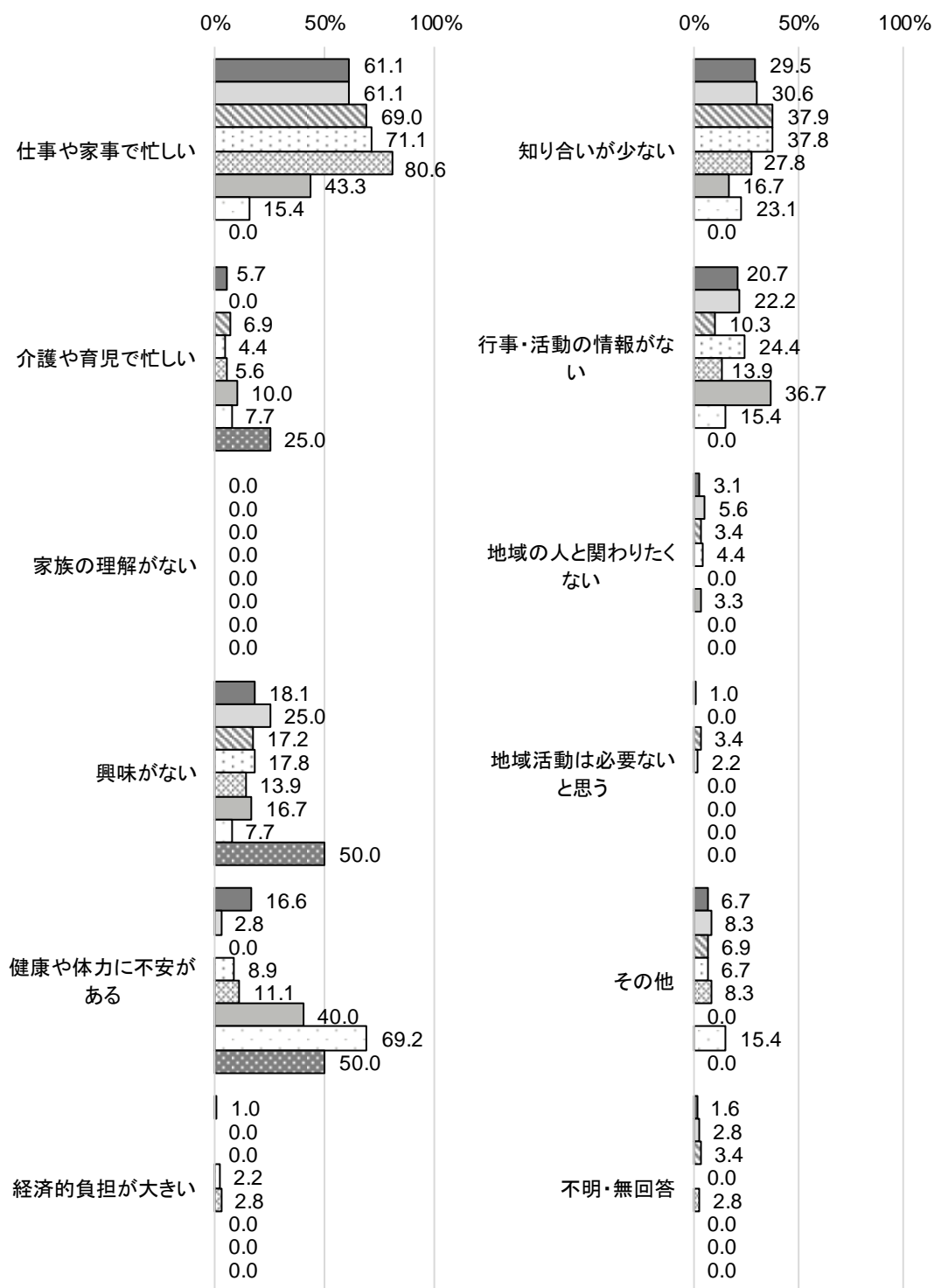
問 24-1 あなたが地域の活動や行事に参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域の活動や行事に参加していない理由は、「仕事や家事で忙しい」が61.1%と割合が最も高く、次いで「知り合いが少ない」が29.5%、「行事・活動の情報がない」が20.7%となっています。

年齢別にみると、60代以下で「仕事や家事で忙しい」の割合が最も高くなっています。



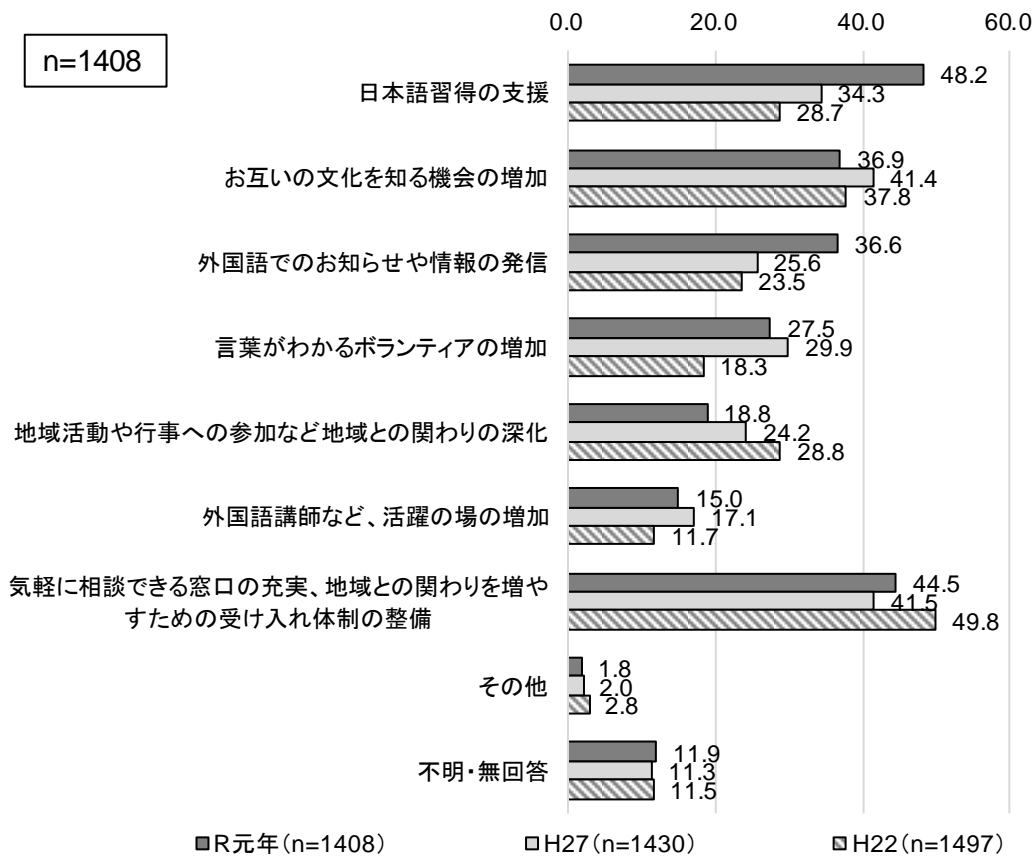
■問 24-1 地域活動・行事に参加していない理由×問6年齢



■全体(n=193) □18~29歳(n=36)
 ▨30~39歳(n=29) □40~49歳(n=45)
 ▩50~59歳(n=36) □60~69歳(n=30)
 □70~79歳(n=13) ■80~89歳(n=4)

問 25 外国人市民にとっても、暮らしやすい地域にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

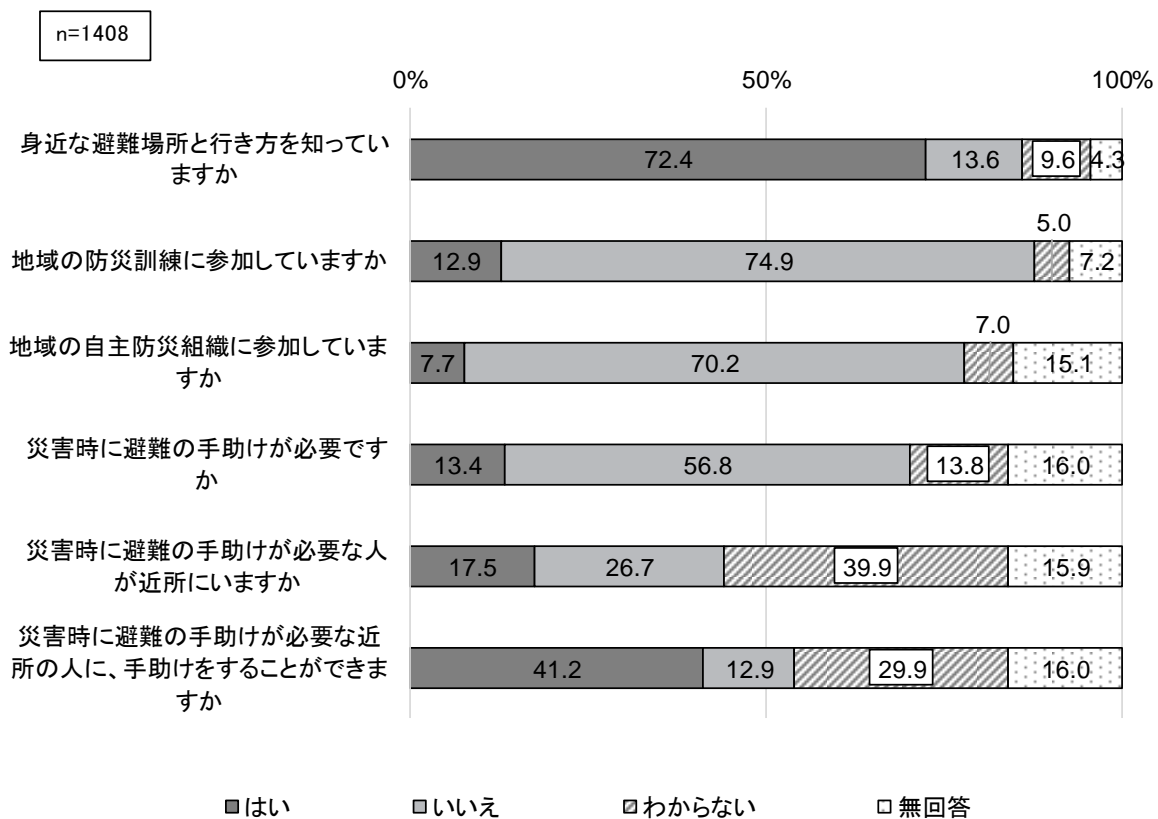
外国人市民にも暮らしやすい地域づくりに向けて大事なことは、「日本語習得の支援」が48.2%と割合が最も高く、次いで「気軽に相談できる窓口の充実、地域との関わりを増やすための受け入れ体制の整備」が44.5%、「お互いの文化を知る機会の増加」が36.9%となっています。



8 防災活動について

問 26 防災に関連する項目について、①～⑥のそれぞれあてはまるものをお答えください。／身近な避難場所と行き方を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

防災に関連する各項目は、「身近な避難場所と行き方を知っていますか」で「はい」が72.4%、「災害時に避難の手助けが必要な近所の人に、手助けをすることができますか」で「はい」が41.2%となっています。一方で、「地域の自主防災組織に参加していますか」で「はい」が10%未満となっています。

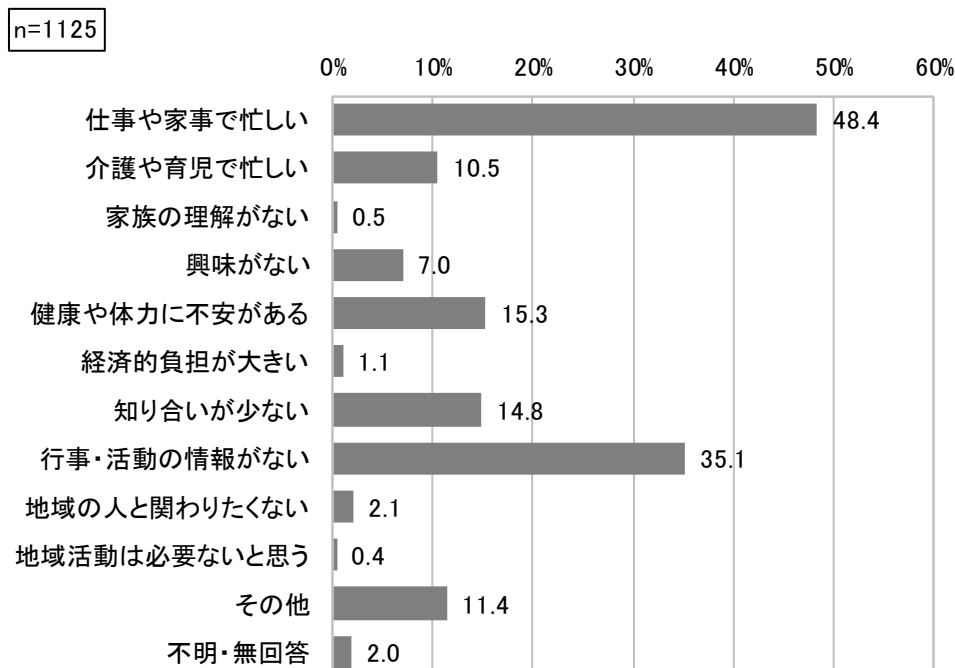


(問 26.2 で「2.いいえ」、「3.わからない」と回答の方)

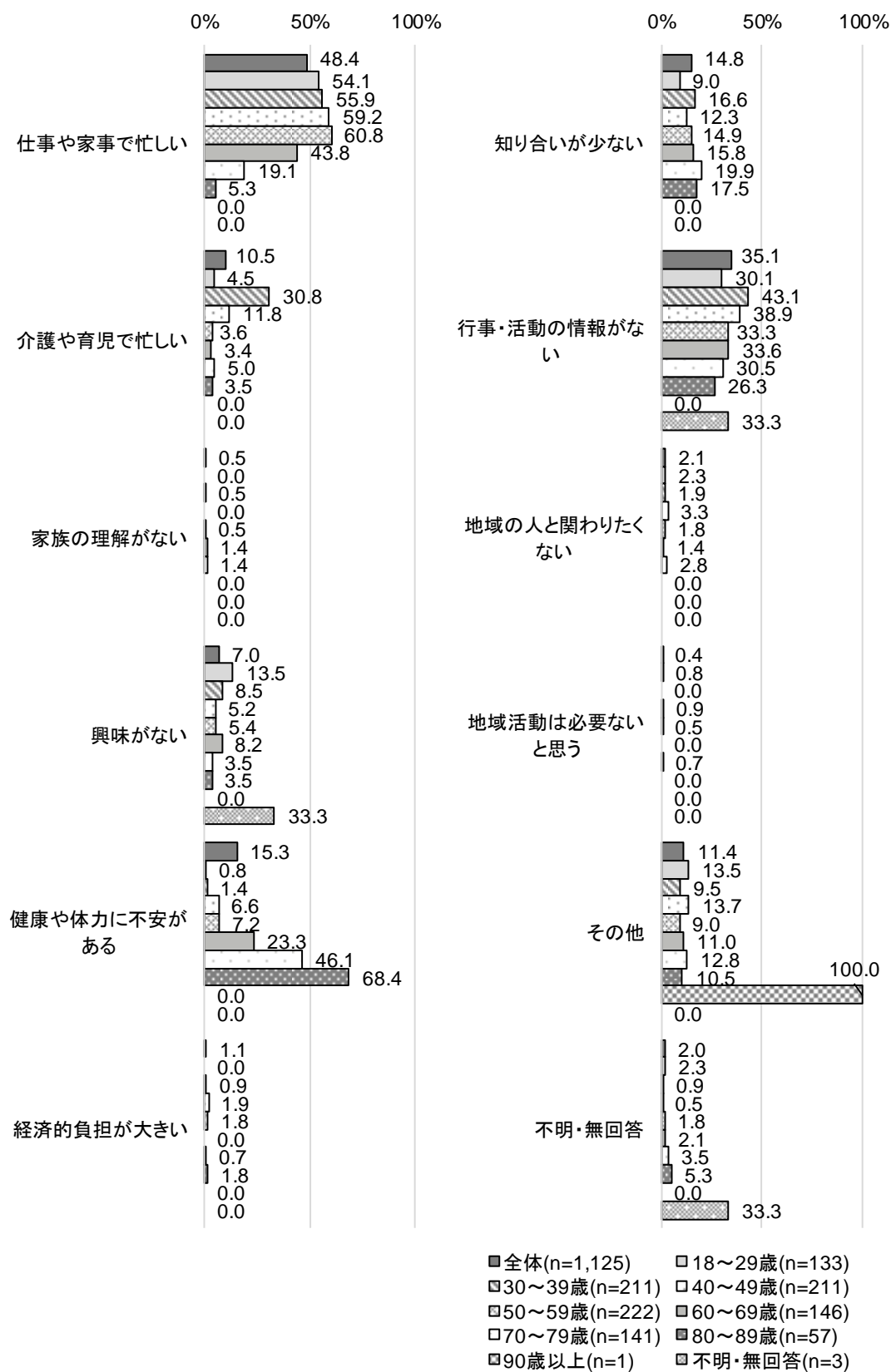
問 26-1 あなたが地域の防災訓練に参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域の防災訓練に参加していない理由は、「仕事や家事で忙しい」が 48.4%と割合が最も高く、次いで「行事・活動の情報がない」が 35.1%、「健康や体力に不安がある」が 15.3%となっています。

年齢別にみると、60代以下で「仕事や家事で忙しい」の割合が最も高くなっています。



■問 26-1 防災訓練に参加していない理由×問6年齢

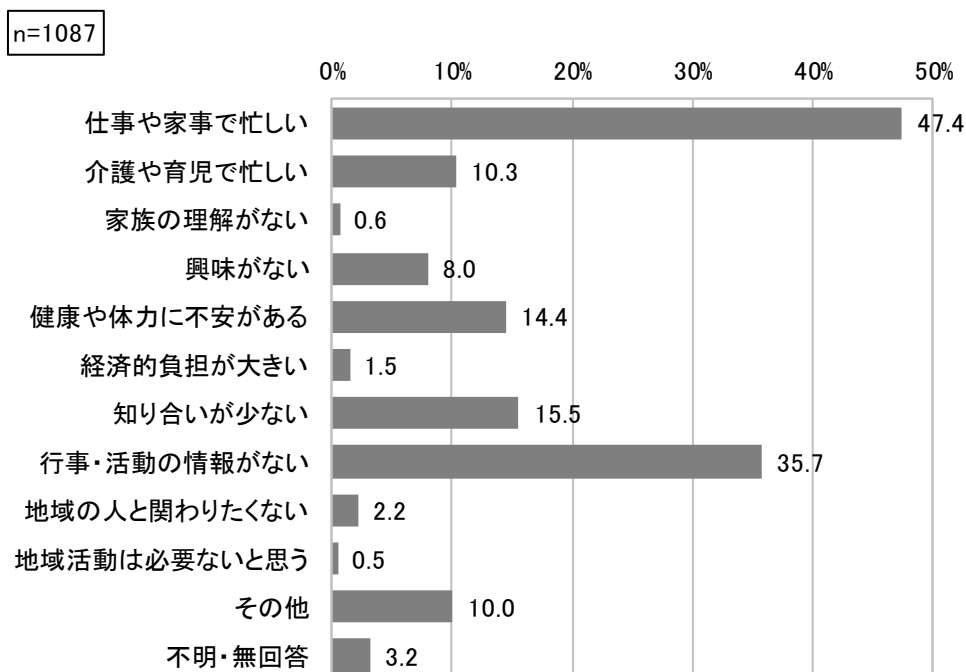


(問 26.3 で「2.いいえ」、「3.わからない」と回答の方)

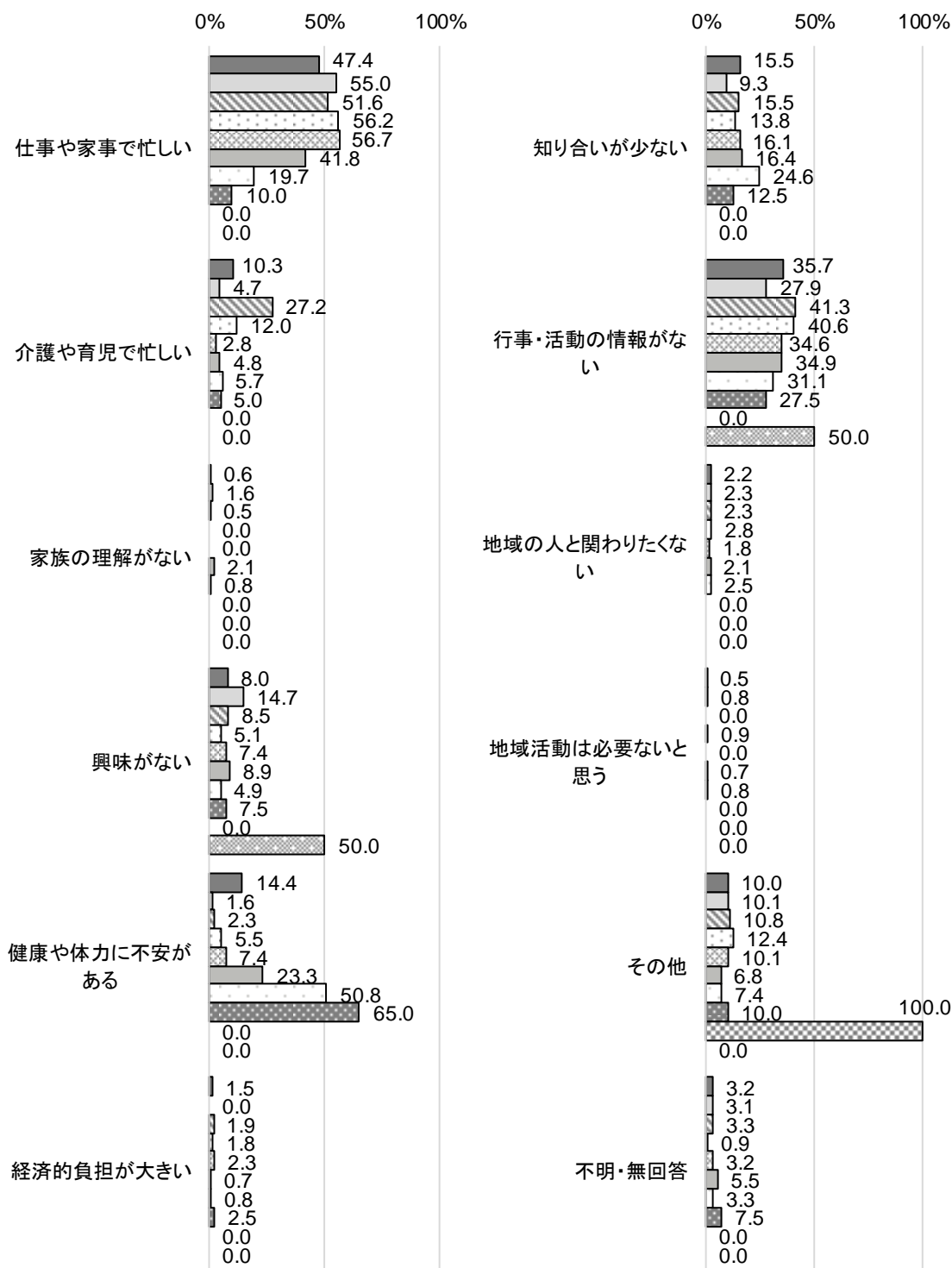
問 26-2 あなたが地域の自主防災組織に参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

地域の防災組織に参加していない理由は、「仕事や家事で忙しい」が 47.4%と割合が最も高く、次いで「行事・活動の情報がない」が 35.7%、「知り合いが少ない」が 15.5%となっています。

年齢別にみると、60代以下で「仕事や家事で忙しい」の割合が最も高くなっています。



■問 26-2 地域の自主防災組織に参加していない理由×問6年齢

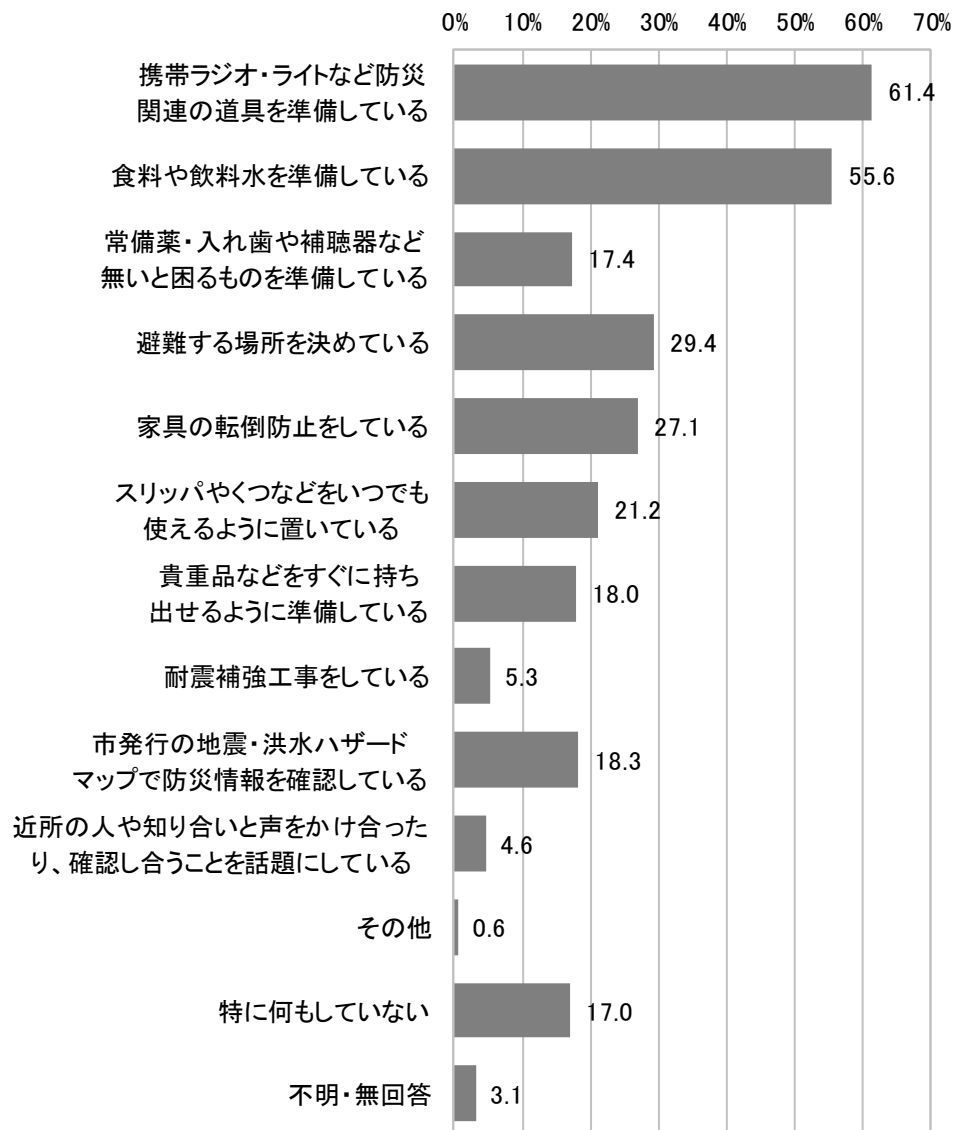


■全体(n=1,087) □18~29歳(n=129)
 ▨30~39歳(n=213) □40~49歳(n=217)
 ▩50~59歳(n=217) □60~69歳(n=146)
 □70~79歳(n=122) ■80~89歳(n=40)
 □90歳以上(n=1) □不明・無回答(n=2)

問 27 災害時の備えとして、普段どのようなことをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

災害時の備えとして普段していることは、「携帯ラジオ・ライトなど防災関連の道具を準備している」が61.4%と割合が最も高く、次いで「食料や飲料水を準備している」が55.6%、「避難する場所を決めている」が29.4%となっています。

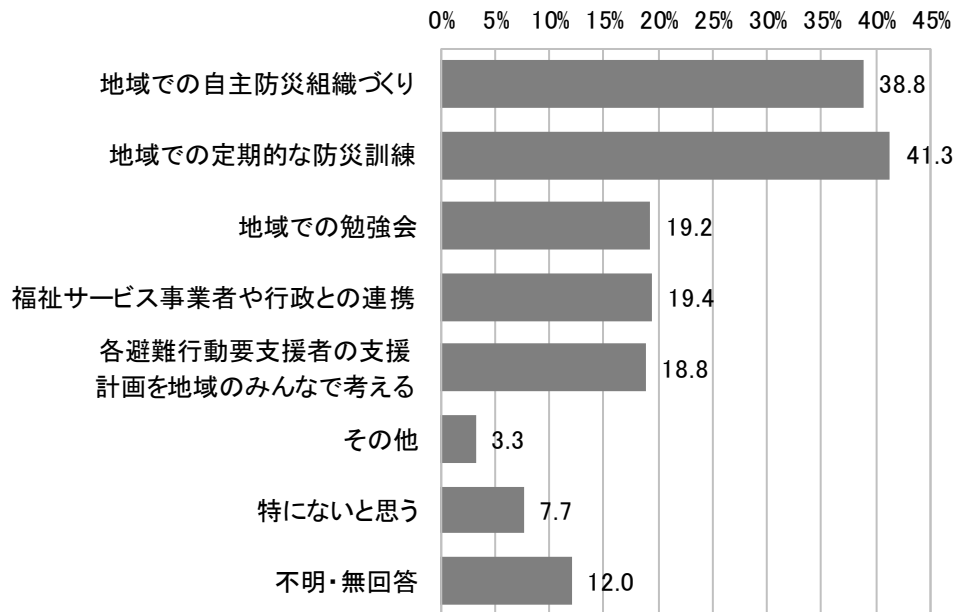
n=1408



問 28 地震や火災等の災害時に住民同士が協力し合えるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇は3つまで)

災害時に住民同士が協力し合うために必要なことは、「地域での定期的な防災訓練」が41.3%と割合が最も高く、次いで「地域での自主防災組織づくり」が38.8%、「福祉サービス事業者や行政との連携」が19.4%となっています。

n=1408



9 「地域共生社会」の実現に向けた地域のつながりについて

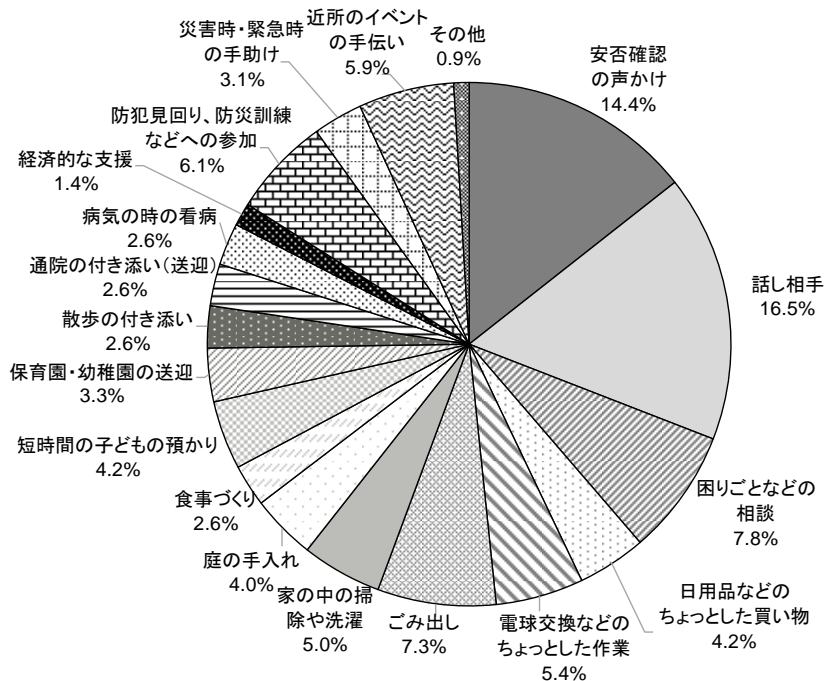
問 29 あなたは、地域に困っている世帯がある場合、現在既に「手助けしていること」や今後「手助けできること」はありますか。また、現在もしくは将来的に、あなた自身が地域の人に「手助けしてもらいたいこと」はありますか。(あてはまるものすべてに○)

地域の困っている世帯に対して「手助けしていること」は、「話し相手」が5%と割合が最も高く、次いで「安否確認の声かけ」が4.3%、「困りごとなどの相談」が2.3%となっています。「手助けできること」は、「安否確認の声かけ」が52.1%と割合が最も高く、次いで「日用品などのちょっとした買い物」が38.7%、「災害時・緊急時の手助け」が38.2%となっています。「手助けしてもらいたいこと」は、「安否確認の声かけ」が16.2%と割合が最も高く、次いで「災害時・緊急時の手助け」が14.4%、「困りごとなどの相談」が9.9%となっています。

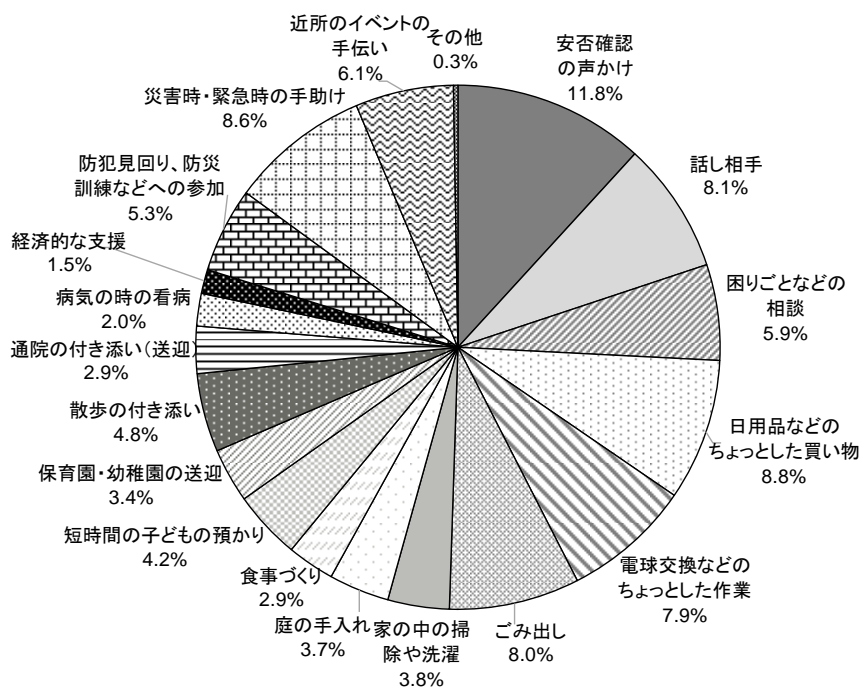
		全体	1	2	3	無回答	
			[他人に関すること] 手助けしていること	[他人に関すること] 手助けできること	[自身に関すること] 手助けしてもらいたいこと		
問29.1	安否確認の声かけ	回答数 %	1408 100.0	61 4.3	734 52.1	228 16.2	555 39.4
問29.2	話し相手	回答数 %	1408 100.0	70 5.0	505 35.9	68 4.8	826 58.7
問29.3	困りごとなどの相談	回答数 %	1408 100.0	33 2.3	368 26.1	140 9.9	930 66.1
問29.4	日用品などのちょっとした買い物	回答数 %	1408 100.0	18 1.3	545 38.7	67 4.8	822 58.4
問29.5	電球交換などのちょっとした作業	回答数 %	1408 100.0	23 1.6	493 35.0	84 6.0	837 59.4
問29.6	ごみ出し	回答数 %	1408 100.0	31 2.2	501 35.6	57 4.0	852 60.5
問29.7	家の中の掃除や洗濯	回答数 %	1408 100.0	21 1.5	236 16.8	46 3.3	1121 79.6
問29.8	庭の手入れ	回答数 %	1408 100.0	17 1.2	232 16.5	57 4.0	1116 79.3
問29.9	食事づくり	回答数 %	1408 100.0	11 0.8	182 12.9	55 3.9	1177 83.6
問29.10	短時間の子どもの預かり	回答数 %	1408 100.0	18 1.3	263 18.7	97 6.9	1070 76.0
問29.11	保育園・幼稚園の送迎	回答数 %	1408 100.0	14 1.0	209 14.8	79 5.6	1126 80.0
問29.12	散歩の付き添い	回答数 %	1408 100.0	11 0.8	302 21.4	13 0.9	1090 77.4
問29.13	通院の付き添い(送迎)	回答数 %	1408 100.0	11 0.8	181 12.9	84 6.0	1147 81.5
問29.14	病気の時の看病	回答数 %	1408 100.0	11 0.8	125 8.9	76 5.4	1214 86.2
問29.15	経済的な支援	回答数 %	1408 100.0	6 0.4	92 6.5	79 5.6	1238 87.9
問29.16	防犯見回り、防災訓練などへの参加	回答数 %	1408 100.0	26 1.8	327 23.2	56 4.0	1028 73.0
問29.17	災害時・緊急時の手助け	回答数 %	1408 100.0	13 0.9	538 38.2	203 14.4	775 55.0
問29.18	近所のイベントの手伝い	回答数 %	1408 100.0	25 1.8	377 26.8	22 1.6	1001 71.1
問29.19	その他	回答数 %	1408 100.0	4 0.3	17 1.2	5 0.4	1385 98.4

※下記のグラフは、「手助けしていること」「手助けできること」「手助けしてほしいこと」において、項目ごとの割合をグラフにて示したものになります。割合の算出方法は、「手助けしていること」「手助けできること」「手助けしてほしいこと」の回答の実数を合計して、各項目の割合を算出しています。

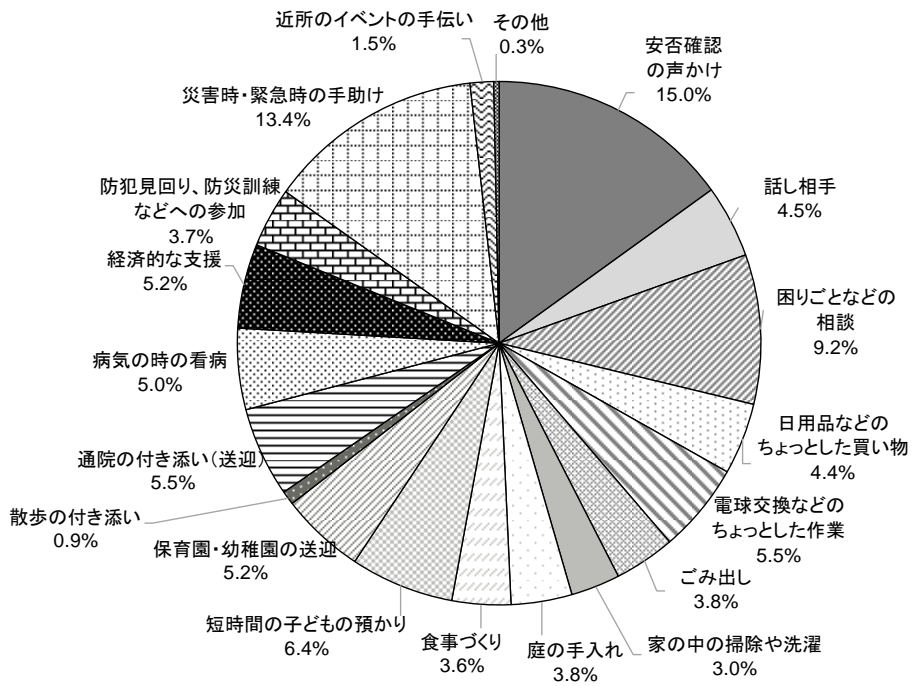
「手助けしていること」



「手助けできること」



「手助けしてほしいこと」

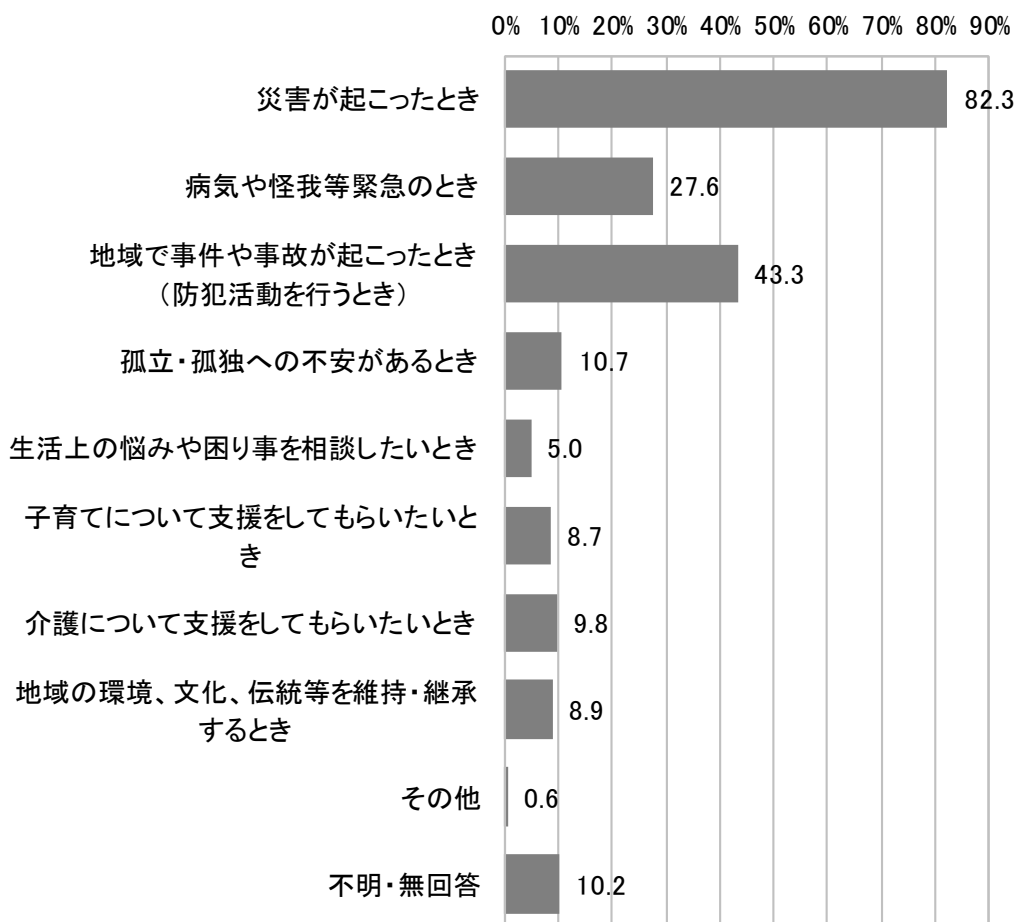


問 30 地域のつながりが必要と感じる時はどのような時ですか。(〇は3つまで)

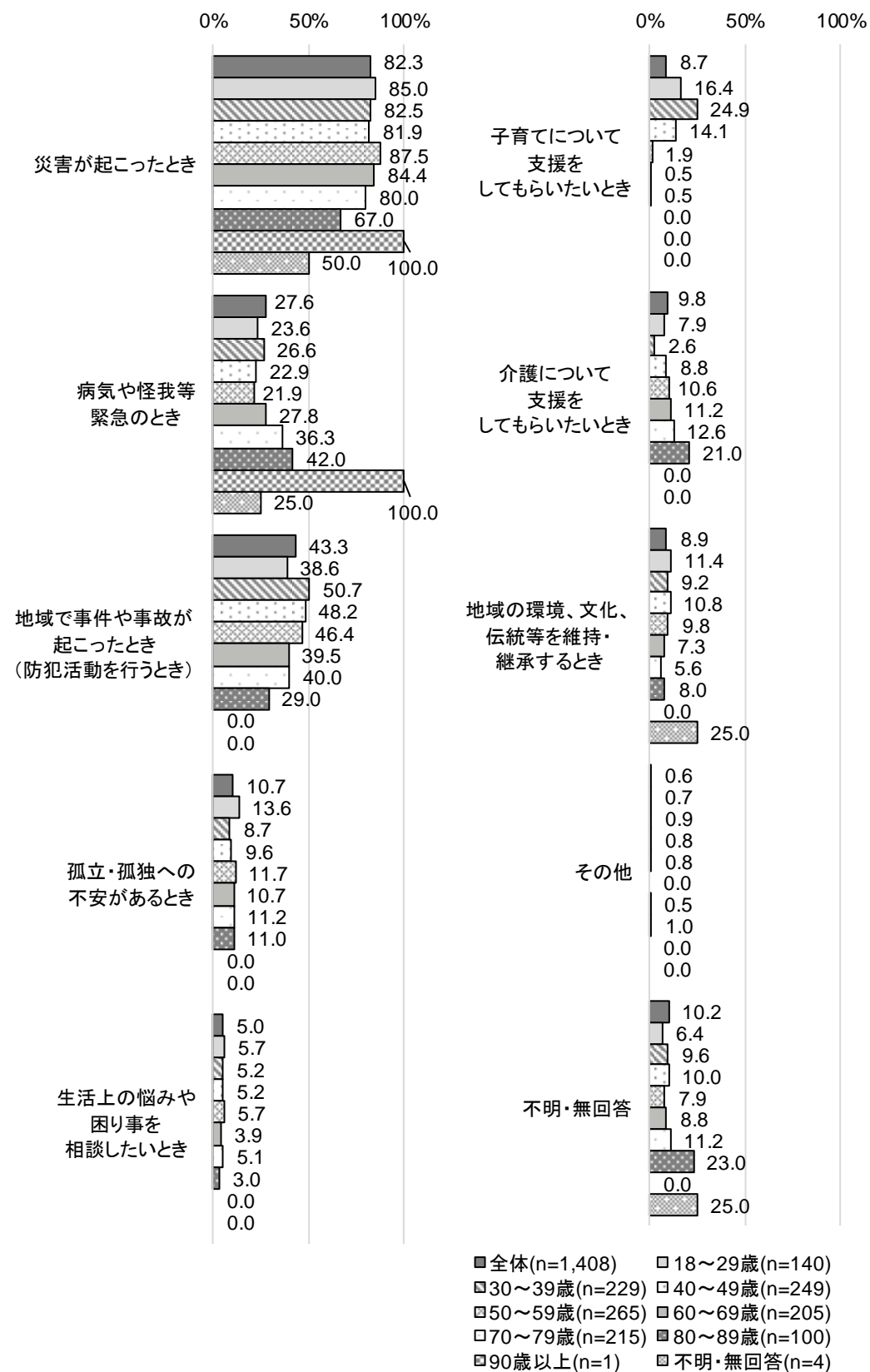
地域のつながりが必要と感じる時は、「災害が起こったとき」が 82.3%と割合が最も高く、次いで「地域で事件や事故が起こったとき（防犯活動を行うとき）」が 43.3%、「病気や怪我等緊急のとき」が 27.6%となっています。

年齢別にみると、いずれの年齢層も「災害が起こったとき」の割合が最も高くなっています。

n=1408



■問 30 地域のつながりが必要だと感じるタイミング×問6年齢

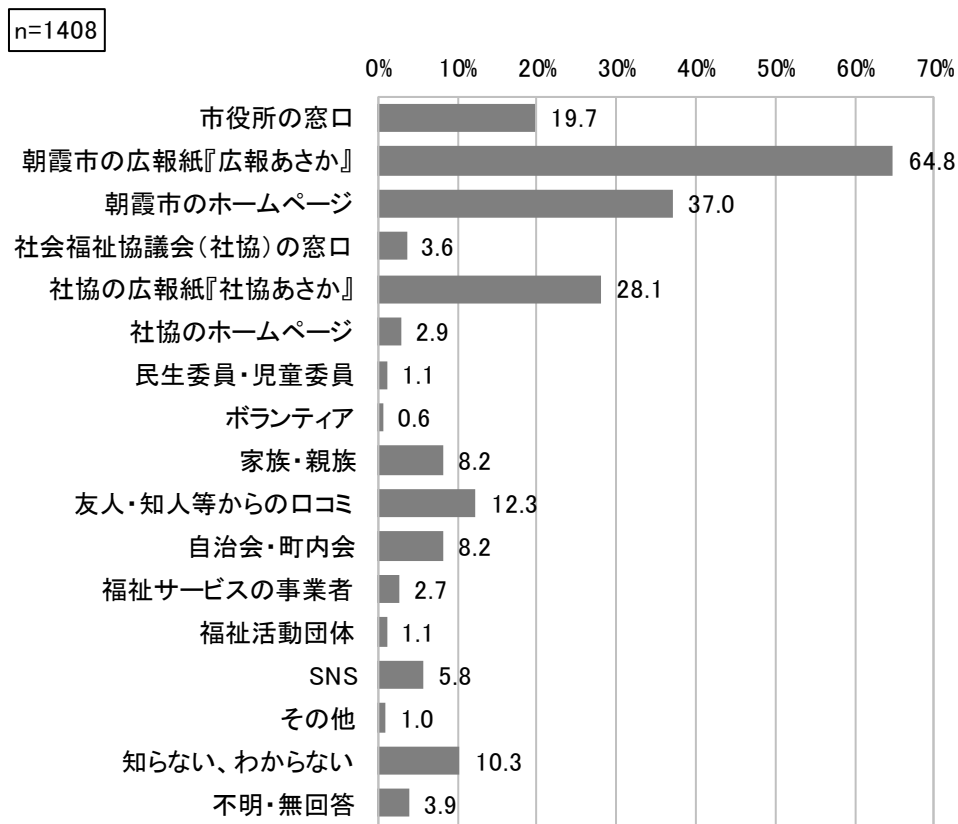


10 朝霞市の福祉について

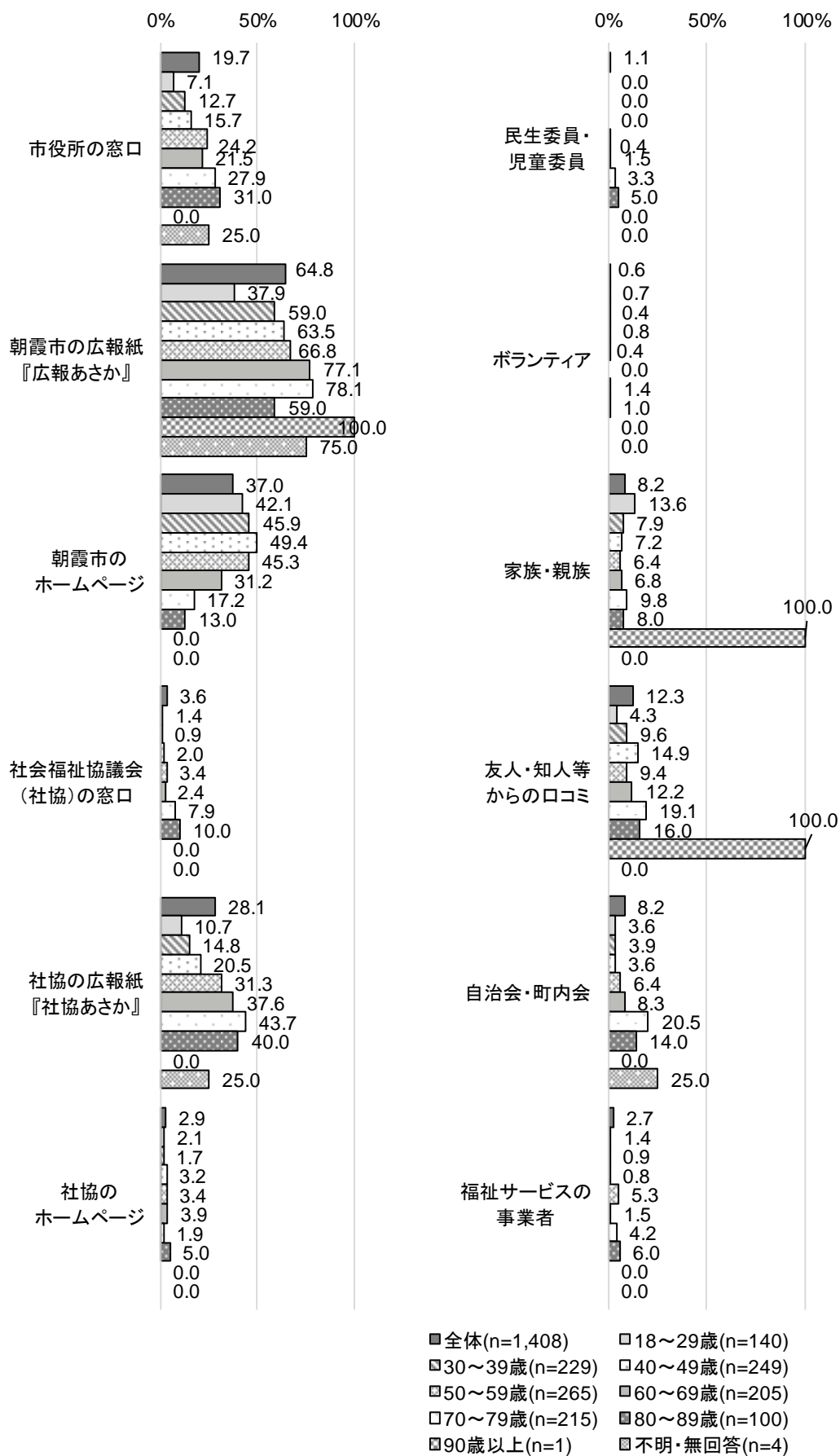
問 31 朝霞市の福祉についての情報はどこから手に入れますか。(あてはまるものすべてに○)

朝霞市の福祉情報の入手先は、「朝霞市の広報紙『広報あさか』」が64.8%と割合が最も高く、次いで「朝霞市のホームページ」が37%、「社協の広報紙『社協あさか』」が28.1%となっています。

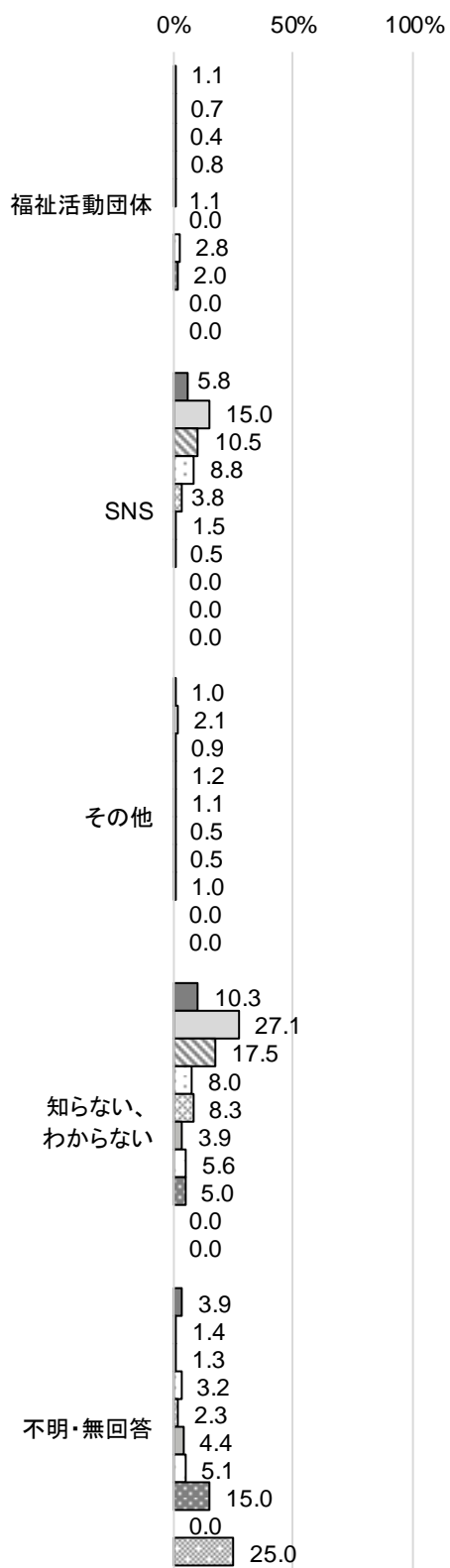
年齢別にみると、70代までは「朝霞市の広報紙『広報あさか』」の割合が高くなる傾向にあります。



■問 31 朝霞市の福祉に関する情報の入手先×問6年齢（1/2）



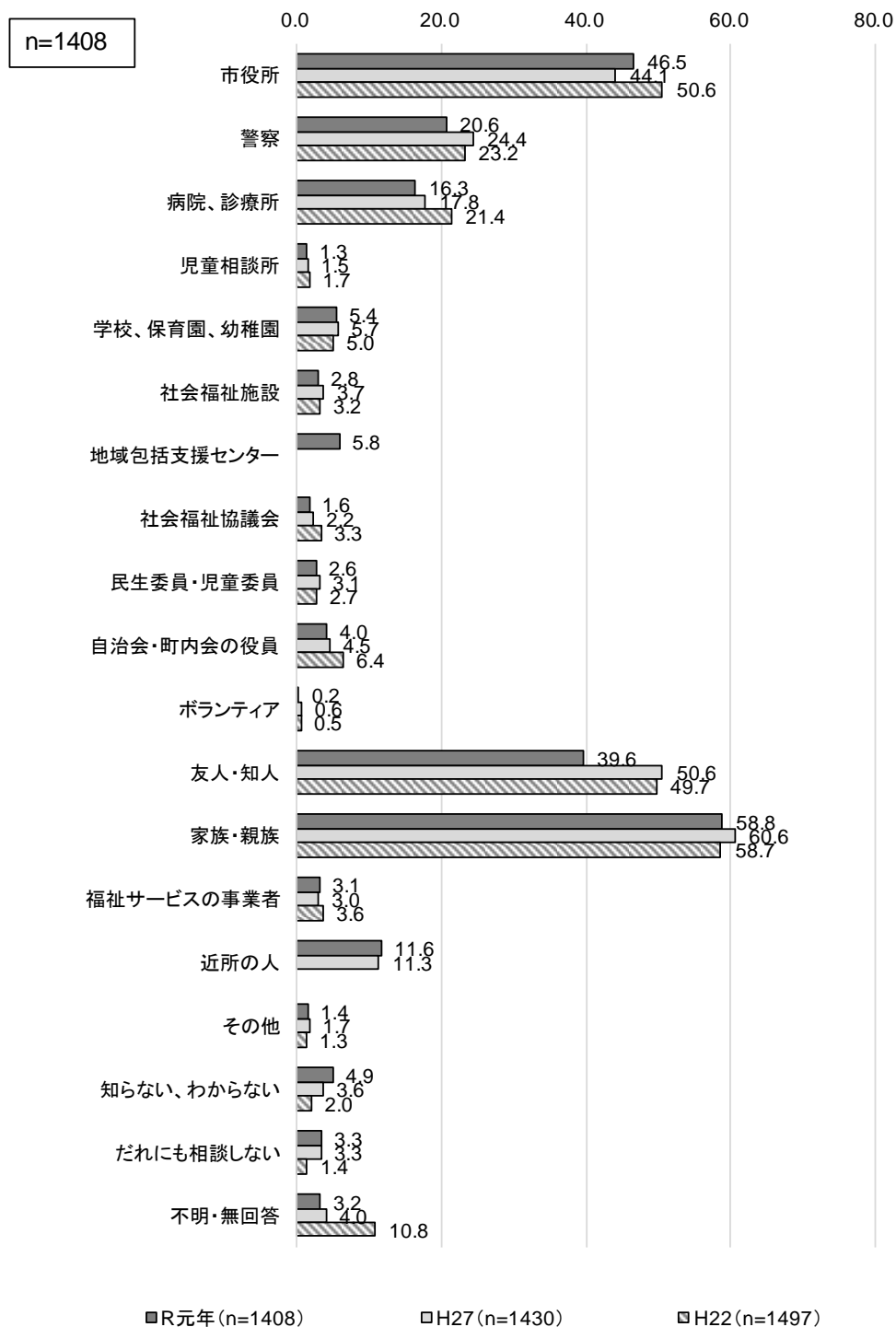
■問 31 朝霞市の福祉に関する情報の入手先×問6年齢 (2/2)



- 全体(n=1,408)
- 18~29歳(n=140)
- ▣ 30~39歳(n=229)
- ▤ 40~49歳(n=249)
- ▥ 50~59歳(n=265)
- ▦ 60~69歳(n=205)
- ▧ 70~79歳(n=215)
- ▨ 80~89歳(n=100)
- ▩ 90歳以上(n=1)
- ◻ 不明・無回答(n=4)

問 32 日常生活で困ったことがあった場合、どこに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

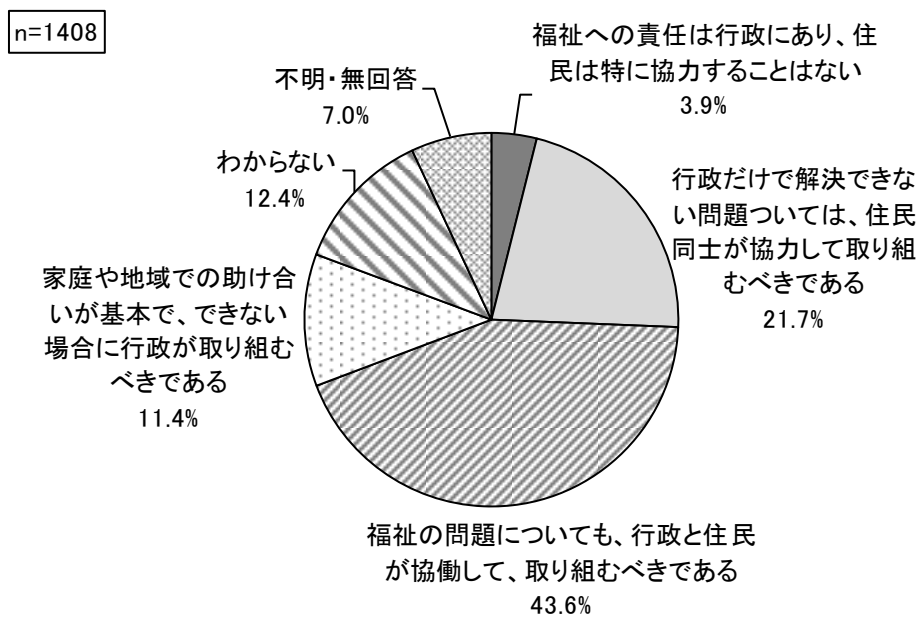
日常生活で困ったことがあった場合の相談先は、「家族・親族」が 58.8%と割合が最も高く、次いで「市役所」が 46.5%、「友人・知人」が 39.6%となっています。



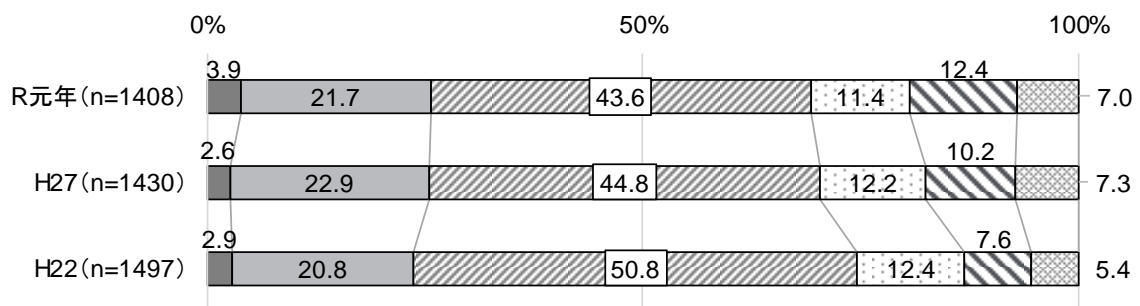
問 33 福祉のまちづくりに向けた、行政と地域住民の関係について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(1つに○)

福祉のまちづくりに向けた行政と地域住民の関係は、「福祉の問題についても、行政と住民が協働して、取り組むべきである」が43.6%と割合が最も高く、次いで「行政だけで解決できない問題については、住民同士が協力して取り組むべきである」が21.7%、「わからない」が12.4%となっています。

前回調査との比較では、「福祉の問題についても、行政と住民が協働して、取り組むべきである」の割合が1.2ポイント減少しています。



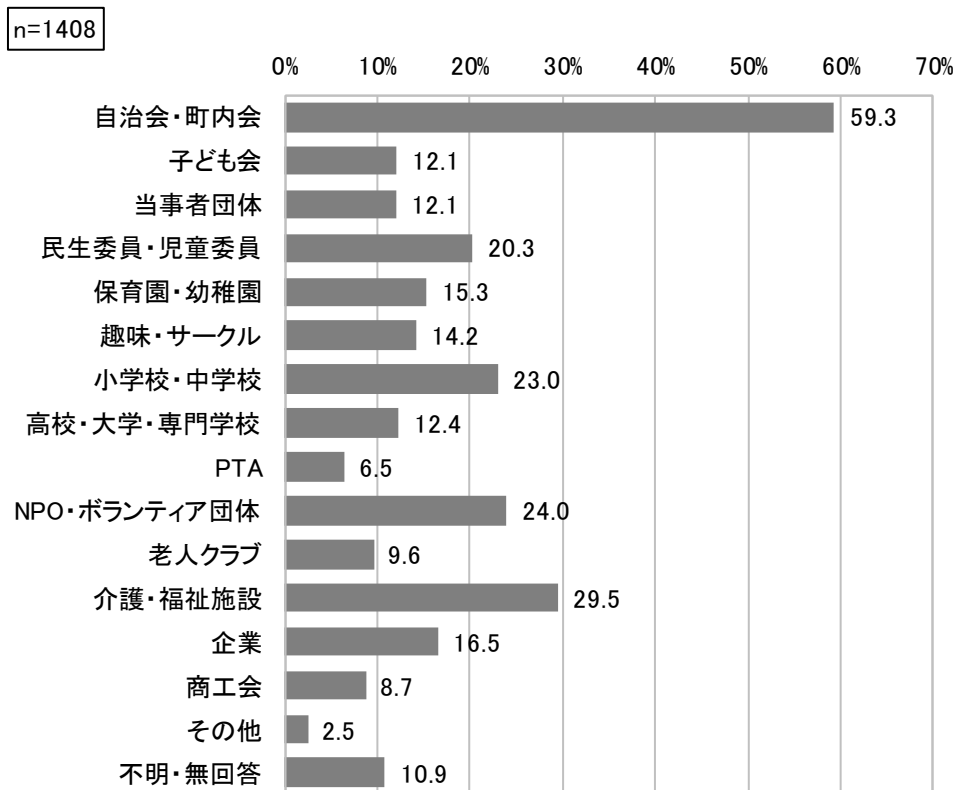
■経年比較



- 福祉への責任は行政にあり、住民は特に協力することはない
- 行政だけで解決できない問題については、住民同士が協力して取り組むべきである
- ▨ 福祉の問題についても、行政と住民が協働して、取り組むべきである
- ▩ 家庭や地域での助け合いが基本で、できない場合に行政が取り組むべきである
- ▧ わからない
- ▦ 不明・無回答

問 34 地域福祉活動を促進するための基盤として、有効なものは何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

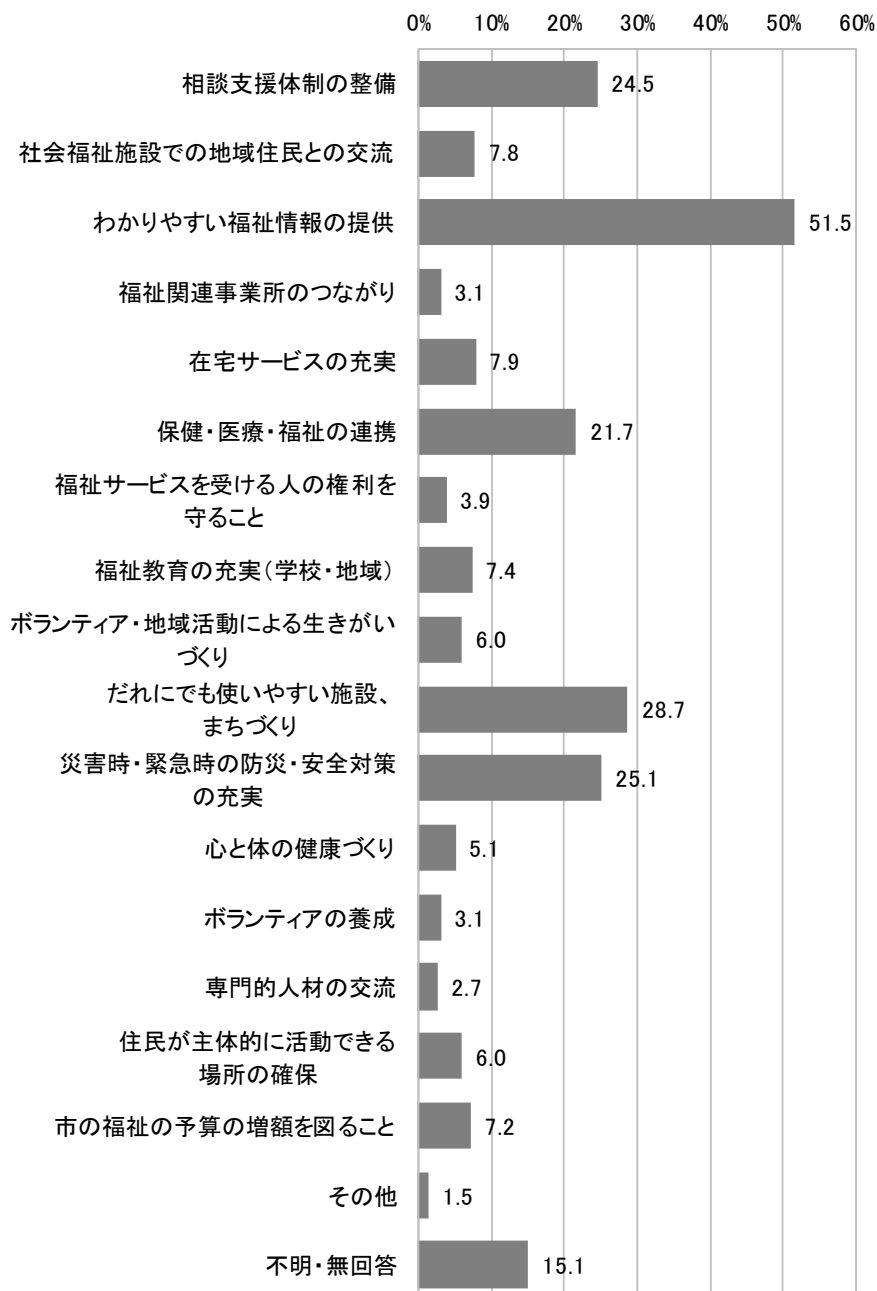
地域福祉活動を促進するための基盤として有効なものは、「自治会・町内会」が 59.3%と割合が最も高く、次いで「介護・福祉施設」が 29.5%、「NPO・ボランティア団体」が 24%となっています。



問 35 今後、朝霞市及び朝霞市社協で福祉のまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

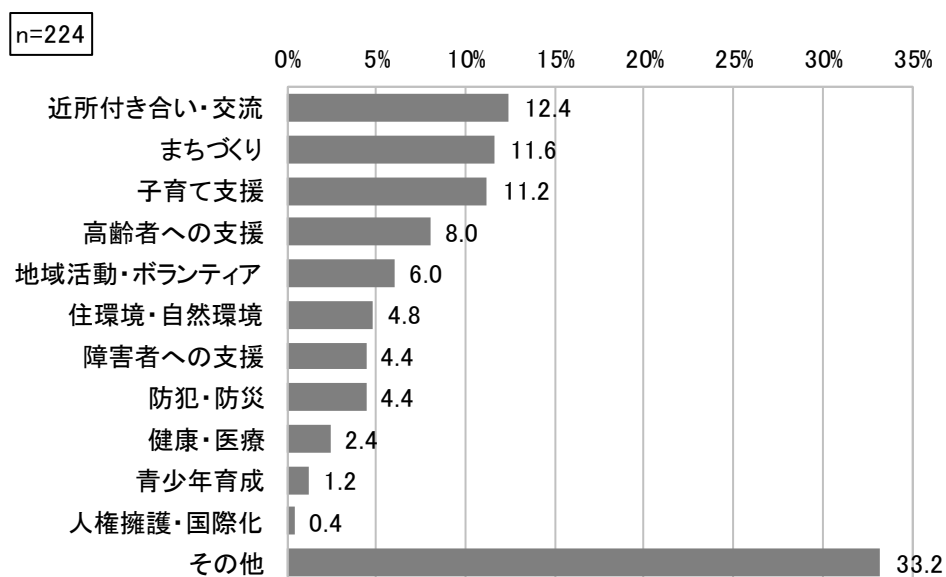
今後朝霞市及び朝霞市社協で福祉のまちづくりを進めるために必要なことは、「わかりやすい福祉情報の提供」が 51.5%と割合が最も高く、次いで「だれにでも使いやすい施設、まちづくり」が 28.7%、「災害時・緊急時の防災・安全対策の充実」が 25.1%となっています。

n=1408



自由意見欄

最後に、これからの地域福祉の取組について、ご意見などがありましたら自由にご記入ください。



<全体>

自由意見欄に記入があったのは回答者 1,408 人のうち 224 人（15.9%）である。一人が複数の意見を記入している場合は分割した。このため、意見数は 250 件となった。

「その他」を除いた回答について分類別にみると、「近所付き合い・交流」が回答者全体の 12.4%と最も多く、続いて「まちづくり」（11.6%）、「子育て支援」（11.2%）となっている。

<分類別>

- 「近所付き合い・交流」（31 件）では、「近所付き合いの大切さ」、「近所付き合いでの課題（生活リズムの違いなど）」、「町内会の課題」に関する意見が多数あった。
- 「まちづくり」（29 件）では、「バスの増便」、「街灯の増設」、「駅のエレベーター設置」、「歩道の整備」に関する意見が多数あった。
- 「子育て支援」（28 件）では、「共働き世帯への支援」、「子育て世帯の交流機会（拠点）の増加」に関する意見が多数あった。
- 「高齢者への支援」（20 件）では、「単身高齢者の見守り」、「高齢者の移動手段の確保」「高齢者の雇用機会の創出」に関する意見が多数あった。
- 「地域活動・ボランティア」（15 件）では、「ボランティアへの参加のきっかけづくり」、「ボランティア参加への課題」などに関する意見があった。
- 「住環境・自然環境」（12 件）では、「自転車の危険運転」、「ゴミ出しマナーの問題」、「公共施設偏在によるアクセスの悪さ」などに関する意見があった。

- 「障害者への支援」(11件)では、「公園の障害者用トイレの増設」、「障害者福祉施設に対する予算配分の増加(増設、改築のなどの予算)」などに関する意見があった。
- 「防犯・防災」(11件)では、「災害時の地域の助け合いに対する不安」、「災害放送の聞き取りづらさ」などに関する意見があった。
- 「健康・医療」(6件)では、「無料の健診の要望」、「病院の少なさ」などに関する意見があった。
- 「青少年育成」(3件)では、「小中学生の戸外でのマナー向上要望」、「小中学校での高齢者との交流」などに関する意見があった。
- 「人権擁護・国際化」(1件)では、「外国籍住民の貧困家庭に対する教育機会の提供」に関する意見があった。
- 「その他」(83件)では、「行政からの福祉情報の発信強化」、「相談窓口の明確化」、「アンケートの設問」などに関する意見が多数あった。

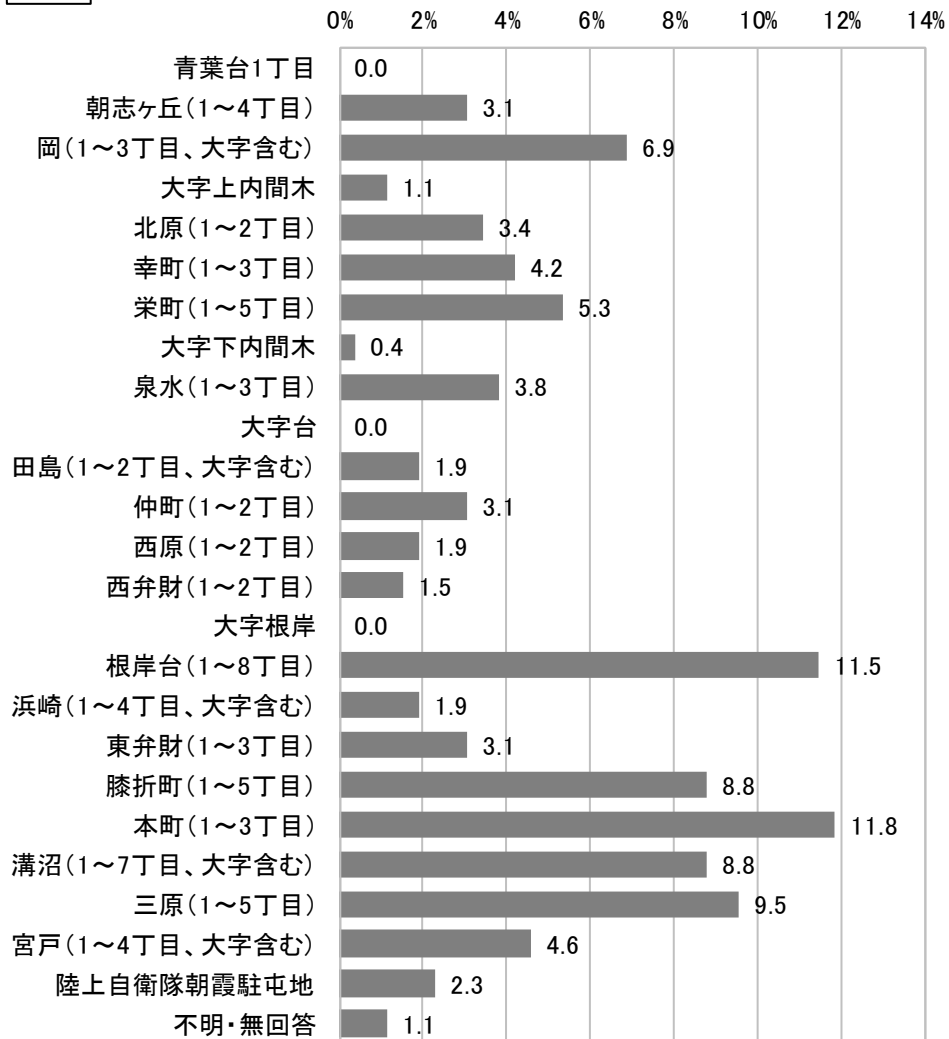
Ⅲ 若者アンケート調査結果

1 回答者自身について

問1 あなたのお住まいはどの地区ですか。(1つに○)

居住地区は、「本町(1~3丁目)」が11.8%と割合が最も高く、次いで「根岸台(1~8丁目)」が11.5%、「三原(1~5丁目)」が9.5%となっています。

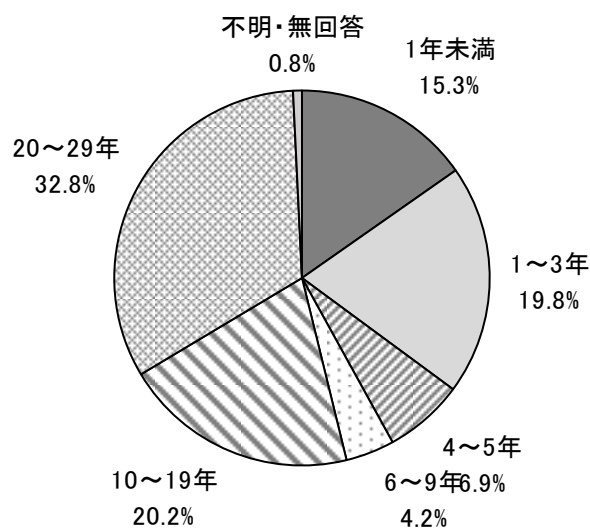
n=262



問2 あなたは、朝霞市にお住まいになってどれくらいになりますか。(1つに○)

居住年数は、「20～29年」が32.8%と割合が最も高く、次いで「10～19年」が20.2%、「1～3年」が19.8%となっています

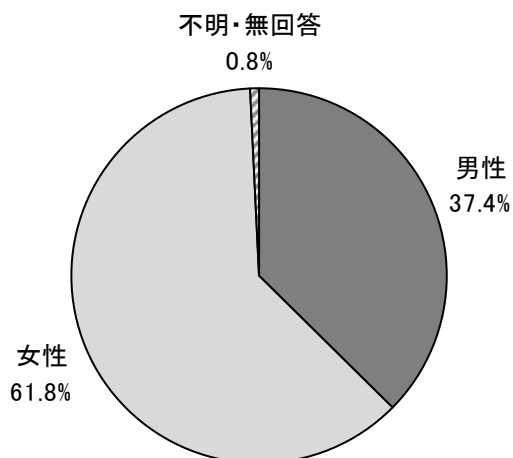
n=262



問3 あなたの性別は。(1つに○)

性別は、「女性」は61.8%、「男性」は37.4%です。

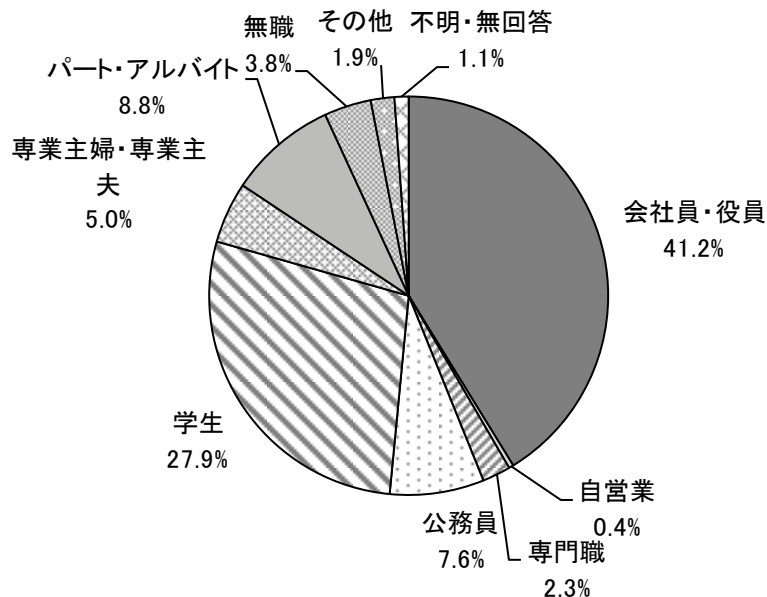
n=262



問4 あなたの職業は。(1つに○)

職業は、「会社員・役員」が41.2%と割合が最も高く、次いで「学生」が27.9%、「パート・アルバイト」が8.8%となっています。

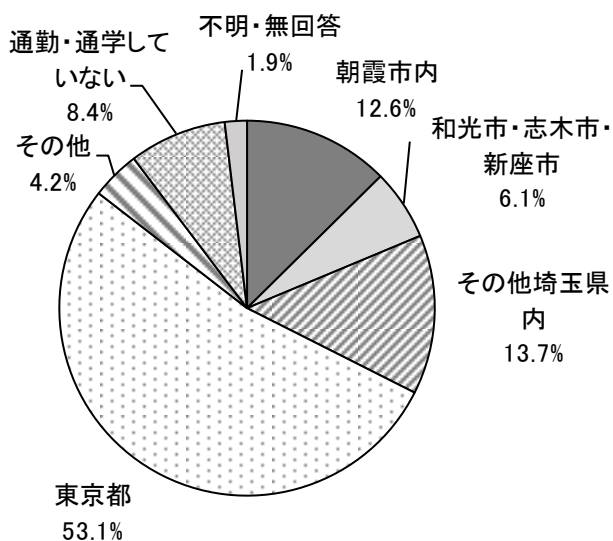
n=262



問5 あなたの勤務先、通学先はどちらですか。(1つに○)

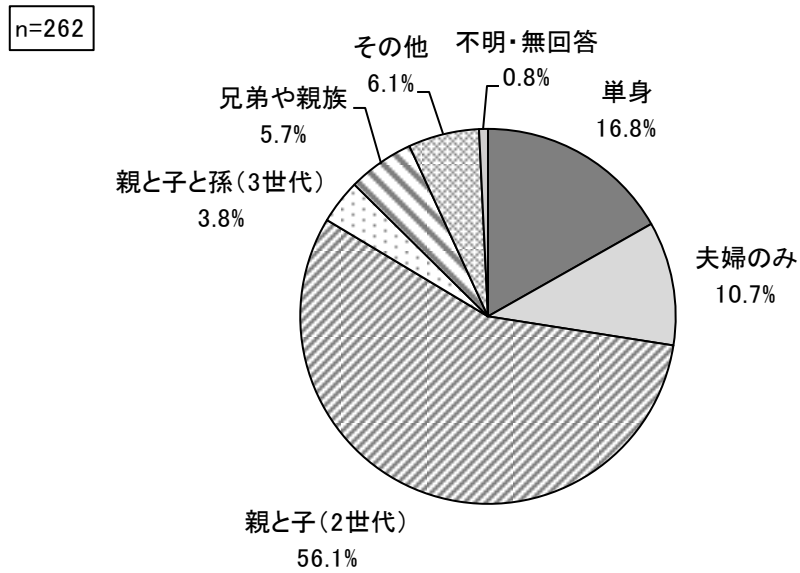
勤務先・通学先は、「東京都」が53.1%と割合が最も高く、次いで「その他埼玉県内」が13.7%、「朝霞市内」が12.6%となっています。

n=262



問6 あなたの同居している世帯・家族の構成は。(1つに○)

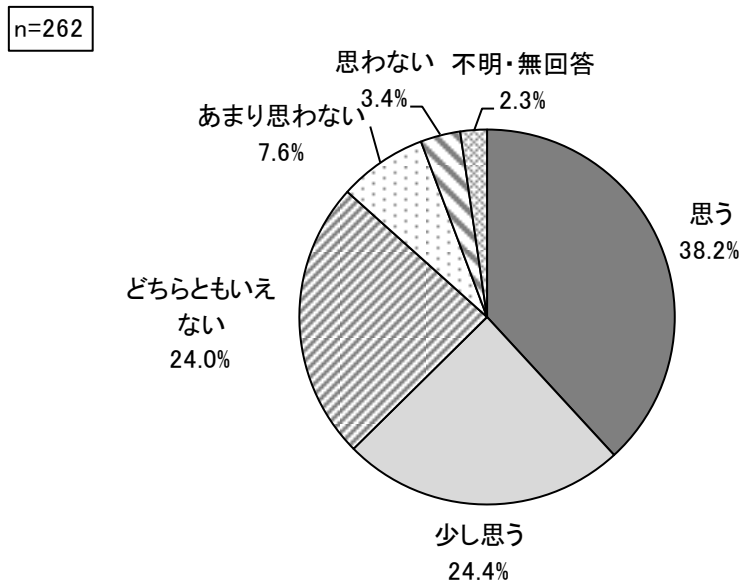
家族構成は、「親と子(2世代)」が56.1%と割合が最も高く、次いで「単身」が16.8%、「夫婦のみ」が10.7%となっています。



2 朝霞市での暮らしについて

問7 朝霞市に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

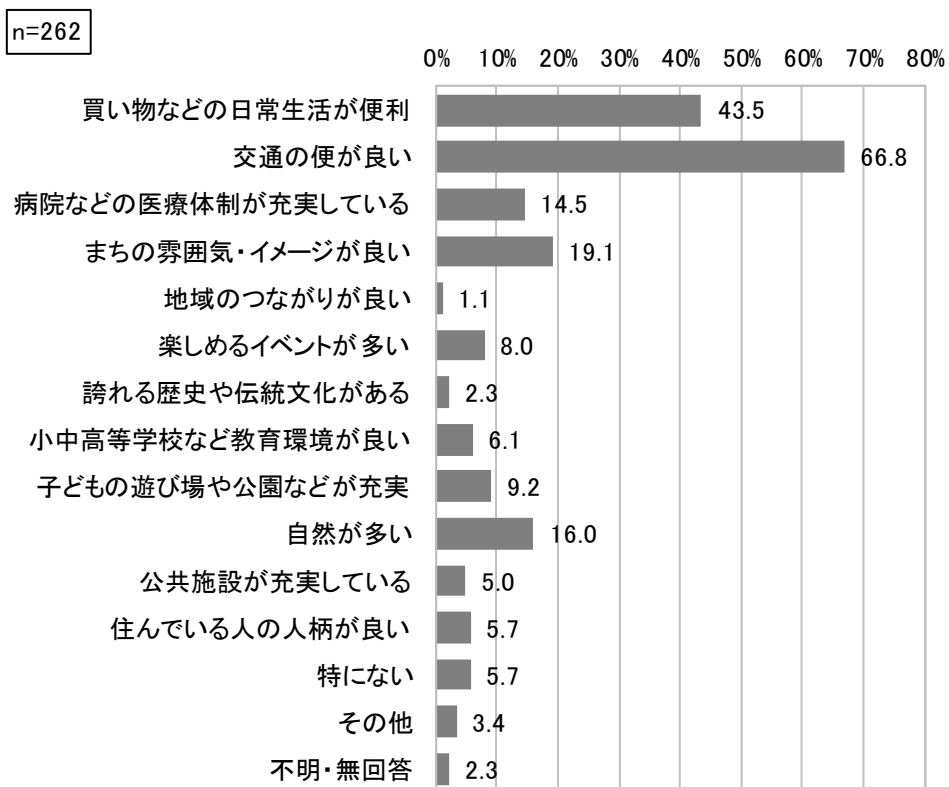
朝霞市に住み続けたいかは、「思う」が38.2%と割合が最も高く、次いで「少し思う」が24.4%、「どちらともいえない」が24.0%となっています。



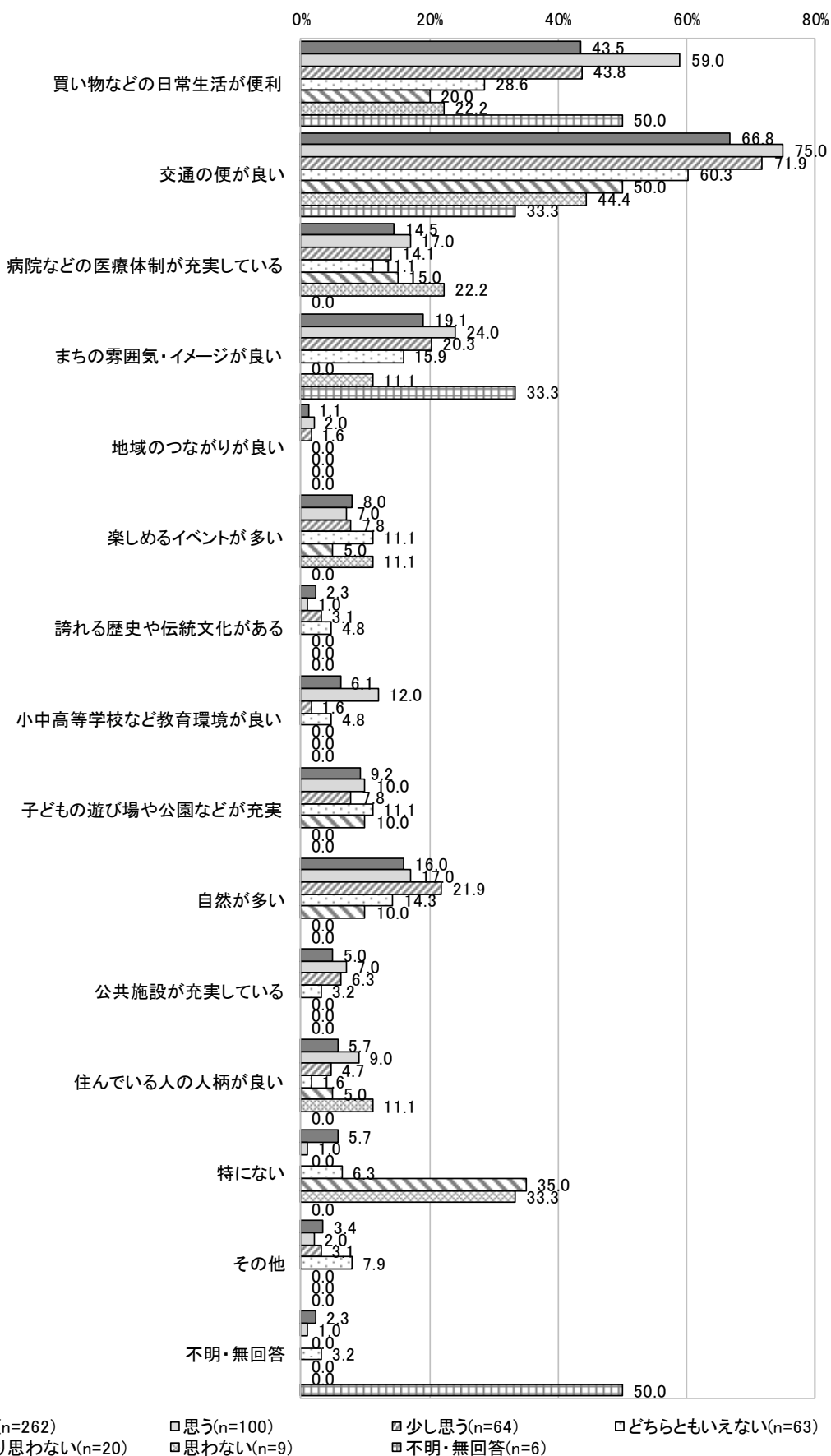
問8 朝霞市に住んでいて良かったことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

朝霞市に住んでいて良かったことは、「交通の便が良い」が66.8%と割合が最も高く、次いで「買い物などの日常生活が便利」が43.5%、「まちの雰囲気・イメージが良い」が19.1%となっています。

朝霞市に今後も住み続けたいと思うかは、「交通の便が良い」で「思う」「少し思う」を合わせた『思う』が70%を超えています。一方、「思わない」「あまり思わない」を合わせた『思わない』が50%以下となっています。



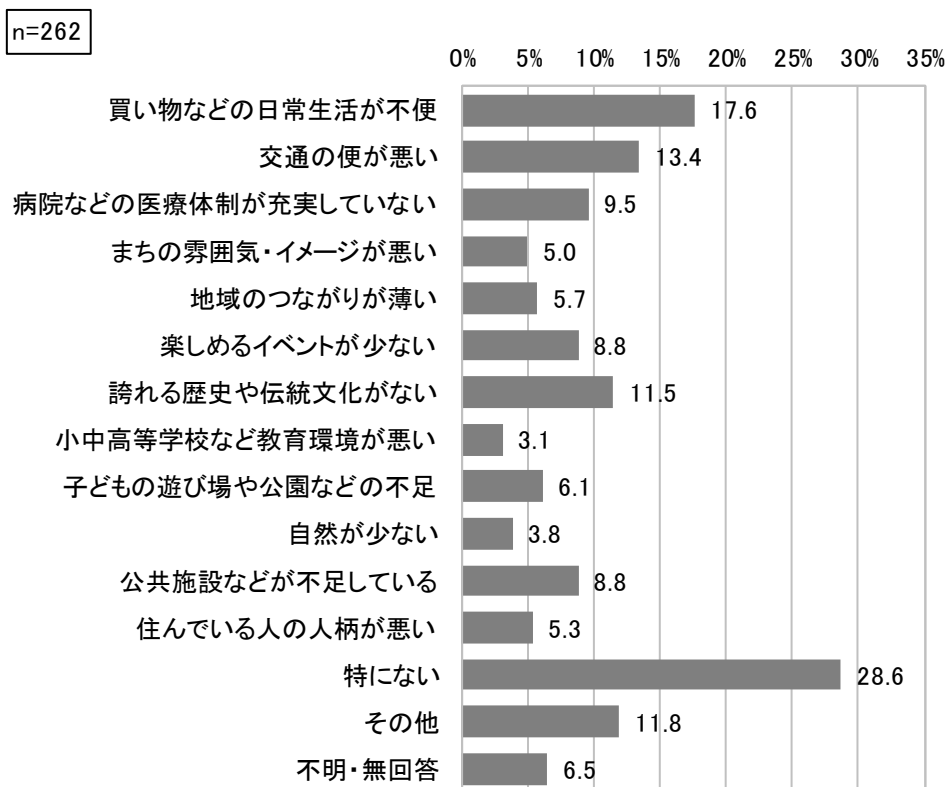
■問8朝霞市に住んでいて良かったこと×問7朝霞市に住み続けたいか



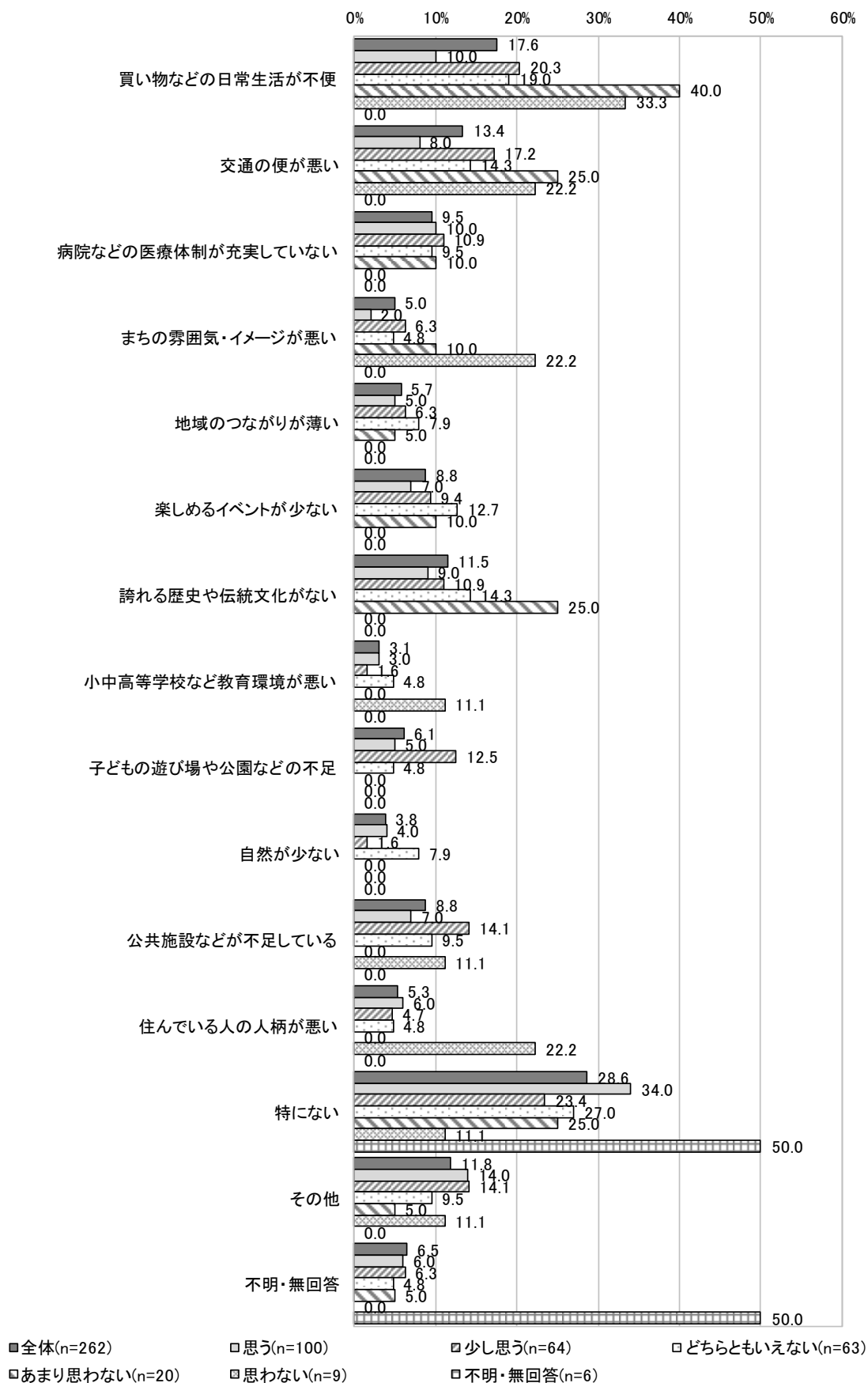
問9 朝霞市に住んでいて困ったこと（悪い点）は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

朝霞市に住んでいて困ったことは、「買い物などの日常生活が不便」が17.6%と割合が最も高く、次いで「交通の便が悪い」が13.4%、「誇れる歴史や伝統がない」が11.5%となっています。

朝霞市に今後も住み続けたいと思うかは、〔特にない〕で「思う」「少し思う」を合わせた『思う』が50%を超えています。一方、「思わない」「あまり思わない」を合わせた『思わない』が30%程度となっています。

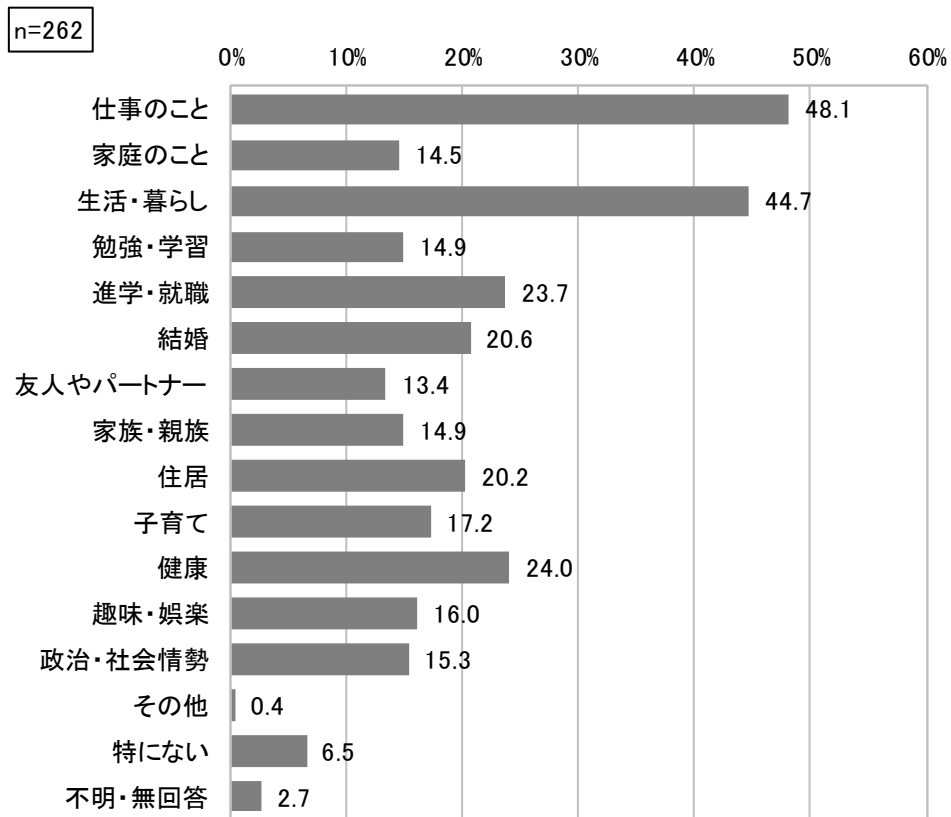


■問9 朝霞市に住んでいて困ったこと×問7 朝霞市に住み続けたいか



問 10 あなたが日頃又は将来に向けて、悩んでいること、考えていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

悩んでいること、考えていることは、「仕事のこと」が 48.1%と割合が最も高く、次いで「生活・暮らし」が 44.7%、「健康」が 24%となっています。



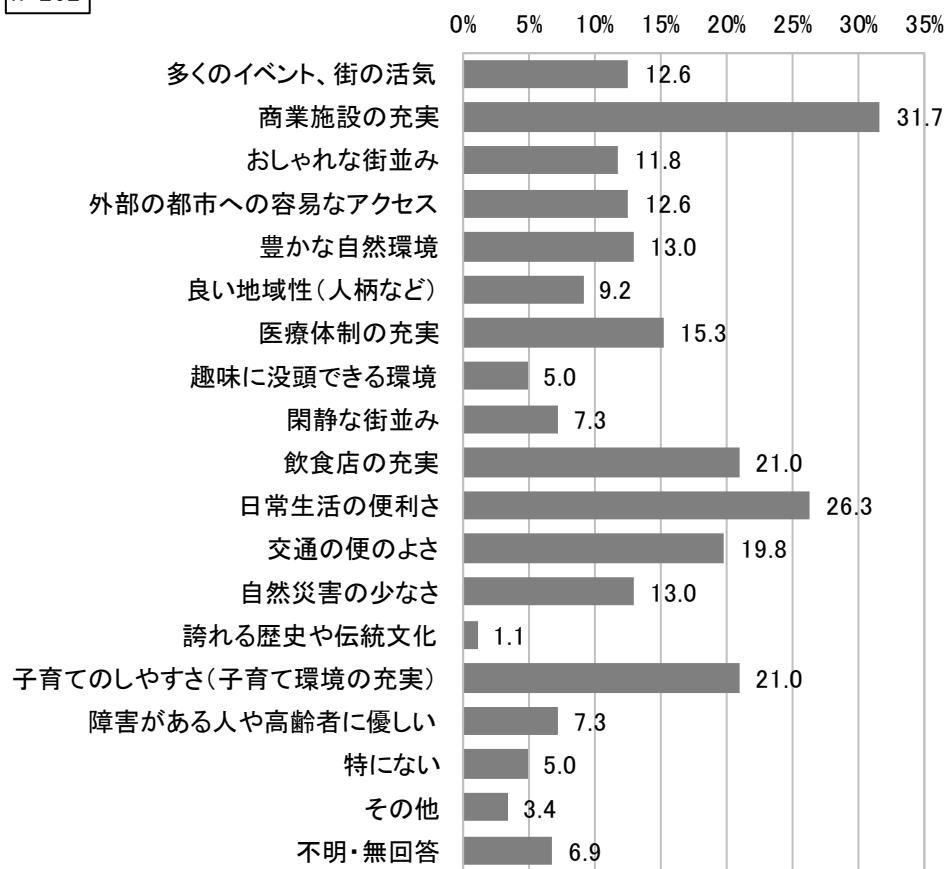
問 11 あなたが朝霞市に期待することは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

朝霞市に期待することは、「商業施設の充実」が 31.7%と割合が最も高く、次いで「日常生活の便利さ」が 26.3%、「飲食店の充実」、「子育てのしやすさ（子育て環境の充実）」が 21%となっています。

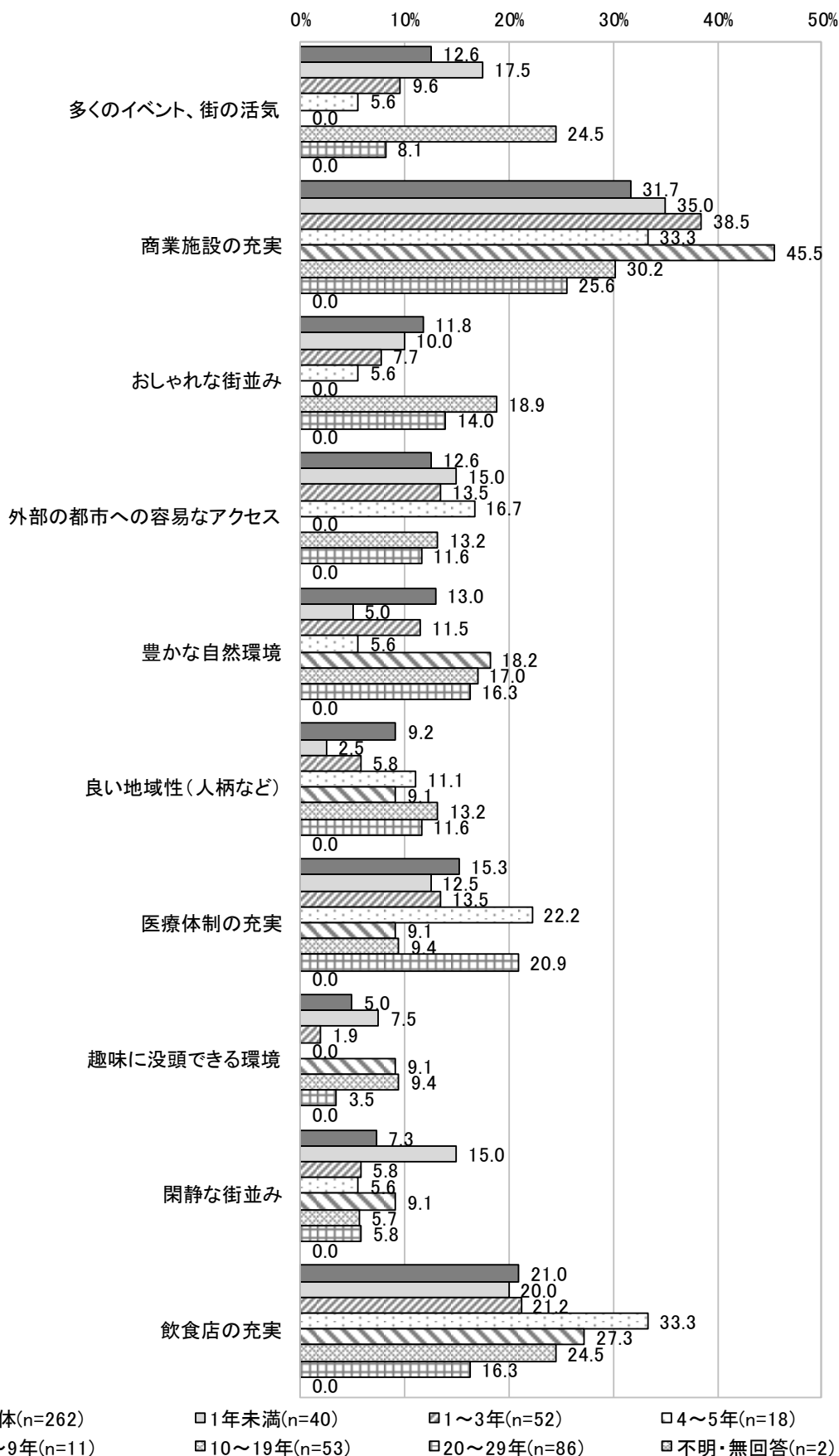
居住年数別にみると、6～9年で「商業施設の充実」の割合が最も高くなっています。

朝霞市に今後も住み続けたいと思うかは、「商業施設の充実」で「思う」「少し思う」を合わせた『思う』が 60%を超えています。一方、「思わない」「あまり思わない」を合わせた『思わない』が 40%を超えています。

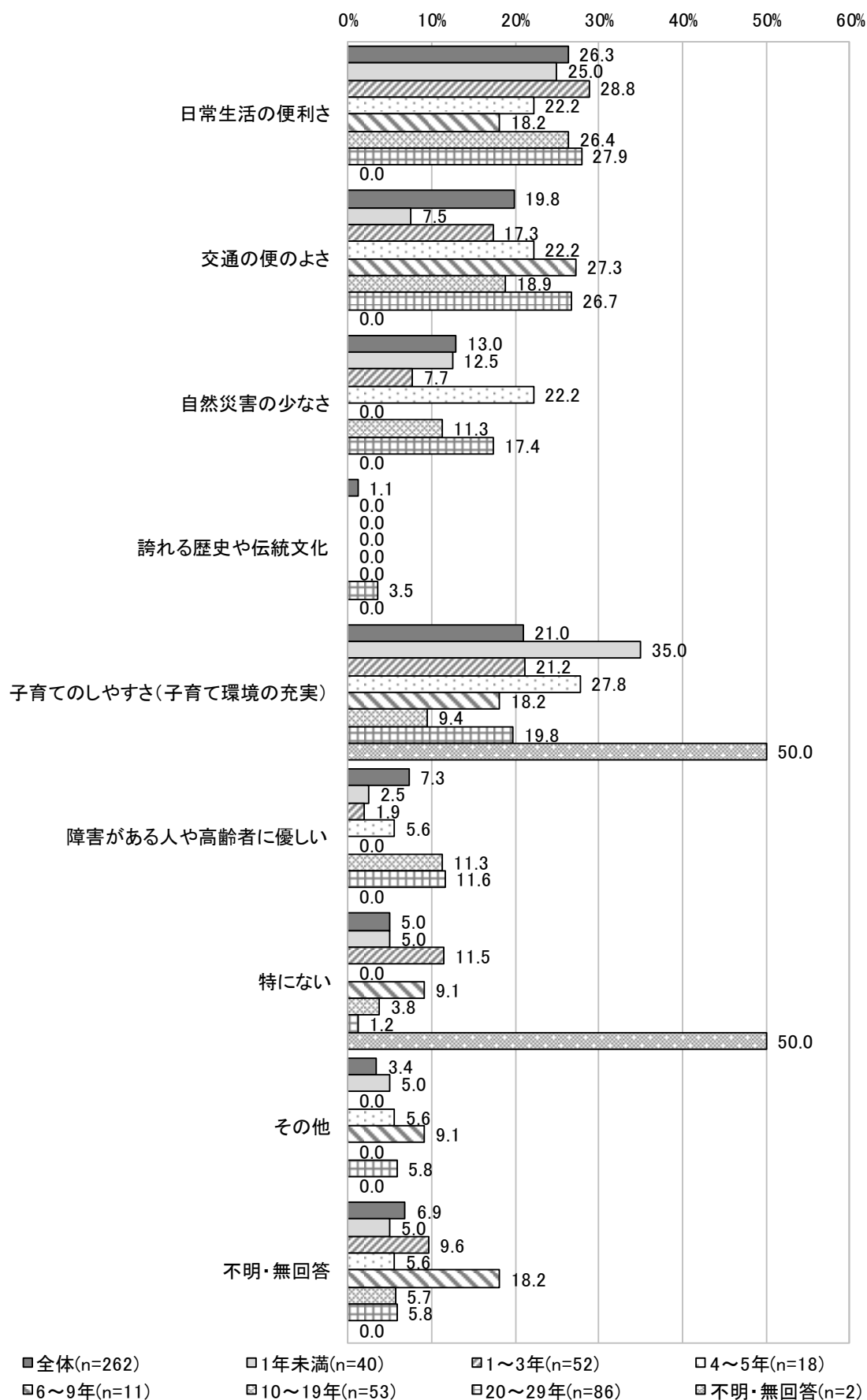
n=262



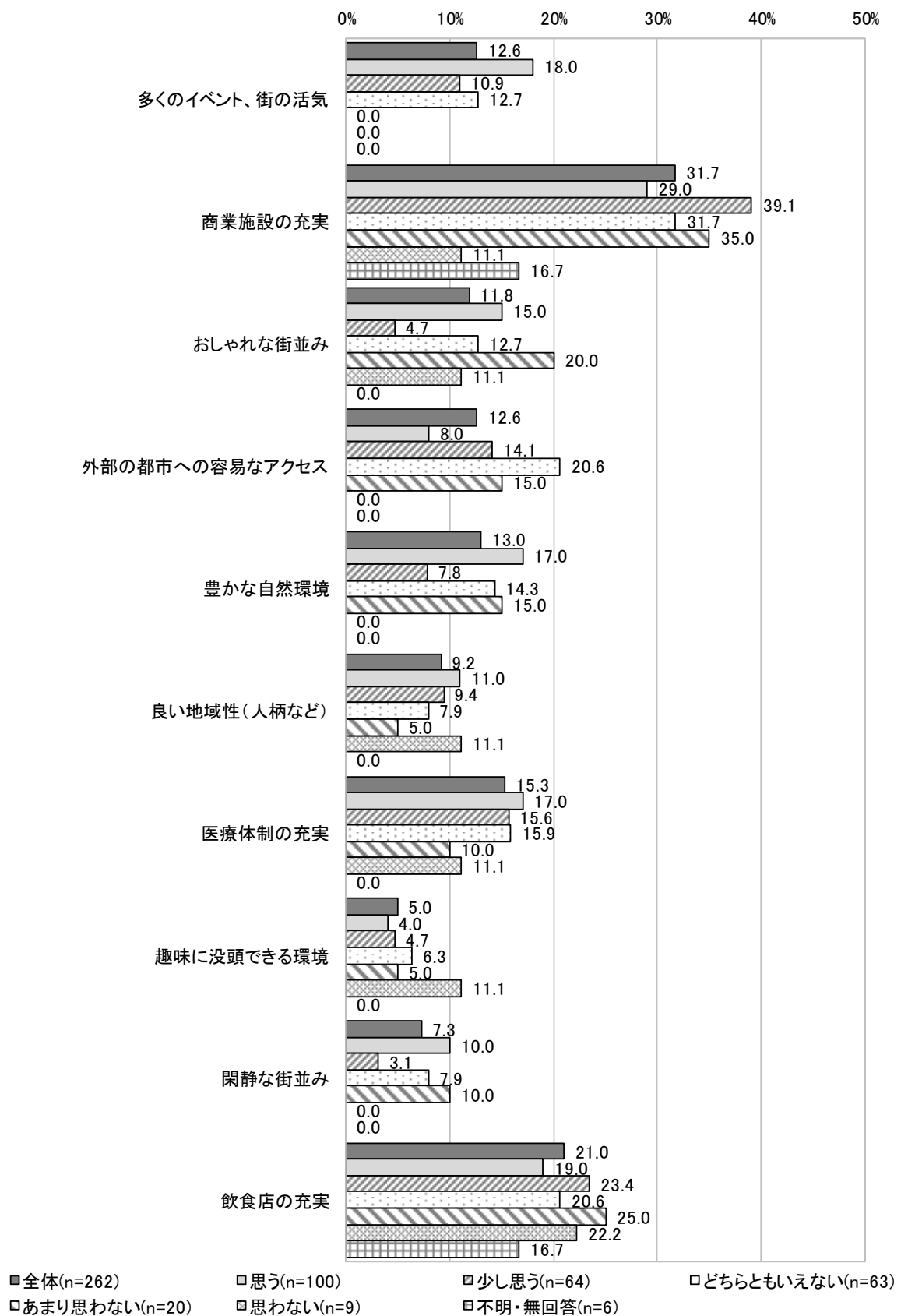
■問 11 あなたが朝霞市に期待すること×問 2 居住年数 (1/2)



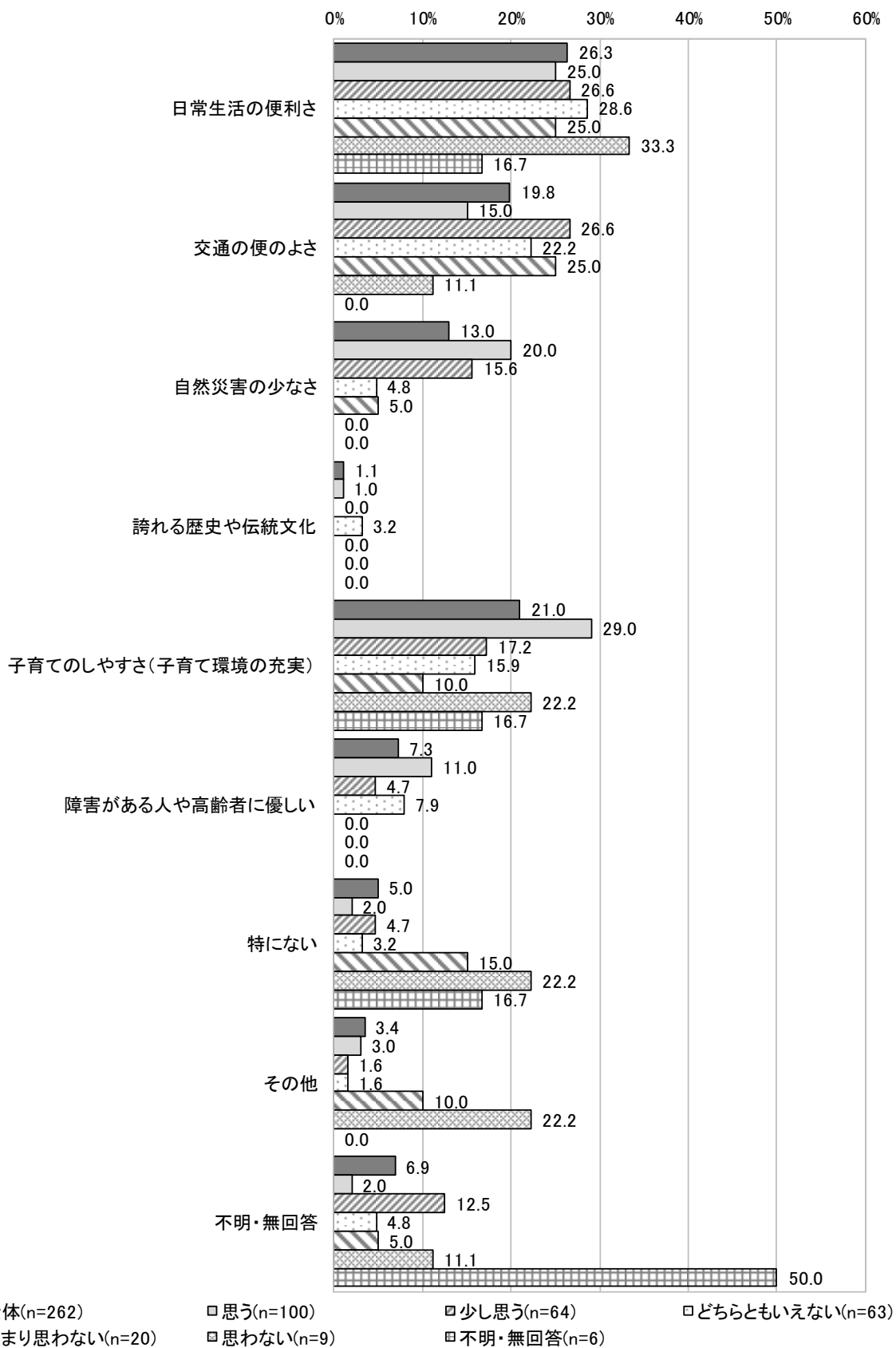
■問 11 あなたが朝霞市に期待すること×問 2 居住年数 (2/2)



■問 11 あなたが朝霞市に期待すること×問 7 朝霞市に住み続けたいか (1/2)



■問 11 あなたが朝霞市に期待すること×問 7 朝霞市に住み続けたいか (2/2)



3 地域活動への参加について

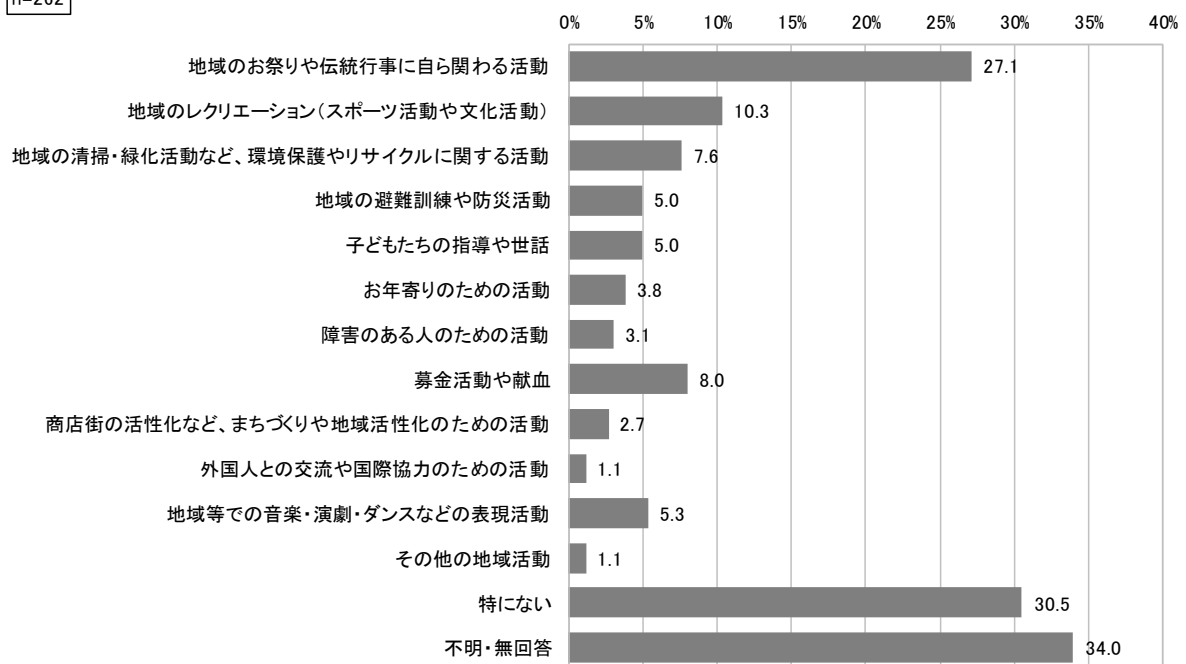
問 12 地域活動への参加状況について教えてください。

(1)直近3年間で、学校や仕事以外で、地域の活動・行事に参加したことがありますか。

(あてはまるものすべてに○)

参加したことがある地域の地域活動は、「地域のお祭りや伝統行事に自ら関わる活動」が27.1%と割合が最も高く、次いで「地域のレクリエーション（スポーツ活動や文化活動）」が10.3%、「募金活動や献血」が8%となっています。

n=262



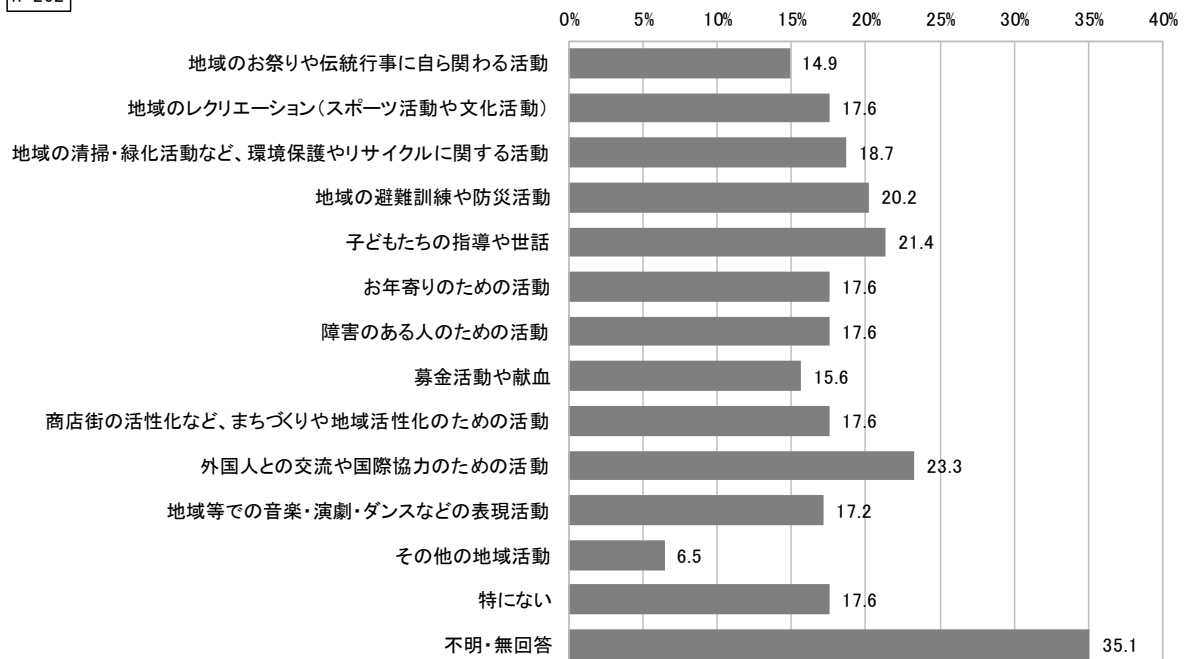
問 12 地域活動への参加状況について教えてください。

(2) 今後参加してみたい活動は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

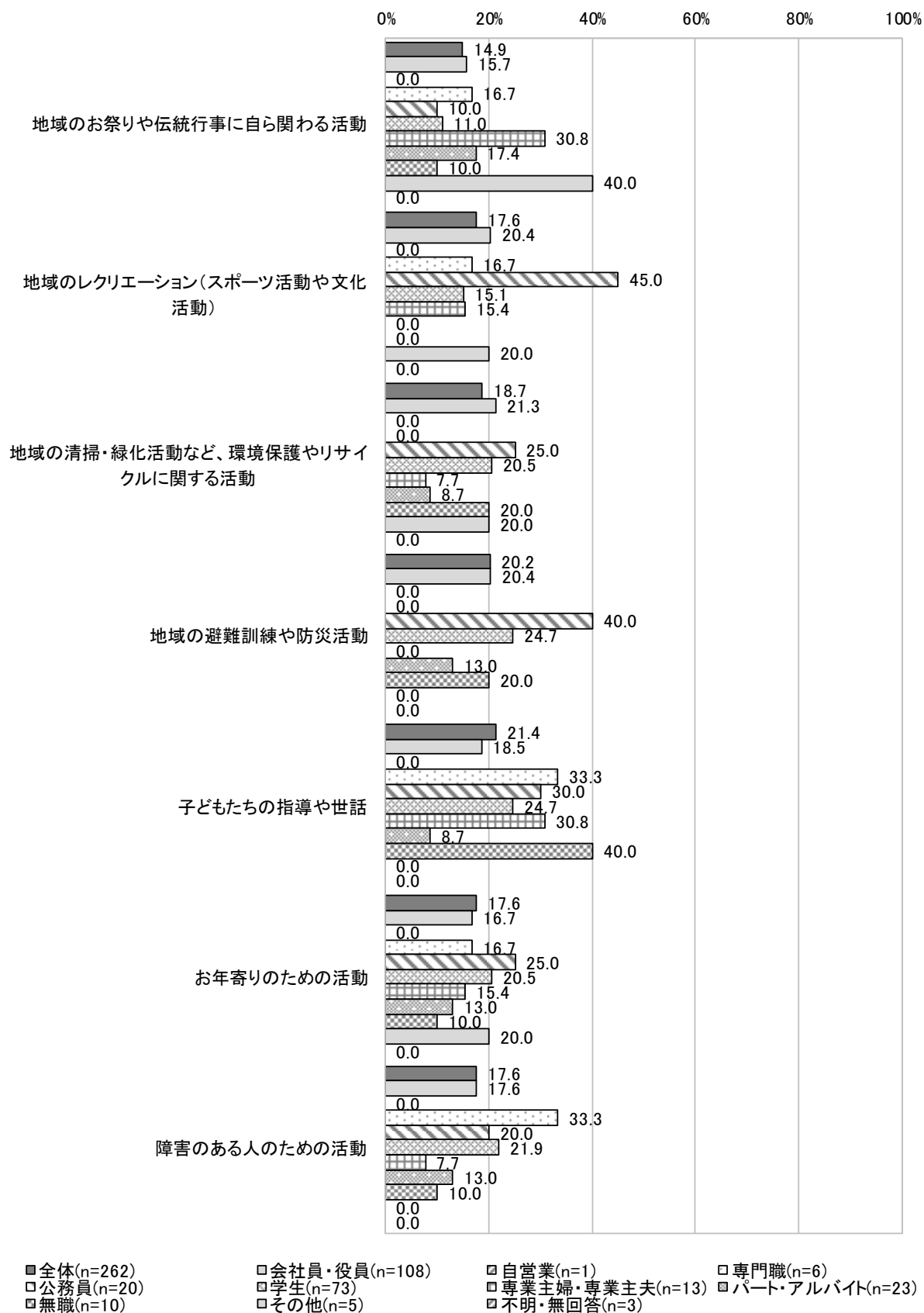
今後参加してみたい地域活動は、「外国人との交流や国際協力のための活動」が 23.3%と割合が最も高く、次いで「子どもたちの指導や世話」が 20.2%、「地域の避難訓練や防災活動」が 20.2%となっています。

職業別にみると、自営業で「外国人との交流や国際協力のための活動」の割合が最も高くなっています。

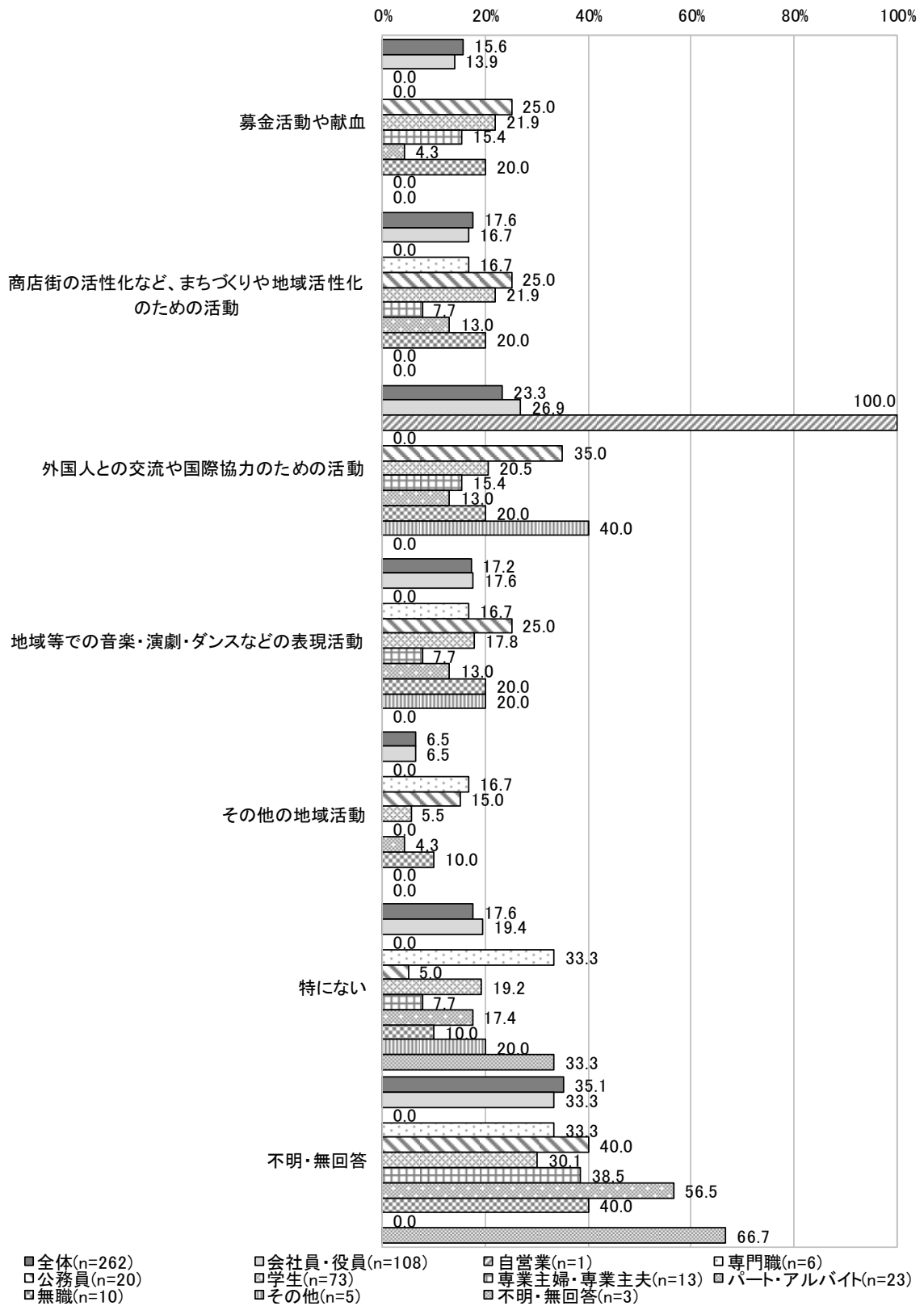
n=262



■問 2(2) 今後参加してみたい活動×問 4 職業 (1/2)



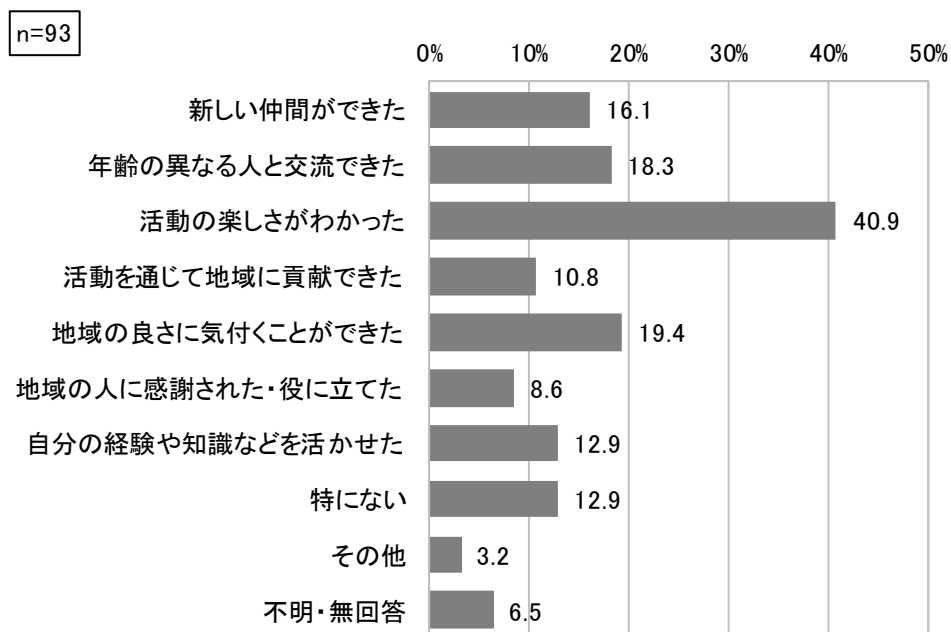
■問 2(2) 今後参加してみたい活動×問 4 職業 (2/2)



(問 12.1～12 で「1.参加したことがある」と回答の方)

問 12-1 その活動に参加して良かったと思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

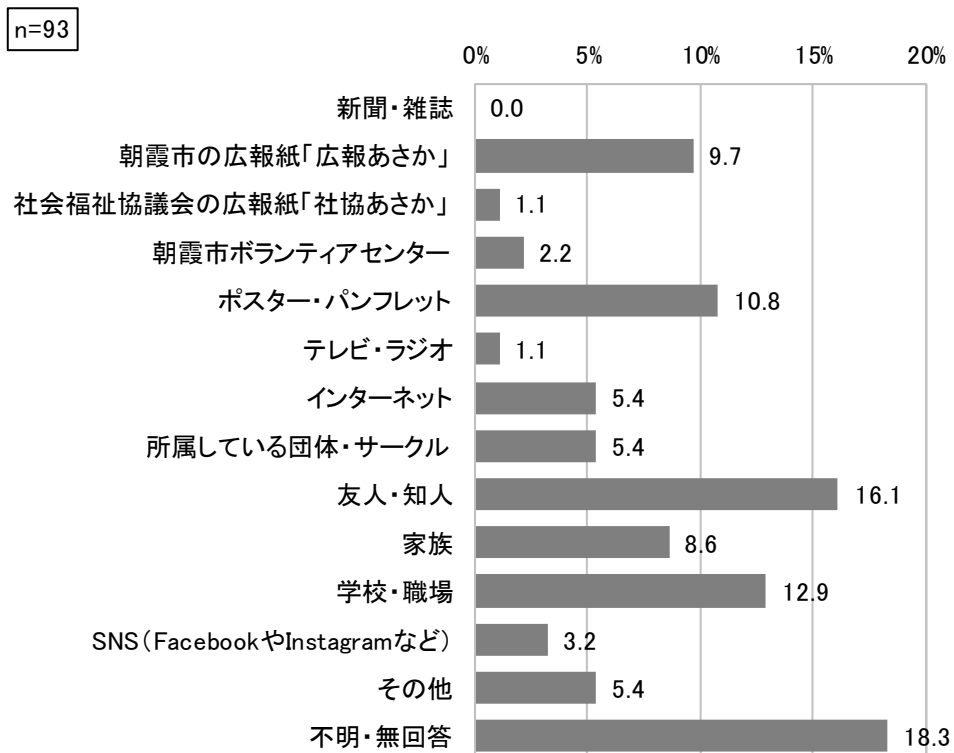
その活動に参加して良かったと思うことは、「活動の楽しさがわかった」が 40.9%と割合が最も高く、次いで「地域の良さに気付くことができた」が 19.4%、「年齢の異なる人と交流できた」が 18.3%となっています。



(問 12.1～12 で「1.参加したことがある」と回答の方)

問 12-2 参加した活動についての情報をどこで知りましたか。(1つに○)

参加した活動についての情報をどこで知ったかは、「友人・知人」が 16.1%と割合が最も高く、次いで「学校・職場」が 12.9%、「ポスター・パンフレット」が 10.8%となっています。

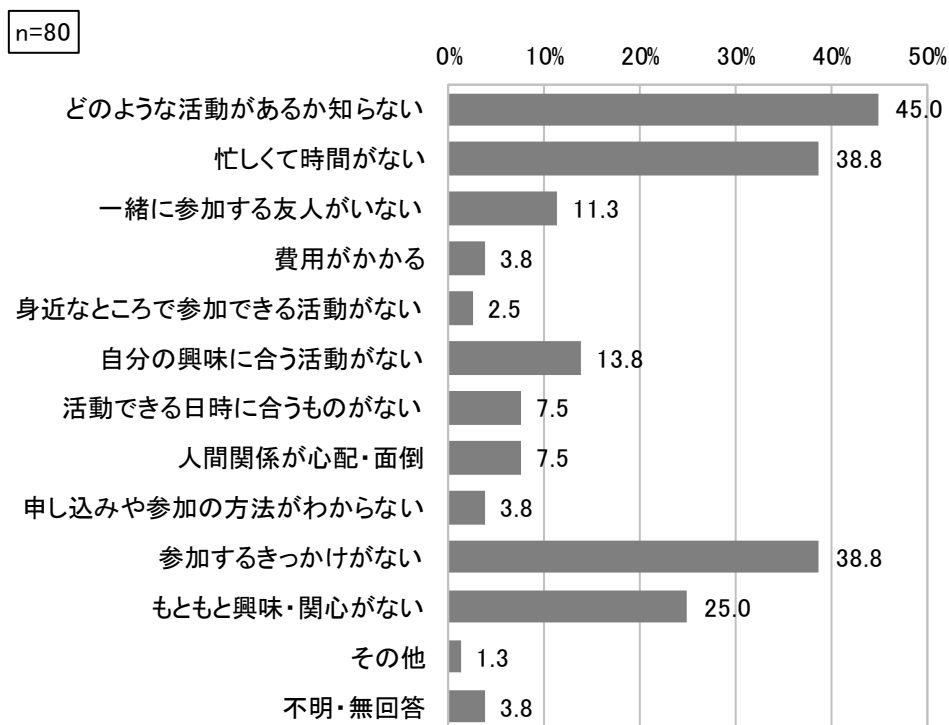


(問 12(1)で「13.特にない」と回答の方)

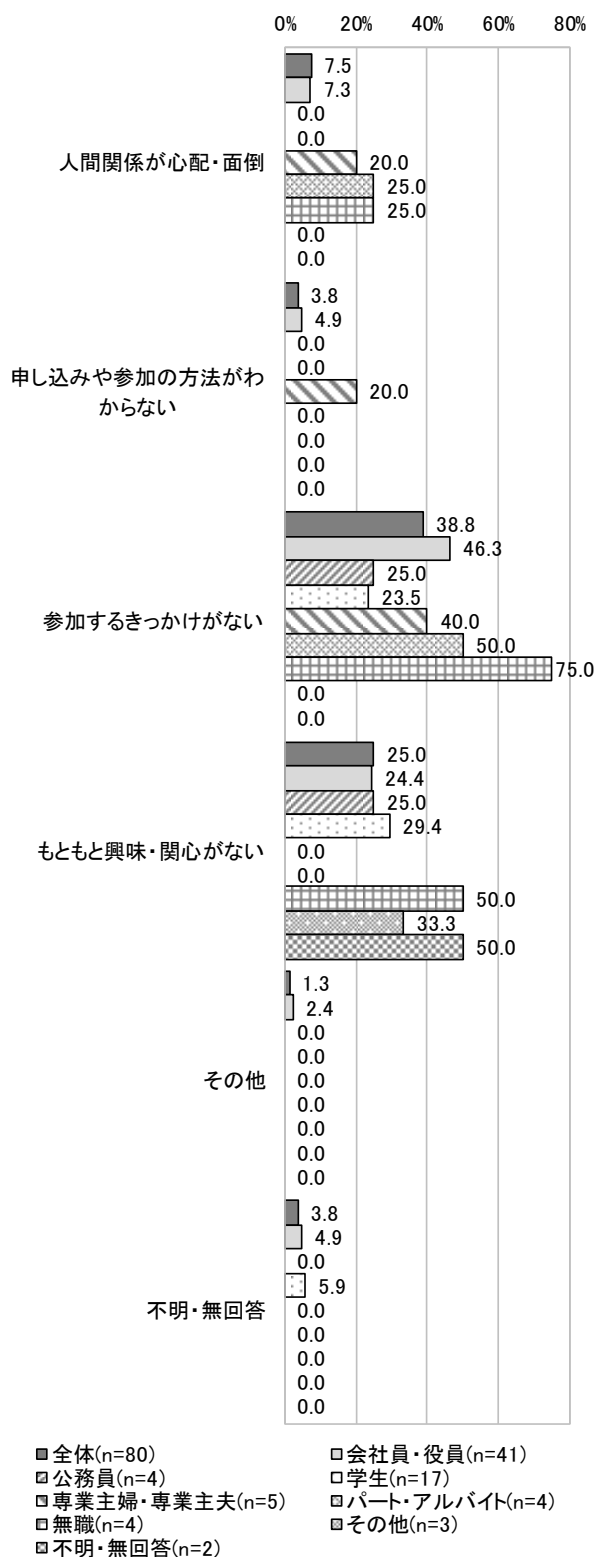
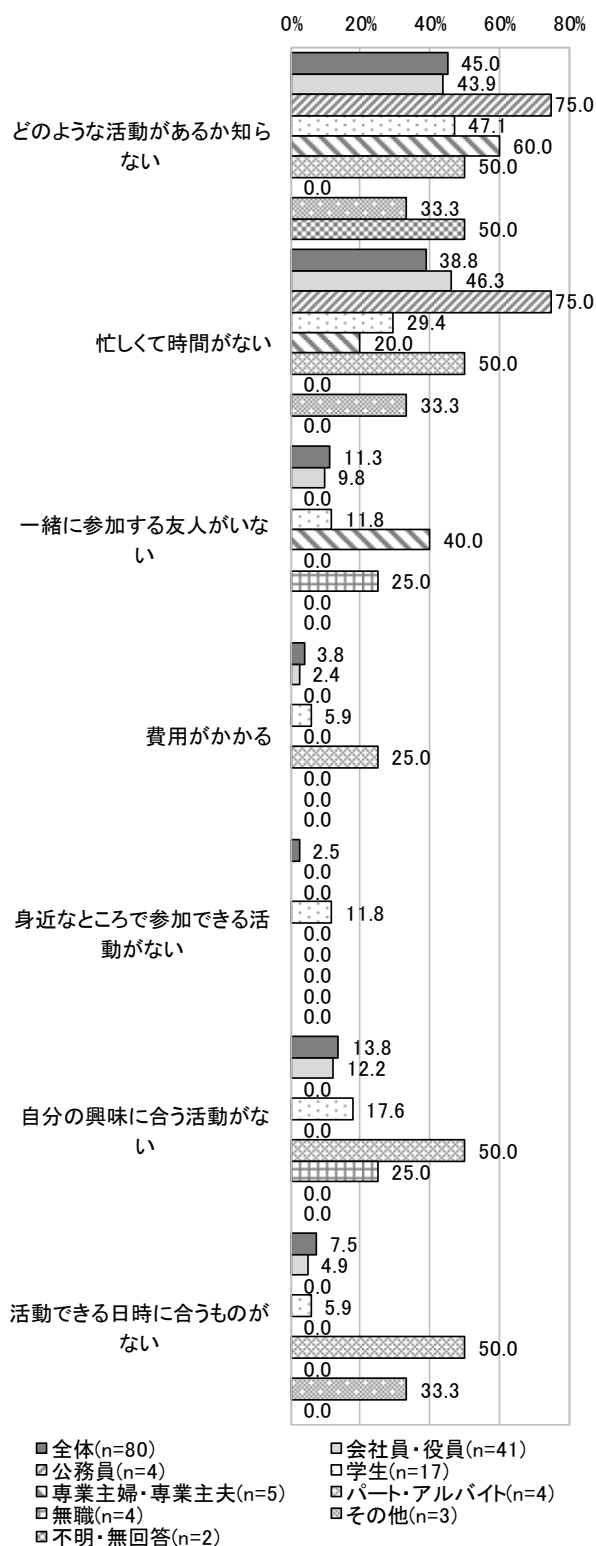
問 12-3 参加しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

参加しなかった理由は、「どのような活動があるか知らない」が45%と割合が最も高く、次いで「忙しくて時間がない」、「参加するきっかけがない」が38.8%となっています。

職業別にみると、公務員、学生、専業主婦・専業主夫、パート・アルバイトで「どのような活動があるか知らない」の割合が高くなっています。



■問 12-3 参加しなかった理由×問 4 職業



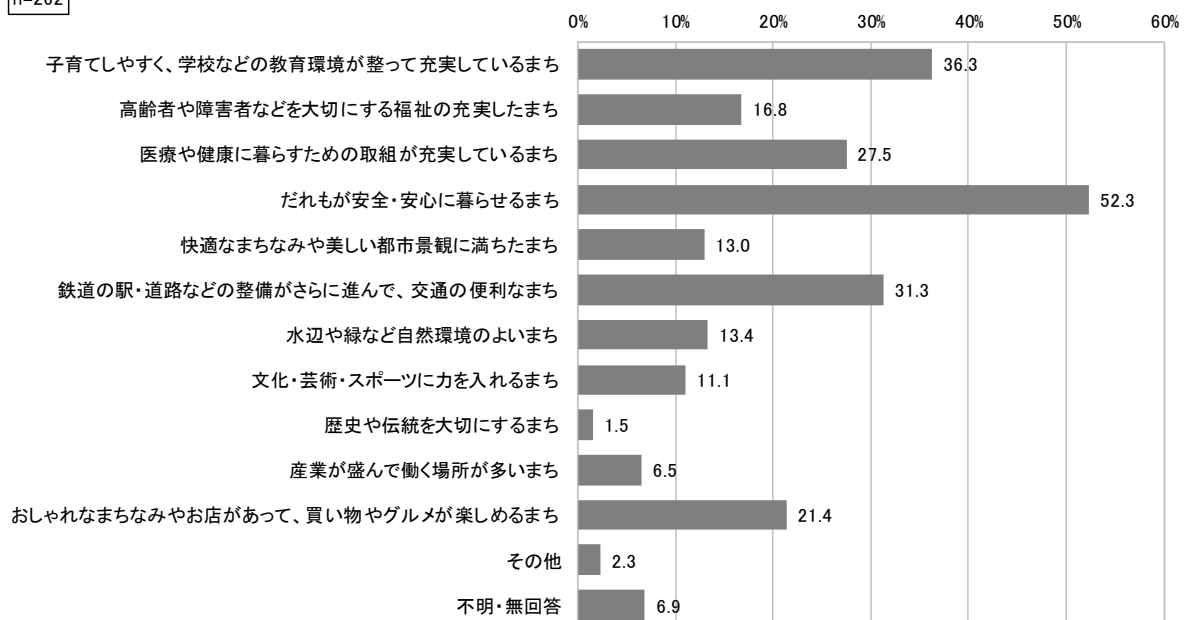
4 朝霞市のまちづくりへの興味・参加について

問 13 あなたは、自らが主体的に関わり、朝霞市を将来どのようなまちにしていきたいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

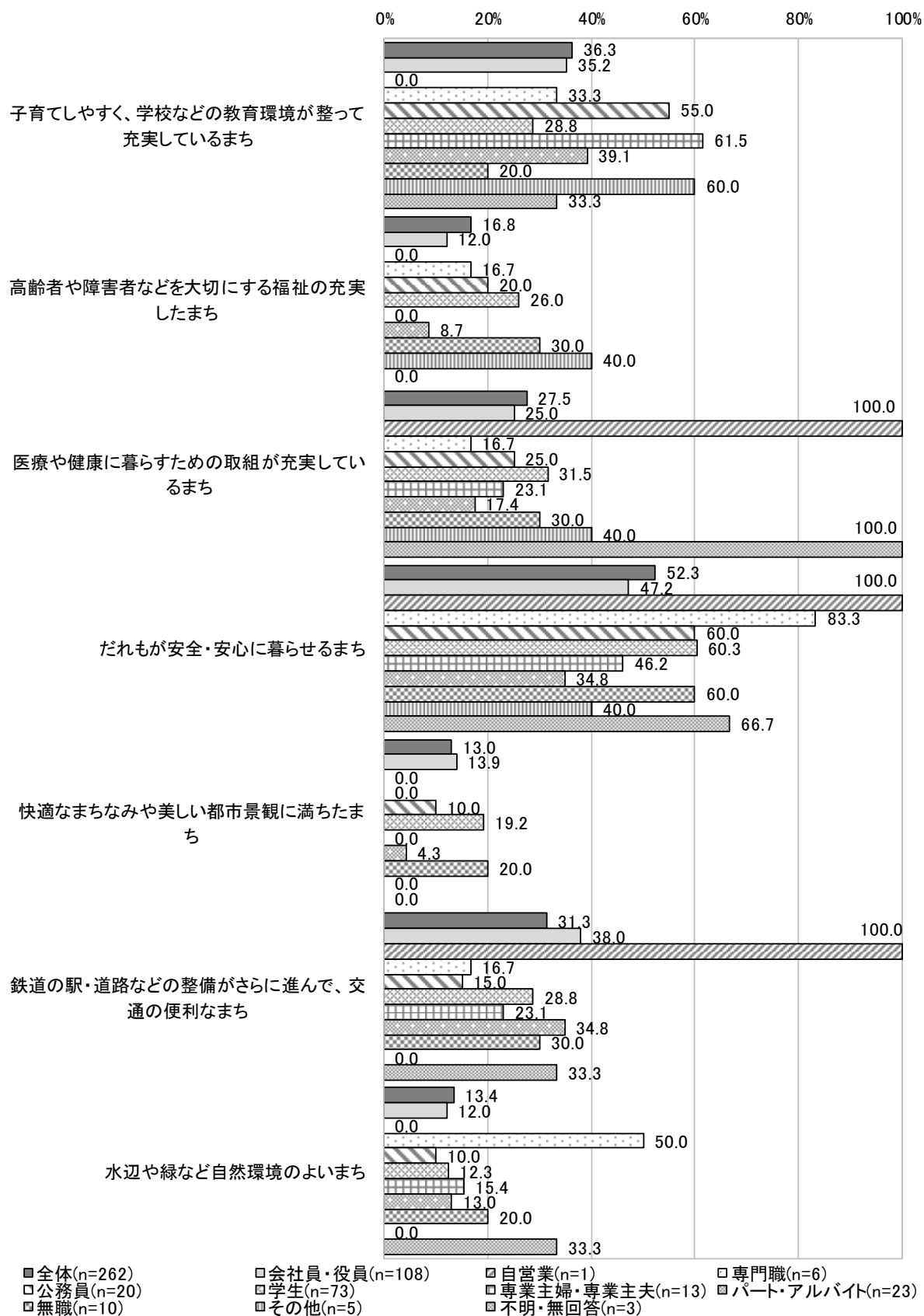
朝霞市を将来どのようなまちにしていきたいかは、「だれもが安全・安心に暮らせるまち」が52.3%と割合が最も高く、次いで「子育てしやすく、学校などの教育環境が整って充実しているまち」が36.3%、「鉄道の駅・道路などの整備がさらに進んで、交通の便利なまち」が31.3%となっています。

職業別にみると、会社員・役員、自営業、専門職、公務員、学生、無職で「だれもが安全・安心に暮らせるまち」の割合が高くなっています。

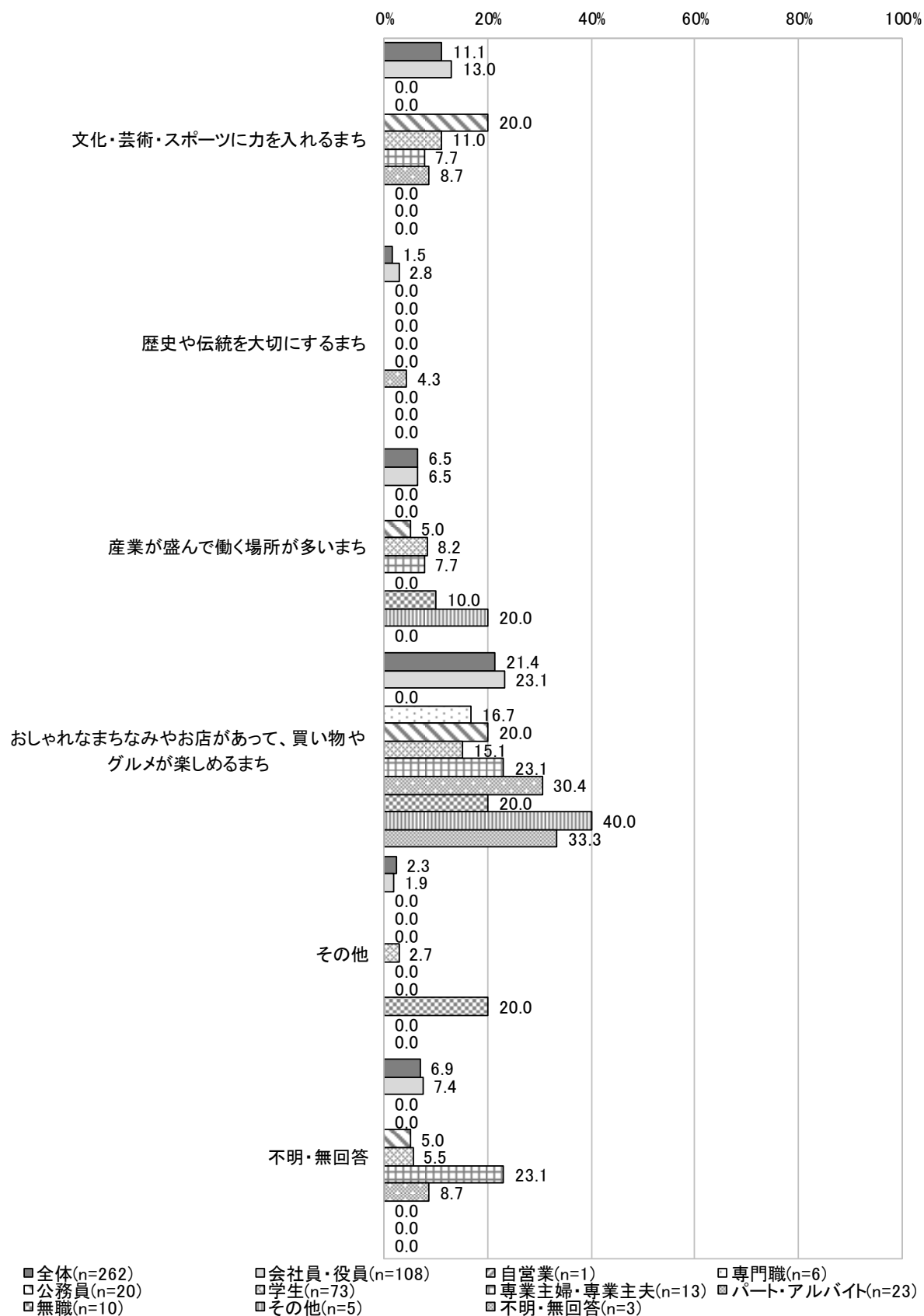
n=262



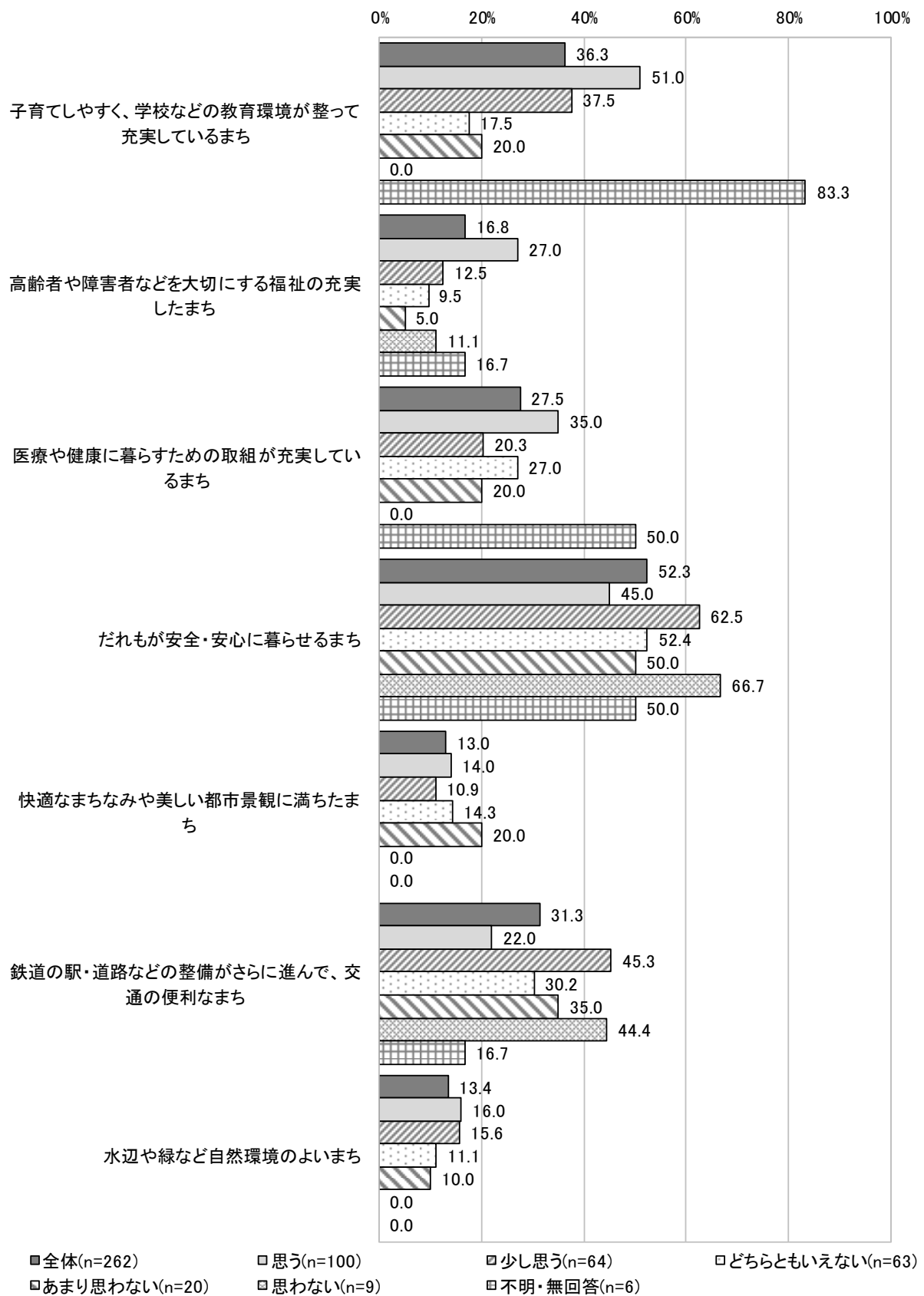
■問 13 朝霞市を将来どのようなまちにしていきたいと思うか×問 4 職業 (1/2)



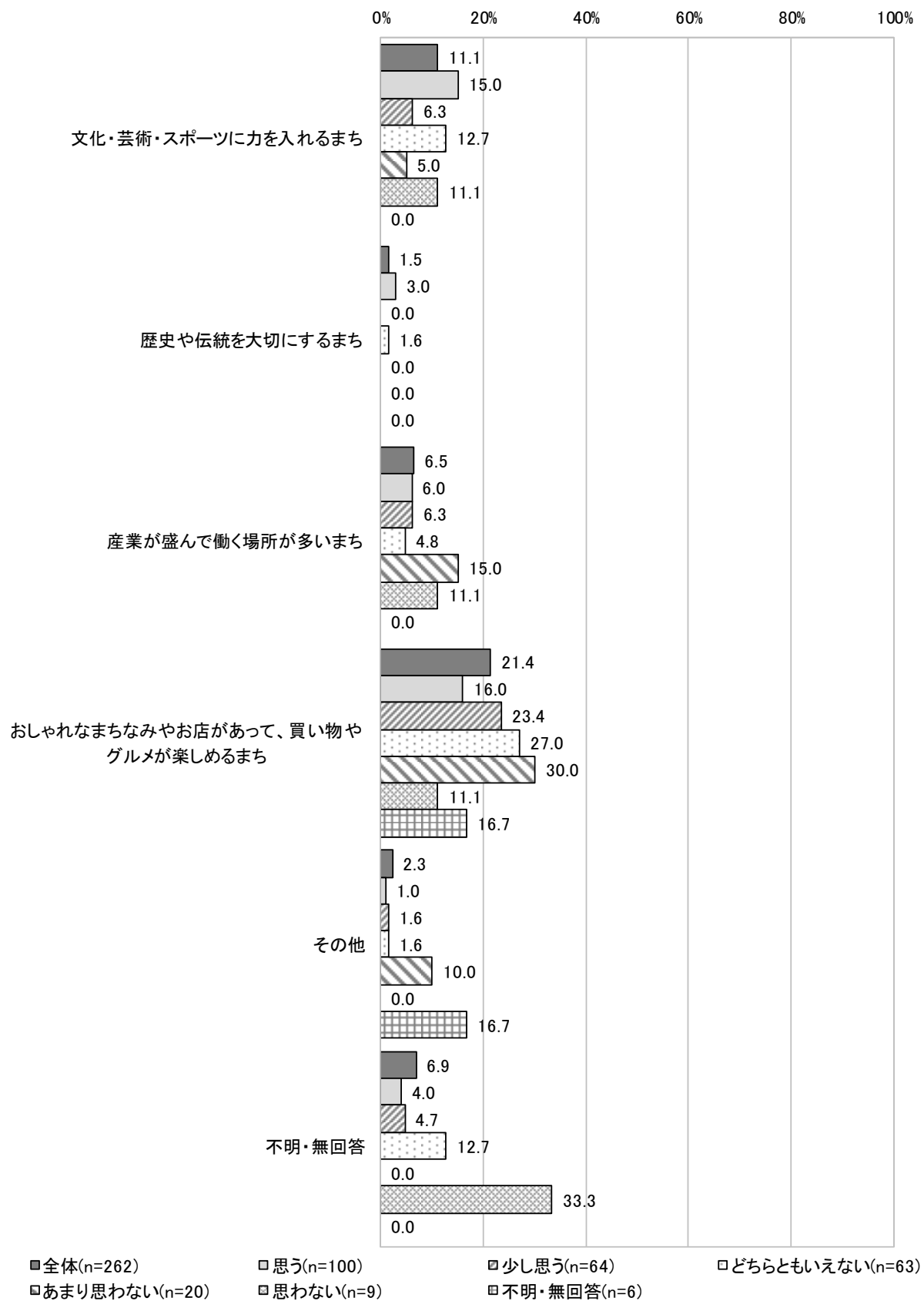
■問 13 朝霞市を将来どのようなまちにしていきたいと思うか×問 4 職業 (2/2)



■問 13 朝霞市を将来どのようなまちにしていきたいと思うか×問 7 朝霞市に住み続けたいか(1/2)



■問 13 朝霞市を将来どのようなまちにしていきたいと思うか×問 7 朝霞市に住み続けたいか(2/2)



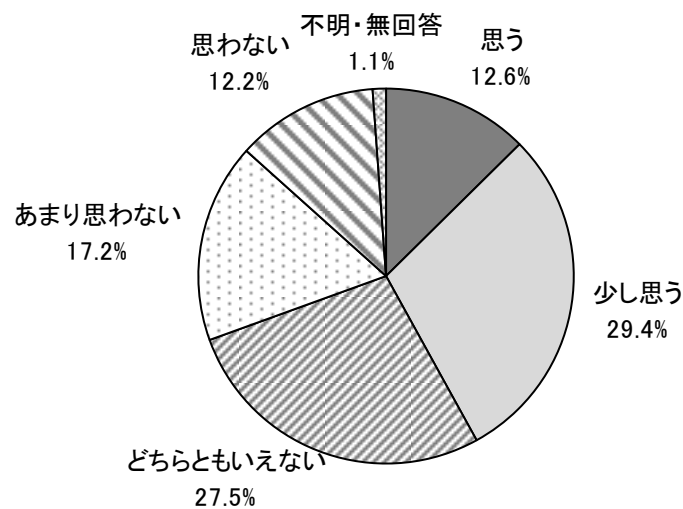
問 14 あなたは朝霞市や地域のまちづくりについて、積極的に参加や関わりを持ちたいと思いますか。

(1つに○)

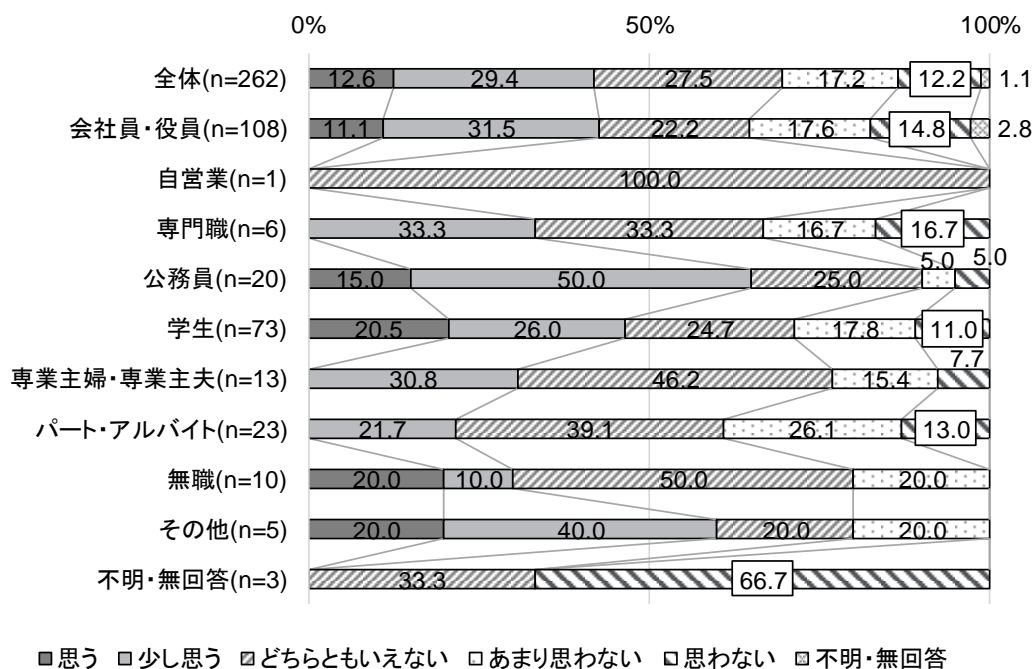
朝霞市や地域のまちづくりについて、積極的に参加や関わりを持ちたいかは、「少し思う」が29.4%と割合が最も高く、次いで「どちらともいえない」が27.5%、「あまり思わない」が17.2%となっています。

職業別にみると、会社員・役員、専門職、公務員、学生、その他で「少し思う」の割合が高くなっています。

n=262



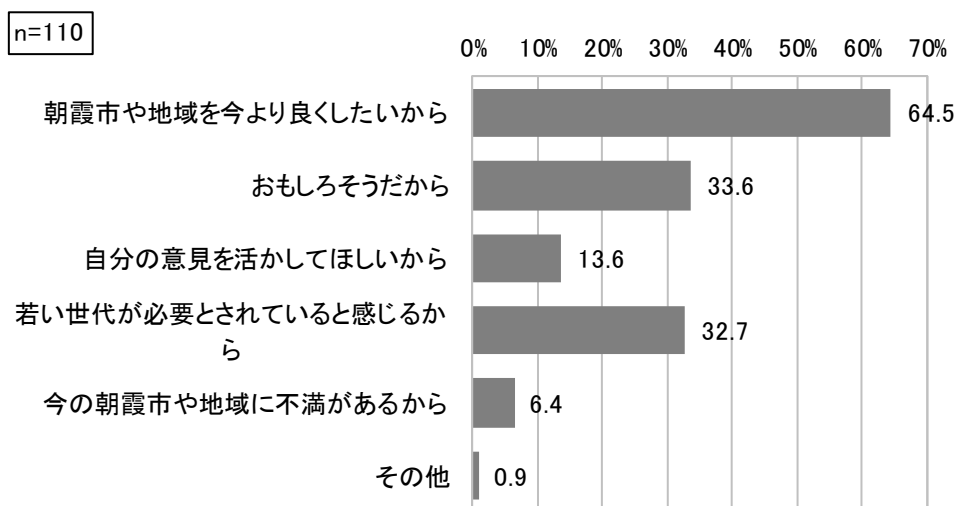
■問 14 朝霞市や地域のまちづくりについて、積極的に参加や関わりを持ちたいか×問 4 職業



(問 14 で「1.思う」、「2.少し思う」と回答の方)

問 14-1 そう思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

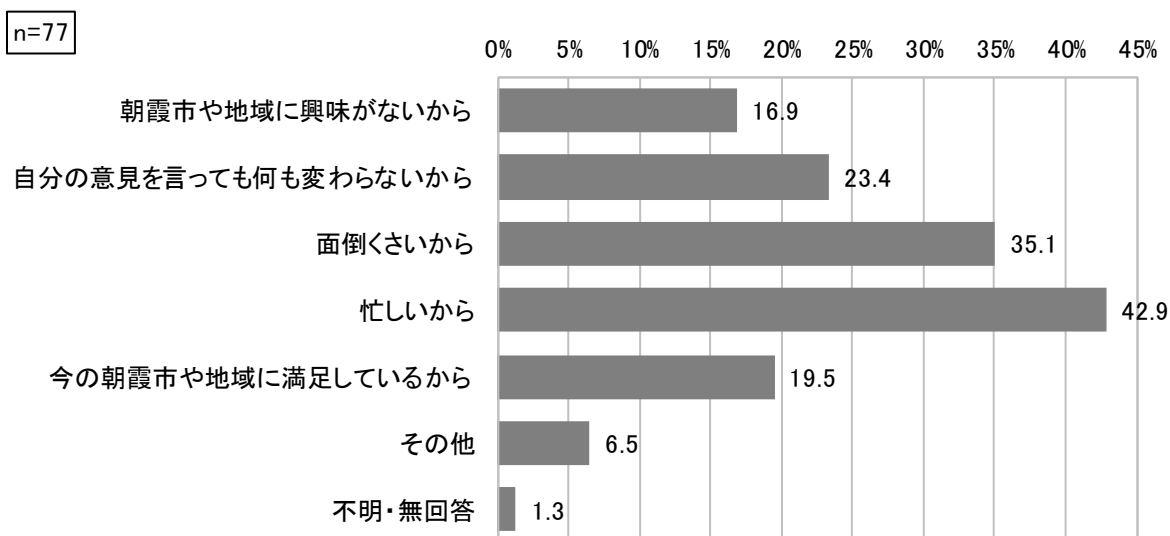
そう思う理由は、「朝霞市や地域を今より良くしたいから」が 64.5%と割合が最も高く、次いで「おもしろそうだから」が 33.6%、「若い世代が必要とされていると感じるから」が 32.7%となっています。



(問 14 で「4.あまり思わない」、「5.思わない」と回答の方)

問 14-2 そう思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

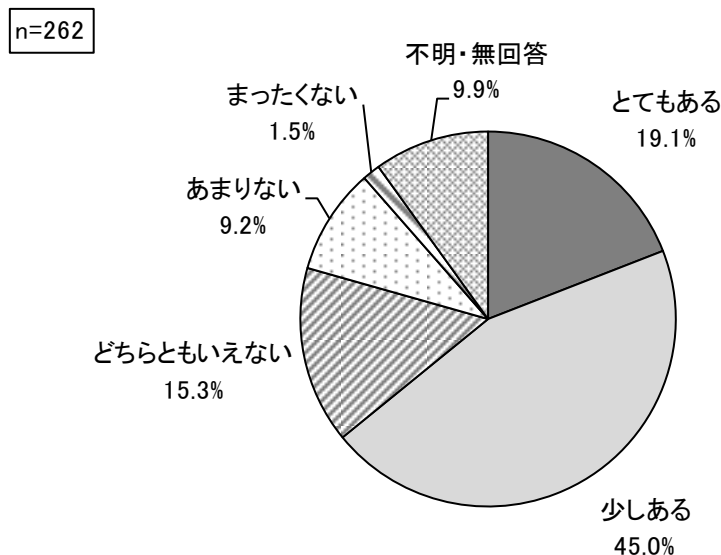
そう思う理由は、「忙しいから」が 42.9%と割合が最も高く、次いで「面倒くさいから」が 35.1%、「自分の意見を言っても何も変わらないから」が 23.4%となっています。



問 15 あなたは朝霞市に愛着がありますか。(1つに○)

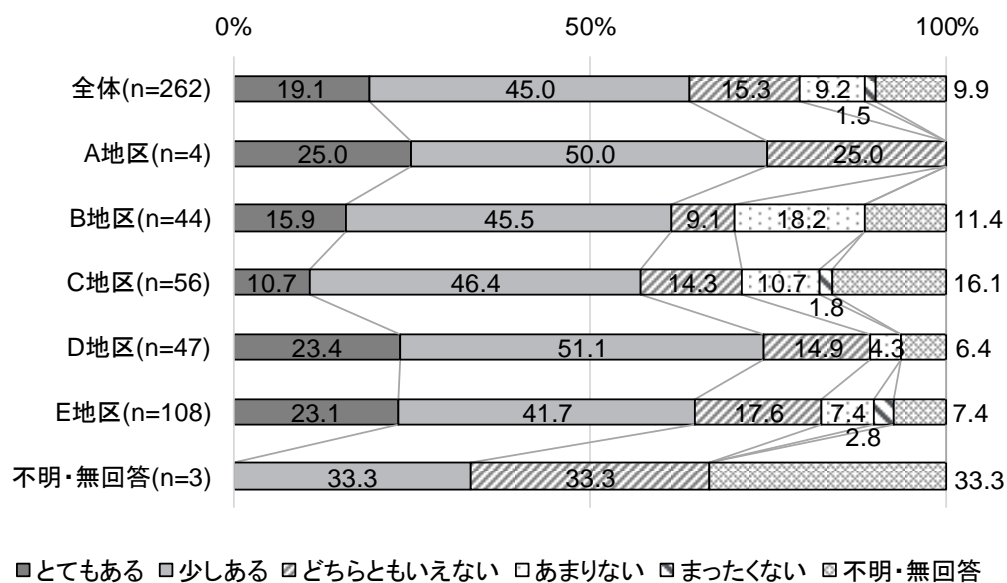
朝霞市に愛着があるかは、「少しある」が45%と割合が最も高く、次いで「とてもある」が19.1%、「どちらともいえない」が15.3%となっています。

居住年数別にみると、居住年数が長い方が「とてもある」の割合が高くなる傾向にあります。

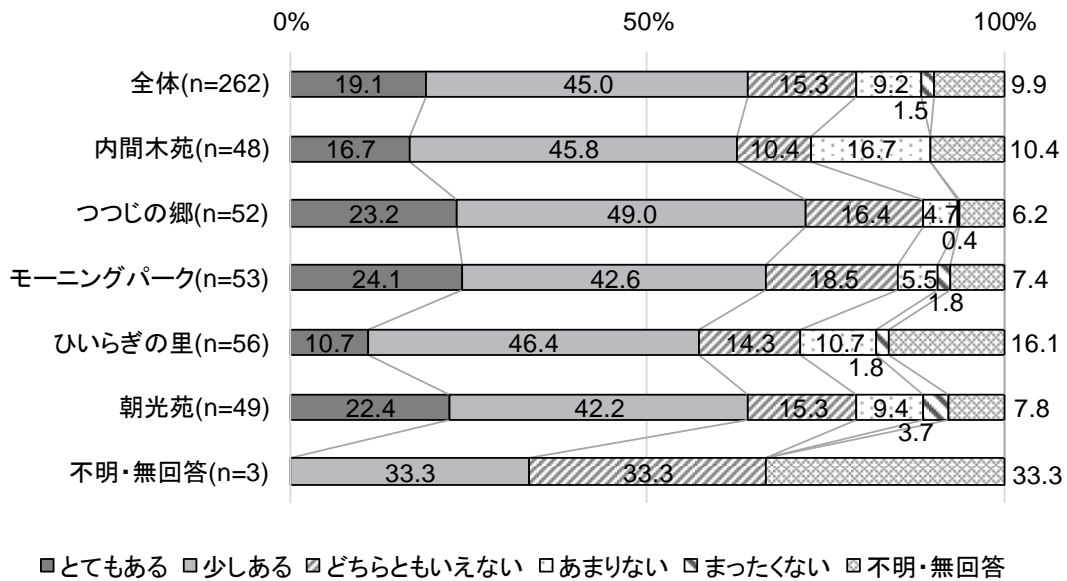


■問 15 朝霞市に愛着があるか×問 1 居住地区

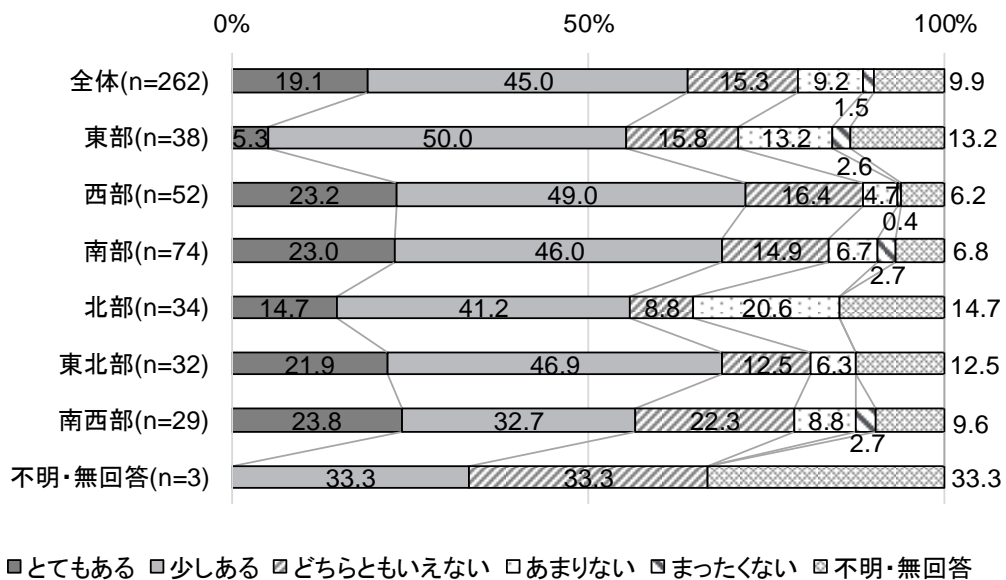
圏域パターン 1 (前期アンケート)



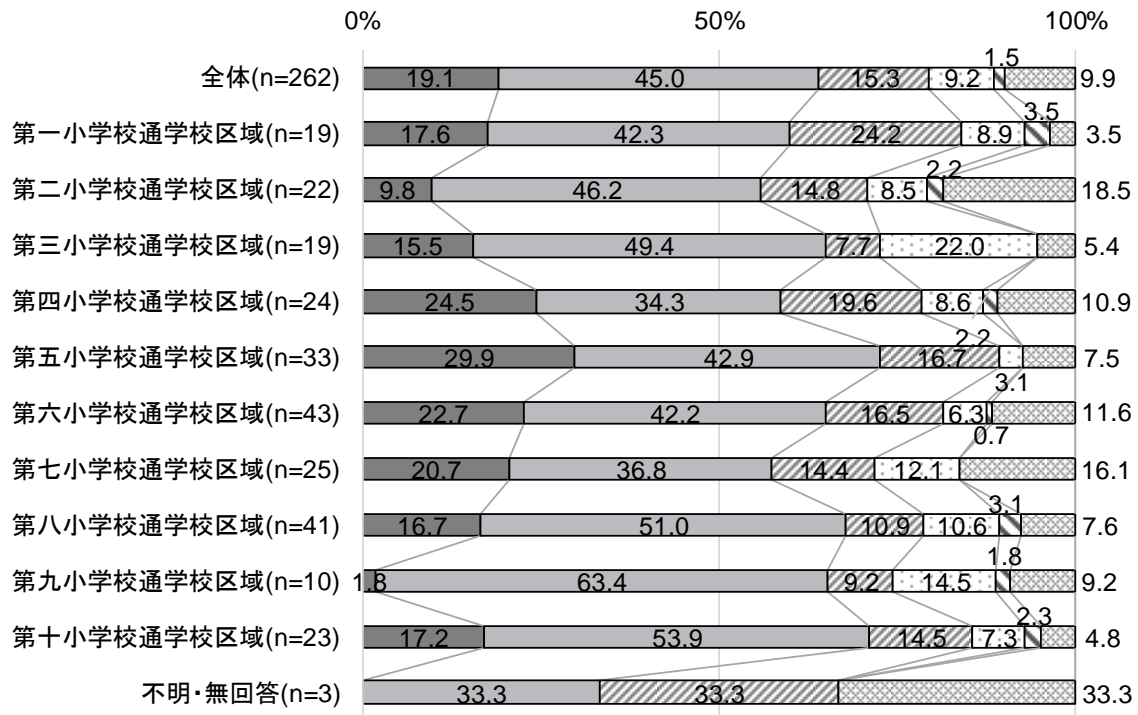
圏域パターン 2 (日常生活圏域)



圏域パターン 3 (朝霞市民生委員児童委員地区割)

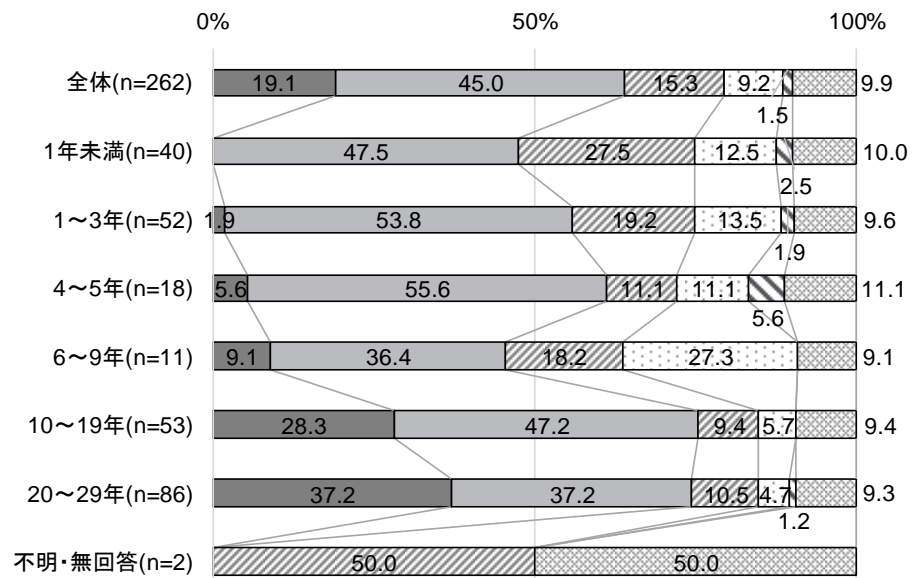


圏域パターン 4 (小学校通学区域)



■とてもある □少しある ▨どちらともいえない □あまりない □まったくない □不明・無回答

■問 15 朝霞市に愛着があるか×問 2 居住年数



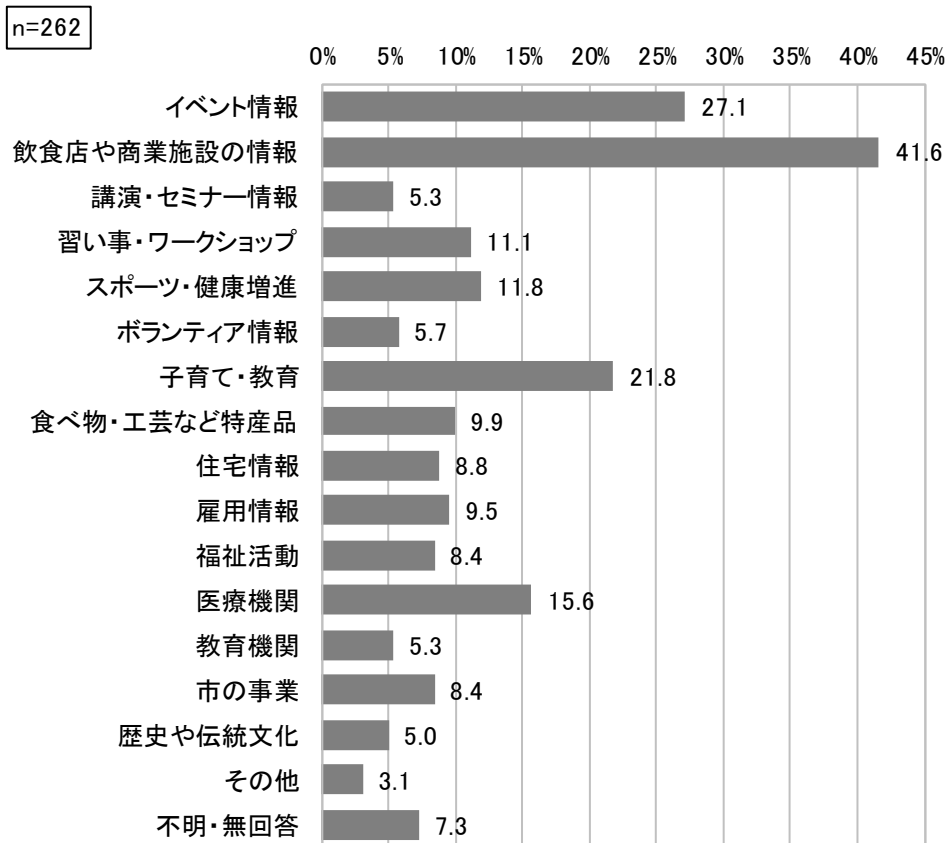
■とてもある □少しある ▨どちらともいえない □あまりない □まったくない □不明・無回答

5 情報収集方法について

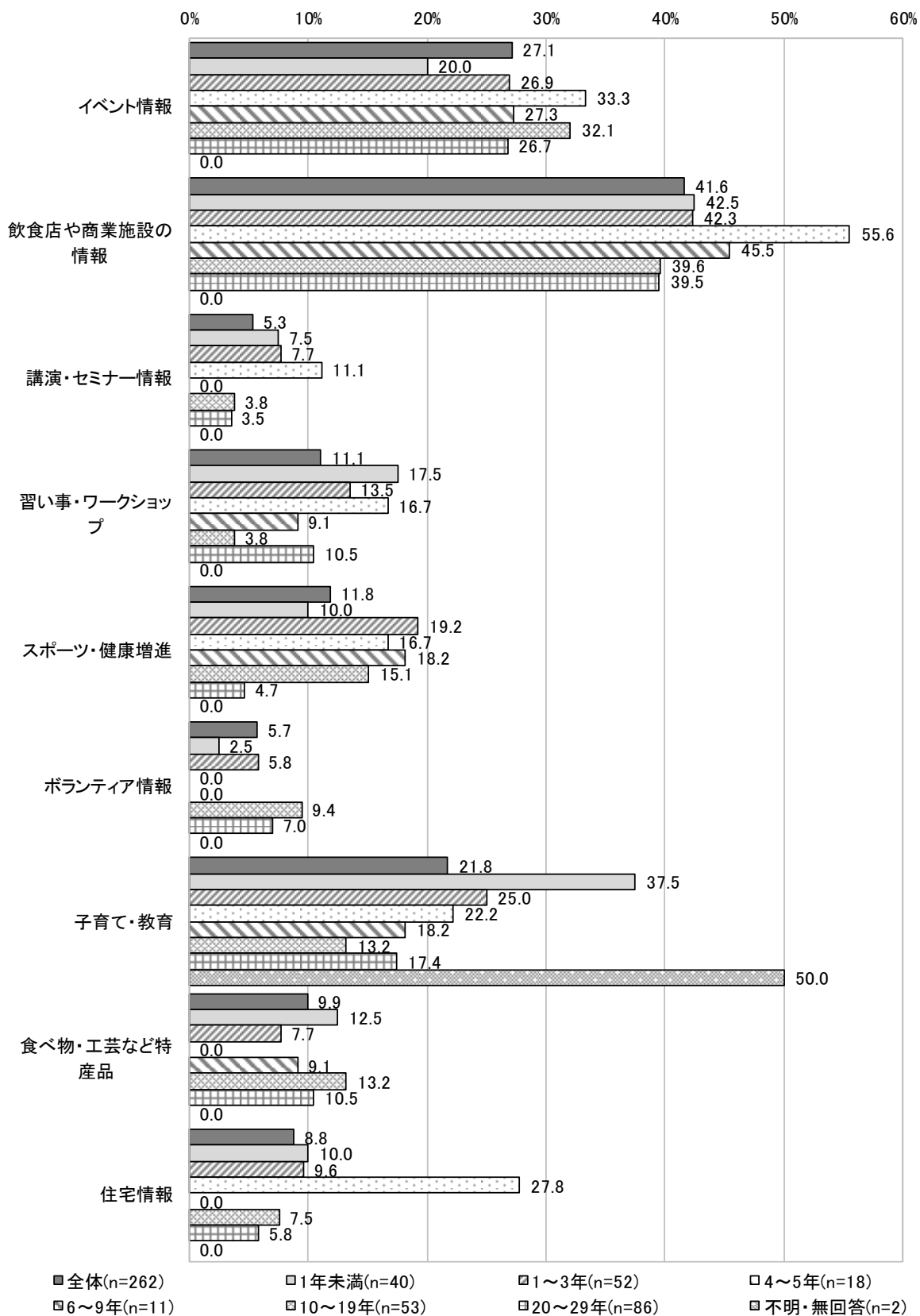
問 16 あなたは朝霞市のどんなことを知りたいですか。（あてはまるものすべてに○）

朝霞市のどんなことを知りたいかは、「飲食店や商業施設の情報」が41.6%と割合が最も高く、次いで「イベント情報」が27.1%、「子育て・教育」が21.8%となっています。

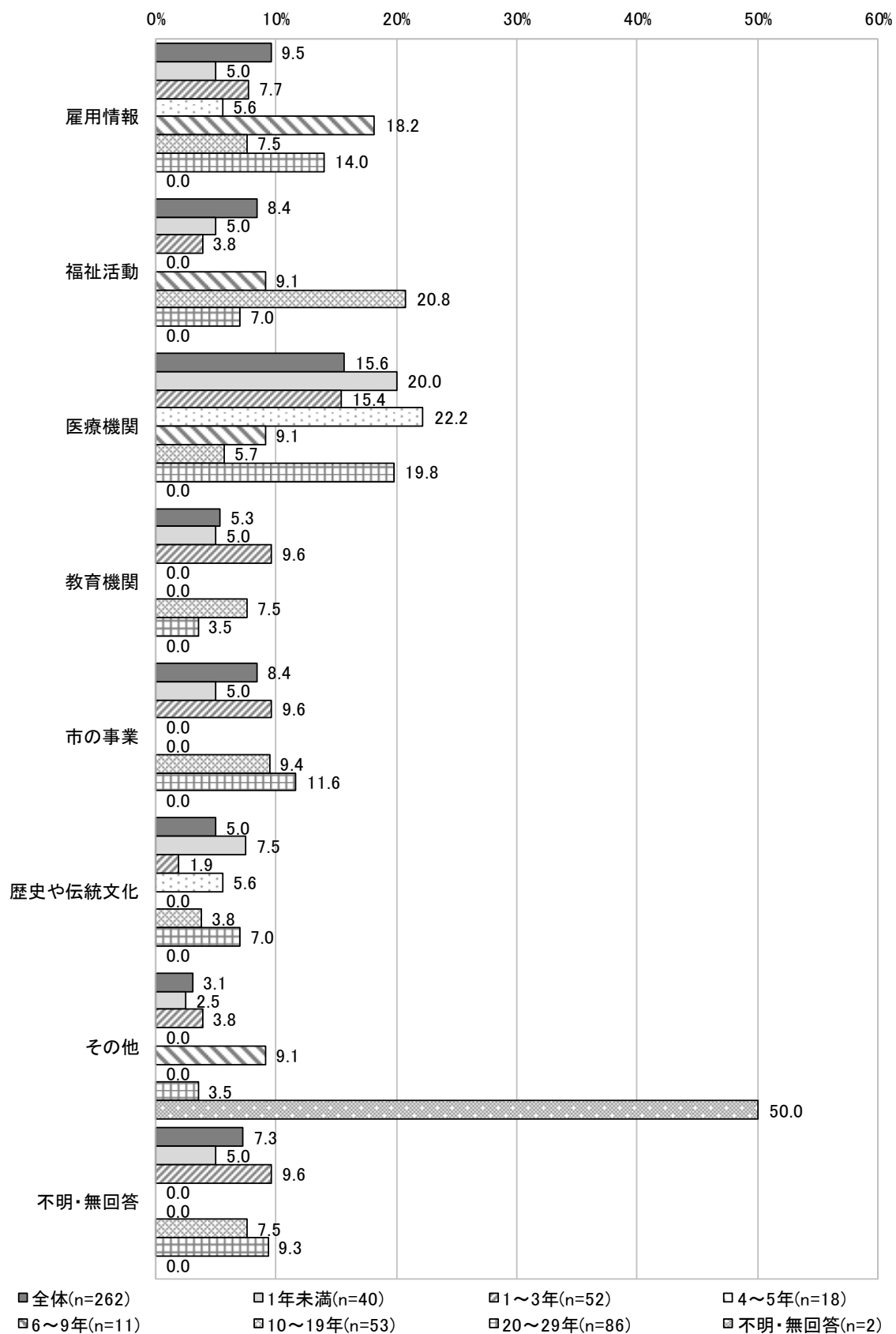
居住年数別にみると、いずれも「飲食店や商業施設の情報」の割合が高くなっています。



■問 16 朝霞市のどんなことを知りたいか×問 2 居住年数 (1/2)

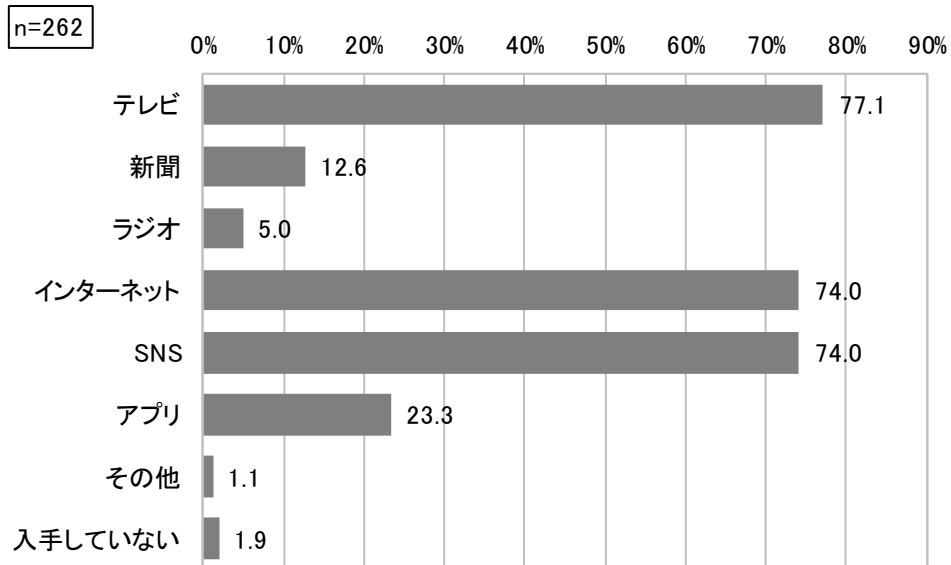


■問 16 朝霞市のどんなことを知りたいか×問 2 居住年数 (2/2)



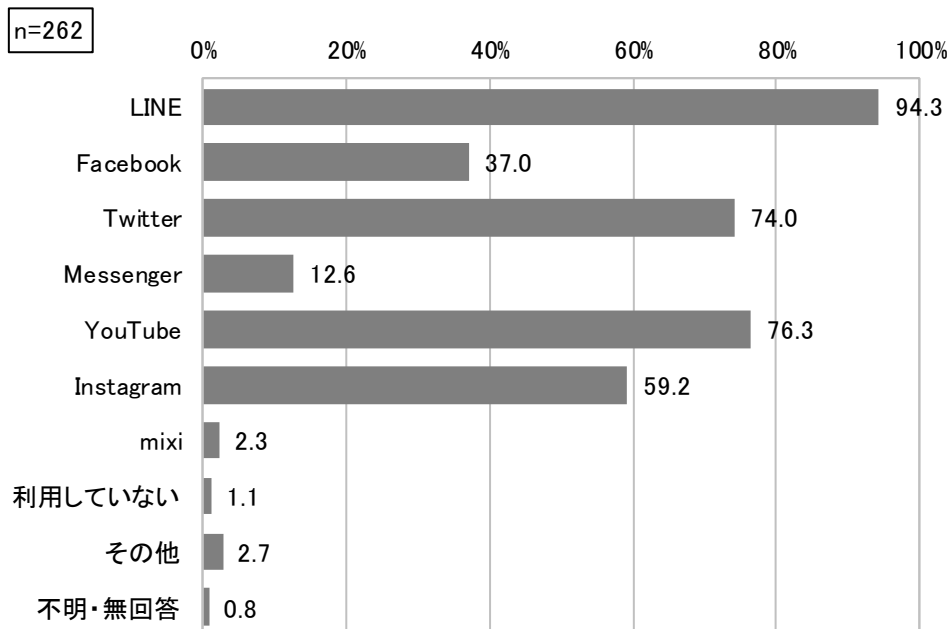
問 17 あなたは日常生活でニュースなどの情報をどのように入手していますか。（あてはまるものすべてに○）

情報をどのように入手しているかは、「テレビ」が77.1%と割合が最も高く、次いで「インターネット」、「SNS」が74%となっています。



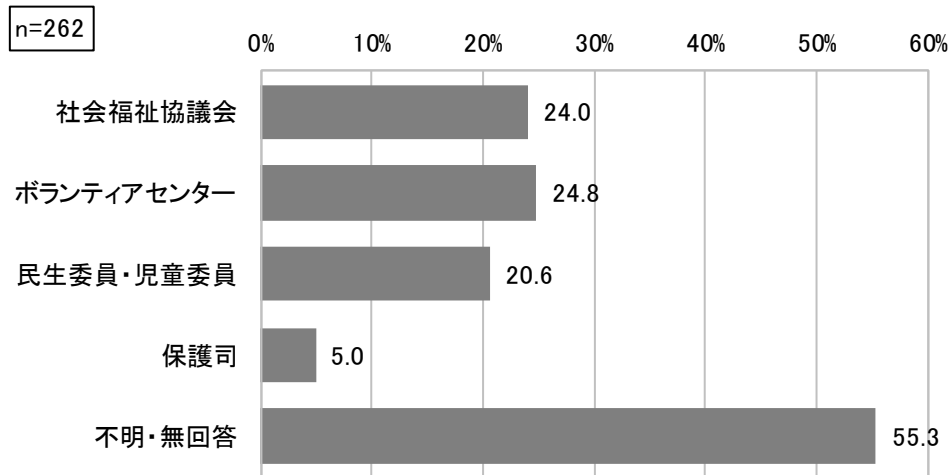
問 18 あなたが利用している SNS は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

利用している SNS は、「LINE」が94.3%と割合が最も高く、次いで「YouTube」が76.3%、「Twitter」が74%となっています。



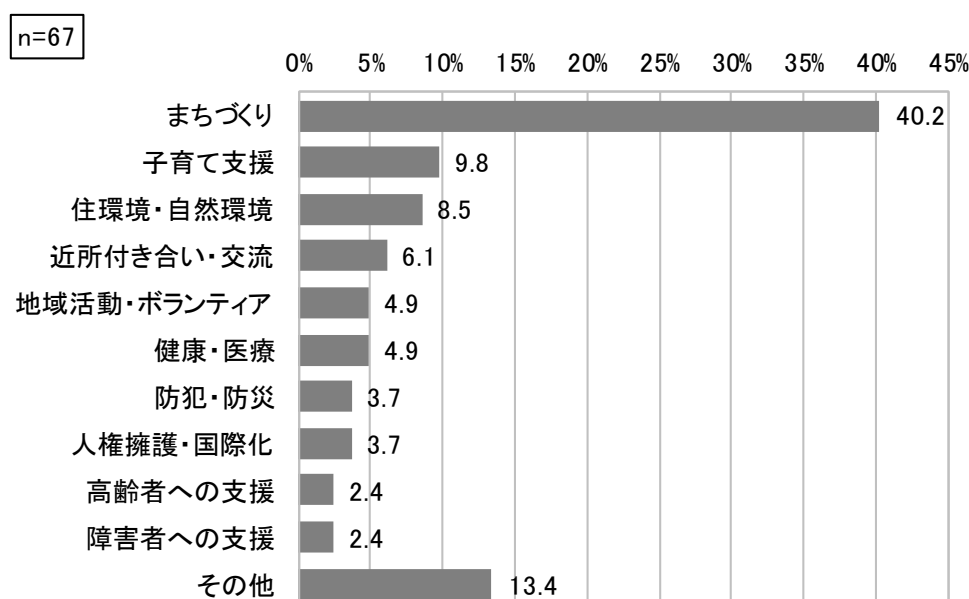
問 19 あなたが知っているものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

知っているものは、「ボランティアセンター」が 24.8%と割合が最も高く、次いで「社会福祉協議会」が 24%、「民生委員・児童委員」が 20.6%となっています。



自由意見欄

最後に、これからの地域福祉の取組について、ご意見などがありましたら自由にご記入ください。



<全体>

自由意見欄に記入があったのは回答者 262 人のうち 67 人 (25.6%) である。一人が複数の意見を記入している場合は分割した。このため、意見数は 82 件となった。

「その他」を除いた回答について分類別みると、「まちづくり」が回答者全体の 40.2% と最も多く、続いて「子育て支援」(9.8%)、「住環境・自然環境」(8.5%) となっている。

<分類別>

- 「まちづくり」(33 件) では、「商業施設の充実」、「街灯の増設」、「駅のエレベーター設置」、「歩道の整備」に関する意見が多数あった。
- 「子育て支援」(8 件) では、「保育園の待機児童」、「妊婦・子どもにやさしい制度の充実」などに関する意見があった。
- 「住環境・自然環境」(7 件) では、「公共施設偏在によるアクセスの悪さ」、「自然環境への満足感」に関する意見があった。
- 「近所付き合い・交流」(5 件) では、「イベントを通じた世代間交流への満足感」、「専門職間の交流機会の創出」などに関する意見があった。
- 「地域活動・ボランティア」(4 件) では、「彩夏祭への満足感」、「ボランティア活動の参加募集強化要望」などに関する意見があった。
- 「健康・医療」(4 件) では、「無料の健診の要望」、「病院の少なさ」などに関する意見があった。
- 「防犯・防災」(3 件) では、「治安の悪さ」などに関する意見があった。

- 「人権擁護・国際化」(3件)では、「LGBT への配慮」、「訪日外国人の受け入れ」などに関する意見があった。
- 「高齢者への支援」(2件)では、「免許返納時の移動手段の確保」などに関する意見があった。
- 「障害者への支援」(2件)では、「障害者福祉施設の増設」などに関する意見が多数あった。
- 「その他」(11件)では、「朝霞市の PR 活動」、「若者に対する支援・福祉の充実」などに関する意見があった。

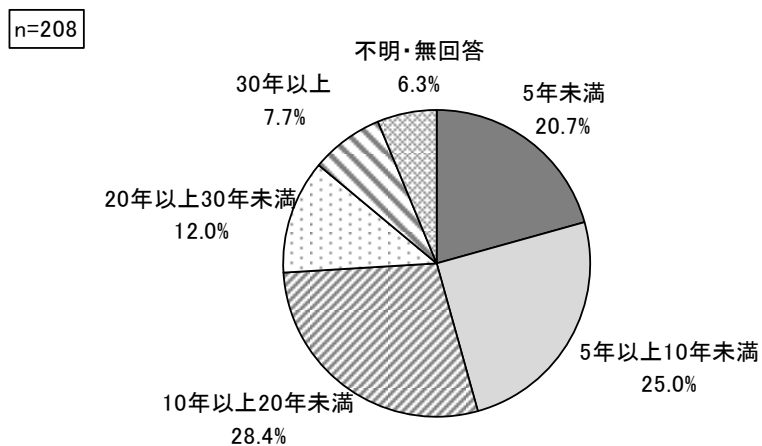
IV 専門職アンケート調査結果

問1 あなたの職種及び当該職種での経験年数をお書きください。

回答内容	
社会福祉士	精神保健福祉士
介護福祉士	介護支援専門員
介護施設管理者	介護施設職員
訪問介護員	保育士
幼稚園・保育園職員	教頭
教諭	教育相談員
家庭児童相談員	児童館長
児童館職員	児童厚生員
児童発達支援管理責任者	児童福祉施設職員
児童指導員	放課後指導員
放課後等デイサービス管理者	放課後等デイサービス職員
子育て支援センター相談員	歯科医師
看護師	保健師
管理栄養士	民生委員・児童委員
保護司	生活保護監察指導員
ケースワーカー	就労支援員
相談支援専門員	消費生活相談員
社期福祉協議会職員	社会福祉主事
福祉施設職員	市職員

■経験年数

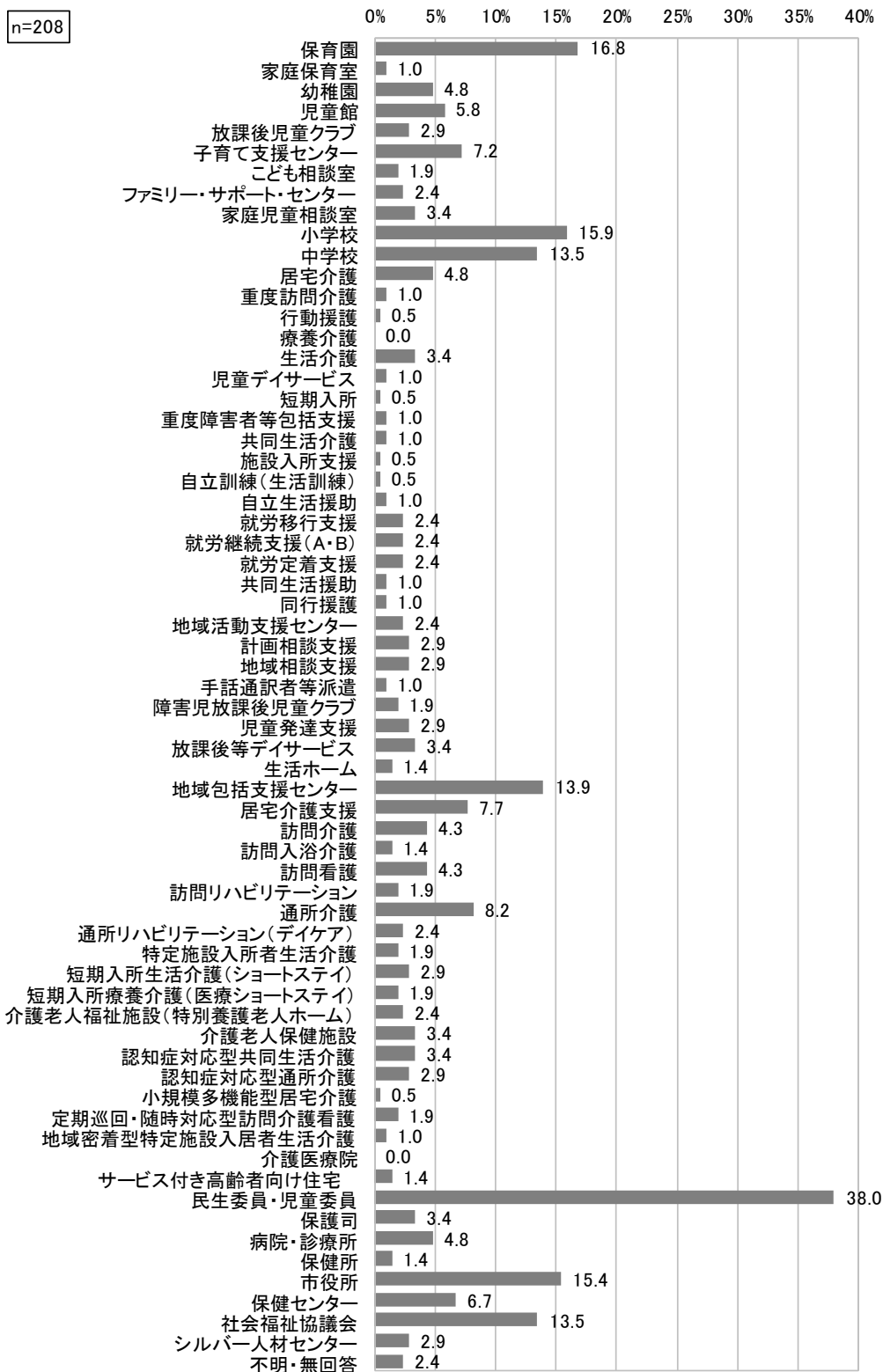
経験年数は、「10年以上20年未満」が28.4%と割合が最も高く、次いで「5年以上10年未満」が25%、「5年未満」が20.7%となっています。



問2 あなたの関わる主な専門分野の種別(施設、勤務先、サービス内容等)を選択してください。

(あてはまるものすべてに○)

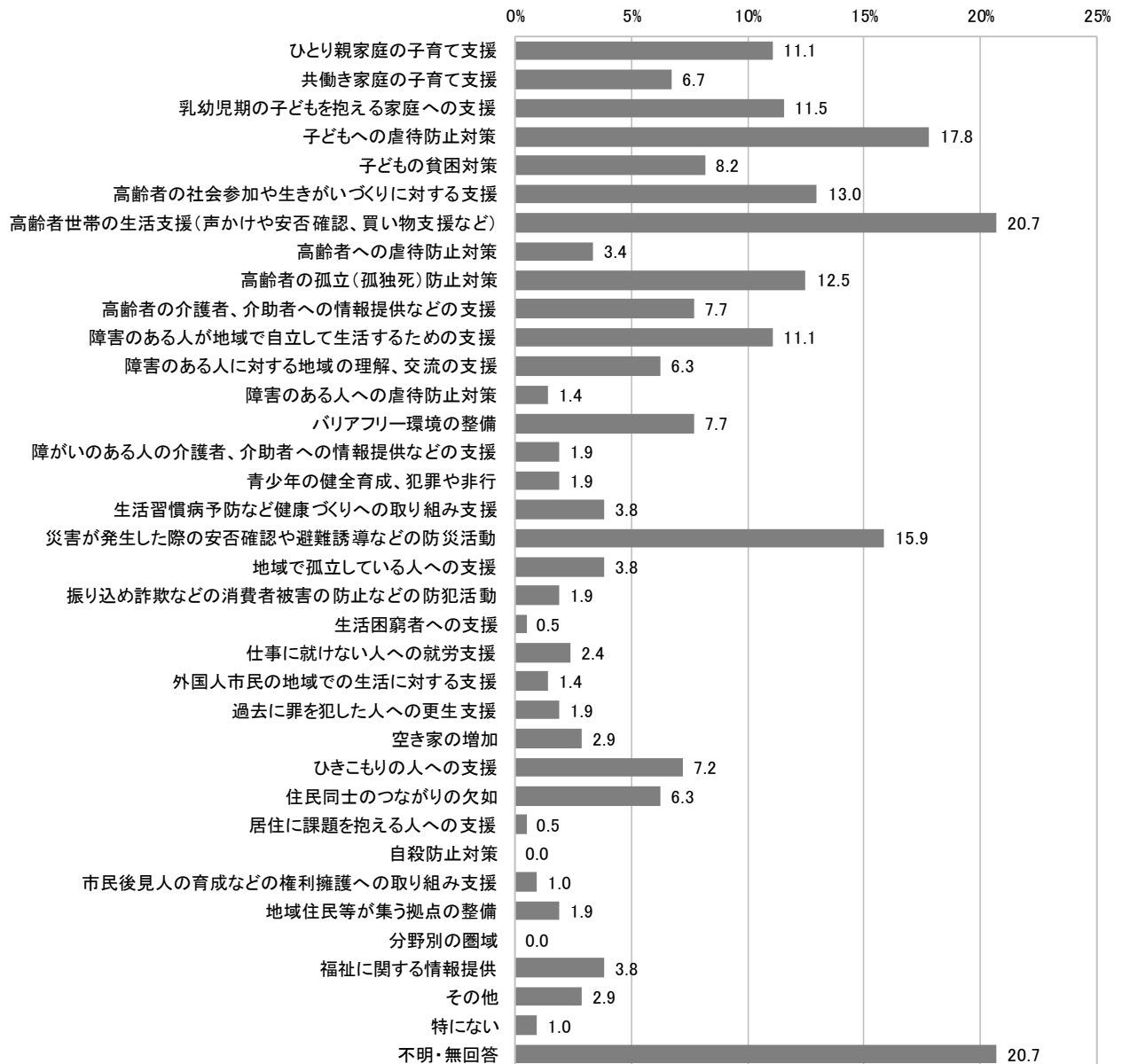
主な専門分野の種別は、「民生委員・自動委員」が38.0%と割合が最も高く、次いで「保育園」が16.8%、「小学校」が15.9%となっています。



問3 最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき項目を選択してください。また、それぞれに取り組む際の解決に向けたアイデアがあればお書きください。(〇は3つまで)

地域で気になる課題は、「高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）」が 20.7%と割合が最も高く、次いで「子どもへの虐待防止対策」が 17.8%、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が 15.9%となっています。

n=208



■取り組む際の解決に向けたアイデア・ご意見

ひとり親家庭の子育て支援
見守り、コミュニケーション（普段からの）。
子供の年齢に応じた見守り体勢。帰宅時に一人の事が多い。
町会、子供会等の内容把握。
親が仕事をしている時間、子どもたちの過ごし方が気になります。SNS を使った犯罪に巻き込まれないよう大人が見守ることが大事だと思います。
母親一人での子育てをしている方、又は共働きの家庭の母親の方だと保育園等に子供を預けていても子供さんが急病等で迎えにいかなくてはならないことがあり、正社員として働きたいがそれができないといった方も多くいるようです。
家族に支援がゆきとどいてないと思います。母でしたら、お母さんが長時間働かなくてもよいように支援が必要。父でしたら、もっと支援が必要。
保育園への入園、兄弟一緒に園に通えるような配慮があるといい。
ひとり親家庭においては、保護者が生活の為の仕事が優先になるため子供が一人で家に居る事が多い。そこでの生活サポートを導入する必要があると考える。老人の様なヘルパーさんの様なシステムがあると良い。
親子の気がるに立ち寄っておしゃべり等できる場所、各小学校地区に1ヶ所くらいほしい。
小学校区内に集まれる場所の設置。小～高校生まで集え大学生のボランティア等も入る。学童が終わった後も行くことが出来、食事の提供や遊び・学習がある。現存の子ども食堂は子ども1人で通えない場所が多い。
父子、母子家庭とも、家庭との連携が構築しづらい状況になってしまうため、地域で子どもと親を支えられる体制作りが必要だと考える。
子育て支援施設に来た時に職員と保護者、保護者同士といったつながりが得られる支援があるといいと思います。
緊急時の子の宿泊場所提供。市内の住民にこのような場合の一時預かり制度を市が創設（新規助け合い事業）（他人事を我が事として）。
アンガーマネジメントを取り入れる。
年収制限があり、まじめに働いていると支援がほとんど無い。
育英資金の情報。
経済的支援。
子供の学習支援。
朝食の提供・・・各地域の公共施設を活用して。
支援面ではまだまだ十分ではないと考えますが、子どもの支援を優先させたいのですが、具体的な方策が模索中です。

共働き家庭の子育て支援
保育士の処遇改善、保育所の増設。

保育園の預ける時間を長くしたりした方が良いが、保育士の数が少ない。私自身も子どもを預けているので延長できた方が良いが、その為には保育士への手当てが必要だと思う。
保育園の預かり時間の延長（有料でも構わない）があると助かる。（日）（祝）での保育園営業（シフト勤務であるため。）
保育時間が 11 時間、8 時間がある事で子と親と一緒に過ごす時間があまりない事を不安に感じている。
夜 9 時まで可能な延長保育（安く） 保育園から自宅までの送迎。
民間でもいいので、10：00 以降もお願いできる所がほしい。急な残業等にも対応できる施設。
良質な環境を確保する保育施設ほど、交通が不便で送迎に悩みを抱えて要するため、送迎サービスの充実が必要。結果、保育の質が向上できる。
病児保育の充実。
古い考えかも知れませんが、昔は、子供は母親が育てたと思います。どうしても、働らかざるえない家庭は別ですが。それと今、子供食堂がありますが、親と一緒に食べられない子もお金を払えば、一緒に食べられる。私には、納得出来ません。中には、複雑な家庭の子もいると思います。子供食堂で食べてねと、思う親もいると思います。虐待のある家庭へ出むき、保護者のケアまでしたらどうですか。その親も小さい時、虐待を受けていたかもしれません。
母親一人での子育てをしている方、又は共働きの家庭の母親の方だと保育園等に子供を預けていても子供さんが急病等で迎えにいかなくてはならないことがあり、正社員として働きたいがそれができないといった方も多くいるようです。
放課後クラブに行っていない子供達の声掛けしていきたい。
下校後、外遊びをする子どもをが少ないので解決方法はなかなか見つからない。近所の人の見守りくらいです。
放課後の学童の拡充とワーキングプアにならない体制づくり。
子どもが安心して遊べる環境づくりや子育てを気軽に話せる仲間づくりができると良いと思います。／ランドセル来館の使い勝手が悪い。共働きの世帯に合わせた支援が必要。
親子の気がるに立ち寄っておしゃべり等できる場所、各小学校地区に 1ヶ所くらいほしい。
ファミリーサポートセンターの活用。

乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援
自分の経験を生かして援助していきたい。
子育て支援のアドバイス。
育児の知識が得られるハンドブックなどを活用する。
保健センターの活用。
保護者向けの講演会の実施を多くしたり、支援センター等の利用をもっと呼びかけた方が良いと思う。
親から子へと子育てを伝えていくものだったが、最近では生後 2 ヶ月から保育園で預かるので、子育てが苦手な親が増えている気がする。

保育の現場としては、必ず保護者の後側には、あるものです。見えないが見えた時に、すぐ対応する必要がいつでもある。現場では見落としのないように努力している。
親の孤立の防止。
お母さん達の子育て等で困っていることを聞き、それに対してのアドバイスをする。
地域のつながり等を充実させ、核家族化し、孤立しがちな子育て世代を地域全体で支えるしくみ作り。
悩んでいることを相談したり話せる人のいる場所をふやす。
出入り自由のサロン。
自治会などで、3才までのお子様に対して訪問をし交流をしてはどうか？
親育ちを支援、子育てのノウハウは情報としてあるが、育てにくさを抱える子、親が不安定などそれぞれの親子にあった子育てを一緒に考える居場所が増えてほしい。
親子の気がるに立ち寄っておしゃべり等できる場所、各小学校地区に1ヶ所くらいほしい。
担当者が変更になっても継続して相談が出来る体制。
児童館・幼稚園・保育園などと市役所（相談係）の連携を強化していく。
子育て支援センターの拠点数拡大と支援員の充足。
孤独化する保護者へ身近な駆け込み寺として地域の拠点を拡大し、ネットワーク化すべき。

子どもへの虐待防止対策
地域の見守り、通報、学校との連携（情報共有）。
見守りに歩きながら、おかしいと思ったら、市役所のこども未来課に相談する。
見守り活動を行う。
近所の人達が一番情報をもっています。児相、警察への連絡。
警察の即時介入と罰則強化。
地域の見守りネットワークの構築。
訪問などができるシステム 声かけ。
ニュースで子どもへの虐待の事件のたびに悲しい気持ちになります。自分の周りでそういう出来事が発生しないよう注意深く見ることを心掛けています。
早期発見早期対応できる体制が必要。学校—児童相談所—警察—こども未来課との関係強化が必要。
若年齢で親になった人への支援活動・相談 子育てへの不安をつめる活動。
あってはならない事件が多発している。子育てを通じて親心を育むことができるのに。一番声をかけなければいけない。
保育の現場としては、必ず保護者の後側には、あるものです。見えないが見えた時に、すぐ対応する必要がいつでもある。現場では見落としのないように努力している。
保育園の緊急預かり枠の充実。
発生予防対策の充実。
親子の気がるに立ち寄っておしゃべり等できる場所、各小学校地区に1ヶ所くらいほしい。
子どもへの虐待と貧困はセットで考えるべきで、経済的にも精神的にも余裕のない結果なのではな

いかと思います。ケースバイケースだとは思いますが、ファミリーサポートセンターを利用（通常より安く）してもらったり、親が悩みを気軽に相談（ネットで）したり、未然に防げたらいいと思う。孤独で密室なんも要因のひとつ。
子の利益を優先した家庭支援。
民生委員の活用が少ない。時に主任児童委員（地域にない時になるはずです。）
講演会の実施。
子ども食堂を作る。
近隣住民の交流の場を設定する。
児童相談所職員の増員と権限の強化。
児童館・幼稚園・保育園などと市役所（相談係）の連携を強化していく／要対協への児童館ごとの参加 各児童館への報告の強化（現状、情報は伝って来ない）
家庭児童相談員等の関係機関との情報の共有。
地域の見守りが必須だが、プライバシーもあるので家庭の中を覗き込むことが難しい。子どもは自ら声をあげにくいのでよく観察して、ちょっとでも異変に気づいたら役所や児童相談所に相談することが望ましいと思う。
地域住民の互助・共助のシステム作り（子育て経験者による子育て相談など）。
大人をサポートし続けないとすぐそばにいる子どもを守れないと感じます。大人側の原因は各々で振り分けるようですが、職員でなくても、お世話する人が近所にいるといいなと思いました。
地域との関わりによる保護者のケアが一番と考えます。小学生以降、家庭に居場所を見つけられない子どもが居り、ちょっとした親の言動で居場所を失った子ども達のために、子ども（小学生）が足を運び易い児童館など寄り添ってもらえる（安心して話を聞いてもらえる）場所があると良いと考えます。中学生以降居場所を求めた結果、犯罪に関わる可能性が高くなると考えられるので、早い時期に心の居場所を確保できると良いと考えます。
教師の意識の向上。

子どもの貧困対策
子ども食堂の活用。
子ども食堂を運営している団体との連携や情報共有。学習支援を行っている団体へ場所の提供など。
本人ではどうにもできない問題、養育環境を整える上で親（養育者）にお金を渡すのではなく、子どものために使えるクーポン等を配布し、確実に子どものために使わせてもらいたい。
子どもだけの貧困ではないため親世代を含めた総体的な対策が必要。
経済的支援。
育英会の活用。
親の所得に応じた市役所→民生委員への伝達。民生委員→見守り。
学校指定の制服販売店と連携し、中学校へ進級する際、制服を受取りに来ない（来れない）家庭を支援が必要であるか否か確認する。
親子の気がるに立ち寄っておしゃべり等できる場所、各小学校地区に1ヶ所くらいほしい。

おじいちゃんおばあちゃんと乳幼児が共にすごせる中で、お互いメリットが多くあると思います。

高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援
ひとり暮している方の援助していく。
地域のサークル作りをする。
地域包括センターで体操等、計画していますが、70～80代の方が多く、90才でも元気方の行き場がないので、サロン等にぜひ参加してほしい。
地域のコミュニティなどに参加してもらえるよう声かけをする。
地域の老人会への参加促進。
いきいきサロンや、オレンジカフェはとても好評で満杯状態です。交流の場をもっと増やしてほしいと思いますが、スタッフが足りません。
高齢でもできる、かつ尊厳を傷つけない場を様々な種類のものをつくる。
近所に住む人たちが気軽に集まって話ができる場所（サロン）が地域にあるとよい。
サロンの活用、お互い近所で誘いあい声かけあうことが大きな成果につながると思う。一歩外に出られない人も、気にかけてくれる人がいることが本人にとっては嬉しいと思う。
交通手段の利用が可能であれば、外出したい希望のある方は多いと思います。
介護保険以外で社会参加したくても坂道や距離といった"足"がない事。
出かけられる人はよいが、出かけられない人に対して、どうしたらよいか？訪問した時にサロンの事などお伝えをする支援をたのまれた時は（針の糸を通す）すぐにお伺いさせて頂く。
高齢者様は、介護認定された方要支援の方非該当の方と、何らかの支援を受けていらっしゃる、年齢を重ねた事で出来ないことが増えたとお声があり、介護保険での自立支援も考えて、外に出る機会や、生涯学習についてもお話しはするが外出する事に不安もあるようなので、巡回バスじゃない直行バスなどがあると便利かと思います。
元気な高齢者が働ける環境作り。
地域の介護施設で、話し相手 etc. ボランティアとして活躍の場を設ける。
高齢者が気軽に参加できるボランティア 65歳以上の全員にボランティア情報を配布。
高齢者になってからの地域参加ではなく、高齢者になる前の段階での地域参加により、皆が生きがいを持てる仕組み作り。
シルバー人材等で活躍の場がある方は、まだ幸せかと……片マヒ、下肢等に問題のある方に対して、同じような機会をどうするかだと感じます。地域での連携も重要かと。
"場所"づくりがむずかしい。また、場所があっても支援する人材、リーダーを育成していくことが課題と考えます。
健康相談。
学童に老人の参加を促し、話し相手や物の修理等をして頂くことにする。
世代間交流などを通じて、高齢者と子育て世代をつなげるような事業を展開。
視野を広げて考えれば子どもも高齢者も生きがいのある街づくりにつながるのでは？と思います。
小学校や地域（町内会等と連携し 非常用？のかまどでごはんを炊く訓練や「はんごう」を利用し

たごはんを炊く訓練のように高齢者の知恵や体験を子ども達に伝える企画。

高齢者世帯の生活支援(声かけや安否確認、買い物支援など)
相手の様子を見ながらひとり暮らしは特に気を配りたい。
買い物支援などの手続きの簡素化。
高齢者のボランティアグループを作る。
町内会の活用。
小学生等の教育プログラムの一環として活動。
個人情報保護のため困っている人の情報が知られにくいため、自ら助けてほしいと声をあげて預かるシステムを作ると良いと思う。
以前、民生委員は何でもやってくれるので(知り合いから聞いたと言って)銀行迄乗せて行ってくれと言われ困惑した事がある。
ボランティア等 相互にわかりやすいような形にして、利用しやすい環境を作る。
訪問活動。
自治会での情報発信。
おとなり同士のつながりと地域での見守り。
昔あった むこう三軒両隣のおせっかいが必要かなと思います。そのためにコミュニケーションをどうとっていくか課題です。隣人とあいさつも出来ていない方もいるのでは?
訪問介護事業所が予防支援の方に支援が入りづらい。
民生委員に同行しての顔の見える支援が可能ならば良い方法だと思う。
気軽に買い物支援出来る体勢を早く実現。
障がい者施設と共働し、買い物支援や声かけなどの支援を障がい者が行う。
顔の見える地域のつながりを形成させることで、未然に防止すること又は早期発見が出来る環境を作る。
地域で支えあえるしくみづくりが必要と思う。有償・無償 メリット・デメリットあるが有償の地域住民同士の支えあいができるといいと思う。チケット等。
独居老人が増えた事 近隣とのふれ合を持っていないので生活の実体が見えない。その為、何度か訪問して顔を合わせるようにしている。
買い物ができる巡回バス。
外出、買い物等でタクシー利用せざる場合が多い為割安なタクシー券の発効希望者が数多く聞いて居ります。
介護保険以外でのサポートサービスを増やしてもらいたい。
買い物したいけど行けない、インターネットなんて使えない…など巡回スーパーとかあると便利。
昔の長屋みたいな、地域(高齢者同士の助け合いも出来るかも)。
困っている事などないか? 声かけでお宅へ訪問した時に聞く。
生活支援(掃除等)を介護福祉士がやっている状況、資格のない人でも出来る内容なので、そういう人たちを集めた事業所の立ち上げをお願いしたい。

高齢者への虐待防止対策
見守り。
通報→それに対しての継続的な対応がいまひとつ不明確に思う。チーム編成、役割分担等をきちんとする仕組づくりが早急に必要では。
今一度家族で考えてほしい。
家族を孤立させないよう、懇談会や勉強会的なものがいろいろ行われていますが、虐待が見られるような家族にはまだ周知が足りず、家族で問題を抱えて虐待を行ってしまうケースが多いように思います。
認知症の理解が求められる。介護者のストレスマネジメントが求められる。
近隣からの通報。
地域で孤立しない取り組みが必要。地域からの情報をもらせるような環境作りも必要。
家族の集まり、愚痴の言える場所作り。
顔の見える地域のつながりを形成させることで、未然に防止すること又は早期発見が出来る環境を作る。
高齢者の虐待防止法が整っては来てますが、自分自身が虐待にあっているか判断がつくような活動を民生委員に周知徹底させたい。
認知症の理解（特に家族に対して）。
介護者向けの集いをもっと広く周知。
介護疲れに対するフォロー（旅行等）。
家族がおいつめられないようにするにはどうすればよいか？金銭も関係しているのでは。
介護の疲れやストレスの蓄積により高齢者にきつい言葉や暴力をふるってしまうので、デイサービスやショートステイなどを使って自分の時間を作り、積極的に介護者が集うサロンや親しい友人に話を聞いてもらう。

高齢者の孤立(孤独死)防止対策
気がかりな方には、常に声かけをする様にしたいと思います。
新聞やパンフレット等ポストにたまっていないか調べたい。
独居高齢者が寝たきりになったり、生死に不安を感じるようになったら行政の力で入院させたり、施設に入所させることができるような法律なり条例ができると良いのでは？
郵便局や新聞業者と役所の強い連携で、安否確認を行なう。
見守り・声掛けなど定期的に行う。町内会等の協力により近隣の方の見守りを強化する。
訪問活動。
警察・民生委員・自治会の情報共有。
見守り活動を行う。
地域で孤立しないように、地域から目を向けてもらえるように地域住民の意識を変えていく。

顔の見える地域のつながりを形成させることで、未然に防止すること又は早期発見が出来る環境を作る。
民生委員は独居の高齢者で心配な方は、訪問回数を増やすなり、地域包括支援センターへ相談したりしていますが、詳しい情報はあまり聞かされません。もう少し情報の共有が出来たらと思います。
見守りの体勢を充実。見守る側の横のつながりをつくることで情報の共有をして対等につながるのでは、と思う。
見守りネットワークを増やす。
シニア向けのパーティーや街コンのように出会いつながりの場を作る。
地域住民・民生委員地域包括等の情報が集約できる窓口を作り問題を把握しやすくする。
地域を小さい班に分け「高齢者孤独サポーター」のような人をおき、見守りをお願いする。
様々な理由から孤立しかかっている方が多いのでは？と思います。孤立したくて孤立している方はいないと思います。実際、私の働くデイでも独居で家族の支援の乏しい方は、通所を始めるまで孤立に近い方もいらっしゃいました。
気になる人へは安否確認の為、声かけでお宅を訪問している（他に解決策が思いつかない）。

高齢者の介護者、介助者への情報提供などの支援
高齢者同士で介護をしている家庭の中には、まだ介護施設や通所を使用するのも抵抗がある方もいるようです。そういった方に対する見学や情報提供がもう少し必要かもしれません。
市町村が独自の考えを持つ 各家庭がよくなれば市全体がよくなる。
市内の包括などがイベントを通じて、情報提供する。
小さな学校（町内会毎）等に来る機会に少しの時間をいただく。
地域包括支援センターの充実 市内福祉施設において、情報提供しうる職員の育成・配置→行政の支援等。
介護保険についての説明等。病院に入院して初めて介護保険制度を知る方があまりにも多いと感じる。
民生委員 包括支援センターとの情報共有。
顔の見える地域のつながりを形成させることで、未然に防止すること又は早期発見が出来る環境を作る。
栄養状態や食事内容の把握不足。
介護者の集いの拡充。
介護者を登録し、介護者通信等を発信。
介護者同士が気軽に息抜きできる様な場の提供。情報共有できる様な集りができると良い。
高齢者のいる世帯にいろいろな情報をもっと提供する

障害のある人が地域で自立して生活するための支援
地域内にショートステイができる所が少ないと、御家族からよく聞きます。単独型の障害者短期入

所施設が近くにあれば良いと思います。
障害の理解が得られ、意見交換ができる場があると良いと思う。身近なコンビニ等の協力を得ると周知しやすい。
障害があり働けない方に対する一方的な経済支援（生保、補助金）ではなく社会で双方向的な役割が担える仕組みをつくる。
成人してから独立して生活できる基盤をつくる。
相談支援体制の充実 基幹型相談支援事業所の確保。
精神障害等自立へ向けての就労支援をわかりやすくしていくと良いと思います。
空き家を積極的に提供してもらい、作業場やグループホームに活用する。
心のバリアフリーの必要性。学校においては、福祉教育（総合的な学習の時間）を実施しているが、そこでの学習が地域の中で生かされているか、障害、高齢者への対応 関わりが学校外の機関でできればよい。
同じ地域で障害を持った人がいることを知ってもらう。
視覚障がい者向け駅構内ナビゲーションシステムの導入。
のぞむ自立とはなにか ニーズの把握 ・地域人財の育成 ・地域住民への理解、意識改革。
住むところ（グループホーム）、通所、就労などの充実。頼れる人や、近隣の見守り体制の強化。障害の程度別などで、小さい頃から自立できる訓練や、支援。地域の方に障害を知ってもらう。
サービスを補えない部分をボランティアに依頼。
学校をわけず、同じ空間で学校生活を送る。
地域の人達の理解、支援が必要で障がい者との交流を通じて住やすい地域を作ってゆく。
障害のある人が地域で自立するために、作業所的な仕事を提供する場があるとよい。
支援従事者の確保が必要。 人生をトータルに支えていく、地域環境の構築。
グループホームや施設だけでなく、サービス利用しなくても地域で暮らす障害者を支える仕組み作り。ソーシャルケースワーカーの設置や定期的な訪問や相談できる環境作り。子育てで言うところの保健センターのような関わりが出来る場所の設定。
障害のある人が慣れ親しんだ地域で自立できるよう、グループホームなどの居住環境の整備、緊急時等の相談支援体制および短期入所等の受け入れ先の整備。

障害のある人に対する地域の理解、交流の支援
なるべくひきこもらないで、センター等に手助けしたい。
小さい頃から、いろいろな人が居るよ…という事を何かの折に訴え、偏見の目で観ないように、授業や体験を通じ自然に伝えていくことが必要。
障害があり働けない方に対する一方的な経済支援（生保、補助金）ではなく社会で双方向的な役割が担える仕組みをつくる。
交流できる団体への支援。
身体・知的・精神障害などは、以前と比べて、十分とは言えないが、理解が進んでいるように感じるが、近年では、発達障害や、性同一性障害などの理解が遅れていると感じています。

心のバリアフリーの必要性。学校においては、福祉教育（総合的な学習の時間）を実施しているが、そこでの学習が地域の中で生かされているか、障害、高齢者への対応 関わりが学校外の機関でできればよい。
地域住民と障害がある人の交流の場をもうける ・自治会、町内会、PTA、教育機関との連携 ・福祉教育の充実。
行政による施設などの公開、交流会等。障害のある方との交流の機会を小さい頃から設け、身近な存在として認識する。地域の祭りや、イベント等への積極的に参加することで知ってもらう。
障害に対する正しい知識を学べる場の創出。
障害のある人向けのサロン等、幅広い世代が気軽に参加できる場をつくる。
時に交流する機会が無い（少ない）と感じる。
小さい頃からの生活習慣の中に根付いていればあえて考えなくても良いのではないかな。
草の根的な地道な地域活動の場が大切。

障害のある人への虐待防止対策
弱い者いじめを無くす事に協力したい
障がい者の意思決定支援の充実。親の思いだけでその人の人生を決めてしまわないように。
心のバリアフリーの必要性。学校においては、福祉教育（総合的な学習の時間）を実施しているが、そこでの学習が地域の中で生かされているか、障害、高齢者への対応 関わりが学校外の機関でできればよい。
虐待というより、ネグレクトが目立つ。学校と連携をとって市へあげているのでマメに家庭訪問をして、様子をみに行き支援してほしい。
見守り体制の強化が必要。養育者に対する心のケア体制の強化が必要。

バリアフリー環境の整備
電動車イスで歩道を移動するのを見たが、歩道はせまく、危険だと感じた。
家内においては、高齢者にとってバリアフリーは、必要になってくる。もちろん障害のある方の車いす、手すりは必要 屋外においても、道路等の横断歩道も注意。
朝霞台駅のエレベーター設置、道路の段差、文字のコントラスト。
心のバリアフリーの必要性。学校においては、福祉教育（総合的な学習の時間）を実施しているが、そこでの学習が地域の中で生かされているか、障害、高齢者への対応 関わりが学校外の機関でできればよい。
視覚、聴覚における情報のバリアフリーの充実。当事者の視点で話し合える環境作り。
子ども向けの福祉教育の充実を図る 障害者・高齢者への理解・体験学習・交流会・ボランティア活動。
福祉教育の時間を増やす。
ハード面で未整備な所がある（駅・店舗など）。朝霞台・北朝霞駅のホームドア設置をして欲しい。

高齢者も、障害者も安心して通行の出来る歩道、また、歩きやすい歩道をつくる。

障害のある人の介護者、介助者への情報提供などの支援

ストレスのない様、心配りと話し相手になって上げたい。

家族への情報提供が少ないと聞く事がある。

障害者が作業所の終わりが早く、15:00頃から在宅になり、保護者もその時間をもてあましている。放課後等デイサービスの様なシステムが、成人にもあると良いと考える。

青少年の健全育成、犯罪や非行

児童館の活用。

教育改革。

生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み支援

個人だけでなく、企業等への支援を義務づける。

体操や歩く事を進めたい。

生活習慣病予防は全世代に必要であり、特に働き盛りの多忙な世代にどうアプローチすればよいか考えていく必要がある。

幼保→小→中学校と連携した体制づくりを行っているが、義務教育後は中々地域等とのかかわりが少なくなっているように感じる。地域の学校を卒業した後も地域で見守っていくことが必要ではないか。

健康診断で異常がみられた人に対してフォロー強化（改善するごとにポイント制にする等）。

料理教室や体操教室など定期的を開催する。

禁煙指導 飲食店の禁煙・分煙。

災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動

避難意思の確認を行い、避難する気のない者は除き、人的資源を有効活用する。

安全な場所を電話で連絡を事前しておく。

地区のサロン等が多くあると良い。

市や介護事業者、住民が一緒になった防災訓練の実施。

人工呼吸器や酸素、透析等医療依存の高い患者への個別支援計画策定。

通常の見守り活動を行う 日常生活でかかわりを持つ。

地域住民（町内会・ボランティア等）との連携 要介護者が避難できる「福祉避難所」の設置。

職員研修。

危機管理は医療的知識も必要だと思う。危機管理主に PHN の配置で対応できることもあるのでは。

定期的な避難訓練 防災訓練の実施。

ハザードマップの共有や非難場所、経路などの情報をお知らせするのが良いと思います。／高齢者や障がい者など避難が困難な方を早めに避難所に送迎するサービスがあればいいと思う。
町内会などの単位で防災訓練を実施。
施設を利用していない障害者は安否確認がとりづらい。自治会など地域コミュニティに加入することで住民同士で行う。地域、施設、民生委員など協同で役割分担する。情報の共有。避難行動要支援者台帳を活用して防災訓練を行う。被害を想定して行政や近隣施設等との連携。
災害に備えて平時からの地域のつながる 声かけなど。
避難誘導に関しては、どの地域にいても避難場所等わかるような案内板等。
災害時は地域との助け合いで乗り越えていけるとよく聞くことがある。普段から地域でのコミュニケーションが大切なので、町内会の懇談会などになるべく参加して、良い関係を作る事が大切。

地域で孤立している人への支援
なるべく、人とのコミュニケーションを取る様進めたい。
「声なき声」へ気付くための地域連携（町内会の活用）。
本当に孤立している人と自ら好んで孤立している人の見極めが難しい。SNSなどを活用し情報提供。

振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動
事例を話して、気を付ける様に防止に協力する。
とにかく、お金を払う前に市役所の消費生活センターに相談するよう啓発する。
振り込め詐欺の話しや、チラシを配布している。
県からの反討テープ、市の防災の放送があった時など気づいた時は一人暮らしの方に声かけをする。
小学校などで教育の一環として授業を行う。

生活困窮者への支援
一件見てわからない事が多いので気を付けて見守りたい。

仕事に就けない人への就労支援
健康であれば、自分に合った仕事を選んで頂く。
当事者のニーズ、雇用側の受け入れ支援（地元企業、商工会への情報提供）。
理由は多岐に渡ると思うので発達検査を含めた適正検査をしその後カテゴリーに分け支援。

外国人市民の地域での生活に対する支援
言葉がわからない場合、近くにいる方や学生等に協力を願う。
地域行事への参加促進。

自治会への勧誘。
多国籍になっているので、この場所にこの言語が分かる人がいる、などの情報がほしい。
ゴミの分別など 英語標記を増やす。
市役所などに来た外国人とコミュニケーションをとる。

過去に罪を犯した人への更生支援
二度としない様そして、何の為にしてしまったのか、話しを聞いて上げたい。
本人をほめてあげ、自信をつけさせて再犯防止に結びつける。
個人情報の問題もあり、地域で支援するには限界があると思う。更生保護サポートセンターや保護司の活動内容について周知し、自分たちもできるサポートについて知る。
再犯防止には生活の安定が大切と考えます。仕事に困っている人には市の仕事の提供（清掃作業でも）があると良いと考えます。特に依存症に関わる犯罪歴のある人には再犯防止のためにも一人にしない、孤立させない様、寄り添い、見守りができると良いと考えます。

空き家の増加
条例改正等で、危険がある場合の強制執行、ならびに費用負担を明確化する。
空き家が増えているので、サロンなど高齢者等の集える場所としての利用を検討してみてもどうか。
企業等と協力し空き家等の借り上げを行い、地域住民が主体となり集える場所の支援など。
空き家を利用して、幅広い世代の方々が集まれて地域交流ができる場所作り
・空き家の場所などの把握。
・所有者の活用に対する意識が低ければ、市に管理を移行しやすいようにする。

ひきこもりの人への支援
行政、医療、福祉機関が連携し、継続した関わり（介入）ができるような政策が必要。
いわゆる病気・障害のないグレーゾーンの方へ対する支援体制の構築。
場所づくり。
行政で主に担当する課が分かりやすいといい。本人からの相談希望がない中、どこまで支援できるのか難しいが、高齢者訪問び大きな問題になる前に介入できるといい。
ひきこもりの年齢層は幅広く考えられる。SNSなどを活用した相談窓口を拡充してはどうだろうか。
どこに相談したら良いかわからない現状がある 8050、7040 問題など、「ひきこもり」としてではない形と相談が入るケースも多いので、多機関の連携が必要。
家族が危機感を持っていないため、家族への説明・情報提供・受け皿としての支援体制をもうける。
家族が相談できる窓口の設置。
ひきこもりの子がいる親向けの集まりを開催し、詳しい状況を聞きとる。
SNS を利用した相談システム作り。居住地域レベルで対面せずとも相談できるようにする。そこから他職種へ連携し、問題を未然に防ぐ。

住民同士のつながりの欠如
日常から雨戸や窓が開くこともなく、留守かと思えば居て、あいさつを交わすこともない どんな人かもわからないと正直怖い部分がある。
個人情報があり難しい。
古くから住んでいる人のネットワークはあるが、新しく入ってきた人をつながりを作りたい。
生活圏が同じ地域での住民活動（地区社協等）。
町内会等の加入は任意だと思いますが、地域の行事等への参加を促し行政による、町内会等へ加入を強力に押し進めて頂きたい。
若い方だけではないが、町内会にはかかわりたくない（役員はやりたくない）と思う人が多勢いる。子供会の活動を基盤に町内会への活動につながると良い。以前は夏休みにラジオ体操があったので、親子の顔を見ることがあって認知していたのに、そのような機会もなくどちらのお子さんなのか知る由もない。
人間関係を大切にす気持ち、そして実際につながることが今の時代には必要。ひとつひとつの事業の中でそうしたつながりが広がるように市民と関わっていききたい。
身近な地域でイベントを開催し、地域活動に参加してもらおう。
お祭りなどで声かけ。
隣に住んでいる人がどのような人かという情報がない中、住んでいる人も多いので何かあった時の助けを求めることができない。地域の行事に参加して地域ネットワークを広げておくべきだと思う
高齢者の方が孤立していても、詐欺などの問題が心配で、近隣の方との信頼関係も築きにくい。仕事をしていないため近隣と付き合いのない方多い。

居住に課題を抱える人への支援
築何十年とか古民家やリフォーム等出来ない方、見守りしていきたい。
若い時から、ひきこもりで、仕事につけないとなると、高齢者になっても、安定した収入が得られないため、生保の援助になったりしなければならぬので若い時から自立の道を考える必要がある。

自殺防止対策
何で悩んでいるのか家族や友人の事仕事の事聞いて上げる。
電話だけでなくメールやHPから悩みを相談できることえお伝える。

市民後見人の育成などの権利擁護への取り組み支援
身よりのない方など、いろいろある様にもあるので、専門の方に相談する。
社協と行政とで共同で取り組みをしてほしい。
人権、権利擁護など感心のある方を対象にセミナーなどを行ない取り組みに参加して頂く。

認知症の方、独居で身よりのない方などが増加し、いざという時対応してくれる家族がいないが、有料サービス使う余裕のない方が増えている。

地域住民等が集う拠点の整備

コミュニケーションの場となる場所 問題はいろいろあると思います。

空き家の利用、住民が自宅等を貸し出ししやすい支援を検討してほしい（経費面）。

地域住民が集う場所が大切かと。高齢者でも歩いて行ける範囲内にあると良い。

分野別の圏域

何かを基準にしてまとめていろいろ考えていきたい。

介護保険で包括別の圏域があるが、実際には距離的に離れている地区もあり、連携を図りにくく、あまり実用的でないように感じる。

それぞれの分野で役割が分かれ、どこに相談しても、スムーズに流れない、横の協力が無い

福祉に関する情報提供

人が幸福に暮していく為を知る限りは、知らせて上げたい。

一部の人しか知らない事が多すぎます。一ヶ所の事業所だけに特別あつかいをしているのが気になります。

高齢化社会の進行とともに、老老介護世帯や中高年が高齢者を介護している世帯の増加していると推察される。老老世帯では介護そのものに困難が伴うし、中高年者の高齢者介護では、中高年者の勤労への支障も伴う。本市でもこのような、福祉を必要とする世帯が適切に実施されているのか、又はその相談や窓口となる機関等が適切に案内されているのか疑問がある。以上は一例であり、福祉サービスの恩恵にあるものとそうでない者の公平性からも広く福祉サービスの案内をする必要がある。

紙媒体だけでなく、SNS やインターネットから情報を見れるようにする。

福祉の仕事に関する情報をより身近に感じて頂けるような仕組み作り。

子育てに関する情報や保育園幼稚園に関する情報が欲しい

問4 最近、制度上のサービスでは解決できずに困っている問題・事例がありますか。(自由回答)

回答内容
行政、医療、福祉に対する当事者の情報について、個人情報保護の観点から共有されにくいケースが多い。当事者本人に関わる各サービス機関がそれぞれ本人の情報を共有・連携し、効果的な支援ができるような仕組み必要と思われる。
障害を持つ高齢者の健康問題！ 特に人間ドックなど、なかなか受診できない。
最近、性同一性障害の方のお話し、生活のしづらさなどの声を聴くことがあり、今だに偏見を感じているとのこと、障害の本質や、生活が不便なことなど、自分たちが、快適に生活出来る地域と感じていても、当事者は、生きづらい地域ということ。そのための地域の理解が必要だと思います。
ゴミ屋敷問題・声かけづらく・どんどん増えている。
障がい児者の余暇活動を充実させたいが担い手が少なく成人しても親子参加になってしまう。
高齢者支援に関わっていますが、近年、65才未満の方のくも膜下出血等や若年性認知症等・介護申請される方が増えています。現役世代であるあめ就労支援や居場所作り等の支援が必要です。地域にそういう場所は多少なりともありますが、そこへの往復は送迎がないため同行支援がもっと気軽に利用できるシステムがあると家族に頼らず外出できる機会が増えると思います。
こちらが良かれと思って、排便コントロールをしたが、便がすぎて、介護しづらくなると訪問介護が中止になった。
一人高齢者、いつもデイサービスに入っているのか、それとも家にいるか、わからない時がある。施設に入居したのか？
小学校で発達障害の生徒に支援員さんがつくのですが、1日びっちりついてないので、学級運営に支障をきたしてます。支援員さんは時間が決まっています、ずっと入れない。②障害をもった保護者が、学校が支援学級をすすめても理解しない。
夜間の保育やサービスがない。民間のサービスでベビーシッターや24hホイクがあるが、料金が高く、利用できる人の幅が限られている。
放課後児童クラブだけでは障がいを持つ子どもとその親の支援は非常に難しい。近年多いのが、障がい児のネグレクトが目立つ。親の支援が必要とみているが、児童クラブだけの働きかけだけでは、親の意識を変えていくのは、困難である。母子共に、生活体験が乏しいために、結果ネグレクトになってしまっている。このままだと、子どもが必要な日常習慣・知識が身につかずに成長してしまう。
障害のある人の家族への支援（親の高齢化、金銭管理等）。
学校に不登校の子どもに対して、もし児童館に来ることがあっても、学校の時間は受け入れることができず、解決に向けてどのように動いたらよいか困ったことが過去にあった。
ネグレクトについて、育児放棄らしい児童を見かけたことがある。様子を見ていたが、病院にも行けない状態だったため保護者に直接連絡をして、病院に連れていってもらったことがあった。
知的障害者の家族が申請手続きなどを行うことができない。
福祉サービスの利用対象にならない方への支援について 障害程度が低いいため、サービス利用対象

<p>に至らない方がいる。障害者枠で就労している方でヘルパー利用対象にならない方もいる。困っているが制度の狭間にいる。</p>
<p>就 B に通所している利用者で、一般就労への力があっても、就労に対して保護者は消極的。</p>
<p>障害者雇用の賃金は全般的に低い傾向があり、将来の生活設計が描けない方もいる。障害年金の対象にもならない。</p>
<p>老々介護。</p>
<p>自殺。</p>
<p>施設職員の賃金の低さ、将来への不安 これにより定着率低く、安定した支援が難しい。</p>
<p>緊急時に一時的に受けられるサービスがない。残された家族が何らかの疾病（精神他）家族への支援がない。</p>
<p>保育士が産育休し復帰したくても市外勤務だと優先がなく、保育の質の向上や保育士不足の問題。又、その保育士の社会復帰（経済事情もある…）がしにくい。まわりに子育てを支援してくれる親や知人もない場合若い親が病後児などかかえて生活するのは難しい。ファミサポなどだけではムリなことも多い。月齢により対応できないなどもある。</p>
<p>・障害者のグループホームの運営が保ゴ者にまかされているために、運営費や人材の確保が難しい。障害者の自立といった意味においてもグループホームの充実が必要である。</p>
<p>社会福祉協議会にある貸付などの制度について、相談はあるものの実際には貸付が受けられない。相談者にとって貸してもらえない制度は、制度の見直しが必要であると思いますので利用できるよう改善してほしい。</p>
<p>制度で全てが解決できるものではなく、実生活の中には線でくくれない事の方が多いと感じます。そんな時は、関わる全ての人で悩みアイデアを出し合い行動しているので「できずに困る」ことはないようにしています。</p>
<p>介護保険の「自立」・「在宅」を重視しているが、要介認定から支援になると出来ることが多くなった自立が高まったという考えをする高齢者は少なく、第一声が「やってももらえなくなる」だから「できないと言わなくちゃ」いけないとか矛盾を考じる。</p>
<p>障がい児・者の親なきあとの生活の場問題。受け入れ先が少ない。受け入れ体制が整わず住み慣れた地域外での生活を余儀なくされる。</p>
<p>施設等に来所することは難しいが、ただ話を聞いてほしい（電話でもなく家に来てほしい）という方に対して、支援者ではなくボランティア等のサービスになってしまうのか？信頼関係を築いていく中で生れる新たなニーズもあると思うが、そうした立場の人が現制度では存在しないように思う。</p>
<p>保育園での一時預かり事業や障害児受け入れでの課題。加算等の補助はあるが、現状の保育士不足の中では充足できないのが各保育施設の現状であり、休止せざるを得ない。</p>

問4-1 問4で書かれた問題・事例に対して、解決に向けたアイデア・ご意見がありましたらお書きください。
(自由回答)

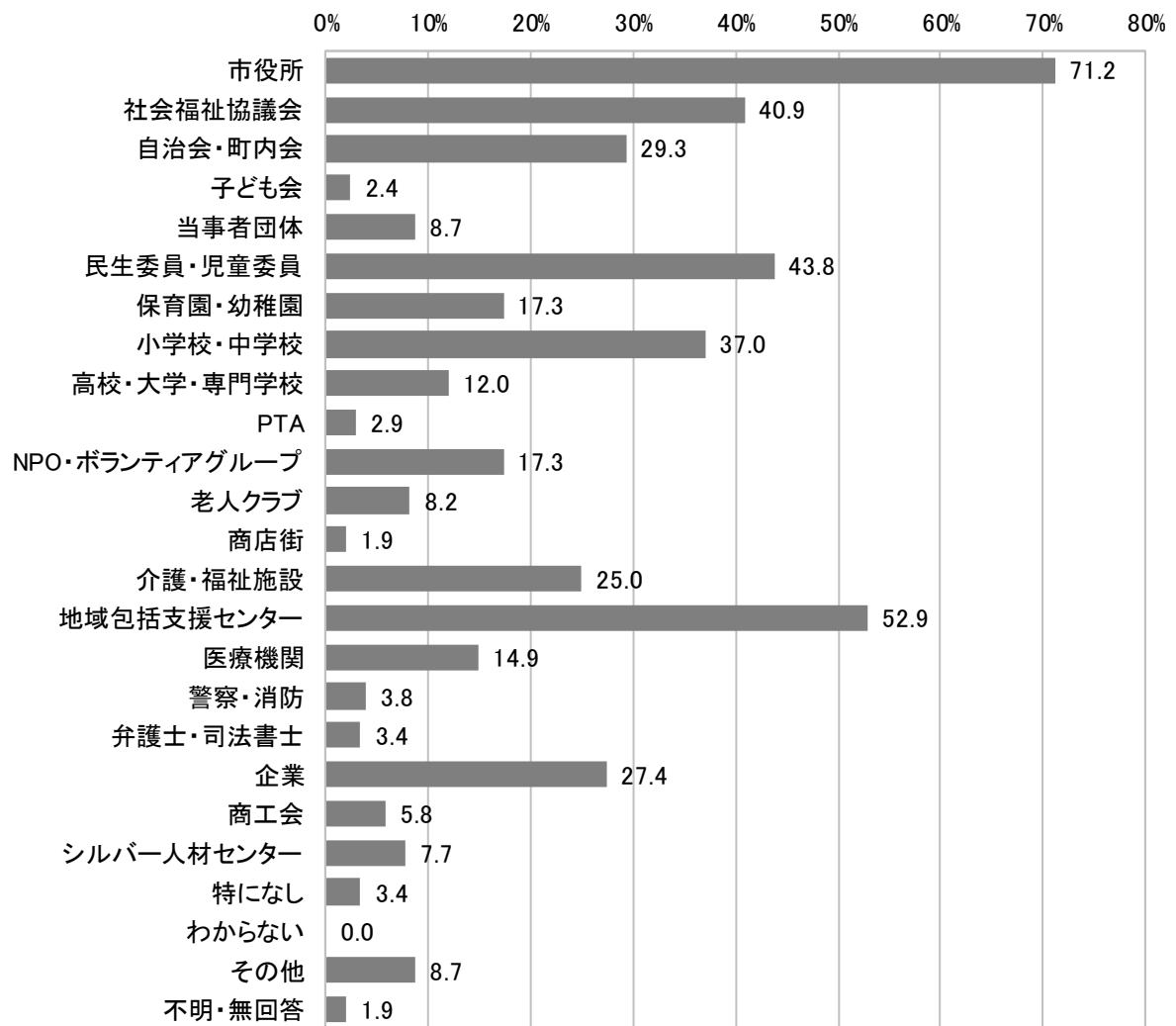
回答内容
個々の責任を強化し、自己解決を図る。
支援員の予算と人員の確保。
あまり、高齢者の言う事を聞いてくれる人が少ない。若者同志で話し語り合って良い事とそうでない事も長時間、数人で若い(30~40代)の方は、子供を手放しているのが心配。事故や「ケガ」の元にならない様、見て上げるとかする。若者の方もコミュニケーションとりながらストレス解消していると思うので、大切な時間とも思う。
そういった際に制度を超えて、ケースへの対応として専門チームが組めるような仕組みを市に期待したい。
市の相談窓口にお問い合わせ話をしたが、"そういった事があった"ということ報告しておきます…で終わった。こういう事例があったらこせ取り上げて解決に向けた話し合いを持ってほしい。同時に一般に向けて事例と解決法みたいなパンフレットを用意してほしい。
サポートする個人や団体の立ちあげを行政が支援してほしい。
全体的なマネジメントが行える部署や広域的な対応(病気・障害にとらわれず)。
その障害を知ってもらうために、まず、市、社協での理解のための講座、説明会、民生委員さんの定例会での理解のための勉強会など、近隣住民に向けての啓発と専門家に対する勉強会など。
各地域の公民館(社協がノウハウを提供)が主体となつてのボランティア育成。音楽・調理・スポーツなどの企画をたててほしい。
ケースワーカーの訪問回数を多くし むだな支給をなくすべき。
ボランティアでなく、有償のボランティアをふやし、支援員さんの教育を市全体とする。支援員さんもバラつきがあり、学校にまかせるのではなく市の方で人育てをした方が良いです。②中学にさわやか相談員さんが常住していますが、小学校は親が相談するのは先生です。こじれると教育委員会に行ってしまう。小学校に気軽に話せて、立ち寄れる所があると、先生も負担が違うのではないのでしょうか?先生を理解し保護者にも成長してもらえるサロンがほしいです。(学校内に)
先生の音声を文字化し視覚で情報を得られる機器の導入。
相談係はこっちの話は聞いてくれるが向こうからの情報提供が少ない。一緒にケースに取りかかれることもあるのでもっと平等に情報提供をしてほしい。
書類の郵送による案内だけでなく、説明会などを開催して、その時に手続きも行えるとよい。
<ul style="list-style-type: none"> ・障害をもった人が仕事を退職した後の受け皿(施設等)があること。 ・障害のある人が、多様な働き方ができるよう企業への支援の充実。福祉施設と一般就労の併用可など。
身体や家事的なことであれば地域住民やボランティアの活用ができると思う。
グループホームへ対して、補助金等の支援があるとよい。
この件のみならず、いろいろな連携がとれていないと耳にしています。難しいことだと思いますが、

みなさんがしていることが生かせるよう体制になっていくことを願います。
相談者の数や、貸付の実績等を分析し改善してほしい。
難しいことは良く分かりませんが、制度を作って終わりではなく 例えばモニタリングの様に問題点や実生活に対してどうするのかを広く意見を取り入れ改定することも必要かと。誰が意見を聞くのか、モニタリングを行うのかも重要だと思いますが。
受け入れ先の拡充、体制の確保。
地域で総合的なソーシャルワーカーがいると良い。子供～障害～高齢と一体的に相談にのれる場所・人の創設。
<p>地域住民の参加による、子育て支援として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士の増員は危急には望めないので、時限的に地域の方に保育補助員（無資格者）条件付きで、配置ができれば安全とサービスを確保できる。 ・ 子育て支援センター事業を持つ施設では、保育士資格取得の補助を行い保育士資格取得後は保育士として勤務させ保育士を充足できる仕組みづくり。

問5 現在、情報交換を行ったり、連携をしている相手先を選択してください。(あてはまるものすべてに○)

現在情報交換を行ったり連携をしている相手先は、「市役所」が71.2%と割合が最も高く、次いで「地域包括支援センター」が52.9%、「民生委員・児童委員」が43.8%となっています。

n=208



(問5で「1」～「21」または「24」を回答の方)

問5-1 問5で選択した相手先との具体的な連携内容をお書きください。(自由回答)

市役所
不審者情報・行政に関する情報。
生活困窮者への相談。
入居者の情報。
福祉相談。
独居 被保護者 介護施設入所、入院、被保護がなくなった場合の連携。
高齢者からの問い合わせ（住居に関して）。
ゴミ置場の件。
介護福祉に関する全般。
障害のある児童についての連携。
園児についての連携。
ケアマネジメント上の情報共有、サービス調整等。
介護保険による認定調査、選挙における不在者投票。
民生委員として高齢者などについての連携。
障害のある方の公的支援、訪問が必要な方を具体的に紹介いただいている。
保育課～保育全般。
生活保護の方の保護費に関する連携。
認知症、在宅医療についての意見交換。
補助金、支援費、各種申請、生保担当と生活状況の共有。
高齢者全般についての連携、家族の問題についての連携。
市の主催の会議に出席してケアプラン作成・実行に関しての情報を得る。
多重債務による生活困窮者について、認知症が疑われる高齢者について連携。
地域密着型施設としての役割と連携。
担当地域で起きた問題に対する相談、解決にむけての連携。
生活保護者の決定、変更についての連携と見守り。
見守りの情報交換。
生活保護を受ける事になった方の相談にのり、各窓口へ問い合わせに行った。
一人暮らしの人を訪問しても、どうしてもコンタクトを取れない場合の件に相談をさせて頂く。
相談内容に応じて関係部署に連携（障害、長寿、こども未来、保育、総合窓口等）。
本校児童に関する連携。
福祉全般に関わる情報提供、施設管理（指定管理事業）についての連携。
（こども未来課）障がい児童を持つ母親のネグレクトについて。
利用者支援についての連携。
児童館に来館する"気になる子"に対しての情報交換。

子ども虐待・(生活困窮者) についての連携・情報交換。
利用者や施設情報の共有。
利用者の生活支援全般についての連携。
指定管理事業のため、施設運営についての連携。
生活困窮者についての連携。
生活保護世帯に関する情報交換。
民生委員活動を通じて用件のある時。
来所児の相談の解決にむけて。
高齢者世帯の住居の環境整備 (ゴミ等捨てられている)。
子どもの家庭状況の変化等の共有理解。
各家庭の援助等カンファレンスなど行っている。
利用者様の利用状況報告、ニーズに合わせた情報の聞き取り。
介護保険関係。
子供の家庭や地域での状況。
民生委員の活動について。
保健センターと連携している (虐待について)。
医療連携推進会議。
長寿はつらつ課とは会議情報等、障害福祉課とは手帳利用した方の申請医療報告。
ケースワーカーとの連携・計画相談・基本相談利用者の支給に関する連携。
児童虐待等の情報の共有。
民生委員児童委員の定例会や研修で、情報交換を行っている。担当地区で気になっている独居高齢者の見守りについて、各制度のサービス向上など。

社会福祉協議会
ボランティアについて。情報交換・共有。
朝老連 (総務部会、理事会)、苦情解決第三者委員。
清掃に関して。
スタッフの研修や人材育成に関ること。
ボランティア活動。
相談員さん、同業の方とやり取り。
放課後児童クラブ。
高齢者の体調生活全般について。
認知症の方や高齢者の情報提供。
講演会出席、勉強会、研修会など。
地域の課題についての連携。
情報共有し、対応を円滑にする目的。
高齢者でない成年後見制度申立について。

ボランティア活動、地域福祉における連携。
担当地域で起きた問題に対する相談、解決にむけての連携。
ふれあいサービス事業（在宅福祉サービス）。
現在の情報をもらったり、話したりしてます。
手話通訳の依頼。
福祉教育実施に係る連携。
障がい児童を持つ母親のネグレクトについて。
利用者支援についての連携（就労支援センター、相談支援センター等）。
運営全般に関する連携。
同組織としての連携、相談事業所との利用者支援の連携。
ふれあい事業活動者として連絡取合っております。
社会資源のききとりや相談。
ボランティアの紹介。
あんしんサポート。
障害のある方の支援についての連携。

自治会・町内会
防犯や地域イベントへの協力。
協議体の活動内容についての回らん依頼・報告、協力。
災害時の避難に関して。
地域での高齢者サロン。
町内会・自治会の方々とつながりを大切にしサロンのようなのが出来ないか模索中。
自治会行事への参加（当事者含め）。
地域の見守り、防災、防犯についての連携。
地域（住民）との連携、情報交換。
高齢者、身障者の名簿による災害時等の対策、連携。
新入会員への訪問介護。
防犯パトロール。
児童館事業での交流、活動計画の推進による連携。
地域イベントへの参加。
理事、評議員などの執行機関・議決機関として。
秋まつり等のイベントに誘ってもらって出かけている。
防犯パトロール、地域お祭り。
社協主催の地域懇談会に参加し実施するイベントについて協議。

当事者団体

懇談会。
常時、情報交換を行っている。
一部の当事者団体の運営・活動への補助金交付。障害の種別に応じた複数の当事者団体に対し活動内容のヒアリング等の交流。

民生委員・児童委員
委員としての活動相談。
定例会での情報交かん、困難者への対応。
仲間同士で相談。
地域の独居、困難ケースの方の情報共有。
民生委員としての連絡網を作って情報を仕入れる。
高齢者世帯の安否確認。
委員同士の情報交換。
高齢者全般についての連携。
包括で民生委員さんを交えての事例検討等がある時に参加する。
担当地域で起きた問題に対する相談、解決にむけての連携。
高齢者世帯の生活状況。
定例会での情報交換、事例研修。
生活保護を受ける事になった方の相談にのり、各窓口へ問い合わせに行った。
気になる方の見守り依頼や乳幼児健診の未受診児訪問。
児童に関する情報提供。
家庭の様子など子どもを取りまく環境についての連携。
生活困窮者についての連携。
地域活動へ向けての連携。
講座の時の保育お手伝い。
運営推進会議、地域お祭り。
担当地域での問題点の意見交換。
どなり声が続く家庭の相談 見守っているという返事だが見守りとは都合の良い言葉。
生活保護受給者の開始や廃止の連絡を民生委員へ行い今後の対応のため協力体制を整える。

保育園・幼稚園
教育・保育に関する情報交換。
系列保育園と連携。
民間保育園とも情報交換。
乳幼児の発育・発達・家庭状況等の情報連携（保育園・幼稚園）。
児童に関する情報提供。

福祉全般に関わる情報提供、施設管理（指定管理事業）についての連携。
行事（一緒にあそぼう）の連携。
園児との交流会。
園での様子共有、保育所等訪問支援の連携。
保育業務全般、就学相談。

小学校・中学校
就学に関する情報交換。
社会体験実習の受け入れ。
学校応援団、評議員。
就学を迎える児の情報提供、学校見学。
子どもを通じての親同士のつながり。
家庭教育学級の中で、乳がん検診、乳がんセルフチェックの普及啓発。
小学校 学校応援団として連携。
巡回相談を通じた連携。
子どもについて情報交換 教育相談。
障がい児童を持つ母親のネグレクトについて。
地域の防犯 地域イベントについての連携。
見学案内 体験学習の受け入れ。
学校活動への協力 ランドセル来館の情報共有。
利用者情報の共有やイベントの周知協力。
小学校：進学先への情報提供 中学校：職業体験事業の受け入れ。
小中学校、見守りパトロール、あいさつ運動。
地域における子どもの生活に関する情報交換、行事への参加、協力。
児童の情報交換（当日の様子等）。
小学校—就学前の5歳児を主として、遊びの会への参加や学校見学 中学校—職業体験の受け入れ
学校での様子、家庭の様子等の情報提供及び連携。
生活保護受給者の児童について必要に応じて相談し、情報の共有を図ることで生活の安定を確保する。
送迎時に子供の様子確認・ケース会議。
在籍児童のクラス見学、学校施設の利用。
学校：利用者の生活様子確認や見学会や説明会の参加。
小学校と療育・・・障害児の就学に向けた、療育との三つ巴での連携。
定期的で開催している懇談会に参加し情報交換を行っている。
学校見学、避難訓練。

高校・大学・専門学校
大学でのオレンジカフェ開催、認知症サポーター。
実習受け入れ、援助技術論での外部スピーカー。
職場の企画におけるボランティアの協力等。
実習生の受入等。
イベントにおけるボランティアの依頼等をする。学生の施設見学、実習生の受入れ。
イベント時のボランティア協力。
大学 事業についての相談。
高校 不登校など発達に関すること。
在籍児童のクラス見学 学校しせつの利用。
学校：利用者の生活様子確認や見学会や説明会の参加。

PTA
児童が多いため親との情報共有。
学校応援団として。
(子どものための会)、学校行事、学校との連携協力。
デイケアの施設との訪問交流 障害児通園施設での実習。

NPO・ボランティアグループ
体そう教室等への協力。
送迎サービス、助け合い事業でのヘルパー利用。
団体とのコラボや情報交換。
作業補助などでボラグループ。
傾聴や催しもの等、ボランティアさんの受け入れ。
地域の集い場等について連携。
場所の提供、協力。
福祉事業、介護予防等。
事業手伝い。
イベント時のボランティア協力。
施設作業へのボランティア受入れ。
NPO 法人が実施する各種事業への補助金交付。
定例会やイベントに参加。

老人クラブ
情報発信、交換。

介護予防や制度利用について 情報交換。
ボランティアでサロンで物作り、歌などで楽しむ。
ふれあいいきいきサロンに参加、交流。
職場の企画における協力。
イベントの協力共催等。

商店街
認知症独居の方の見守り、報告。
独居高齢者情報。

介護・福祉施設
他ホームとボランティア実施。
日常的に情報交換 勉強会に参加いただく等。
他施設間における、介護保険、業務、人材等の情報共有。
ヘルパーさん、デイサービスとの情報共有。
入所・退所に関する連携。
介護他 施設訪問など。
地域の集い場の提供及び情報交換。
新座市等の施設を訪問して独自のものをみたり聞いたりして利用者さんに反映できるものとした い。
業ム上の連絡、連携。
日常生活自立支援事業利用者についての連携。
高齢者及びそのご家族、ケアマネージャー等。
利用者の情報について連携。
高齢者及びそのご家族との連携。
施設入所する時などに、連絡を取りスムーズな事務手続きを行う。
利用者さんが使う、サービス事業所とのやりとり。
実地調査や面談・計画相談利用者のサービス利用についての連携。

地域包括支援センター
主に高齢者に関しての情報交換。
入居希望者への対応。
受け持ち地区の独居高齢者等の相談。
高齢者の見守り。
生活支援（掃除、買い物）。
地域住民のボランティア、見学の対応、イベント（体操等）の参加。

利用者の様子や変化、御家族に対して何か気が付いたことなど相互に連絡を取りあっています。
困難ケース相談、新規依頼。
高齢者の体調生活全般について。
高齢者世帯の情報。
申請に関わる連携・調整に関わる連携。
3ヶ月に1度 センターの職員と状況報告を行っている。
2ヶ月に1度の事例検討会、研修会に参加する。
独居高齢者の見守り、ヘルパーさんからの相談対応の連携。
行事等の連携、情報交換。
担当地域で起きた問題に対する相談、解決にむけての連携。
高齢者、身体障がい者についての連携。
医師、薬剤師、民生委員が集合したセミナーに出席した。訪問看護の事例について話し合いを行なった。
認知症予防／介護予防事業における、地域の自主グループの活動支援や心配な参加者の情報提供。
その人にあった支援をお願いして情報を教えて頂く。
地域のお年寄りの生活について連携。
介ゴ予防や高齢者と同居する家族に関する相談。
事業共催、情報提供等。
地域のサロン等の情報交換。
住民参加の助け合い活動 利用者についての連携。
対応についての相談。
必要事項が生じ情報交換を行った。
高齢者及びそのご家族との連携。
高齢者に関する情報交換。
地域でのつながり、居場所でお困りの利用者様と相談同行。
ステップアップ講座開催、オレンジカフェ。
介護が必要な高齢者に介護保険の申請の説明を依頼、日常生活での手助けについて相談。
高齢者の生活、介護について。
心配な方がいる時の連携。
要援護の高齢者や生活保護受給者を必要に応じて協力し、今後の対応について相談する。
担当している高齢者の人で話が合わなくなり認知症が発症している？と感じたらすぐに訪問して様子（連絡して）を見てもらう（専門職の地域包括の人々）。
介護予防、事業対象者の申請、委託について。
家族支援、親の介護相談 or 包括から子の相談・介護保険への移行引継ぎや情報提供。

弁護士・司法書士

後見人制度での連携。
市役所外での法的相談の予防（主に債務整理）、消費者事件の弁護団の案内。
リスクマネジメント研修。
個人的に知り合いがいるので遺言や成年後見制度など質問することがある。

企業
人財、研修制度等 施設運営に関ること。
内職作業提供、就業場所提供等。
利用者の企業のカフェ・売店の運営。内職作業の請負。

医療機関
対象者の情報交換・連携、勉強会参加。
協力医療機関との入居者の情報共有。
指示書依頼、入、退院時の連携。
育成保育児が利用・使用している為。
入退院に関わる連携。
病状の確認、医療機関を含めたケースカンファレンスの開催。
高齢者が医療・介護が必要となっても安心して暮らせる地域づくりのための連携について。
主に妊産婦、新生児に関する連携。
必要に応じた連携、協力。
医療機関 保健安全教育の連携。
利用者の生活支援全般についての連携。
病状への対応について連携。
利用者様の利用状況報告やケース共有。
訪問医療、訪問リハビリ。
入院患者（担当している方）の退院時連携。
医療情報の共有、入退院の相談、訪問リハや訪看へ繋ぐ・計画相談利用者の体調等についての連携。
健康診断。

商工会
仕事で関係、情報等。
幼児とその保護者に向けた食の健康の普及啓発。
産業文化センター、水害時の避難先としての交流。

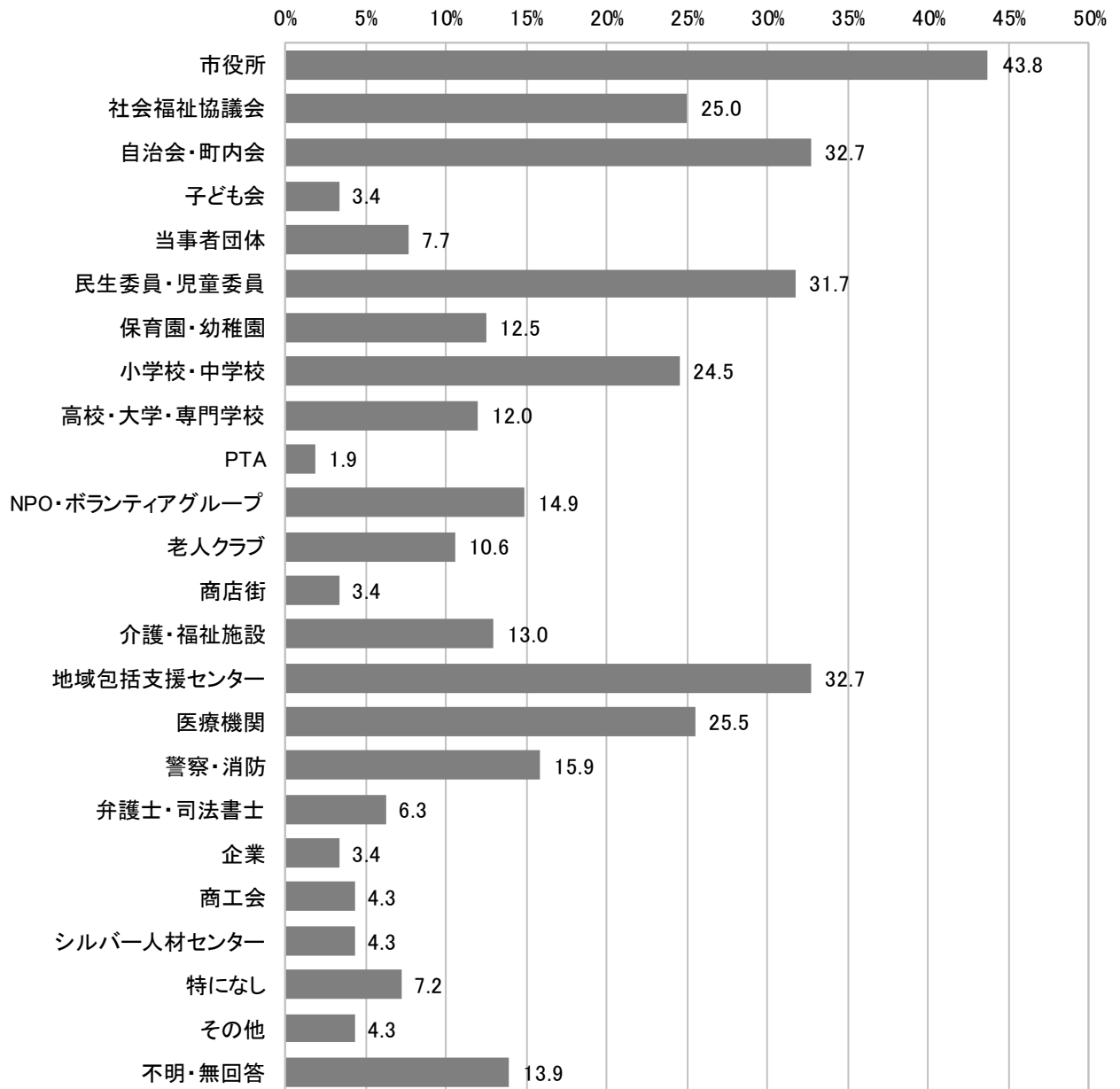
シルバー人材センター

植木剪定依頼。
シルバー雇用を通じた連携。
事業共催、情報提供等。
施設情報の共有。
庭木の伐採などお願いする時。

問6 今後、情報交換や連携を強めたい相手を選択してください。(あてはまるものすべてに○)

今後情報交換や連携を強めたい相手は、「市役所」が43.8%と割合が最も高く、次いで「自治会・町内会」が32.7%、「地域包括支援センター」が32.7%となっています。

n=208



(問6で「1」～「21」または「23」を回答の方)

問6-1 問6で選択した相手先と連携を強めたい具体的な内容をお書きください。(自由回答)

市役所
生活困窮者についての連携。
精神保健等。精神障害者の入院期間を短縮が進められている為、地域での介入が必要と考えられます。
生活保護の名簿だけでなく 変更事項のすみやかに連絡をほしい。
高齢者世帯、また高齢者がいる世帯が多くなっている為、先日の大雨などが起きた場合、すぐに非難ができない。今回、事前に悪天候になる事が分かっていたので、高齢者だけでも、前日に安全な場所へ非難させる情報が欲しかった。メールでの情報をもっと細かく提供して欲しい。
子どもを含む生活全般での連携。
閉じこもり気味の高齢者の社会参加、介護予防事業についての連携。
障がい児童を持つ母親のネグレクト経過支援について。
来館してくる子どもの中で注意が必要な子の生活状況や虐待の有無などを知るため秘密主義を貫くことなく横のつながりを重視すべき。
障害のある方が地域で暮らしていくための連携。
優先調達推進法による利用者の作業(工賃)について。災害時の施設運営について。
生活困窮や疾病、子どもの支援。
高齢者の避難(災害・水害)。
家庭やそれを取り巻く環境について。
行政が動かなければ解決できない課題は沢山ある、近隣の市で成功している事案の確認。
事業運営、その他。
こどもの生活困窮者についての情報共有と連携。

社会福祉協議会
ボランティアなどについての連携。
障がい児童を持つ母親のネグレクト経過支援について。
地域のつながりを作りよりよいサービスを提供するため。

自治会・町内会
地域と深く絆を築いていきたい。
災害時の避難に関して(高齢者、障害者)。
要支援者の連携。
見守り、報告、対応、等々。
困り事を一緒に考え対応し連携を取っていきたい。

町内会の行事に参加したい。
地域住民のつながり。
隣人とのコミュニケーションを通じて、心と健康面などお互いに助けあいを持って欲しい。
障害のある人に対する地域理解、交流。
お互いのイベント等で協力できると良い。
地域の見守り活動の強化。
施設周辺住民との関係を深めることで、施設への理解につなげる。
より細かいコミュニティ内の高齢者状況。
災害発生時を想定した避難訓練。
事業者近くの自治会・町内会と情報共有したい。
こどもの見守り 卒園児等の情報提供。

子ども会
子ども会イベントへの参加等の交流。

当事者団体
民生委員には把握できない、当事者が多々いると思う。

民生委員・児童委員
一人暮らしの方から病気などの相談された時。
高齢者世帯の生活支援。
情報交換。
地域をもっているので相談・協力の連携。
情報交換、見守りの目を増やす、要保ゴの帰宅後の見守りなど。
児童についての情報共有。
地域活動をよりすすめるために連携。
より細かいコミュニティ内の高齢者状況。

保育園・幼稚園
各園の子どもの状況 気になる子への対応等。
世代間交流。
要保護児童が出てきた時スムーズに連携とれるようシステム化できるといい。
在籍児童についての情報交換。

小学校・中学校

市民体育祭への選手参加への協力。
高齢者との交流や活動場所の提供。
福祉教育。
小学校 コミュニティスクールを見すえての連携。
障がい児童を持つ母親のネグレクト経過支援について。
次世代を担う方へ、福祉の理解をすすめる。

高校・大学・専門学校
様々なイベントへの参加や情報交換。
ボランティア活動。
従来連携してきた学校とは関係を築きつつ、新たな学校を開拓していきたい。
ボランティアの育成や実習に関する連携。
障害のある方が地域で暮らしていくための連携。
大学 専門学校の講師等による研修や講義などにより、知識を高めたい。

NPO・ボランティアグループ
ボラの積極的に受入をしたい。
インフォーマルサービスの充実のため。
介護サービスまで必要ではないが若干の手伝いが欲しい人への支援。
NPO 法人ノルディックあさかとの介護予防事業についての連携。
ボランティア受入。
ボランティア活動強化のため。
アクティビティの充実の為。
どんな活動をしているのか知りたい。
インフォーマルな支援だけでは不足するサービスの担い手になってほしい。

老人クラブ
入居者の利用受入の拡大を図りたい。
軽度者のための生きがい作りの支援。
地域における情報交換。
高齢者と保育園との交流。

商店街
空き店舗の活用・地域の見守り協力など。
虐待やDV、孤独死等への気付きの強化。

地域包括支援センター
認知症でひとり暮らしの方など見守り等での連携。
高齢者の生活支援の連携。
介護予防の一体的実施への取り組み支援。
独居の高齢者が病気や怪我の為生活が困難になった場合。
色々な支援をお願いしたり たよりになり、心強い教えて頂き感謝を致しております。
行動力がある機関なので健康年令を高めるための連携。
介護保険を利用している高齢者がいるかどうかお把握できないので、見守りが必要な人がいるなら情報がほしい。
研修会に参加しています。

医療機関
感染症やアレルギー対応について。
育成保育児が利用・使用しているが情報提供を受ける必要がある為、蜜な関係を保ちたい。
認知症と診断された方の交流場所についての連携。
緊急時等における医療対応及び情報の共有。
医療的観点からの意見、助言の連携。
医療的なことを相談したい。
介護領域の知識にとどまらない為に、ネットワークを広げる為。
地域医療の現状について。

警察・消防
防犯対応や災害・防災の対応について。
虐待、事件性のあるケースの相談。
消防 救急搬送をする際の対応について。
防犯・防災に役立つ情報。
市内の見回りなどお願いを望みます。
防犯、安全に関する連携。
防犯について連携の強化。
自分が担当している利用者に関わったら教えて欲しい（虐待など）。
不審者や問題と思われるケースの共有。

弁護士・司法書士
空き家対策や後見人制度周知、甲立、虐待等で連携強化が必要。

相談内容について専門的な意見や対応法の相談と連携。

企業

就労先としての連携をお願いしたい。

地域の見守り支援や情報交換。

内職作業提供、実習等。

商工会

更生する為に必要な、職場の紹介等。(保護可として)

シルバー人材センター

働く場所の確保。

シルバーさんをお願いできることは頼みたい。

(問6で「1」～「21」または「23」を回答の方)

問6-2 連携強化に向けて、必要な支援はありますか。(行政からの支援に限られません。)(自由回答)

市役所
市役所-市内循環バスの回数の増便。
秘守義務を持っているものに情報伝達の支援。
介護予防事業を行う際の場所の確保。(マンション、町内会館の集会利用の仲介)。
一度二度の訪問だけでは見えてこない部分が多いので、継続的な把握。
横のつながりがあれば救える子が増えると思う(すべての連携強化の情報の共有、身軽に動けること:責任のおしつけをなくすため)。
児童分野 つながっていきましょうという全体会及び説明会を市役所で声かけしてくれるとスムーズにつながりやすいと思う。
各分野の関係者が横断的にに対応できる体制や連携を支援して頂きたい。
積極的に家庭と係わってもらいたい。
各団体(支援に協力している)の把握。
コーディネーター担当職員の配置。
各分野が繋がれるように顔合わせの場や仲介等の支援。
保育の無償化により、保育料の階層が見えなくなる可能性がある為収入情報からの観察や支援準備ができなくなるので、別のかたちで情報共有を図りたい。

社会福祉協議会
地域における自治会、町内会活動の活性化を推進。
情報共有が気軽に出来る様な体制作り。
家庭への係わりと、専門機関との係わりを深めてほしい。

自治会・町内会
情報交換や話をする機会。
福祉施設と自治会・民生委員との情報交換が出来るきっかけ作り。

民生委員・児童委員
安全面から、個人宅を尋ねるのに2人体制にした方が良いと思います。
生活体験が乏しい親子に生活習慣支援が必要。
福祉施設と自治会・民生委員との情報交換が出来るきっかけ作り。
地域包括のように担当地域の民生委員さんの名前を知り、挨拶したい。市役所の取り持ちが必要と思う。

保育園・幼稚園

研修等はあるが、なかなか他園との交流の場がないので、交流できる環境があれば良いと思う。

小学校・中学校

小学校・中学校など 市役所等の関係機関の介入及び支援。

より福祉の重要性を説いた授業をとり入れる。

小学校：支援が入ることでのどのようなことが出来るのか、展開等理解してもらう。ある程度ガイドラインのようなものが必要。

SSW（スクールソーシャルワーカー）の配置を充実させる。

高校・大学・専門学校

大学、高校…実習以外の体験学習の場があるとよい。（中学校のような）3days。

より福祉の重要性を説いた授業をとり入れる。

老人クラブ

老人センターの増設。

地域包括支援センター

民生委員が最初に相談するのは地域包括支援センターです。今以上に密な連携をお願いしたいと思います。

権限を包括がもう少しもてたら良いと思います。

医療機関

命にかかわることも多く、保育上、求める内容の確認がある。その為書面提示や電話連絡等も必要になる。

情報共有しやすい体制作り。

医師との連絡調整が行いやすい体制。

警察・消防

定期的に担当者に会えるなどの関係性強化。

警察の人員を増やしてすみやかに対応できるよう人員配置を行う。

個人情報もあるが、情報共有できるルールの作成。

企業

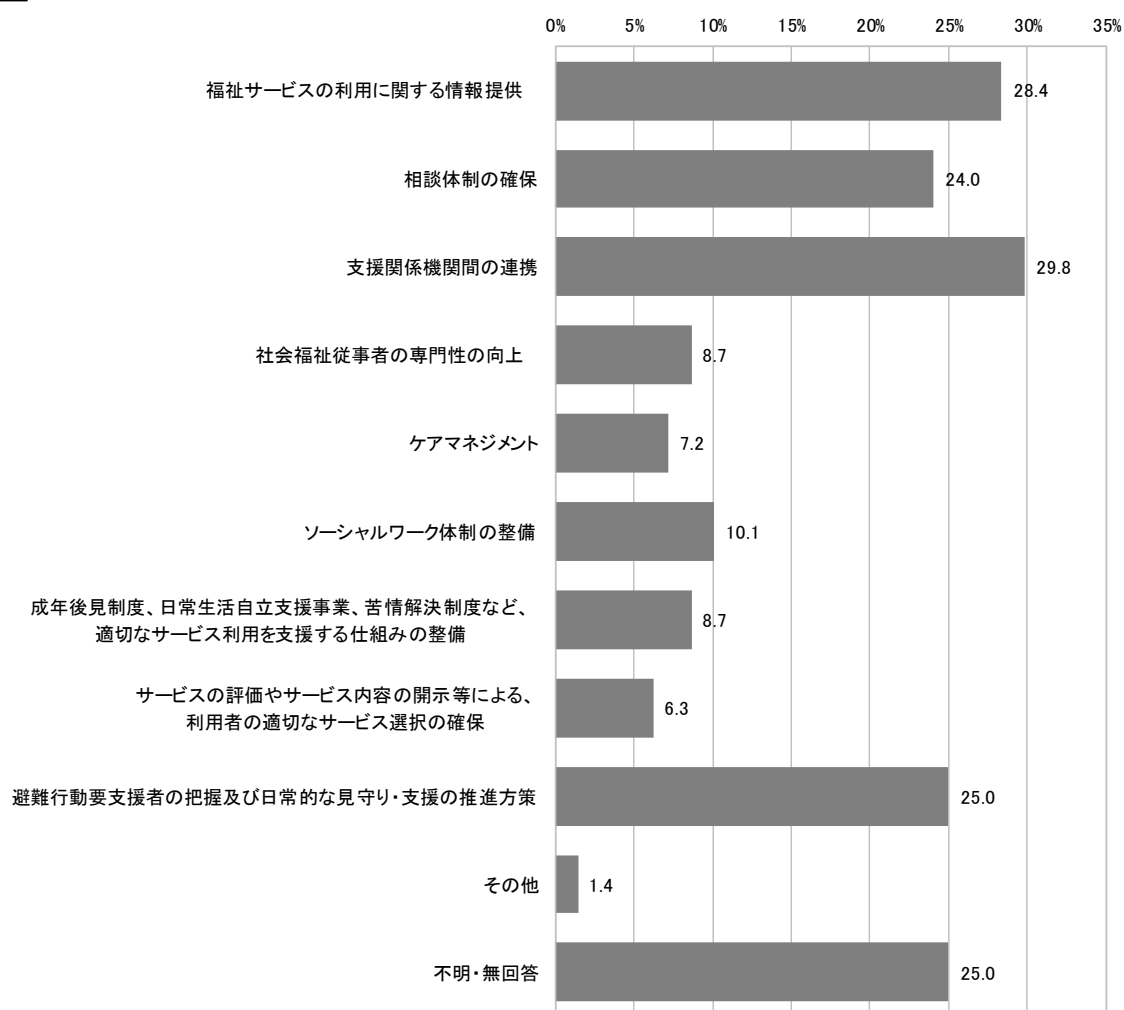
障害に対する勉強会の実施 障害者が行っているイベント等へ招待する。

障害者への理解促進のための支援 雇用率 UPにつながる支援。

問7 地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項を選択してください。また、それぞれに取り組む際の具体的なアイデアがあればお書きください。(〇は3つまで)

地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項は、「支援関係機関間の連携」が29.8%と割合が最も高く、次いで「福祉サービスの利用に関する情報提供」が28.4%、「避難行動要支援者の把握及び日常적인見守り・支援の推進方策」が25.0%となっています。

n=208



■取り組む際の解決に向けたアイデア・ご意見

福祉サービスの利用に関する情報提供
介護保険を通さず、ショートの手し込を直接個人で時々あり、介護保険の説明をすることがあります。周知がもう少し行き届けばと思います。
どういったサービスがあるか等、周知する機会を増やす。施設に、度々「こういった状態に家族がなっているが、どこに相談したら良いか？」と相談がある。
軽度者に対するサービス利用ができなくなっている。適切にサービスの利用が行われないと重度化する可能性が高くなる。
情報をより簡潔で具体的に伝えられるよう、多角的なツールの導入。
各福祉施設（老人・障害・児童）が窓口になり福祉サービスの説明や橋渡しを行う。
職員1人ひとりの福祉サービスに関する知識の向上／ハッシュタグを利用したツイッターの活用 #朝霞市 #車いす #貸出 など。
福祉サービス一覧の作成及び、地域住民への配布。
情報が必要な人に情報がいきわたる環境 相談窓口の一本化。
広報・ホームページ等での周知だけでなく、SNS等も活用し広く周知する。
地域住民に対し、”困っている事”に対して、どこに相談に行ってもよいかを、明確に分りやすくしておく事が重要。
保育園内に常設された子育て支援センターに情報提供用のタブレットを配置する。

相談体制の確保
内密に相談に取り組んでほしい。
高齢者一人暮らしの方が相談しやすい体制（電話でも）。
土・日でも相談できること。
窓口を増やす。出張相談を増やす。
地域懇談会などに相談者も参加したら良いと思う。
どういったサービスがあるか等、周知する機会を増やす。施設に、度々「こういった状態に家族がなっているが、どこに相談したら良いか？」と相談がある。
人材育成。
対面ではなく、インターネットや電話での相談。LINE を使った相談。
社会的な弱者になりうる者として情報の欠如（情報弱者）があると思われる提供とともに踏みこめる体制があるとよいのではないか。
一括、もしくは一本化できる相談体制の確立。
相談支援センターの充足と相談員の増加、センターの周知活動。相談員の年齢の幅を広げる。相談場所を公共施設に増やし、常に異機関の人が複数いると対応しやすい。些細な相談も埋もれてしまわないような仕組みづくり。
気軽に相談できる場の提供（市役所や社協まで来所が難しい方もいるので）。
市役所や包括だけではなく、福祉施設でも相談が出来る対外的なアピール。

歩行困難な老人の方達をもっと気軽に外出したくなる様な交通機関があると楽しい朝霞になると思います。
土、日に気軽に子育て相談、お父さんお母さんの悩み相談ができる場所が増えると良いと思う。
相談者の意とするを読み取り判断し、必要なサービスを受けられるよう振り分け、その担当へ情報提供しスムーズに対応できるよう連携を図る。

支援関係機関間の連携
情報の共有化による対応の早さ。
初めの相談をどこですればわからない。総合的な窓口の設置。(すでに設置されているなら、もう少し周知できるようにする)。
児童・高齢・障害など分野別でなく、多岐に渡る問題をかかえる家庭を支えるために、合同研修など、必要ではないでしょうか？
たてわりになるのが、お互いにとってマイナスである横の連けいと個々の強みを出していくことが重要ではないか？
職員間の職場体験等。
情報交換会の研修・座談会・説明会。
合同研修会など顔を合わす機会を増やす。
業種の枠を越えた連絡会の開催。
施設機関と民間の見守り体制の連帯。はあとねっと会議や異業種の定期的なカンファレンス。定期的な情報交換の場を設ける。情報交換したことをできるだけ共有できるような整備をしていく。
各機関が提供するサービス内容の共有とすみ分け。
定期的に会ぎの場を設け、顔のみえる関係を築き、連携を深める。
メールなどを使用し、記録にのこる(口頭だけでなく)連絡ツールを活用。
同業種の施設交流 職員の交流。
情報交換の場を設ける。
学校と福祉関係機関との連携の場を設ける。感覚の違いがある。

社会福祉従事者の専門性の向上
社会福祉従事者の人数の確保(増やす) 質の向上(研修等)。
OJT、OHJT ・同じ職種が集まって行う研修の実施。
資格取得を応援する体制づくり。
継続的な研修実施など、専門性向上のための支援。
事例検討など振り返りできる機会を持つ。
研修、実習をする機会の増加。
研修、勉強会に参加 当事者団体との連携強化。
有料、無料どちらでも勉強会の開催、情報共有の場。
様々な研修への参加。専門家を招いての学習会等。

研修参加や同職種間での情報共有。
社会福祉従事者の人数の確保（増やす）質の向上（研修等）。

ケアマネジメント
医療、介護、看護管理がしっかりと見つめてほしい。
ケアマネジメントの専門性についても知ることができると良いのではないかと。
育成保育児の年間計画等に関する情報や書面提示があるといい。
ケースカンファレンス（困難事例など）の実施による質向上。
関係機関の連携の強化（定期的会議等）。
市独自の研修を増やして欲しい（居宅他事業所）。
研修やOJT、経験豊富な職員に同行して学ぶ。

ソーシャルワーク体制の整備
入院先の病院のMSWの在宅サービスの知識向上が求められると強く思う。在宅生活への窓口の力不足がご家族を困らせている。
育成保育児の年間計画等に関する情報や書面提示があるといい。
人材育成。
独立したソーシャルワークの確立。
社会福祉士の任用制度の強化。
ダイレクトにサービス連携ではなく、中間地点の相談の受け皿の設定、周知、連携。委託相談の独立や生活支援センターの設置等。

成年後見制度、日常生活自立支援事業、苦情解決制度など、適切なサービス利用を支援する仕組みの整備
利用者の家族は相談したくても、相談しにくかったりする場合がある。もっと身近で相談しやすい場を提供してほしいと考えている方がいらっしゃる。
必要と思われる方がいても、ハードルが高くなかなか導入に至らない。包括支援センターの社会福祉士（役割としての認識が低いと思う）の働きが不十分。
市民後見制度の促進。
制度を知らない人が多い。ケアマネは勿論、ヘルパーさん等にも知識を得て知らせる事に一役買ってもらう。
老人の交通事故対策として一人住まい老人をバス等の利便な所に。
福祉サービスの利用に関する情報提供 地域で福祉サービスを必要としている者のうち、必要なサービスを利用していない、サービスの存在ことを知らない方々も多数存在していることと推察できる。利用している方とそうでない方との公平性の観点からも、行政は広くあまねく情報発信をすべきである。
・各制度の住民向け説明会の開催 ・説明会の広報活動。

サービス機関と制度の理解の周知活動。市の広報等では目につかない。勉強会の開催。小グループの勉強会を行い理解を深める。社協で行ってはどうか。制度の内容理解を深めるための講演会等を行う。
事業を利用すべき人が利用できるよう、関係機関への周知啓発。
市内に1つ「とりあえずここに相談」できる場所 様々な施設間のしがらみなく。
近い親族がいない高齢の方や障害のある方、または世帯で支援が必要な方々など、それらの方が慣れ親しんだ地域での生活を継続していくためには、その方々の支援は欠かすことができず、成年後見制度の活用は地域福祉計画において包括的な相談窓口の整備を目標とすることが求められる。

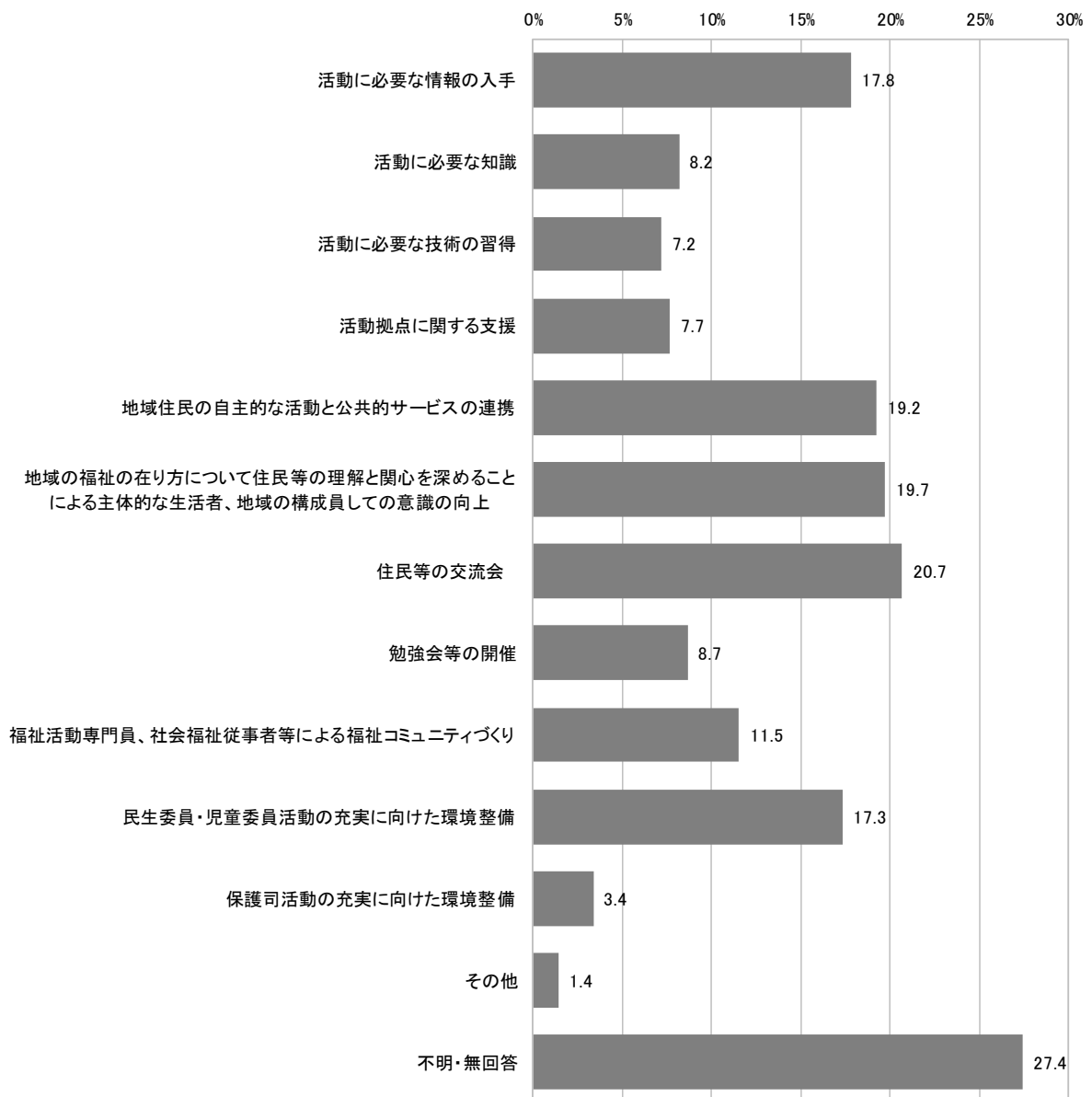
サービスの評価やサービス内容の開示等による、 利用者の適切なサービス選択の確保
社協の方においては、できるだけ利用させたくないと動いているようにすらみえる。
市内の施設の評価やサービス内容を1つにまとめ、データベース化したものがあるとよい。
広報・ホームページ等での情報開示だけでなく、SNSも活用し情報を発信。

避難行動要支援者の把握及び 日常的な見守り・支援の推進方策
台風は予測しても大きな被害に発展するかわからない。避難場所を和光市の様に目立つ看板がほしい。
朝霞市避難行動要支援者台帳にのっている人は申請した人だけみたいなので、申請していなくても75歳以上の高齢者（独居）は、氏名と住所だけでものせておく必要がある。
先日の台風の際に事前に提出していた名簿の活用がなされていなかったと聞いている 事実はどうだったのか？検証して欲しい。
BCP観点による研修、セミナー。
避難行動要支援者への支援がどう出来るか不安。
地域のつながりの薄い場所への支援、若年層への働きかけ、小学校・中学校での朝霞市へのふるさとの思いを伝える。
災害があった場合に介ゴ者 家族の行動の流れ等明確になるものがなく、どうして良いかわからなかったと話がありました。わかりやすくして欲しい。
私たちが出来る事と云えば忠実に訪問活動を続けることです。それによって要支援者の緊急性を見極める事が大切です。
支援者と見守り支援する人が、会う事が必要。
住んでいる地域にどれだけの要支援者がいるのか把握できていないので、常日頃より住民同士でコミュニケーションをとっておく
本当に支援を必要としていると思われませんが公帳に登録されていない人への支援が課題となるのではないか。
地域（近隣含む）の認知が少ない気がする。
民生委員も平時の見守りは出来ても、発災時・発災直後は自分の身を守ることで精いっぱいだと思う。行政もすぐには救護に行けないとなると要支援者宅の隣近所で助け合うしかないのではなにか。

問8 地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために優先的に取り組むべき事項を選択してください。また、それぞれに取り組む際の具体的なアイデアがあればお書きください。(〇は3つまで)

地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために優先的に取り組むべき事項は、「住民等の交流会」が20.7%と割合が最も高く、次いで「地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深める」が19.7%、「地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携」が19.2%となっています。

n=208



■取り組む際の解決に向けたアイデア・ご意見

活動に必要な情報の入手
どこで、誰からどうするを情報が取れるのか？取りやすいのか？などわかり易く フローチャート図などがあるといい。
検索の仕方がわかるといい。
住民1人ひとりが、具体的に何をするのか、何かの情報の発信が必要。
パンフレットは、良く見ないでタメてしまう事も多い。視覚・聴覚の両方に訴えて知識を取ってもらう。
どういったことをやって欲しいのかアンケート等を取り、わかりやすく取り組む。
閉じこもり高齢者の情報がないので、包括などとの情報の共有と事業展開→一部実施している。
住民への意識調査の実施。
地域懇談会の実施。
多くの人に情報発信できるしくみ作り。
地域住民（世話好き・核）になる人物の発掘、協力の要請を行い連絡する。定期的な説明会。
広報誌、市内の各掲示板へポスターを掲示 若い世代へは SNS の活用（ツイッター、ライン、インスタグラムなど）。
様々な福祉分野で開催される活動やイベントの情報を、官民間わず集約し掲載するサイトやアプリの作成。

活動に必要な知識
責任をもって動く事なので自分にも知識が必要です。
住民等の交流会や勉強会あの開催を通じて、必要な知識や情報を得ることで自身の生活の見直しを行うことができる。
守秘義務、傾聴。
勉強会（発達障害、精神障害は特に）。
ふれあい、いきいきサロンなどのスタッフに対しての研修を定期的に行う。
専門的な知識を持つ講師による勉強会。
YouTube などの動画配信サービスの活用。
パンフレットや冊子の作成。
研修及び講演会等の充実。

活動に必要な技術の習得
簡単な勉強会。
様々なテーマの勉強会に参加する機会をつくり、必要な知識や参加者との交流を図り生活の幅を広げていく。
講習会の実施。

研修及び講演会等の充実。

活動拠点に関する支援

老人センターの増設（根岸台、栄町方面 人が利用しやすい場所）。

お金がかからない活動拠点の案内等。

活動拠点の提供を行う。地域で活用されていないスペースを整備し、有効利用する。

地域住民が集える場所作り及び、住民への周知。

地域資源の情報提供。活用できる場を提供してくれる人の情報を集約。

デイサービスなど、利用しているサービスの職員からも拠点地域での活動宣伝を行う。

家事援助が出来る団体（介護保険外）を増やして欲しい。

空家や空店舗の活用。（家主に地域の拠点として提供してもらおう。例えば地域の防犯対策に繋がったり、人の出入りがあることで家の傷みを防止したり、庭の手入れなどを利用者が行えば家主にもメリットが）税制面でもメリットが？

地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携

活動をしたい人と活動をしてほしい人（施設）とがマッチングできるシステムがあるとよい。

既存の自主活動を他地域に周知し、公共的サービスとどのように連携できるか具体例を提示する。

社協や市が中心となって、目標を作り、そこに向かって活動をする。

情報交換等ができる機会を作る。

様々な活動の成功例などの紹介。活動の場の提供。月ごとに区分け（地区分け）して、お題（例題）をあげ公共サービスでどんなものがあるか、住民同士が検討していく。

お互いの活動について理解を深められる場を設けて適切なサービスを提供できるようにする。

地域の活動・サービスを把握し、マッチングさせる。コーディネートする。

地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深めることによる 主体的な生活者、地域の構成員としての意識の向上

小さな単位、自治会、町内会を活用してサービスの種類、方法等を知ってもらう。

町内会の活用と人材育成。

意識の向上をさせたいのはよいが、そんなに住民に余裕はあるのだろうか、自主、自立は大切だが、それだけでは立ちゆかないと思う。

地域の特性に合わせて、住民同士や個々に何が出来るか、例示する。

チラシ等の作成及び配布。

地域福祉説明会の開催。

障害の紹介と生活、生きづらさ等を周知し、地域で暮らすこと、暮らせることを理解。障害者がいることがあたりまえの生活になるようにもっていく。働く年代の福祉教育（学校の保護者会等）。朝霞の魅力を発信し、地域への愛着を深める。関心の高い防災、防犯のイベント等を行う。地域のイベントで色々な世代との交流を図っていく。

・インターネット、SNS を活用。

住民等の交流会

自治会・町内会の充実 会員入会前提の居住。

自治会へ入金していない方も多いため、広く交流会を知らせて参加を求めると時間帯多く。

隣りの住民の顔が見えなければ、地域福祉の前提が成り立たない。ある程度の組織化が必要。

町内主催の祭り事新年会、防災訓練等。

各老人会への介護・医療サービスの参加。

交流会を実施してくれる人を育成する。

交流会を行う中で、住民の意見を抽出したり、アンケートをとる。

活動の場の提供。学校等、既存の公共施設を上手く活用していく。地域の課題や、良い面を基にした、お題を通じたイベント開催。良い面を広げていく。伝言ゲームなど行い、ご近所の横のつながりを作るきっかけ作り。働く世代家族を対象に、土日にイベントで市民交流。地域によって認識に差があるが、まずモデル強化地区を作っても良いのではないかと。

参加する人へのプレゼントなどの特典をつける等、参加しやすい内容にする。

地域住民の方との交流の場がないので、まずはそのような機会を作ると良いのではないかとと思います。

広告など「あさか」広報で知らせる。

単にイベントの回数を増やすのではなく、総合的な福祉イベントの開催により、より多くの方が集まって交流ができるようにする。

公共施設の提供と行政からの発信。

勉強会等の開催

家族介護者への介護技術勉強会の開催。

地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深めることによる主体的な生活者、地域の構成員としての意識の向上 地域福祉活動に住民の参加促進のためには、住民それぞれの意識を変える必要がある。住民はこれは福祉に限らず、地域社会ではなく行政に頼る割合が大きく、時代が下るにつれてさらに行政に頼る割合が増している。よって、住民自身が地域の構成員であることであることが醸成されなければならない。時間はかかるが、地域社会や学校を通じて児童生徒のうちから意識づけを行う必要があると考える。

「何も関わる必要はない」→「何かしてみてもいいかも？」という住民の意識を転換していくことが必要なのでは？

住民の関心がある内容の勉強会の実施。

無料で行い、アクセスがよい場所を選ぶ。

市民を対象とした勉強会などを開催し、地域福祉についての理解を深めてもらう。

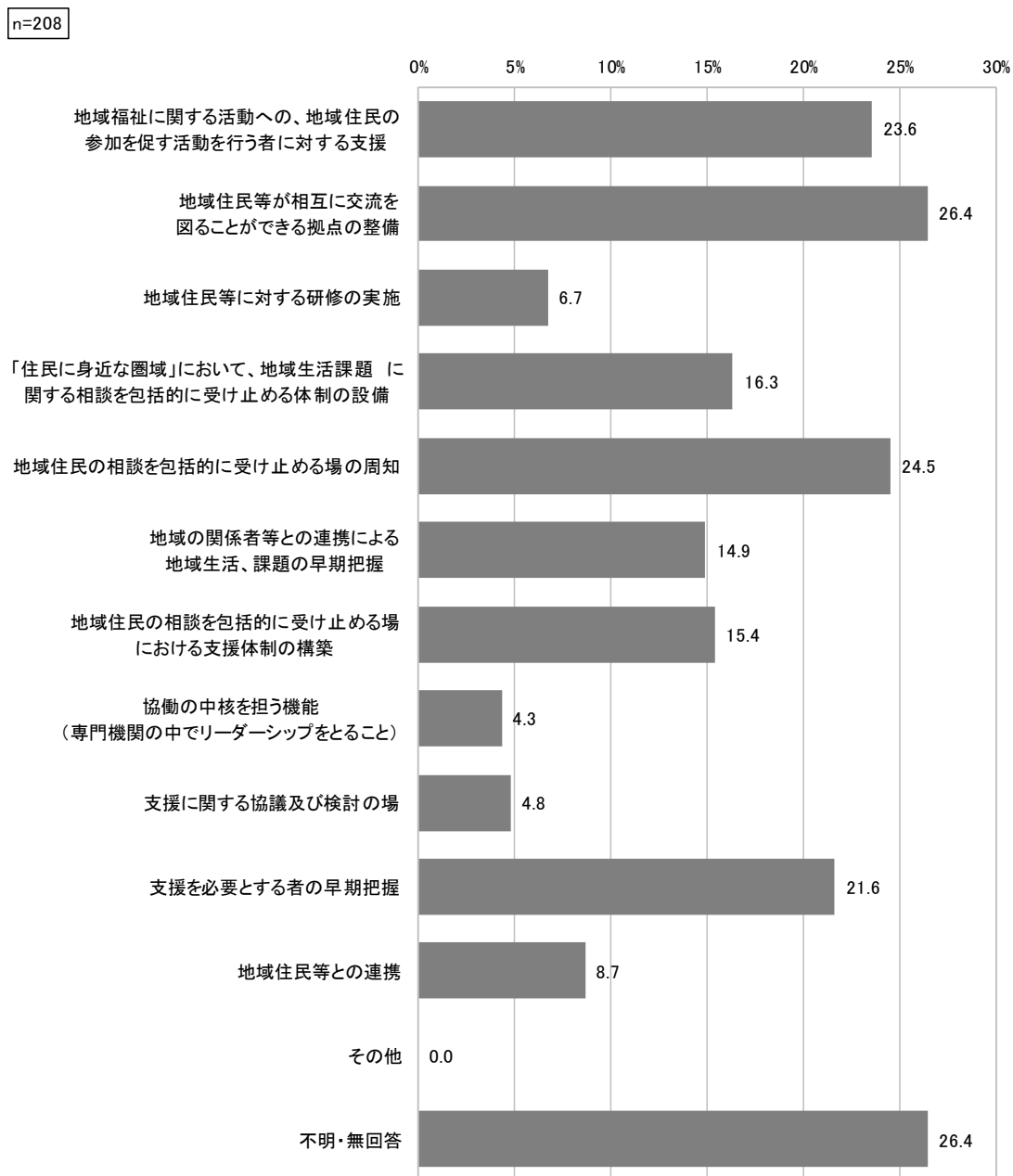
福祉活動専門員、社会福祉従事者等による 福祉コミュニティづくり
従事者同士の定期的な集まりによる情報交換等。
地域ニーズをくみ取り、必要なサービスを作る。例えば、合同就職説明会のように各分野の専門職が一堂に会しての「合同相談会」のようなものの開催等。その他、既存のサービスを組み合わせる等。

民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備
退職した場合に代替りの委員が見つからない。安易にお願いすると質の低下につながってしまう。
介護施設で食堂を行なうが、実質ボランティアとなり、継続したいが負担が大きい。住民と協力してもっとボランティアで参加してくれる人を募りたい。
民生委員同志の学習（研修など）をすすめる。
あらゆる場面で協力を求められるが、しっかり勉強して活動につなげていかななくてはと思う。
民生委員の後継者不足の問題を市の方たちと共在し、共に考えてほしい。
やる気のある方が多いのに、情報の伝達や（学校など）連携がほしいです。
民生委員・児童委員の活動スケジュールや内容、現任の委員へのインタビューなどが掲載された冊子、動画など。

保護司活動の充実に向けた環境整備
保護司が不足しているが最近外国人の犯罪も増えていることから語学に堪能な人材も必要と思われる。
保護司の活動を住民に知ってもらうために、学生の授業などで題材にとりあげる。

問9 地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項を選択してください。また、それぞれに取り組む際の具体的なアイデアがあればお書きください。(〇は3つまで)

地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項は、「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が26.4%と割合が最も高く、次いで「地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知」が24.5%、「地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援」が23.6%となっています。



■取り組む際の解決に向けたアイデア・ご意見

地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援
活動に対してのポイント制の導入、達成感を得られるような、気持ちに働きかける。
・地域住民に対して、活動の場の整備や研修会を行う。
マンション住民に対する町内会への（集合住宅）加入を促しやすくする。
活動者が継続していけるように、地域への協力を呼びかけるなど参加促進への支援。
住民と一緒に地域を歩き、自分たちの問題を探し、活動意識を促す。
チラシ等の作成及び配布 相談窓口の活用。
定期的な活動者の話し合いの場（活動者代表会ギ）

地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備
老人福祉センターの増設。
世代間でわけへだてなく集まれる場所（学校の空き時間、集合住宅の空き部屋の活用など）身近で気軽に行ける所、空き家の活用。
空き家の活用。
公民館等公的施設を増やす。
公民館や市民センター、児童館など市内の公共の場の利用制限の部分的な緩和。
どんな人も気軽に行きやすいオープンな雰囲気づくりが大事だと思います。／ボラ連・地区社協など中心になる組織を作成していくことが必要。
拠点作りを推進するための助成制度。
活動拠点の充足。小学校区に1つくらい。防災訓練や3世代交流会（茶話会）、ワークショップなど市の公共機関を活用して、小さなイベントをポイント制などにして行う。イベントがなくても、「行ったら話し相手が居る」ようなスペースが公共施設にあると良い。
インターネットのチャット機能。
支援センター（誰でも利用できるスペース）相互交流が可能になる場づくり

地域住民等に対する研修の実施
施設の見学会等の開催。
車イスの動かし方で、転倒している方の起こし上げ方など、具体的な支援方法を伝える。
・介護・医療職種における研修会を地域住民へ行う。
地域の社会資源を知れていない。情報不足という現状を解決し、サービス等につなぐことができるようにする。

「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備
小さな区々りで相談出来る組織づくり。
・自治会、町内会、民生委員、包括、施設関係者が一堂に集まり課題を検討する。

精神障害者への理解と、本人が所属できる場所を確保できるよう支援していける地域にしていく。
全体的に若い人達の参加が望ましいが、現役の人が参加しやすい魅力ある整備。
民生委員さんはひとり暮らしの人を回るので精一杯と聞いているが、老々介護をしている人のへのアプローチが必要になっている。介護サービスがあることを教えて欲しい。
地域生活支援拠点・地域包括ケアシステムの整備分野にとらわれない相談窓口の設置をする。土日祝も対応。
高齢者分野での包括ケアシステムや、障害分野での地域生活支援拠点等、それぞれの分野での相談体制の整備も必要と思われるが、福祉分野全体としての総合的な相談窓口の整備し、気軽に相談できる体制を作る。

地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知
チラシ等の作成及び配布。
社協や行政の専門窓口の PR。広く知れわたるよう公共施設や公共交通機関へのポスター掲示。回覧板などにインパクトのある、解りやすいチラシ。地域の催し物の中で出張相談会など行う。住民が相談するホットラインのようなものを作る。相談場所を書いた、カレンダーやマグネットの配布。(常に家に置いておける物)。
・広報誌、ポスターなど各公共機関へ掲示。
市役所や包括だけではなく、福祉施設でも相談が出来る対外的なアピール。
地域包括支援センターが中心となる場所となり、存在を周知し、福祉相談課と連携を図り、民生委員を含め、担当部門へ情報を伝えて対応する。
地域生活支援拠点・地域包括ケアシステムに関する会議等への住民参加。

地域の関係者等との連携による 地域生活課題の早期把握
介ゴと障害の領域が深く関わっている複雑な家庭も多く、包括的なケアをもっと充実させたい。
困りごとではなく、得意なことや協力したいことを集め、地域活動に生かせるように取り組む。
相互に密に連携があれば、課題は早期に発見できるので、顔を見せる関係をつくる。
地域の関係者と連携を深める、話をする機会を作るために、懇談会等の関係。
アウトリーチの実施。
各機関と定期的な会議お行い、情報共有。

地域住民の相談を包括的に受け止める場 における支援体制の構築
介ゴと障害の領域が深く関わっている複雑な家庭も多く、包括的なケアをもっと充実させたい。
受けとめる場と解決する場の 2 層体制を作り、問題解決を図る。
専門性のある職員育成。そこからの市民同士による相談し合える環境、関係性が構築できる場所づくり。はあとねっと会議などを活用し、いざという時のネットワーク作りを強化整備。市役所、社協での定期的なカンファレンスの実施。

支援者の知識向上のための研修実施。
支援者同士の情報交換の場。

協働の中核を担う機能 (専門機関の中でリーダーシップをとること)
基幹相談支援センターの設置。どの分野にも長けている相談員の配置。

支援に関する協議及び検討の場
生活支援サービスの整備、地域活動やボランティア活動のポイント制の導入。

支援に関する協議及び検討の場
行政、包括、居宅等の連携の強化。
地域住民と連携を強化することにより、支援が必要な人の早期発見につながる。
今も行われていますが、訪問と地域の方達から情報をもらっていく。
支援を必要とする人、家庭については早期把握が必要。その為にも学校や地域の民生委員等の動きが重要である。

地域住民等との連携
人と関わる 寄り添うこと。
地域福祉計画、地域福祉活動計画をより多くの人に知ってもらう。
SNS の活用。
町内会や地域住民の中心となっている人とコミュニケーションを回り情報共有する。
困り事などちょっとした悩みを聞けるように積極的に地域に出向くことが大事だと思います。

問 10 その他、地域福祉に関して、市・社会福祉協議会へご意見・ご提言等ありましたらお書きください。
(自由回答)

回答内容
着々と施策を実現されていると実感出来ます。
高齢者だけの世帯に対して生活上の支援（買物、家の中の掃除や整理等、生活上のもろもろの行動の手助け等）＝助け船の充実。
ストレス社会の中で怒りに対する感情の高まりを感じる事が多い。怒りの感情は伝染していくもの。保育士や介護職員もその怒りが弱い立場の人間に流れてしまいがち。自分の怒りをコントロール連鎖を断ち切る事が出来ればよりよい社会がうまれていく。その為にアンガーマネジメントの考えを理解、共有していく事は大切だと考えている。
ボランティアをやりたい人はたくさんいます。有償でなく、できる際にできる人ができることをしていくと良いと思います。みんな人のお役に立ちたいと思う気持ちを持っているのですから。明るい社会が出来るといいですね。私も動けるうちはボランティアに徹します。
親が認知症、子どもが障害…等、一家で問題を抱えている場合も度々あり、支援の難しさを感じている。問題を抱えている家庭へもっと介入できる体制がほしい。
第4期の地域福祉計画、及び、地域福祉活動計画の進捗状況や第3期の結果と検証を発表お願いします。
市の老人福祉は優しくて嬉しいです。それに甘んじてしまわずに自分の仕事をしっかりとやりたいと思うが、気持ちだけになってしまうこともある。しっかり新しい情報についていきたいと思いません。
どのようにして良いのか、自分としては、わからない。ただ、最近の人達は、近所づきあいをしたがないので、それも、時代の流れなのかなと思う。
社協で集めている赤い羽等の金額の20%が協力金としてもどしていますが 不要と思います その分 集金目的の集団に増額してほしい 内容がわかりにくいです もっと簡単にしてほしいです。
介護・医療・地域住民の集まり、各ボランティア活動それぞれで、集まっているので、すべてのかきねを越えたグループワークなど行い、横のつながりがもてると良いと思います。これから認知症状の人も増えてくると思うので、その方々が安心して暮らせる街づくりこそ大切かと思えます。その中心となる指揮をとるのが市役所だと上手く、まとまるのではないかと期待しております。
足腰が弱わり、出無情に成り介護認定を受け、デイサービスを利用し、皆と一緒に折紙や、唄などをにこにこやっている人は、本当に幸福なのだろうか？といつも思っています。一概に言えませんが、与えられる物ではなく、本心が聞きたいと思えます。
自分達の課がどういったことを行っているか、プレゼンを行っていくのはどうか、他の課がどのような視点でどんな活動を行っているのかわからない部分がある。保健センターで行われる、事例検討会で、時々、他課の話聞くきかひがあり、お互いの考え等が共有できてジレンマなどが解消されたり、協働できそうな部分があったりする。また余談かもしれませんが、それをまとめることで、自分の仕事も管理ができる。

<p>その他… 社会福祉協議会について、社協の制度は使いづらい（使えなかった）ことが多い。制度を使えるように運営してもらいたい。</p>
<p>以前から問題になっていることだが、横と横のつながり、人と人との関係が希薄になってきている。そのため、支援が必要な人や、地域の問題も発見しづらい状況だと思います。現在も活動計画等で、地域住民との関わりを持つよう懇談会を開いていることはとても良い活動だと思います。これから、さらに地域の人々が共に助け合える社会になればと思います。</p>
<p>他の市町村の行政機関との連携を図り、共通したサービス提供の課題について話し合い、他市の成功例を参考にしていくことも必要ではないかと思います。地域福祉が「ひとごと」ではなく「自分のこと」と市民みんなが思い考えることが出来る仕組み作りが出来たら良いなと思っています。</p>
<p>支援を必要とする所に必要な支援が届くことを願っています。</p>
<p>日々の活動で、市、社協、包括の方々と顔見知りになり、様々な相談をさせて頂きやすくなったと感じています。目の前に迫っている災害時の事などあわせて、各部との絆が益々必要と感じています。これからもよろしくお願いします。</p>
<p>地域懇談会に参加して 認知症サポーター養成講座に参加してオレンジリングをいただいたが、その後何をして良いのか分からない方がいるとのこと、知識を得て社会に貢献したいと思っている人の地域での関わり方を考えてほしいです。何かのお役に立てればと思っている方がたくさんいるのではないかと。</p>
<p>日頃から一生懸命取り組まれていて、住民として感謝しております。子供や学生は学校で、話して、聞く機会を増やしてもらい、足を運べる人は研修や懇談会に参加する、ただ足を運べないが聞きたい人は少なくないと思うので、各自が見られるような形、ネット配信等してもらえたら、幅広く聞いてもらえ、関心を持ってもらえるのではないのでしょうか。</p>
<p>ケアマネージャーには認定日に介護度（だけでも）の公開をお願いしたい。</p>
<p>当事者にも参加していただく地域の懇談会や情報交換会などがあれば積極的に参加させていただきます。今後ともよろしくお願いします。</p>

V 調査票

～支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまちを目指して～ あなたの声をお聞かせください

～朝霞市の地域福祉に関する市民アンケート調査のお願い～

日頃から、市政に対しご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、朝霞市では、支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまちを推進するために、朝霞市と朝霞市社会福祉協議会が協働し、令和3年度を初年度とする「第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定することとなりました。

そこで、市民の皆様の『地域福祉』に対するご意見を計画に反映させるため、朝霞市が住民基本台帳に登録されている18歳以上の方の中から3,000人を無作為で選ばせていただき、朝霞市社会福祉協議会と合同で「地域福祉に関するアンケート」を実施いたします。15分程度で回答できるアンケートです。

このアンケートの調査結果は、上記の目的以外に利用することは一切ありません。また、個人が特定できないように処理し、朝霞市のホームページなどで結果をお知らせいたします。

お忙しいところ誠にお手数をおかけしますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和元年9月

朝霞市長 富岡 勝則
社会福祉法人
朝霞市社会福祉協議会会長 松尾 哲

※ご記入にあたってのお願い

- ①お送りした封筒の**あて名のご本人**がご回答ください。何らかの理由でご本人による記入が難しい場合は、家族や介護者が**あて名のご本人の立場で代筆**していただいても構いません。
- ②**調査票、返信用封筒へのご記名は不要**ですので、ありのままをご回答ください。
また、必ずしもすべての質問に回答いただけなくても構いませんので、可能な範囲でご回答ください。
- ③回答は、質問ごとに用意した選択肢の中から、あなたのお考えにあてはまる番号に○印をつけてください。
「その他」にあてはまる場合には、() に具体的な内容を記入してください。
- ④一部の方だけに答えていただく質問もあります。その場合は(→)で示したり、説明文がありますので、指示にしたがってお答えください。
- ⑤ご記入は、ボールペン、鉛筆、シャープペンシル、万年筆でお願いいたします。
- ⑥ご記入が終わりましたら、お手数ですが同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、

令和元年9月27日(金) までにポストに投函してください。

※障害のある方で代筆者がいない場合などは個別に対応させていただきますので下記へお問い合わせください。

【このアンケート調査についての問い合わせ先】 朝霞市 福祉部 福祉相談課 地域福祉係
TEL : (048) 463-1594 (直通) FAX : (048) 463-1025

市民アンケート

最初に、令和元年9月1日時点のあなた自身のことについてお聞きします。

問1 あなたのお住まいはどの地区ですか。(1つに○)

1. 青葉台1丁目	2. 朝志ヶ丘(1~4丁目)
3. 岡(1~3丁目、大字含む)	4. 大字上内間木
5. 北原(1~2丁目)	6. 幸町(1~3丁目)
7. 栄町(1~5丁目)	8. 大字下内間木
9. 泉水(1~3丁目)	10. 大字台
11. 田島(1~2丁目、大字含む)	12. 仲町(1~2丁目)
13. 西原(1~2丁目)	14. 西弁財(1~2丁目)
15. 大字根岸	16. 根岸台(1~8丁目)
17. 浜崎(1~4丁目、大字含む)	18. 東弁財(1~3丁目)
19. 膝折町(1~5丁目)	20. 本町(1~3丁目)
21. 溝沼(1~7丁目、大字含む)	22. 三原(1~5丁目)
23. 宮戸(1~4丁目、大字含む)	24. 陸上自衛隊朝霞駐屯地

問2 あなたは、朝霞市にお住まいになってどのくらいになりますか。(1つに○)

1. 5年未満	2. 5~9年	3. 10~19年
4. 20~29年	5. 30~49年	6. 50年以上

問3 あなたの性別は。(1つに○)

1. 男性	2. 女性
-------	-------

問4 あなたの職業は。(1つに○)

1. 会社員・役員	2. 自営業	3. 専門職
4. 公務員	5. 学生	6. 専業主婦・専業主夫
7. パート・アルバイト	8. 無職	9. その他()

問5 あなたの勤務先、通学先はどちらですか。(1つに○)

1. 朝霞市内	2. 和光市・志木市・新座市
3. その他埼玉県内	4. 東京都
5. その他()	6. 通勤・通学していない

問6 あなたの年齢は。(1つに○)

1. 18~29歳	2. 30~39歳	3. 40~49歳
4. 50~59歳	5. 60~69歳	6. 70~79歳
7. 80~89歳	8. 90歳以上	

問7 あなたの同居している世帯・家族の構成は。(1つに○)

1. 単身	2. 夫婦のみ	3. 親と子(2世代)
4. 親と子と孫(3世代)	5. 兄弟や親族	6. その他()

問8 あなた自身もしくは、ご家族の中で該当する方はいますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 介護保険のサービスを受けている	2. 障害福祉のサービスを受けている
3. 18歳未満の子がいる	4. 外国籍である
5. いずれもない	

朝霞市に対する印象についてお聞きします。

問9 朝霞市はあなたにとって暮らしやすいですか。(1つに○)

- | |
|--|
| 1. 暮らしやすい
2. 暮らしにくい
3. どちらともいえない |
|--|

問10 次のような生活に関連する項目について、①～⑫のそれぞれあてはまるものをお答えください。(それぞれ1つに○)

	満足	どちらかといえは満足	わからない	どちらかといえは不満	不満
① 児童館、老人福祉センターなどの社会福祉施設	1	2	3	4	5
② 犯罪や事故の少ない社会環境	1	2	3	4	5
③ 近隣住民との連帯感(コミュニティ)	1	2	3	4	5
④ 職場(学校)と住まいの近さ	1	2	3	4	5
⑤ 高齢者に関するサービス	1	2	3	4	5
⑥ 障害のある人に関するサービス	1	2	3	4	5
⑦ 子育てに関するサービス	1	2	3	4	5
⑧ 低所得者に関するサービス	1	2	3	4	5
⑨ 通勤や通学などの交通の便	1	2	3	4	5
⑩ 生活用品などの買い物	1	2	3	4	5
⑪ 病院などの医療機関	1	2	3	4	5
⑫ 相談窓口の分かりやすさ	1	2	3	4	5

近所付き合いについてお聞きします。

問 11 近所の人とは普段どのような付き合いをしていますか。(1つに○)

- | | |
|--------------------------|------------|
| 1. 日ごろから親しく付き合っている | } →問 12へ |
| 2. 会えば立ち話をする | |
| 3. あいさつする程度であまり近所付き合いはない | } →問 11-1へ |
| 4. 近所の人とは全く付き合いがない | |
| 5. その他 (|) →問 12へ |

(問 11 で「3. あいさつする程度であまり近所付き合いはない」「4. 近所の人とは全く付き合いがない」と答えた方のみ)

問 11-1 近所付き合いをしていない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない | |
| 2. 近所付き合いはわずらわしいので避けている | |
| 3. 近所付き合いはしたいが、きっかけがない | |
| 4. 近所付き合いをしてもいいが、なじめない | |
| 5. ふだん留守の家が多く、近所付き合いのほとんどない地域である | |
| 6. 年齢や家族構成に共通するところがない | |
| 7. 必要性を感じない | |
| 8. その他 (|) |

問 12 困ったことがあるとき、近所で気軽に相談できる人はいますか。(1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|---------|
| 1. 5人以上いる | 2. 3~4人いる | 3. 2人いる |
| 4. 1人いる | 5. いない | |

問 13 近所の人と、今後どのような付き合いをしていきたいですか。(1つに○)

- | | |
|----------------------------|------------|
| 1. 日ごろから行き来があるくらいに親しくしたい | } →問 13-1へ |
| 2. いざというときに助け合えるくらいに親しくしたい | |
| 3. 会えば立ち話をする程度に親しくしたい | |
| 4. 生活時間帯が違うので近所付き合いは難しい | } →問 14へ |
| 5. 近所付き合いはしたくない | |
| 6. その他 (|) →問 14へ |

(問 13 で「1. 日ごろから行き来があるくらいに親しくしたい」「2. いざというときに助け合えるくらいに親しくしたい」「3. 会えば立ち話をする程度に親しくしたい」と答えた方のみ)

問 13-1 近所との付き合いを深めるためのきっかけとして、どのようなものが必要だと思いますか。

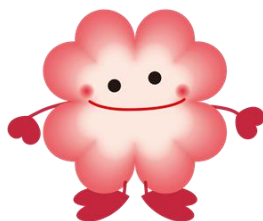
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 自治会・町内会・子ども会等 | 2. 近隣の清掃活動 |
| 3. 趣味を通じたサークル活動等 | 4. ボランティアや福祉に関する講座 |
| 5. 地域懇談会(茶話会) | 6. 防災訓練、避難所体験等 |
| 7. 気軽に集える場所 | 8. 地域の見守り、声掛け活動 |
| 9. その他 (|) |

朝霞市社会福祉協議会（朝霞市社協）についてお聞きします。

問 14 朝霞市社協の活動のうち、知っているものは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|--|-------------------------------|
| 1. 社協会員の募集 | 2. 共同募金運動 |
| 3. ふれあいサービス | 4. 福祉有償運送サービス（移送サービス） |
| 5. 福祉車両の貸出 | 6. 車椅子の貸出 |
| 7. 福祉体験用具の貸出（車椅子・アイマスク
・点字器・高齢者疑似体験セット） | 8. 布遊具の貸出 |
| 9. あんしんサポートねっと | 10. 福祉資金の貸付 |
| 11. ボランティアセンターの運営 | 12. 福祉教育（小・中学校）の実施 |
| 13. 広報紙「社協あさか」の発行 | 14. SNS（ツイッター等）の発信 |
| 15. 地域福祉活動計画の推進 | 16. 地域懇談会の開催 |
| 17. 朝霞市社会福祉協議会マスコット
キャラクター アーシャ♡るくるん | 18. 障害者就労支援センターの運営 |
| 19. 障害者相談支援センターの運営 | 20. 老人福祉センターの管理運営
（市内2カ所） |
| 21. はあとびあ福祉作業所の管理運営 | 22. あさか福祉作業所の管理運営 |
| 23. 児童館の管理運営（市内5カ所） | 24. 放課後児童クラブの管理運営
（市内10カ所） |
| 25. 一般介護予防事業 | 26. 手話通訳者等派遣事業 |



朝霞市社会福祉協議会マスコット キャラクター

アーシャ♡るくるん

民生委員・児童委員、保護司についてお聞きします。

問 15 民生委員・児童委員※の活動のうち、知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

※民生委員・児童委員とは、厚生労働大臣から委嘱され、生活にお困りの方や心配ごとがある方の地域の身近な相談相手として活動している非常勤の地方公務員です。ボランティアとして活動するため給与はありません。

1. 日常生活の悩みや心配ごとの相談
2. 福祉に関する情報の提供
3. 地域住民の見守り
4. 福祉サービス利用にあたっての支援
5. 地域の福祉課題を解決していくための仕組みづくり
6. 民生委員・児童委員は知っているが、活動で知っているものは特にならない
7. 民生委員・児童委員自体を知らない

問 16 民生委員・児童委員の活動のうち、あなたはどのような活動を期待しますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 日常生活の悩みや心配ごとの相談
2. 福祉に関する情報の提供
3. 地域住民の見守り
4. 福祉サービス利用にあたっての支援
5. 地域の福祉課題を解決していくための仕組みづくり
6. 災害などの非常時における安否確認
7. その他 ()
8. 特にならない

問 17 保護司※の活動のうち、知っているものはありますか。(あてはまるものすべてに○)

※保護司とは、法務大臣から委嘱され、犯罪や非行をした人の立ち直りを地域で支える非常勤の国家公務員です。ボランティアとして活動するため給与はありません。

1. 保護観察
2. 生活環境調整
3. 犯罪予防活動
4. 社会を明るくする運動
5. 保護司は知っているが、活動で知っているものは特にならない
6. 保護司自体を知らない

地域での活動や課題についてお聞きします。

問 18 あなたの身近な地域には、どのような課題があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

子育て	1. ひとり親家庭の子育て支援 2. 共働き家庭の子育て支援 3. 乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援 4. 子どもへの虐待 ^{ぎゃくだい} 防止対策 5. 子どもの貧困対策
高齢者	6. 高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援 7. 高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など） 8. 高齢者への虐待 ^{ぎゃくだい} 防止対策 9. 孤立（孤独死）防止対策 10. 介護者、介助者への情報提供などの支援
障害者	11. 障害のある人が地域で自立して生活するための支援 12. 障害のある人に対する地域の理解、交流の支援 13. 障害のある人への虐待 ^{ぎゃくだい} 防止対策 14. バリアフリー環境の整備 15. 介護者、介助者への情報提供などの支援
その他	16. 青少年の健全育成、犯罪や非行 17. 生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み支援 18. 災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動 19. 地域で孤立している人への支援 20. 振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動 21. 生活困窮者への支援 22. 仕事に就けない人への就労支援 23. 外国人市民の地域での生活に対する支援 24. 過去に罪を犯した人への更生支援 25. 空き家の増加 26. ひきこもりの人への支援 27. 住民同士のつながりの欠如 28. 居住に課題を抱える人への支援 29. 自殺防止対策 30. 市民後見人の育成などの権利擁護への取り組み支援 31. その他（ ） 32. 特にない

問 19 あなたの地域で優先的に解決しなければならない課題はありますか。(〇は3つまで)

子育て	1. ひとり親家庭の子育て支援 2. 共働き家庭の子育て支援 3. 乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援 4. 子どもへの虐待 ^{ぎゃくたい} 防止対策 5. 子どもの貧困対策
高齢者	6. 高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援 7. 高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など） 8. 高齢者への虐待 ^{ぎゃくたい} 防止対策 9. 孤立（孤独死）防止対策 10. 介護者、介助者への情報提供などの支援
障害者	11. 障害のある人が地域で自立して生活するための支援 12. 障害のある人に対する地域の理解、交流の支援 13. 障害のある人への虐待 ^{ぎゃくたい} 防止対策 14. バリアフリー環境の整備 15. 介護者、介助者への情報提供などの支援
その他	16. 青少年の健全育成、犯罪や非行 17. 生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み支援 18. 災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動 19. 地域で孤立している人への支援 20. 振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動 21. 生活困窮者への支援 22. 仕事に就けない人への就労支援 23. 外国人市民の地域での生活に対する支援 24. 過去に罪を犯した人への更生支援 25. 空き家の増加 26. ひきこもりの人への支援 27. 住民同士のつながりの欠如 28. 居住に課題を抱える人への支援 29. 自殺防止対策 30. 市民後見人の育成などの権利擁護への取り組み支援 31. その他（ ） 32. 特にない

ボランティア活動*についてお聞きします。

※有償、無償は問いません。

問 21 あなたはボランティア活動をしていますか。(1つに○)

1. 現在やっている	}	→問22へ
2. 過去にやったことがある		
3. やったことはない	}	→問21-1へ
4. 興味はあるがやったことはない		

(問21で「3. やったことはない」「4. 興味はあるがやったことはない」と答えた方のみ)

問 21-1 あなたがボランティア活動に参加できない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 育児で忙しい	2. 介護で忙しい
3. 仕事・アルバイトで忙しい	4. 報酬がない
5. 関心がない	6. 体調面に不安がある
7. 始めるきっかけがない(始め方が分からない)	8. 情報が無い
9. 取り組みたい内容がない	10. 自分に合う活動が分からない
11. その他()	

問 22 あなたは今後ボランティア活動する機会があればやってみたいですか。(1つに○)

1. やってみたい	→問22-1へ
2. やってみたいくない	}→問23へ
3. どちらともいえない	

(問22で「1. やってみたい」と答えた方のみ)

問 22-1 ボランティア活動をやりたいと思った時、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. ボランティア活動のメニューが充実すること
2. 気軽にボランティア活動体験ができること
3. 団体の活動内容に関する情報が充実すること
4. 活動への参加の仕方が分かりやすいこと
5. わずかでも報酬があること
6. 自分の仕事や特技を活かせること
7. 自分に合った時間や活動内容であること
8. 朝霞市ボランティアセンターの情報発信
9. 情報を得やすいこと
10. 活動のきっかけとなる講座の開催
11. 相談窓口の周知
12. その他()

問 23 どのような内容のボランティア活動をやってみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 高齢者・障害のある人の話し相手	2. 子どもの遊び相手
3. 買い物や病院等への車の送迎	4. 外出の付添い
5. 資格を活かしたもの	6. 手芸や創作活動等特技を活かすもの
7. 家事援助（掃除・洗濯・料理・買い物など）	8. 社会福祉施設におけるボランティア活動
9. 地域の自然を守る活動	10. 外国人市民との交流
11. 災害時のボランティア活動	12. 防災関連
13. 防犯関連	14. 交通安全
15. 行政ボランティア（市の手伝いなど）	16. 身近な地域での声掛けや見守り活動
17. その他（	）

問 24 地域の活動・行事への参加状況について教えてください（あてはまるものすべてに○）

- (1) 直近3年間で、学校や仕事以外で、地域の活動・行事に参加したことがありますか。
 (2) 今後参加してみたい活動は何ですか。

	(1) 参加したことがある	(2) 今後参加してみたい
① お祭り	1	1
② クリーン活動・リサイクル回収	2	2
③ 旅行・スポーツ・レクリエーション	3	3
④ 防犯・防災・交通安全活動	4	4
⑤ 子ども会行事	5	5
⑥ 小中学校行事	6	6
⑦ サロン活動（居場所づくりなど）	→問25へ 7	7
⑧ 自治会・町内会活動	8	8
⑨ その他（	9	9
⑩ 特にない →問24-1へ	10	10

（問 24（1）で「⑩特にない」と答えた方のみ）

問 24-1 あなたが地域の活動や行事に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 仕事や家事で忙しい	2. 介護や育児で忙しい
3. 家族の理解がない	4. 興味がない
5. 健康や体力に不安がある	6. 経済的負担が大きい
7. 知り合いが少ない	8. 行事・活動の情報がない
9. 地域の人と関わりたくない	10. 地域活動は必要ないと思う
11. その他（	）

問 25 外国人市民にとっても、暮らしやすい地域にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 日本語習得の支援
2. お互いの文化を知る機会の増加
3. 外国語でのお知らせや情報の発信
4. 言葉がわかるボランティアの増加
5. 地域活動や行事への参加など地域との関わりを深化
6. 外国語講師など、活躍の場の増加
7. 気軽に相談できる窓口の充実、地域との関わりを増やすための受け入れ体制の整備
8. その他（

防災活動についてお聞きします。

問 26 防災に関連する項目について、①～⑥のそれぞれあてはまるものをお答えください。（それぞれ1つに○）

	はい	いいえ	わからない
① 身近な避難場所と行き方を知っていますか	1	2	3
② 地域の防災訓練に参加していますか	1	2	3
↳②で「いいえ」又は「わからない」を選択された方は、「問 26-1」もお答えください。			
③ 地域の自主防災組織に参加していますか	1	2	3
↳③で「いいえ」又は「わからない」を選択された方は、「問 26-2」もお答えください。			
④ 災害時に避難の手助けが必要ですか	1	2	3
⑤ 災害時に避難の手助けが必要な人が近所にいますか	1	2	3
⑥ 災害時に避難の手助けが必要な近所の人に、手助けをすることができますか	1	2	3

（問 26 の②で「2. いいえ」又は「3. わからない」と答えた方のみ）

問 26-1 あなたが地域の防災訓練に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 仕事や家事で忙しい	2. 介護や育児で忙しい
3. 家族の理解がない	4. 興味がない
5. 健康や体力に不安がある	6. 経済的負担が大きい
7. 知り合いが少ない	8. 行事・活動の情報がない
9. 地域の人と関わりたくない	10. 地域活動は必要ないと思う
11. その他（	）

（問 26 の③で「2. いいえ」又は「3. わからない」と答えた方のみ）

問 26-2 あなたが地域の自主防災組織に参加していない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 仕事や家事で忙しい	2. 介護や育児で忙しい
3. 家族の理解がない	4. 興味がない
5. 健康や体力に不安がある	6. 経済的負担が大きい
7. 知り合いが少ない	8. 行事・活動の情報がない
9. 地域の人と関わりたくない	10. 地域活動は必要ないと思う
11. その他（	）

問 27 災害時の備えとして、普段どのようなことをしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 携帯ラジオ・ライトなど防災関連の道具を準備している
2. 食料や飲料水を準備している
3. 常備薬^{じょうびやく}・入れ歯^{ほちょうき}や補聴器^{ほちやうき}など無いと困るものを準備している
4. 避難する場所を決めている
5. 家具の転倒防止をしている
6. スリッパやくつなどをいつでも使えるように置いている
7. 貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している
8. 耐震補強^{たいしんほきやうこうじ}工事^{こうじ}をしている
9. 市発行の地震・洪水ハザードマップで防災情報を確認している
10. 近所の人や知り合いと声をかけ合ったり、確認し合うことを話題にしている
11. その他 ()
12. 特に何もしていない

問 28 地震や火災等の災害時に住民同士が協力し合えるためには、どのようなことが必要だと思えますか。(○は3つまで)

1. 地域での自主防災組織づくり
2. 地域での定期的な防災訓練
3. 地域での勉強会
4. 福祉サービス事業者や行政との連携
5. 各避難行動要支援者^{ひなんこうどうようしえんしや}*の支援計画を地域のみんなで考える
6. その他 ()
7. 特にないと思う

^{ひなんこうどうようしえんしや}
*避難行動要支援者：高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する人（要配慮者）のうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な者で、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する者。

問 30 地域のつながりが必要と感じる時はどのような時ですか。(〇は3つまで)

1. 災害が起こったとき
2. 病気や怪我等緊急のとき
3. 地域で事件や事故が起こったとき(防犯活動を行うとき)
4. 孤立・孤独への不安があるとき
5. 生活上の悩みや困り事を相談したいとき
6. 子育てについて支援をしてもらいたいとき
7. 介護について支援をしてもらいたいとき
8. 地域の環境、文化、伝統等を維持・継承するとき
9. その他()

朝霞市の福祉についてお聞きします。

問 31 朝霞市の福祉についての情報はどこから手に入れますか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 市役所の窓口 | 2. 朝霞市の広報紙『広報あさか』 |
| 3. 朝霞市のホームページ | 4. 社会福祉協議会(社協)の窓口 |
| 5. 社協の広報紙『社協あさか』 | 6. 社協のホームページ |
| 7. 民生委員・児童委員 | 8. ボランティア |
| 9. 家族・親族 | 10. 友人・知人等からの口コミ |
| 11. 自治会・町内会 | 12. 福祉サービスの事業者 |
| 13. 福祉活動団体 | 14. SNS |
| 15. その他() | 16. 知らない、わからない |

問 32 日常生活で困ったことがあった場合、どこに相談しますか。(あてはまるものすべてに〇)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 市役所 | 2. 警察 |
| 3. 病院、診療所 | 4. 児童相談所 |
| 5. 学校、保育園、幼稚園 | 6. 社会福祉施設 |
| 7. 地域包括支援センター | 8. 社会福祉協議会 |
| 9. 民生委員・児童委員 | 10. 自治会・町内会の役員 |
| 11. ボランティア | 12. 友人・知人 |
| 13. 家族・親族 | 14. 福祉サービスの事業者 |
| 15. 近所の人 | 16. その他() |
| 17. 知らない、わからない | 18. だれにも相談しない |

問 33 福祉のまちづくりに向けた、行政と地域住民の関係について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(1つに〇)

1. 福祉への責任は行政にあり、住民は特に協力することはない
2. 行政だけで解決できない問題については、住民同士が協力して取り組むべきである
3. 福祉の問題についても、行政と住民が協働して、取り組むべきである
4. 家庭や地域での助け合いが基本で、できない場合に行政が取り組むべきである
5. わからない

問 34 地域福祉活動を促進するための基盤として、有効なものは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|------------------|---------------|-------------|
| 1. 自治会・町内会 | 2. 子ども会 | 3. 当事者団体 |
| 4. 民生委員・児童委員 | 5. 保育園・幼稚園 | 6. 趣味・サークル |
| 7. 小学校・中学校 | 8. 高校・大学・専門学校 | 9. PTA |
| 10. NPO・ボランティア団体 | 11. 老人クラブ | 12. 介護・福祉施設 |
| 13. 企業 | 14. 商工会 | 15. その他 () |

問 35 今後、朝霞市及び朝霞市社協で福祉のまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思えますか。(○は3つまで)

- | |
|--------------------------|
| 1. 相談支援体制の整備 |
| 2. 社会福祉施設での地域住民との交流 |
| 3. わかりやすい福祉情報の提供 |
| 4. 福祉関連事業所のつながり |
| 5. 在宅サービスの充実 |
| 6. 保健・医療・福祉の連携 |
| 7. 福祉サービスを受ける人の権利を守ること |
| 8. 福祉教育の充実(学校・地域) |
| 9. ボランティア・地域活動による生きがいづくり |
| 10. だれにでも使いやすい施設、まちづくり |
| 11. 災害時・緊急時の防災・安全対策の充実 |
| 12. 心と体の健康づくり |
| 13. ボランティアの養成 |
| 14. 専門的人材の交流 |
| 15. 住民が主体的に活動できる場所の確保 |
| 16. 市の福祉の予算の増額を図ること |
| 17. その他 () |

自由意見欄

最後に、これからの地域福祉の取組について、ご意見などがありましたら自由にご記入ください。

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

～支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまちを目指して～ あなたの声をお聞かせください

～朝霞市の地域福祉に関する若者アンケート調査のお願い～

日頃から、市政に対しご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、朝霞市では、支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまちを推進するために、朝霞市と朝霞市社会福祉協議会が協働し、令和3年度を初年度とする「第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定することとなりました。

そこで、市民の皆様の『地域福祉』に対するご意見を計画に反映させるため、朝霞市が住民基本台帳に登録されている18歳以上29歳以下の方の中から1,000人を無作為で選ばせていただき、「地域福祉に関するアンケート」を実施いたします。10分程度で回答できるアンケートです。

このアンケートの調査結果は、上記の目的以外に利用することは一切ありません。また、個人が特定できないように処理し、朝霞市のホームページなどで結果をお知らせいたします。

お忙しいところ誠にお手数をおかけしますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和元年9月

朝霞市長 富岡 勝則
社会福祉法人
朝霞市社会福祉協議会会長 松尾 哲

※ご記入にあたってのお願い

- ①お送りした封筒の**あて名のご本人**がご回答ください。何らかの理由でご本人による記入が難しい場合は、家族や介護者が**あて名のご本人の立場で代筆**していただいても構いません。
- ②**調査票、返信用封筒へのご記名は不要**ですので、ありのままをご回答ください。
また、必ずしもすべての質問に回答いただけなくても構いませんので、可能な範囲でご回答ください。
- ③回答は、質問ごとに用意した選択肢の中から、あなたのお考えにあてはまる番号に○印をつけてください。
「その他」にあてはまる場合には、() に具体的な内容を記入してください。
- ④一部の方だけに答えていただく質問もあります。その場合は(→)で示したり、説明文がありますので、指示にしたがってお答えください。
- ⑤ご記入は、ボールペン、鉛筆、シャープペンシル、万年筆でお願いいたします。
- ⑥ご記入が終わりましたら、お手数ですが同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、

令和元年9月27日(金) までにポストに投函してください。

※障害のある方で代筆者がいない場合などは個別に対応させていただきますので下記へお問い合わせください。

【このアンケート調査についての問い合わせ先】 朝霞市 福祉部 福祉相談課 地域福祉係
TEL : (048) 463-1594 (直通) FAX : (048) 463-1025

若者アンケート

最初に、令和元年9月1日時点のあなた自身のことについてお聞きします。

問1 あなたのお住まいはどの地区ですか。(1つに○)

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 青葉台1丁目 | 2. 朝志ヶ丘(1~4丁目) |
| 3. 岡(1~3丁目、大字含む) | 4. 大字上内間木 |
| 5. 北原(1~2丁目) | 6. 幸町(1~3丁目) |
| 7. 栄町(1~5丁目) | 8. 大字下内間木 |
| 9. 泉水(1~3丁目) | 10. 大字台 |
| 11. 田島(1~2丁目、大字含む) | 12. 仲町(1~2丁目) |
| 13. 西原(1~2丁目) | 14. 西弁財(1~2丁目) |
| 15. 大字根岸 | 16. 根岸台(1~8丁目) |
| 17. 浜崎(1~4丁目、大字含む) | 18. 東弁財(1~3丁目) |
| 19. 膝折町(1~5丁目) | 20. 本町(1~3丁目) |
| 21. 溝沼(1~7丁目、大字含む) | 22. 三原(1~5丁目) |
| 23. 宮戸(1~4丁目、大字含む) | 24. 陸上自衛隊朝霞駐屯地 |

問2 あなたは、朝霞市にお住まいになってどれくらいになりますか。(1つに○)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 1年未満 | 2. 1~3年 |
| 3. 4~5年 | 4. 6~9年 |
| 5. 10~19年 | 6. 20~29年 |

問3 あなたの性別は。(1つに○)

- | | |
|-------|-------|
| 1. 男性 | 2. 女性 |
|-------|-------|

問4 あなたの職業は。(1つに○)

- | | | |
|--------------|--------|--------------|
| 1. 会社員・役員 | 2. 自営業 | 3. 専門職 |
| 4. 公務員 | 5. 学生 | 6. 専業主婦・専業主夫 |
| 7. パート・アルバイト | 8. 無職 | 9. その他() |

問5 あなたの勤務先、通学先はどちらですか。(1つに○)

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 朝霞市内 | 2. 和光市・志木市・新座市 |
| 3. その他埼玉県内 | 4. 東京都 |
| 5. その他() | 6. 通勤・通学していない |

問6 あなたの同居している世帯・家族の構成は。(1つに○)

- | | | |
|---------------|----------|-------------|
| 1. 単身 | 2. 夫婦のみ | 3. 親と子(2世代) |
| 4. 親と子と孫(3世代) | 5. 兄弟や親族 | 6. その他() |

あなたの暮らしについてお聞きします。

問7 朝霞市に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 思う | 2. 少し思う |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり思わない |
| 5. 思わない | |

問8 朝霞市に住んでいて良かったことは何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 買い物などの日常生活が便利 | 2. 交通の便が良い |
| 3. 病院などの医療体制が充実している | 4. まちの雰囲気・イメージが良い |
| 5. 地域のつながりが良い | 6. 楽しめるイベントが多い |
| 7. 誇れる歴史や伝統文化がある | 8. 小中高等学校など教育環境が良い |
| 9. 子どもの遊び場や公園などが充実 | 10. 自然が多い |
| 11. 公共施設が充実している | 12. 住んでいる人の人柄が良い |
| 13. 特にない | 14. その他 () |

問9 朝霞市に住んでいて困ったこと(悪い点)は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 買い物などの日常生活が不便 | 2. 交通の便が悪い |
| 3. 病院などの医療体制が充実していない | 4. まちの雰囲気・イメージが悪い |
| 5. 地域のつながりが薄い | 6. 楽しめるイベントが少ない |
| 7. 誇れる歴史や伝統文化がない | 8. 小中高等学校など教育環境が悪い |
| 9. 子どもの遊び場や公園などの不足 | 10. 自然が少ない |
| 11. 公共施設などが不足している | 12. 住んでいる人の人柄が悪い |
| 13. 特にない | 14. その他 () |

問10 あなたが日頃又は将来に向けて、悩んでいること、考えていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|-------------|-------------|-----------|
| 1. 仕事のこと | 2. 家庭のこと | 3. 生活・暮らし |
| 4. 勉強・学習 | 5. 進学・就職 | 6. 結婚 |
| 7. 友人やパートナー | 8. 家族・親族 | 9. 住居 |
| 10. 子育て | 11. 健康 | 12. 趣味・娯楽 |
| 13. 政治・社会情勢 | 14. その他 () | 15. 特にない |

問11 あなたが朝霞市に期待することは何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 多くのイベント、街の活気 | 2. 商業施設の充実 |
| 3. おしゃれな街並み | 4. 外部の都市への容易なアクセス |
| 5. 豊かな自然環境 | 6. 良い地域性(人柄など) |
| 7. 医療体制の充実 | 8. 趣味に没頭できる環境 |
| 9. 閑静な街並み | 10. 飲食店の充実 |
| 11. 日常生活の便利さ | 12. 交通の便のよさ |
| 13. 自然災害の少なさ | 14. 誇れる歴史や伝統文化 |
| 15. 子育てのしやすさ(子育て環境の充実) | 16. 障害がある人や高齢者に優しい |
| 17. 特にない | 18. その他 () |

地域活動への参加についてお聞きします。

問 12 地域活動への参加状況について教えてください。(それぞれあてはまるものすべてに○)

- (1) 直近3年間で、学校や仕事以外で、地域の活動に参加したことがありますか。
 (2) 今後参加してみたい活動は何ですか。

	(1) 参加したことがある	(2) 今後参加してみたい
① 地域のお祭りや伝統行事に自ら関わる活動	1	1
② 地域のレクリエーション(スポーツ活動や文化活動)	2	2
③ 地域の清掃・緑化活動など、環境保護やリサイクルに関する活動	3	3
④ 地域の避難訓練や防災活動	4	4
⑤ 子どもたちの指導や世話	5	5
⑥ お年寄りのための活動	6	6
⑦ 障害のある人のための活動	7	7
⑧ 募金活動や献血	8	8
⑨ 商店街の活性化など、まちづくりや地域活性化のための活動	9	9
⑩ 外国人との交流や国際協力のための活動	10	10
⑪ 地域等での音楽・演劇・ダンスなどの表現活動	11	11
⑫ その他の地域活動(具体的に)	12	12
⑬ 特にない →問 12-3 へ	13	13

(問 12 (1) で「1~12」と答えた方のみ)

問 12-1 その活動に参加して良かったと思うことは何ですか。(○は3つまで)

1. 新しい仲間ができた	2. 年齢の異なる人と交流できた
3. 活動の楽しさがわかった	4. 活動を通じて地域に貢献できた
5. 地域の良さに気付くことができた	6. 地域の人に感謝された・役に立てた
7. 自分の経験や知識などを活かせた	8. 特にない
9. その他 ()	

(問 12 (1) で「1~12」と答えた方のみ)

問 12-2 参加した活動についての情報をどこで知りましたか。(1つに○)

1. 新聞・雑誌	2. 朝霞市の広報紙「広報あさか」
3. 社会福祉協議会の広報紙「社協あさか」	4. 朝霞市ボランティアセンター
5. ポスター・パンフレット	6. テレビ・ラジオ
7. インターネット	8. 所属している団体・サークル
9. 友人・知人	10. 家族
11. 学校・職場	12. SNS (Facebook や Instagram など)
13. その他 ()	

(問 12 (1) で「13.特にない」と答えた方のみ)

問 12-3 参加しなかった理由は何ですか。(○は3つまで)

1. どのような活動があるか知らない	2. 忙しくて時間がない
3. 一緒に参加する友人がいない	4. 費用がかかる
5. 身近なところで参加できる活動がない	6. 自分の興味に合う活動がない
7. 活動できる日時に合うものがない	8. 人間関係が心配・面倒
9. 申し込みや参加の方法がわからない	10. 参加するきっかけがない
11. もともと興味・関心がない	12. その他 ()

朝霞市のまちづくりへの興味・参加についてお聞きします。

問 13 あなたは、自らが主体的に関わり、朝霞市を将来どのようなまちにしていきたいと思いませんか。

(○は3つまで)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 子育てしやすく、学校などの教育環境が整って充実しているまち |
| 2. 高齢者や障害者などを大切にする福祉の充実したまち |
| 3. 医療や健康に暮らすための取組が充実しているまち |
| 4. だれもが安全・安心に暮らせるまち |
| 5. 快適なまちなみや美しい都市景観に満ちたまち |
| 6. 鉄道の駅・道路などの整備がさらに進んで、交通の便利なまち |
| 7. 水辺や緑など自然環境のよいまち |
| 8. 文化・芸術・スポーツに力を入れるまち |
| 9. 歴史や伝統を大切にするまち |
| 10. 産業が盛んで働く場所が多いまち |
| 11. おしゃれなまちなみやお店があって、買い物やグルメが楽しめるまち |
| 12. その他 () |

問 14 あなたは朝霞市や地域のまちづくりについて、積極的に参加や関わりを持ちたいと思いませんか。

(1つに○)

- | | | | |
|--------------|-----------|------------|-----------|
| 1. 思う | →問 14-1 へ | 2. 少し思う | →問 14-1 へ |
| 3. どちらともいえない | →問 15 へ | 4. あまり思わない | →問 14-2 へ |
| 5. 思わない | →問 14-2 へ | | |

(問 14 で「1. 思う」又は「2. 少し思う」と答えた方のみ)

問 14-1 そう思う理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 朝霞市や地域を今より良くしたいから | 2. おもしろそうだから |
| 3. 自分の意見を活かしてほしいから | 4. 若い世代が必要とされていると感じるから |
| 5. 今の朝霞市や地域に不満があるから | 6. その他 () |

(問 14 で「4. あまり思わない」又は「5. 思わない」と答えた方のみ)

問 14-2 そう思う理由は何ですか。(○は3つまで)

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1. 朝霞市や地域に興味がないから | 2. 自分の意見を言っても何も変わらないから |
| 3. 面倒くさいから | 4. 忙しいから |
| 5. 今の朝霞市や地域に満足しているから | 6. その他 () |

問 15 あなたは朝霞市に愛着がありますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|----------|
| 1. とてもある | 2. 少しある |
| 3. どちらともいえない | 4. あまりない |
| 5. まったくない | |

あなたの情報収集方法等についてお聞きします。

問 16 あなたは朝霞市のどんなことを知りたいですか。(○は3つまで)

1. イベント情報	2. 飲食店や商業施設の情報	3. 講演・セミナー情報
4. 習い事・ワークショップ	5. スポーツ・健康増進	6. ボランティア情報
7. 子育て・教育	8. 食べ物・工芸など特産品	9. 住宅情報
10. 雇用情報	11. 福祉活動	12. 医療機関
13. 教育機関	14. 市の事業	15. 歴史や伝統文化
16. その他 ()		

問 17 あなたは日常生活でニュースなどの情報をどのように入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

1. テレビ	2. 新聞	3. ラジオ	4. インターネット
5. SNS	6. アプリ	7. その他 ()	8. 入手していない

問 18 あなたが利用している SNS は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. LINE	2. Facebook	3. Twitter	4. Messenger
5. YouTube	6. Instagram	7. mixi	8. 利用していない
9. その他 ()			

問 19 あなたが知っているものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

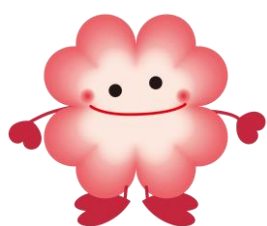
1. 社会福祉協議会	2. ボランティアセンター
3. 民生委員・児童委員	4. 保護司

自由意見欄

最後に、これからの地域福祉の取組について、ご意見などがありましたら自由にご記入ください。

以上で質問は終わりです。

ご協力ありがとうございました



朝霞市社会福祉協議会
マスコット キャラクター
アーシャるくるん

むさし
フロント
むさか



朝霞市キャラクター ぼぼたん

第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画 策定に係る福祉専門職アンケート

日頃から、市政に対しご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、朝霞市では、支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまちを推進するために、朝霞市と朝霞市社会福祉協議会が協働し、令和3年度を初年度とする「第4期朝霞市地域福祉計画・第4期朝霞市地域福祉活動計画」を策定することとなりました。

そこで、市内で福祉・医療・介護または教育・保育機関で業務を行う皆様から、地域における現状や課題、各種機関との連携、制度上解決できない課題についてご意見等を伺い、計画づくりの基礎資料とさせていただきますたく、アンケート調査を実施することといたしました。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和元年 11 月

朝霞市長

富岡 勝則

朝霞市社会福祉協議会 会長 松尾 哲

※ご記入にあたってのお願い

- ①ご記入は、ボールペン、鉛筆、シャープペンシル、万年筆でお願いいたします。
- ②ご記入が済みましたら、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れて

12月20日（金）までにポストに投函してください。

- ③幅広くご意見を把握したいため、各専門分野ごとに調査票を送付しています。複数の専門分野にまたがる施設等には、複数の調査票が届きます。お手数ですが、各々ご回答ください。
- ④本アンケートは紙ではなく、電子ファイルでも回答を受付いたします。

電子ファイルでの回答をご希望の場合は、以下のメールアドレスまでお問い合わせください。

【このアンケート調査についての問い合わせ先】 朝霞市 福祉部 福祉相談課 地域福祉係
TEL：(048) 463-1594（直通） FAX：(048) 463-1025
メールアドレス：fukusi@city.asaka.lg.jp

問1 あなたの職種及び当該職種での経験年数をお書きください。

職 種	(記入例：介護施設職員、保育士、教諭、保健師、民生委員・児童委員、保護司など)
年 数	

問2 あなたの関わる主な専門分野の種別（施設、勤務先、サービス内容等）を選択してください。

(〇はいくつでも)

専門分野	種別（施設、勤務先、サービス内容等）	
子ども・子育て	1. 保育園 3. 幼稚園 5. 放課後児童クラブ 7. こども相談室 9. 家庭児童相談室 11. 中学校	2. 家庭保育室 4. 児童館 6. 子育て支援センター 8. ファミリー・サポート・センター 10. 小学校
障害のある人	12. 居宅介護 14. 行動援護 16. 生活介護 18. 短期入所 20. 共同生活介護 22. 自立訓練（生活訓練） 24. 就労移行支援 26. 就労定着支援 28. 同行援護 30. 計画相談支援 32. 手話通訳者等派遣 34. 児童発達支援 36. 生活ホーム	13. 重度訪問介護 15. 療養介護 17. 児童デイサービス 19. 重度障害者等包括支援 21. 施設入所支援 23. 自立生活援助 25. 就労継続支援（A・B） 27. 共同生活援助 29. 地域活動支援センター 31. 地域相談支援 33. 障害児放課後児童クラブ 35. 放課後等デイサービス
高齢・介護	37. 地域包括支援センター 39. 訪問介護 41. 訪問看護 43. 通所介護 45. 特定施設入所者生活介護 47. 短期入所療養介護（医療ショートステイ） 49. 介護老人保健施設 51. 認知症対応型通所介護 53. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 55. 介護医療院	38. 居宅介護支援 40. 訪問入浴介護 42. 訪問リハビリテーション 44. 通所リハビリテーション（デイケア） 46. 短期入所生活介護（ショートステイ） 48. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 50. 認知症対応型共同生活介護 52. 小規模多機能型居宅介護 54. 地域密着型特定施設入居者生活介護 56. サービス付き高齢者向け住宅
その他	57. 民生委員・児童委員 59. 病院・診療所 61. 市役所 63. 社会福祉協議会	58. 保護司 60. 保健所 62. 保健センター 64. シルバー人材センター

問 3 最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき事項を選択し、番号に丸（○）をつけてください。また、それぞれに取り組む際の解決に向けたアイデア・ご意見があればお書きください。（番号1～34のうち、○は3つまで）

番号	項目	解決に向けたアイデア・ご意見があればお書きください。	分野
1	ひとり親家庭の子育て支援		子ども・子育て
2	共働き家庭の子育て支援		
3	乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援		
4	子どもへの虐待 ^{ぎゃくだい} 防止対策		
5	子どもの貧困対策		
6	高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援		高齢・介護
7	高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）		
8	高齢者への虐待 ^{ぎゃくだい} 防止対策		
9	高齢者の孤立（孤独死）防止対策		
10	高齢者の介護者、介助者への情報提供などの支援		

11	障害のある人が地域で自立して生活するための支援		障害のある人
12	障害のある人に対する地域の理解、交流の支援		
13	障害のある人への虐待 ^{ぎやくたい} 防止対策		
14	バリアフリー環境の整備		
15	障害のある人の介護者、介助者への情報提供などの支援		
16	青少年の健全育成、犯罪や非行		その他
17	生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み支援		
18	災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動		
19	地域で孤立している人への支援		
20	振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動		
21	生活困窮者への支援		
22	仕事に就けない人への就労支援		
23	外国人市民の地域での生活に対する支援		

24	過去に罪を犯した人への更生支援		その他
25	空き家の増加		
26	ひきこもりの人への支援		
27	住民同士のつながりの欠如		
28	居住に課題を抱える人への支援		
29	自殺防止対策		
30	市民後見人の育成などの権利擁護への取り組み支援		
31	地域住民等が集う拠点の整備		
32	分野別の圏域		
33	福祉に関する情報提供		
34	その他 ()		
35	特になし		

問6 今後、情報交換や連携を強めたい相手先を選択してください。(〇はいくつでも)

1. 市役所	2. 社会福祉協議会	3. 自治会・町内会
4. 子ども会	5. 当事者団体	6. 民生委員・児童委員
7. 保育園・幼稚園	8. 小学校・中学校	9. 高校・大学・専門学校
10. PTA	11. NPO・ボランティアグループ	12. 老人クラブ
13. 商店街	14. 介護・福祉施設	15. 地域包括支援センター
16. 医療機関	17. 警察・消防	18. 弁護士・司法書士
19. 企業	20. 商工会	21. シルバー人材センター
22. 特になし		
23. その他()		

問6-1 問6で「1」～「21」または「23」を選んだ方にお聞きします。

問6で選択した相手先と連携を強めたい具体的な内容をお書きください。(自由回答)

(記入例：1. 市役所 子どもを含む生活困窮者についての連携)

問6-2 問6で「1」～「21」または「23」を選んだ方にお聞きします。

連携強化に向けて、必要な支援はありますか。(行政からの支援に限りません。)(自由回答)

(記入例：1. 市役所 各分野の関係者が横断的に対応できる体制についての支援)

問 7 地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項を選択し、番号に丸（○）をつけてください。また、それぞれに取り組む際の具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。（番号1～10のうち、○は3つまで）

番号	項目	具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。	分類
1	福祉サービスの利用に関する情報提供		福祉サービスを必要とする地域住民に対する相談支援体制の整備
2	相談体制の確保		
3	支援関係機関間の連携		
4	社会福祉従事者の専門性の向上		支援を必要とする人が必要なサービスを利用することができるための仕組みの確立
5	ケアマネジメント		
6	ソーシャルワーク体制の整備		
7	成年後見制度、日常生活自立支援事業、苦情解決制度など、適切なサービス利用を支援する仕組みの整備		
8	サービスの評価やサービス内容の開示等による、利用者の適切なサービス選択の確保		利用者の権利擁護
9	避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策		
10	その他 ()		
			その他

問 8 地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために優先的に取り組むべき事項を選択し、番号に丸（○）をつけてください。また、それぞれに取り組む際の具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。（番号1～12のうち、○は3つまで）

番号	項目	具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。	分類
1	活動に必要な情報の入手		地域住民、ボランティア団体、NPO等の社会福祉活動への支援
2	活動に必要な知識		
3	活動に必要な技術の習得		
4	活動拠点に関する支援		
5	地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携		
6	地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深めることによる主体的な生活者、地域の構成員としての意識の向上		住民等による地域課題への関心と意識の向上、地域福祉推進への主体的参加の促進
7	住民等の交流会		
8	勉強会等の開催		
9	福祉活動専門員、社会福祉従事者等による福祉コミュニティづくり		地域福祉を推進する人材のサポート
10	民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備		
11	保護司活動の充実に向けた環境整備		
12	その他 ()		その他

問 9 地域共生社会※の実現に向けた包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項を選択し、番号に丸（○）をつけてください。また、それぞれに取り組む際の具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。（番号1～12のうち、○は3つまで）

※「地域共生社会」とは、社会構造の変化や人々の暮らしの変化を踏まえ、制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人與人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指すものです。

番号	項目	具体的なアイデア・ご意見があればお書きください。	分類
1	地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援		「住民に身近な圏域」において、住民が主体的に地域生活課題を把握し、解決を試みることができる環境の整備
2	地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備		
3	地域住民等に対する研修の実施		
4	「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備		住民等による問題関心の共有化への動機付けと意識の向上、地域福祉推進への主体的参加の促進
5	地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知		
6	地域の関係者等との連携による地域生活課題の早期把握		
7	地域住民の相談を包括的に受け止める場における支援体制の構築		

**第4期朝霞市地域福祉計画・
第4期朝霞市地域福祉活動計画
策定にかかるアンケート調査
結果報告書**

発行年月 令和2年●月
発行 朝霞市・社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会

朝霞市福祉相談課
住所 〒351-8501 埼玉県朝霞市本町1丁目1-1
TEL 048-463-1111(代)
FAX 048-463-1025

社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会
住所 〒351-8560 朝霞市浜崎51-1
TEL 048-486-2479(代)
FAX 048-486-2480
